Canon

EOS 7D Mark II

EOS 7D Mark II (G)

- この使用説明書は、EOS 7D Mark IIのファームウェアがVer.1.1.0以上であることを前提に説明しています。
- 使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます（p.4）。

J
使用説明書

はじめに

EOS 7D Mark II (G)は、有効画素数約2020万画素・高精細CMOSセンサー、デュアルDIGIC 6、視野率約100%ファインダー、高精度・高速65点AF（クロス測距点：最大65点）、最高約10.0コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、フルハイビジョン（Full HD）動画撮影機能、デュアルピクセルCMOS AF、GPS機能を搭載したデジタル一眼レフカメラです。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（525～527ページ）、および『取り扱い上のご注意』（20～21ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

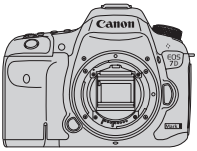
撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

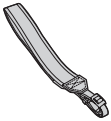


カメラ
（ボディキャップ付き）

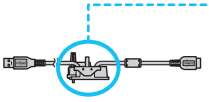
アイカップEg
（p.247）

電池パックLP-E6N
（p.38）
（保護カバー付き）

充電器バッテリーチャージャーLC-E6
（p.32）



ワイドストラップ
（p.33）



インターフェースケーブルIFC-150U II

ケーブルプロテクター
（p.34）

Wi-Fiアダプター W-E1
（p.36）

EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）

※ 使用説明書については、次ページを参照してください。
※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズとWi-Fiアダプター W-E1が付属しているか確認してください。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（p.4）。なお、レンズの使用説明書（PDF）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

使用説明書について

カメラ使用説明書
（本書）

Wi-Fiアダプター W-E1
お使いになる前にお読みください*

* 詳細な使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます（下記参照）。

使用説明書（PDFファイル）のダウンロードと見かた

1 使用説明書（PDFファイル）をダウンロードする

- インターネットに接続し、キヤノンの下記のWeb サイトにアクセスしてください。
  - ・カメラ使用説明書
  - ・Wi-Fiアダプター W-E1使用説明書
    - ➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/index.html
  - ・レンズ使用説明書
    - ➡ http://cweb.canon.jp/manual/ef/index.html
  - ・ソフトウェア使用説明書
    - ➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/soft.html

2 使用説明書（PDFファイル）を見る

- ダウンロードした使用説明書（PDF ファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- 使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく、下記のカードが使用できます。なお、**新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください**（p.67）。

- **CF（コンパクトフラッシュ）カード**
  * タイプI準拠、UDMAモード7対応
- **SD/SDHC*/SDXC*メモリーカード**
  * UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、書き込み/読み取り速度が下表の速度以上で、大容量のカードを使用してください。

動画記録画質（p.330）		CFカード：記録形式	
		MOV	MP4
ALL-I（編集用）		30MB/秒以上	
IPB（標準）	FHD：59.94P 50.00P	30MB/秒以上	
	上記以外	10MB/秒以上	
IPB（軽量）		−	10MB/秒以上

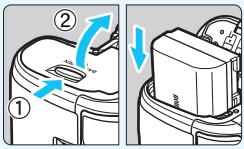
動画記録画質（p.330）		SDカード：記録形式	
		MOV	MP4
ALL-I（編集用）		20MB/秒以上	
IPB（標準）	FHD：59.94P 50.00P	20MB/秒以上	
	上記以外	6MB/秒以上	
IPB（軽量）		−	4MB/秒以上

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、さらに高速なカードが必要です。
- カードの書き込み / 読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

本書では、コンパクトフラッシュカードを「CFカード」、SD/SDHC/SDXCメモリーカードを「SDカード」、メモリーカードの総称を「カード」と表記しています。
※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

すぐ撮影するには

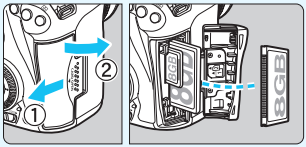
1



電池（バッテリー）を入れる（p.40）

- 電池の充電方法については 38 ページを参照してください。

2

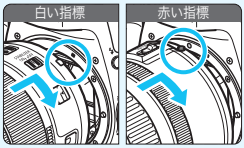


カードを入れる（p.41）

- CFカードはカメラの前面側、SDカードは背面側のスロットに入れます。

* CFカード、またはSDカードのどちらかが入っていれば撮影できます。

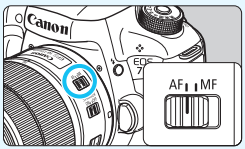
3



レンズを取り付ける（p.50）

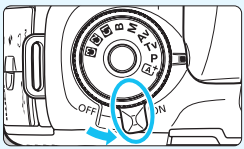
- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の指標の色を合わせて取り付けます。

4



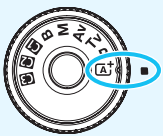
レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.50）

5



電源スイッチを〈ON〉にする（p.45）

6



モードダイヤルの中央を押しながら、〈A+〉（シーンインテリジェントオート）にする（p.29）

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.55）

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。
- 必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

8

撮影する（p.55）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する

- 撮影した画像が液晶モニターに2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.354）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.285）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.354）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.392）を参照してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

〈〉　：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈〉　：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈〉　：測距エリア選択レバーを示しています。
〈〉　：マルチコントローラーを示しています。
〈〉　：設定ボタンを示しています。
／／／　：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

MENU　：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用　：ページタイトル右の応用は、〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モード限定の機能であることを示しています。

(p.***)　：参照ページを示しています。

　：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

　：補足説明や補足事項を記載しています。

　：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

?　：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈**ON**〉、〈LOCK▶〉スイッチが左側（マルチ電子ロック解除）になっていることを前提に説明しています（p.45、59）。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

	はじめに	2
1	撮影前の準備と操作の基本	37
2	かんたん撮影	79
3	AF／ドライブの設定	85
4	画像に関する設定	145
5	GPS機能の設定	197
6	撮影目的にあわせた応用撮影	215
7	ストロボ撮影	253
8	液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	285
9	動画を撮影する	313
10	画像の再生	353
11	撮影した画像を加工する	397
12	撮像素子の清掃	405
13	画像の印刷とパソコンへの転送	411
14	カメラをカスタマイズする	431
15	資料	467
16	パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて	533

目　次

はじめに　2

カメラと主な付属品 3
使用説明書について 4
使用できるカードについて 5
すぐ撮影するには 6
本使用説明書の表記について 8
章目次 9
機能目次 17
取り扱い上のご注意 20
各部の名称 22

1　撮影前の準備と操作の基本　37

電池を充電する 38
電池を入れる／取り出す 40
カードを入れる／取り出す 41
電源を入れる 45
日付／時刻／エリアを設定する 47
表示言語を選ぶ 49
レンズを取り付ける／取り外す 50
レンズの手ブレ補正機能について 53
撮影の基本操作 54
Q 撮影機能のクイック設定 61
MENU メニュー機能の操作と設定 64
使い始める前の準備 67
　カードを初期化する 67
　電子音が鳴らないようにする 69
　電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ 69
　撮影直後の画像表示時間を設定する 70
　カメラの機能設定を初期状態に戻す 70

グリッドを表示する 74
水準器を表示する 75
ファインダー内に表示する情報を設定する 77
ヘルプについて 78

2 かんたん撮影 79
全自動で撮る（シーンインテリジェントオート） 80
全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート） 83

3 AF／ドライブの設定 85
AF: AF 動作の選択 86
測距エリアと AF フレームを選択する 90
測距エリア選択モードの内容 95
AF センサーについて 99
使用レンズと AF 測距について 100
AI サーボ AF 特性を選ぶ 108
AF 機能のカスタマイズ 117
AF による合焦位置を微調整する 133
AF の苦手な被写体 139
MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス） 140
ドライブモードの選択 141
セルフタイマー撮影 143

4 画像に関する設定 145
記録・再生するカードを選択する 146
記録画質を設定する 149
ISO: ISO 感度を設定する 154
ピクチャースタイルを選択する 160
ピクチャースタイルを調整する 163
ピクチャースタイルを登録する 166

WB: ホワイトバランスの設定 168
マニュアルホワイトバランス 169
K 色温度を直接設定する 171
WB ホワイトバランスを補正する 172
明るさ・コントラストを自動補正する 175
ノイズ低減機能の設定 176
高輝度側・階調優先の設定 180
レンズの周辺光量と収差を補正する 181
フリッカーの影響を低減する 185
色空間を設定する 187
フォルダの作成と選択 188
ファイル名を変更する 190
画像番号の付け方を設定する 193
著作権情報を設定する 195

5 GPS 機能の設定 197

GPS 機能でできること 198
GPS 機能に関するご注意 200
GPS の信号を受信する 201
位置情報の更新間隔を設定する 205
電子コンパスを使う 206
GPS の時刻をカメラに設定する 209
移動ルートを記録する 210

6 撮影目的にあわせた応用撮影 215

P: プログラム AE 撮影 216
Tv: シャッター速度を決めて撮る 218
Av: 絞り数値を決めて撮る 220
ピントの合う範囲を確認する 221
M: 露出を自分で決めて撮る 222

測光モードの選択 224
自分の好みに露出を補正する 226
露出を自動的に変えて撮る／ AEB 撮影 227
露出を固定して撮る／ AE ロック撮影 229
B: 長時間露光（バルブ）撮影 230
HDR: HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 233
多重露出撮影 238
ミラーアップ撮影 246
アイピースカバーの使い方 247
リモートスイッチ撮影 248
リモコン撮影 248
インターバルタイマー撮影 250

7 ストロボ撮影 253

内蔵ストロボを使った撮影 254
外部ストロボを使った撮影 259
ストロボの機能を設定する 262
ワイヤレスストロボ撮影 272

8 液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） 285

液晶モニターを見ながら撮影する 286
撮影機能の設定 292
メニュー機能の設定 294
AF でピントを合わせる（AF 方式） 299
MF：手動でピントを合わせる 308

9 動画を撮影する 313

動画を撮影する 314
自動露出撮影 314
シャッター優先 AE 撮影 315

絞り優先 AE 撮影 316
マニュアル露出撮影 320
静止画を撮影する 327
撮影機能の設定 329
動画記録画質の設定 330
録音の設定 336
動画サイレント設定 338
タイムコードの設定 339
メニュー機能の設定 342

10 画像の再生 353

画像を再生する 354
INFO.: 撮影情報の内容 356
見たい画像を素早く探す 361
一度に複数の画像を表示する（インデックス表示） 361
画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示） 362
拡大する 364
画像を比較する（2 枚表示） 366
回転させる 367
保護する（プロテクト） 368
お気に入りのレベルを設定する 371
再生時のクイック設定 374
撮った動画の楽しみ方 376
動画を再生する 378
動画の前後部分をカットする 380
自動再生する（スライドショー） 382
テレビで見る 385
コピーする 388
消去する 392

再生に関する機能の設定を変更する 394
液晶モニターの明るさを調整する 394
縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定 395

11 撮影した画像を加工する 397

RAW 画像をカメラで現像する 398
JPEG 画像をリサイズする 403

12 撮像素子の清掃 405

撮像素子の自動清掃 406
ゴミ消し情報を画像に付加する 407
手作業で撮像素子を清掃する 409

13 画像の印刷とパソコンへの転送 411

印刷の準備をする 412
印刷する 414
画像を印刷指定する／DPOF 421
印刷指定画像のダイレクトプリント 424
パソコンに画像を送る 425
フォトブックにする画像を指定する 429

14 カメラをカスタマイズする 431

カスタム機能一覧 432
カスタム機能で変更できる内容 434
C.Fn1：Exposure（露出） 434
C.Fn2：Exposure/Drive（露出・ドライブ） 438
C.Fn3：Disp./Operation（表示・操作） 440
C.Fn4：Others（その他） 443
3: 操作ボタンカスタマイズ 445
マイメニューを登録する 459
: カスタム撮影モードの登録 464

15 資料 467
INFO. ボタンの機能 468
電池情報を確認する 470
家庭用電源を使用する 474
Eye-Fi カードを使う 475
システム図 478
各撮影モードで設定できる機能一覧 480
メニュー機能一覧 484
故障かな？と思ったら 495
エラー表示 510
主な仕様 511
安全上のご注意 525

16 パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて 533
パソコンに画像を取り込む 534
ソフトウェアの概要 536
ソフトウェアのインストール 538
ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）の
ダウンロードと見かた 539
索 引 540

機能目次

電源

- 電池充電 → p.38
- 電池チェック → p.46
- 電池情報確認 → p.470
- 家庭用電源 → p.474
- オートパワーオフ → p.69

カード

- カード初期化 → p.67
- 記録機能 → p.146
- カード選択 → p.148
- カードなしレリーズ → p.42

レンズ

- 取り付け → p.50
- ズーム → p.51
- フード → p.52
- 手ブレ補正 → p.53

基本設定

- 言語 → p.49
- 日付／時刻／エリア → p.47
- 電子音 → p.69
- 著作権情報 → p.195
- カメラ設定初期化 → p.70

ファインダー

- 視度調整 → p.54
- アイピースカバー → p.247
- グリッド表示 → p.74
- 水準器 → p.76
- ファインダー内表示設定 → p.77

液晶モニター

- 明るさ調整 → p.394
- 水準器 → p.75
- ヘルプ → p.78

AF

- AF動作 → p.86
- 測距エリア選択モード → p.90
- AFフレーム選択 → p.93
- AFフレーム登録 → p.450
- レンズグループ属性 → p.100
- AFフレーム赤色照明 → p.131
- AIサーボAF特性 → p.108
- AF機能カスタマイズ → p.117
- AFマイクロアジャストメント → p.133
- 手動ピント合わせ → p.140

測光

- 測光モード → p.224

ドライブ

- ドライブモード → p.141
- セルフタイマー → p.143
- 連続撮影可能枚数 → p.153

画像記録

- 記録機能 → p.146
- フォルダ作成／選択 → p.188
- ファイル名 → p.190
- 画像番号 → p.193

画質

- 記録画質 → p.149
- ISO感度 → p.154
- ピクチャースタイル → p.160
- ホワイトバランス → p.168
- オートライティング オプティマイザ → p.175
- 高感度時ノイズ低減 → p.176
- 長秒時露光ノイズ低減 → p.178
- 高輝度側・階調優先 → p.180
- レンズ光学補正 → p.181
- フリッカー低減 → p.185
- 色空間 → p.187

撮影

- 撮影モード → p.29
- HDR → p.233
- 多重露出 → p.238
- ミラーアップ → p.246
- バルブタイマー → p.231
- インターバルタイマー → p.250
- 被写界深度確認 → p.221
- リモコン → p.248
- クイック設定 → p.61

露出

- 露出補正 → p.226
- 露出補正（M+ISOオート） → p.223
- AEB → p.227
- AEロック → p.229
- セイフティシフト → p.436

GPS

- GPS機能 → p.197
- 電子コンパス → p.206
- ロガー機能 → p.210

ストロボ

- 内蔵ストロボ → p.254
- 外部ストロボ → p.259
- ストロボ調光補正 → p.257
- FEロック → p.258
- ストロボ機能設定 → p.262
- ワイヤレス撮影 → p.272
- 外部ストロボ カスタム機能 → p.271

ライブビュー撮影

- ライブビュー撮影 → p.285
- AF方式 → p.299
- コンティニュアスAF → p.294
- 手動ピント合わせ → p.308
- アスペクト比 → p.295
- LV静音撮影 → p.297

動画撮影

- 動画撮影 → p.313
- AF方式 → p.299
- 動画サーボAF → p.342
- 動画サーボAF時のAF速度 → p.345
- 動画サーボAFの被写体追従特性 → p.346
- 動画記録画質 → p.330
- 録音 → p.336
- タイムコード → p.339
- HDMI出力 → p.348
- 静止画撮影 → p.327

再生

- 撮影直後の表示時間 → p.70
- 1枚表示 → p.354
- 撮影情報 → p.356
- インデックス表示 → p.361
- 画像送り（ジャンプ表示） → p.362
- 拡大 → p.364
- 比較（2枚表示） → p.366
- 回転 → p.367
- プロテクト（保護） → p.368
- レーティング → p.371
- 動画再生 → p.378
- スライドショー → p.382
- テレビで見る → p.385
- コピー → p.388
- 消去 → p.392
- クイック設定 → p.374

画像加工

- RAW現像 → p.398
- JPEGリサイズ → p.403

印刷／転送

- PictBridge → p.411
- 印刷指定（DPOF） → p.421
- 画像転送 → p.425
- フォトブック指定 → p.429

カスタマイズ

- カスタム機能（C.Fn） → p.432
- 操作ボタンカスタマイズ → p.445
- マイメニュー → p.459
- カスタム撮影モード → p.464

センサークリーニング／ダスト除去

- センサークリーニング → p.406
- ゴミ消し情報付加 → p.407

インターフェース

- ケーブルプロテクター → p.34

ソフトウェア

- 概要 → p.536
- インストール → p.538

無線機能

→ W-E1使用説明書

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- フォーカシングスクリーンを交換する場合以外は、フォーカシングスクリーンを取り外さないでください。なお、フォーカシングスクリーンを交換するときは、絶対に直接手で触れず、交換用のフォーカシングスクリーン（別売）に付属している専用工具を必ず使用してください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

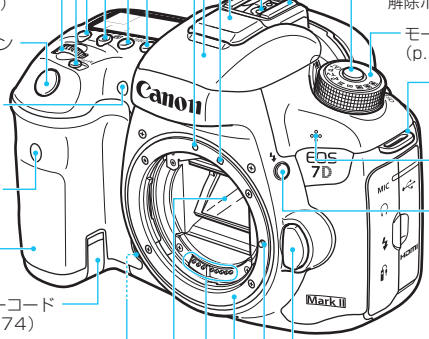
カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

各部の名称



〈DRIVE•AF〉ドライブモード選択／
AF動作／ AF方式選択ボタン(p.141 ／ 86 ／ 299)

〈⚡•ISO〉ストロボ調光
補正／ ISO感度設定ボタン
(p.257 ／ 154)

〈WB•⊡〉ホワイトバランス選択／
測光モード選択ボタン(p.168 ／ 224)

EFレンズ取り付け指標(p.50)

〈☼〉表示パネル
照明ボタン(p.60)

内蔵ストロボ／ AF補助光投光部
(p.254 ／ 89)

〈M-Fn〉
測距エリア選択／
マルチファンクション
ボタン(p.92 ／ 258)

EF-Sレンズ取り付け指標(p.50)

GPSアンテナ部

シンクロ接点

アクセサリーシュー(p.259)

〈〉メイン電子
ダイヤル(p.56)

モードダイヤルロック
解除ボタン(p.56)

シャッターボタン
(p.55)

モードダイヤル
(p.29、56)

ストラップ
取り付け部
(p.33)

セルフタイマー
ランプ
(p.143)

内蔵マイク
(p.337)

リモコン受信部
(p.248)

〈⚡〉ストロボ
ボタン(p.254)

グリップ
(電池室)

DCカプラーコード
通し部(p.474)

絞り込みボタン(p.221)

レンズロック解除ボタン
(p.51)

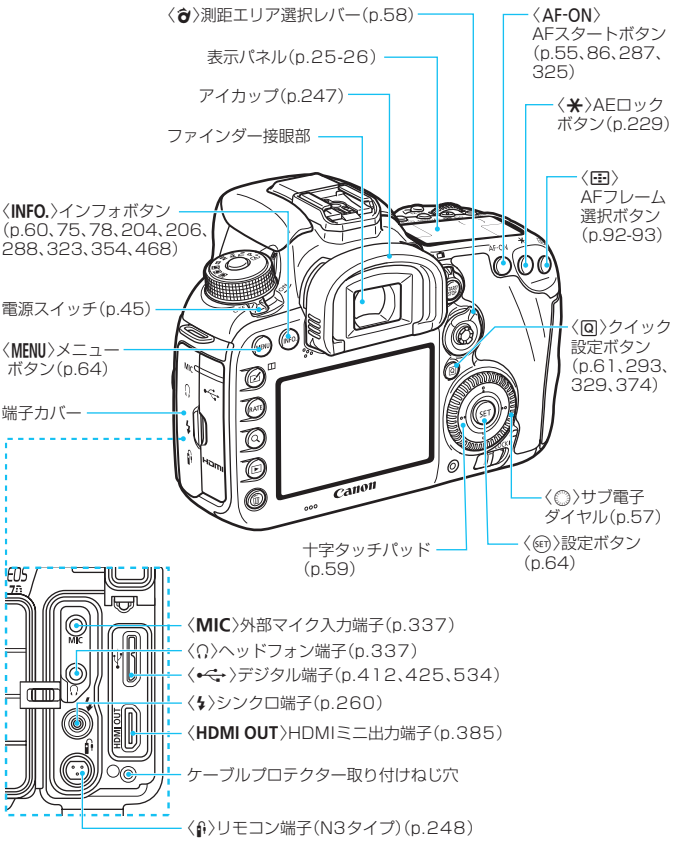
レンズロックピン

レンズマウント

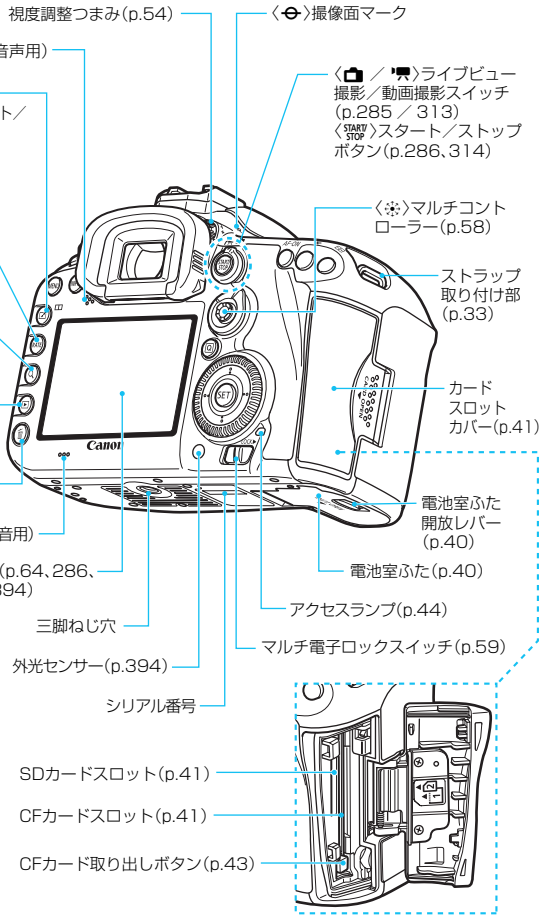
接点(p.21)

ミラー(p.246、409)

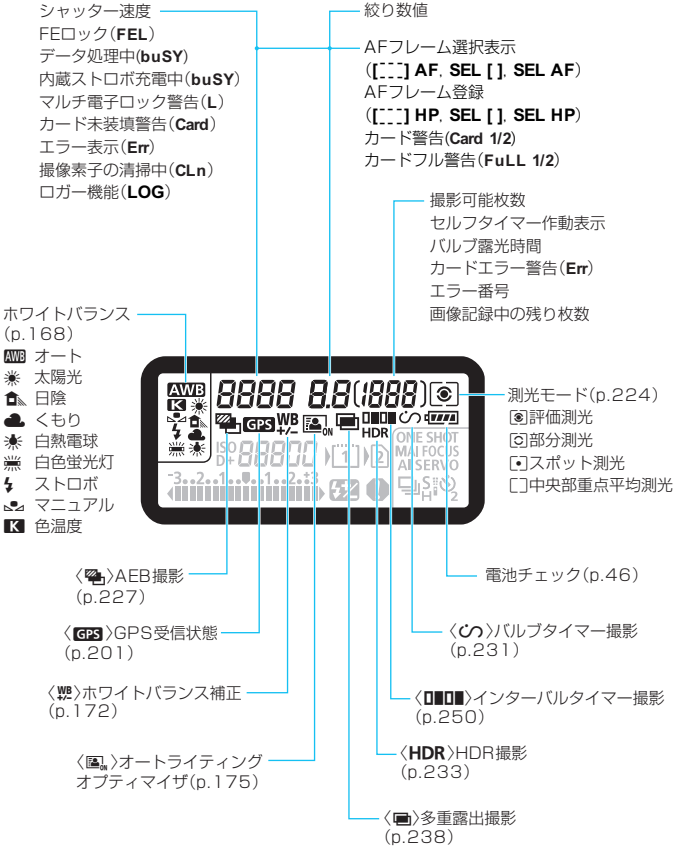
ボディキャップ(p.50)



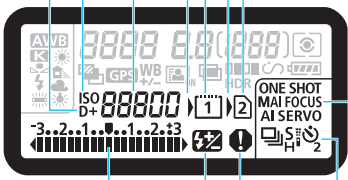
デジタル端子にインターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください(p.34)。


視度調整つまみ(p.54)
〈⊖〉撮像面マーク
スピーカー(音声用)
〈 / 〉ライブビュー撮影／動画撮影スイッチ(p.285 / 313)
〈START/STOP〉スタート／ストップボタン(p.286、314)
〈 / 〉クリエイティブフォト／2画面比較再生(2枚表示)ボタン(p.160、233、238 / 366)
〈✲〉マルチコントローラー(p.58)
〈RATE〉レーティングボタン(p.370、371)
ストラップ取り付け部(p.33)
〈Q〉インデックス／拡大／縮小ボタン(p.361 / 364)
カードスロットカバー(p.41)
〈▶〉再生ボタン(p.354)
〈🗑〉消去ボタン(p.392)
電池室ふた開放レバー(p.40)
スピーカー(電子音用)
液晶モニター(p.64、286、314、354、394)
電池室ふた(p.40)
三脚ねじ穴
アクセスランプ(p.44)
外光センサー(p.394)
マルチ電子ロックスイッチ(p.59)
シリアル番号
SDカードスロット(p.41)
CFカードスロット(p.41)
CFカード取り出しボタン(p.43)

表示パネル



* 設定に応じた部分のみ表示されます。



〈1〉CFカード装填表示

〈◗〉CFカード選択マーク

ISO感度(p.154)

〈ISO〉ISO表示(p.154)

〈D+〉
高輝度側・階調優先
(p.180)

〈◗〉SDカード選択マーク

〈2〉SDカード装填表示

AF動作(p.86)
ONE SHOT
ワンショットAF
AI FOCUS
AIフォーカスAF
AI SERVO
AIサーボAF
M FOCUS
マニュアルフォーカス

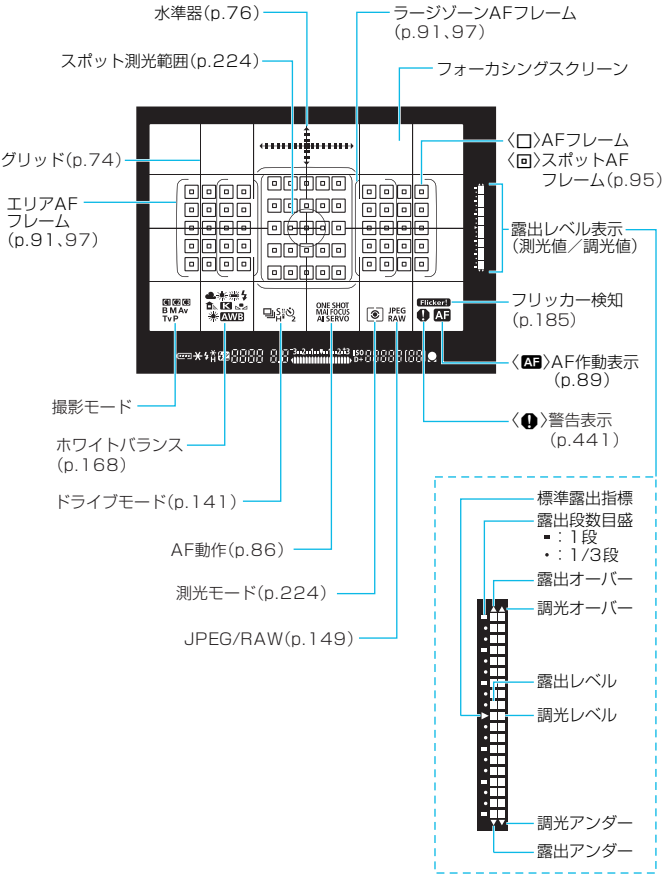
露出レベル表示(設定値)
露出補正量(p.226)
AEBレベル(p.227)
ストロボ調光補正量(p.257)

〈ϟ〉ストロボ調光補正
(p.257)

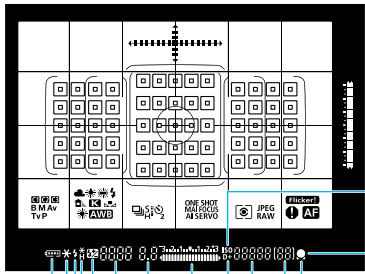
〈❗〉警告表示
(p.441)

ドライブモード(p.141)
- □ 1枚撮影
- □ᴴ 高速連続撮影
- □ 低速連続撮影
- □ˢ 静音1枚撮影
- □ˢ 静音連続撮影
- ⏲ セルフタイマー 10秒／リモコン
- ⏲₂ セルフタイマー2秒／リモコン

ファインダー内表示



* 設定に応じた部分のみ表示されます。



〈ISO〉ISO表示
(p.154)

〈●〉合焦マーク
(p.80、87)

〈▮▮▮〉電池チェック
(p.46)

〈◣◢〉AF作動表示
(p.132)

〈✱〉AEロック(p.229)
AEB撮影中(p.227)

連続撮影可能枚数(p.153)
多重露出残り枚数(p.240)

〈ϟ〉ストロボ充電完了
(p.254、259)
FEロック連動範囲外警告

ISO感度(p.154)

〈ϟ✱〉FEロック(p.259)
FEB撮影中(p.269)
〈ϟH〉ハイスピードシンクロ
(p.269)

〈D+〉高輝度側・階調優先
(p.180)

露出レベル表示(設定値)
露出補正量(p.226)
AEBレベル(p.227)
ストロボ調光補正量(p.257)
赤目緩和ランプ点灯(p.256)

〈±〉ストロボ調光補正
(p.257)

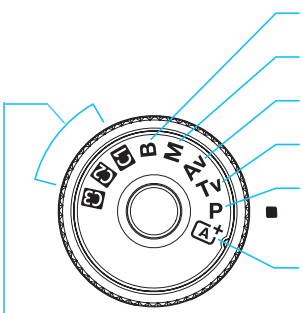
シャッター速度(p.218)
FEロック(**FEL**)
データ処理中(**buSY**)
内蔵ストロボ充電中(**buSY**)
マルチ電子ロック警告(**L**)
カード未装填警告(**Card**)
エラー表示(**Err**)

AFフレーム選択表示
(**[ ] AF**, **SEL [ ]**, **SEL AF**)
AFフレーム登録
(**[ ] HP**, **SEL [ ]**, **SEL HP**)
カード警告(**Card 1/2**)
カードフル警告(**FuLL 1/2**)

絞り数値(p.220)

モードダイヤル

撮影モードを設定することができます。モードダイヤルの中央（モードダイヤルロック解除ボタン）を押しながら回します。



B：バルブ（p.230）

M：マニュアル露出（p.222）

Av：絞り優先AE（p.220）

Tv：シャッター優先AE（p.218）

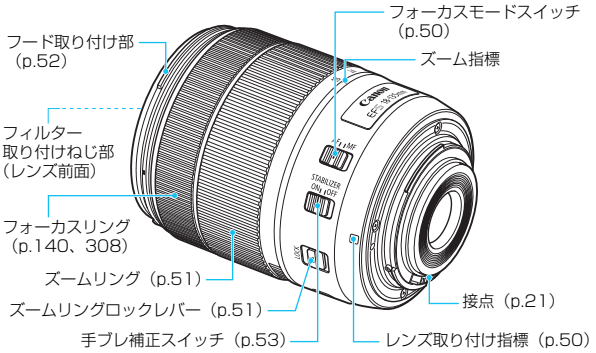
P：プログラムAE（p.216）

：シーンインテリジェントオート（p.80）

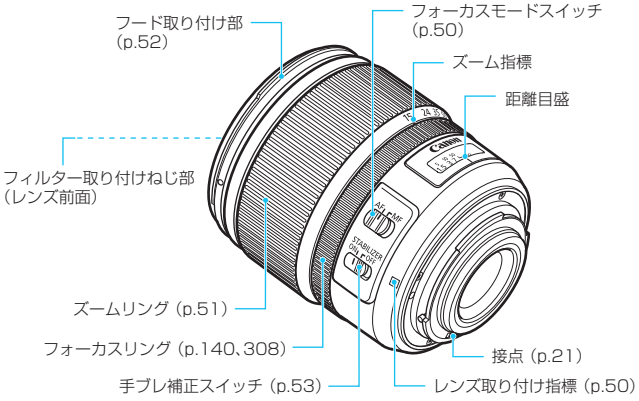
カスタム撮影モード

撮影モード（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）やAF動作、メニュー機能などを、C1、C2、C3に登録することができます（p.464）。

EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM レンズ

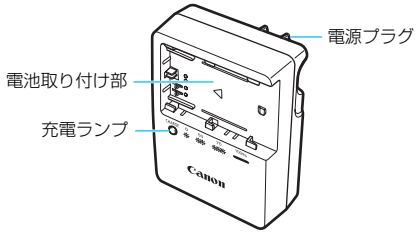


EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM レンズ



バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6の充電器です（p.38）。



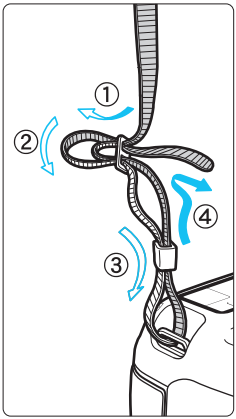
注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion

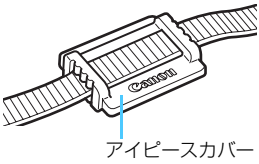
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.247）。



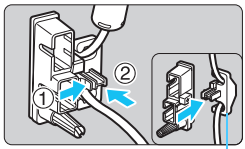
ケーブルプロテクターの使い方

カメラとパソコン／プリンター／ワイヤレスファイルトランスミッターを接続するときは、付属または純正（システム図に記載：p.478）のインターフェースケーブルを使用してください。

なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください。ケーブルプロテクターを使用すると、ケーブルが不用意に抜けることを防止したり、端子の破損を防止することができます。

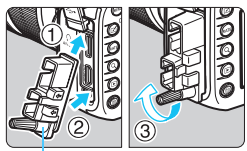
付属インターフェースケーブル／純正HDMIケーブル（別売）使用時

1



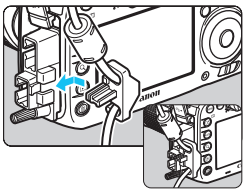
クランパー部

2

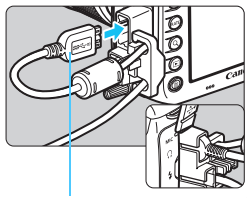


プロテクター本体

3

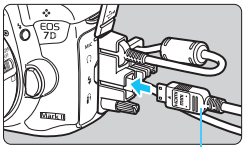


4



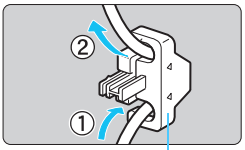
付属インターフェースケーブル

5



HDMIケーブル（別売）

別売の純正インターフェースケーブル使用時



別売のキヤノン純正インターフェースケーブルを使用するときは（p.478）、図のようにケーブルをクランパー部に通してからプロテクター本体に取り付けてください。

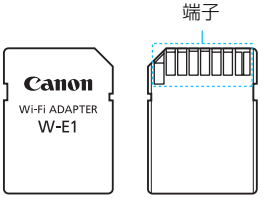
- ケーブルプロテクターを使用せずにインターフェースケーブルを接続すると、デジタル端子が破損する恐れがあります。
- デジタル端子が破損する恐れがあるため、Micro B端子を備えたUSB2.0ケーブルは使用しないでください。
- 手順4の右下の図のように、インターフェースケーブルがデジタル端子にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

カメラとテレビを接続するときは、HDMIケーブル HTC-100（別売）の使用をおすすめします。HDMIケーブル接続時もケーブルプロテクターの使用をおすすめします。

Wi-Fiアダプター W-E1（レンズキットのみ）

本機のSDカードスロットに入れてWi-Fi（無線通信）機能を使用可能にするアクセサリーです。

使用方法は、「Wi-Fiアダプター W-E1 お使いになる前にお読みください」と「Wi-Fiアダプター W-E1 使用説明書」を参照してください（p.4）。



W-E1に画像を記録することはできません。必ず、画像記録用のCFカードを用意してください。

1

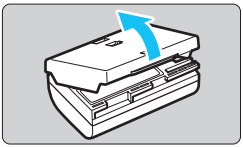
撮影前の準備と操作の基本

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

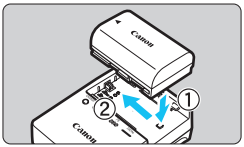
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

電池を充電する



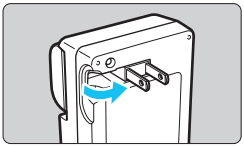
1 保護カバーを外す

- 付属の保護カバーを外します。



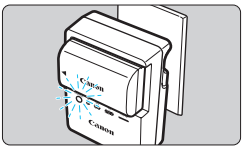
2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～49%	オレンジ	1秒ごとに点滅
50～74%		1秒ごとに2回点滅
75%以上		1秒ごとに3回点滅
充電完了	緑	点灯

- **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。**なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。

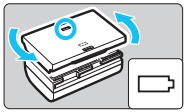
電池と充電器の上手な使い方

- **購入時、電池はフル充電されていません**
  充電してからお使いください。

- **充電は、使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**
  充電済みの電池に付属の保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈▭〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。



- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
  電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

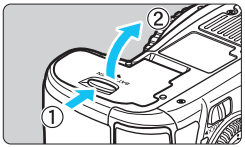
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
  電池の劣化度（p.470）を確認した上で、新しい電池をお買い求めください。

- 充電器をコンセントから取り外したときは、10秒程度、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリー残容量（p.470）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は充電できません。

電池を入れる／取り出す

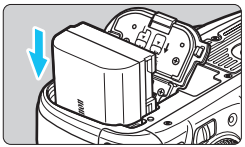
充電したバッテリーパック LP-E6N（またはLP-E6）をカメラに入れます。このカメラのファインダーは、電池を入れると明るくなり、電池を抜くと暗くなります。

入れ方



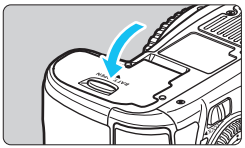
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

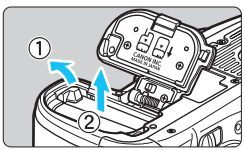


3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は使用できません。

取り出し方



ふたを開けて、電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（p.38）を取り付けてください。

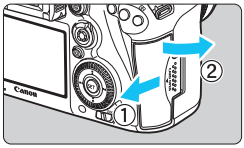
カードを入れる／取り出す

このカメラは、CFカードとSDカードが使用できます。**どちらかのカードが入っていれば、撮影した画像を記録することができます。**

両方のカードを入れたときは、どちらのカードを使用するか選択したり、両方のカードに同時に画像を記録することができます（p.146～148）。

SDカード使用時は、カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

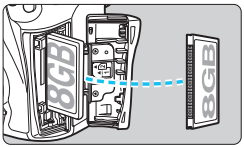
入れ方



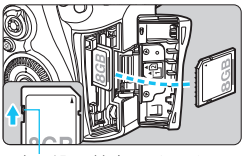
1 カバーを開ける

- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

CFカード



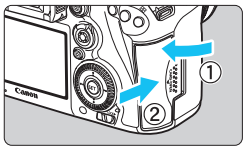
SDカード



書き込み禁止スイッチ

2 カードを入れる

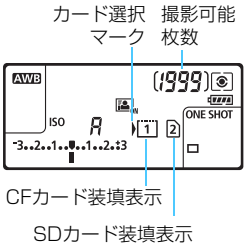
- CFカードはカメラの前面側、SDカードは背面側のスロットに入れます。
- **CFカードは、カードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。**
  入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。
  ➡ CFカード取り出しボタンがせり出します。
- **SDカードは、カードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**



3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

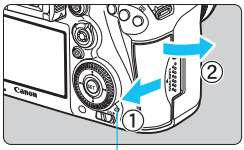
➡ 電源スイッチを〈**ON**〉にすると（p.45）、表示パネルに撮影可能枚数と装填したカードが表示されます。
〈 〉マークが付いているカードに画像が記録されます。



- Type II のCFカードと、ハードディスクタイプのカードは使用できません。
- Wi-Fiアダプター W-E1 には画像を保存できません。また、SDカード装填表示も行われません。

- CFカードは、Ultra DMA（UDMA）対応のカードも使用できます。UDMA対応のカードを使用すると、より高速なデータ書き込み処理が行われます。
- SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使用できます。なお、UHS-I 対応のSDHC/SDXCメモリーカードも使用できます。
- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- 撮影可能枚数が2000枚以上の場合でも、表示パネルには「1999」と表示されます。
- [**1：カードなしレリーズ**]を[**しない**]に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.484）。

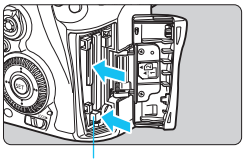
取り出し方



アクセスランプ

1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**
- ［**書き込み中...**］と表示されたときは、カバーを閉じてください。



CFカード取り出しボタン

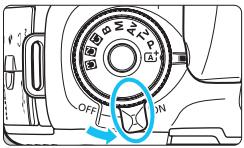
2 カードを取り出す

- CF カードは、取り出しボタンを押し込むと出てきます。
- SD カードは、カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。**
  ・カードを取り出す
  ・電池を取り出す
  ・カメラに振動や衝撃を与える
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（p.193）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.67)。正常な状態に戻ることがあります。
- SDカードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、47ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。**



〈**ON**〉：カメラが作動します。
〈**OFF**〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈 〉が表示されます。

- 清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.55）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

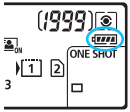
MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押しすると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、[**2：オートパワーオフ**]で変更することができます（p.69）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、[**書き込み中...**]が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときに、6段階で表示されます。電池マークが点滅（ ）したときは、もうすぐ電池切れになります。



表示						
残量（%）	100~70	69~50	49~20	19~10	9~1	0

撮影可能枚数の目安

（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	800	760
50%ストロボ撮影	670	640

- フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E16（別売）使用時の撮影可能枚数
  - ・LP-E6N×2個使用時：カメラ単体時の約2倍
  - ・単3形アルカリ乾電池使用時（常温+23℃）：ストロボ撮影なし：約270枚、50%ストロボ使用：約210枚

- 下記の操作を行うと電池が早く消耗します。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - ・AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、287ページを参照してください。
- [**3：バッテリー情報**]で、電池の状態を詳しく確認することができます（p.470）。
- バッテリーグリップ BG-E16（別売）で単3形電池を使用したときは、4段階表示になります（[ ] [ ]は表示されません）。

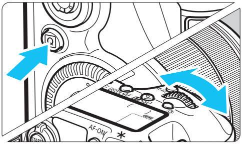
MENU 日付／時刻／エリアを設定する

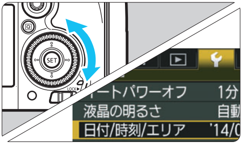
初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されます。以下の操作手順に従って、エリアから設定してください。住んでいるエリア（地域）を設定しておくと、他の地域に旅行したときにエリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時に自動的に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

1 メニューを表示する

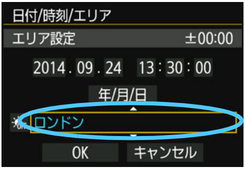
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。





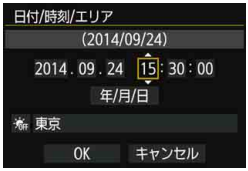
2 ［🔧2］タブの［日付/時刻/エリア］を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押して［🔧］タブを選びます。
- 〈⚙〉を回して［🔧2］タブを選びます。
- 〈◎〉を回して［**日付/時刻/エリア**］を選び、〈SET〉を押します。



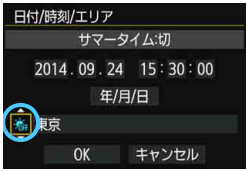
3 エリアを設定する

- **初期状態では［ロンドン］に設定されています。**
- 〈◎〉を回して［**エリア設定**］を選びます。
- 〈SET〉を押して、〈⇕〉の状態にします。
- 〈◎〉を回してエリアを選び、〈SET〉を押します。



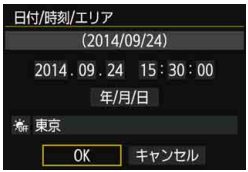
4 日付/時刻を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選びます。
- 〈(SET)〉を押して、〈⇕〉の状態にします。
- 〈◎〉を回して設定し、〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。



5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して［☀OFF］を選びます。
- 〈(SET)〉を押して、〈⇕〉の状態にします。
- 〈◎〉を回して［☀］を選び、〈(SET)〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順4で設定した時刻が、1 時間進みます。［☀OFF］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



6 設定を終了する

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

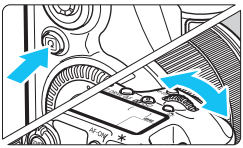
- カメラから電池を取り出して保管したときや、カメラの電池残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- エリア設定を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。
- ワイヤレスファイルトランスミッターを使用して［**カメラ間時刻同期**］を行うときは、EOS 7D Mark II同士で行うことをおすすめします。他の機種と［**カメラ間時刻同期**］を行うと、エリアや時刻が正しく設定されないことがあります。

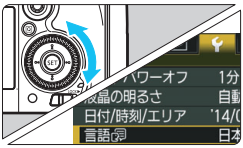
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で〈SET〉を押したときに始まります。
- 手順3で画面の右上に表示される時間は、協定世界時との時差です。設定したいエリアがないときは、時差を参考にエリアを選択してください。
- GPS機能による自動時刻設定を行うことができます（p.209）。

MENU 表示言語を選ぶ

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。





2 ［🔧2］タブの［言語］を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押して［🔧］タブを選びます。
- 〈⚙〉を回して［🔧2］タブを選びます。
- 〈◎〉を回して［言語］を選び、〈SET〉を押します。

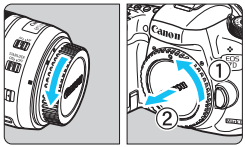
3 言語を設定する

- 〈◎〉を回して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。**なお、EF-Mレンズは使用できません。**

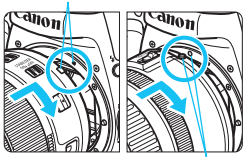
取り付け方



1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

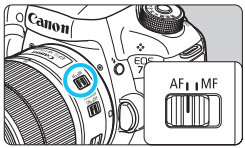
白い指標



赤い指標

2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。



3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

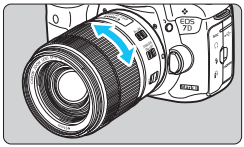
- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

4 レンズキャップを外す

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

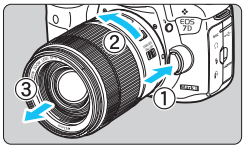
ズーム操作について



レンズのズームリングを手で回す

- ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- **EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USMをお持ちの方へ**

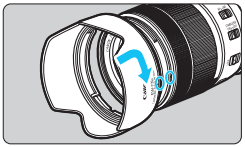
持ち運びの際にズームリングが動いて、レンズが伸び出ることを防ぐことができます。レンズをワイド端（18mm）にして、レンズ側面のズームリングロックレバーを〈**LOCK**〉方向にスライドさせます。ワイド端以外ではロックできません。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

フードの取り付け方

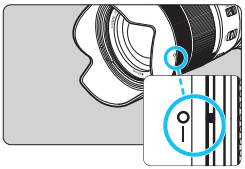
レンズフードを取り付けると、有害な光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどのレンズ前面への付着を軽減することができます。なお、レンズをバッグなどに収納するときは、フードを逆向きに取り付けることもできます。

● **レンズとフードに取り付け指標がある場合**



1 赤い指標を合わせ、矢印の方向に回す

● フードの赤い指標とレンズ先端の赤い指標を合わせ、矢印の方向に回します。



2 図の位置まで回す

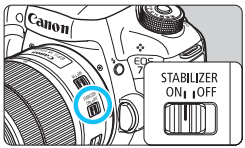
● フードを時計方向に回して、確実に取り付けます。

● フードが正しく取り付けられていないと、フードにより画面の周囲がケラレて（さえぎられて）暗くなることがあります。
● フードの取り付け／取り外しを行うときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。

レンズの手ブレ補正機能について

手ブレ補正機能を内蔵したレンズを使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USMレンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。



1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

- カメラの電源スイッチも〈**ON**〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

3 撮影する

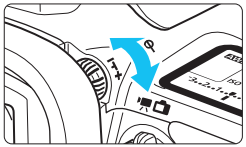
- ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ撮影時は、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にしてください。〈**ON**〉で撮影すると、手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物などから撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

- 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉〈MF〉のどちらでも働きます。
- 三脚使用時に手ブレ補正スイッチが〈**ON**〉でも問題なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- 一脚を使用した撮影でも、手ブレ補正効果が得られます。
- EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM、EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USMレンズ使用時は、撮影状況に応じて手ブレ補正機能のモードが自動的に切り換わります。

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する



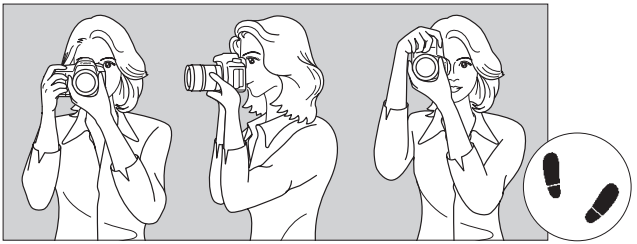
視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します（p.247）。

視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、視度補正レンズEg（別売）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



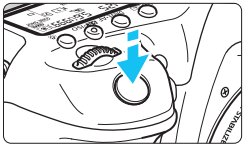
横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、285ページを参照してください。

シャッターボタン

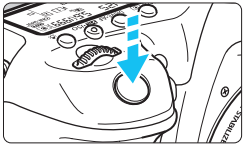
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内と表示パネルに4秒間表示されます（測光タイマー／⏱4）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

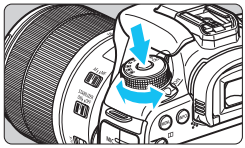
手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- 撮影モードが〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉のときは、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

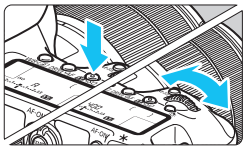
モードダイヤル



ダイヤル中央のロック解除ボタンを押しながら回す

撮影モードの設定に使用します。

メイン電子ダイヤル

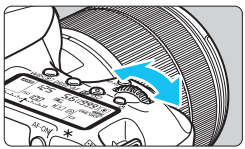


(1) ボタンを押したあと〈 〉を回す

〈WB•〉〈DRIVE•AF〉〈•ISO〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマーで6秒間保持されます（6）。その間に〈 〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 測光モード、AF動作、ISO感度、AFフレームの選択・設定などに使用します。



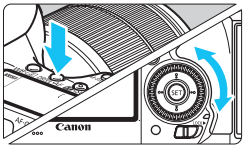
(2) 〈 〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈LOCK▶〉スイッチが右側（マルチ電子ロック／p.59）でも行うことができます。

◯ サブ電子ダイヤル

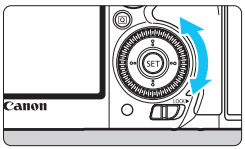


(1) ボタンを押したあと〈◯〉を回す

〈WB•◙〉〈DRIVE•AF〉〈⚡•ISO〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマーで6秒間保持されます（⏱6）。その間に〈◯〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレームの選択・設定などに使用します。



(2) 〈◯〉のみを回す

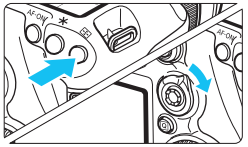
ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◯〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈LOCK▶〉スイッチが右側（マルチ電子ロック／p.59）でも行うことができます。

測距エリア選択レバー

〈⊹〉のレバーは右側へ少し倒れます（回転します）。測距エリア選択モードを選ぶときに使用します。



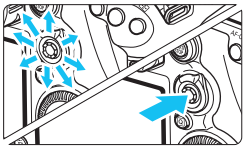
〈⊞〉ボタンを押したあと〈⊹〉を倒す

- 〈⊞〉ボタンを押すと、測距エリア選択モード／AFフレームの選択状態がタイマーで6秒間保持されます（⏱6）。その間に〈⊹〉を右側に倒すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

〈⊞〉ボタンを押したあと、〈M-Fn〉ボタンを押して測距エリア選択モードを選ぶこともできます。

マルチコントローラー

〈✣〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。

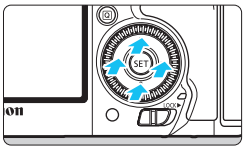


- AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影時におけるAFフレーム/拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定の操作などに使用します。
- メニューの選択・設定を行うこともできます。
- メニューやクイック設定の操作では、〈▲▼〉〈◀▶〉方向のみで、斜め方向に動かすことはできません。

十字タッチパッド

動画撮影中に静かな操作で、シャッター速度、絞り数値、露出補正、ISO感度の設定、録音レベル、ヘッドフォン音量の調整を行いたいときに使用します（p.338）。

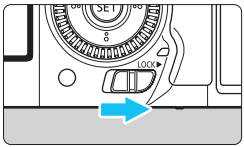
［5：動画サイレント設定］を［有効］にすると機能します。



〈Q〉ボタンを押したあと、〈◯〉の内側の上/下/左/右部分に触れる

LOCK▶ マルチ電子ロック

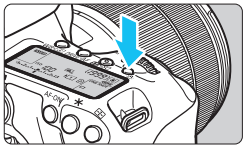
［3：マルチ電子ロック］を設定し（p.442）、〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、マルチコントローラー、測距エリア選択レバーが不用意に動いて、設定が変わることを防止することができます。



〈LOCK▶〉スイッチ左側：ロック解除
〈LOCK▶〉スイッチ右側：ロック

〈LOCK▶〉スイッチが右側の状態で、禁止した操作部材を操作すると、ファインダーと表示パネルに〈L〉、撮影機能の設定状態（p.60）の画面に［LOCK］が表示されます。

☼ 表示パネル照明



表示パネルの照明は、〈☼〉ボタンを押すたびに点灯（ⓒ6）／消灯します。

なお、バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

撮影機能の設定状態を表示する

〈**INFO.**〉ボタンを何回か押すと、撮影機能の設定状態が表示されます。

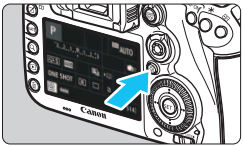
画面が表示された状態でモードダイヤルを回すと、各撮影モードの設定状態を確認することができます（p.469）。

〈Q〉ボタンを押すと、撮影機能をクイック設定することができます（p.61）。

もう一度〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示が消えます。

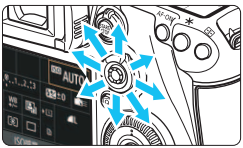
Q 撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。



1 〈Q〉ボタンを押す（☆10）

➡ クイック設定の状態になります。

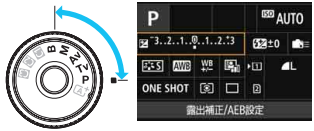


2 機能を設定する

- 〈✲〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容が画面に表示されます。
- 〈◯〉または〈▱〉を回して設定を変更します。

● 〈A+〉モード

● 〈P/Tv/Av/M/B〉モード

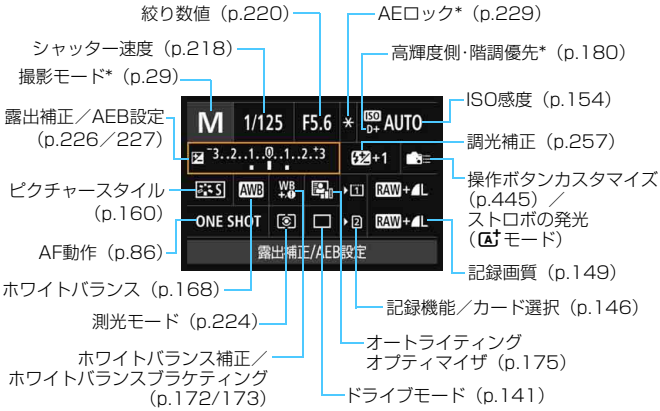


3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影した画像が表示されます。

〈A+〉モードのときは記録機能とカード選択、記録画質、ドライブモード、ストロボの発光のみ設定できます。

クイック設定できる機能



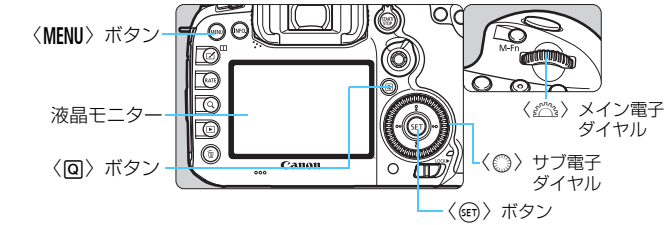
* 印の機能はクイック設定できません。

設定画面について

- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈◯〉または〈◎〉を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。
- 〈📷☰〉（p.445）を選んだときは、〈MENU〉ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

MENU メニュー機能の操作と設定

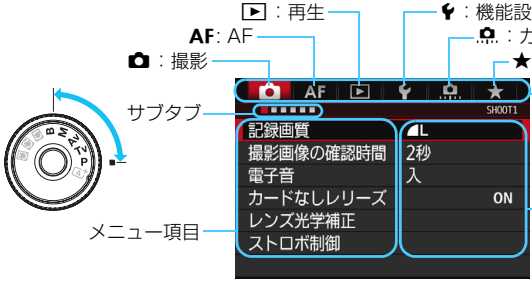
このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。



A+モードのメニュー画面

* 〈A+〉モードのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

P/Tv/Av/M/Bモードのメニュー画面



メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈〉を回してサブタブを選びます。
- 例えば、本文中の［4］タブは、（撮影）タブの左から4番目の「■」を選んでいる画面のことです。

3 項目を選ぶ

- 〈◯〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

- 〈◯〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

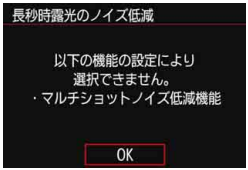
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 〈☆〉でメニュー機能の操作と設定を行うこともできます（［▶1：画像消去］［🔧1：カード初期化］を除く）。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。
- メニュー機能の内容は、484ページを参照してください。

メニュー項目の灰色表示について

例：マルチショット
　　ノイズ低減機能設定時

灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈SET〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

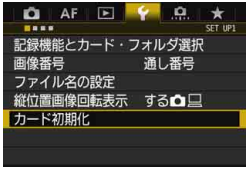
［🔧4：カメラ設定初期化］でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます(p.70)。

使い始める前の準備

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）を行ってください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

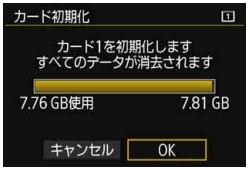


1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 カードを選ぶ

- ［1］はCFカード、［2］はSDカードです。
- カードを選び〈(SET)〉を押します。



3 ［OK］を選ぶ

➡ カードが初期化されます。

- ［2］選択時は、物理フォーマットを行うことができます（p.68）。
〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に［✓］が付いた状態で［**OK**］を選びます。

こんなときにカードを初期化します

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき
- カードの中が画像やデータでいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき（p.510）

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、SDカードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、SDカード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、SDカードはそのまま問題なく使用できます。

- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- **新しいEye-Fiカードを使用するときは**（p.475）**、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。**

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときや、セルフタイマー撮影時に、電子音が鳴らないようにすることができます。

1 [電子音] を選ぶ

- [📷1] タブの [**電子音**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 [切] を選ぶ

- [**切**] を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 電子音が鳴らないようになります。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

カメラを操作しない状態で放置すると、節電のため設定されている時間で電源が自動的に切れます。初期状態では1分に設定されていますが、この時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、[**しない**] に設定します。なお、電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと電源が入ります。

1 [オートパワーオフ] を選ぶ

- [🔧2] タブの [**オートパワーオフ**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 時間を設定する

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

[**しない**] に設定しても、節電のため30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

- ［📷1］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈(SET)〉を押します。

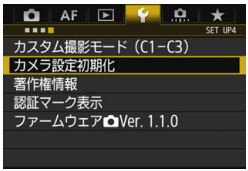
2 時間を設定する

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで画像が表示されます。

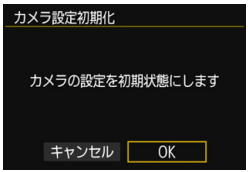
MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。



1 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

- ［🔧4］タブの［**カメラ設定初期化**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［OK］を選ぶ

➡ カメラ設定初期化を行うと、カメラの設定が71～73ページのようになります。

撮影機能

AF動作	ワンショットAF
測距エリア選択モード	1点AF（任意選択）
AFフレーム選択	中央
登録AFフレーム	解除
測光モード	⊙（評価測光）
ISO感度	オート
ISO感度設定範囲	下限値：100 上限値：16000
ISOオートの範囲	下限値：100 上限値：6400
ISOオート低速限界	自動設定
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	解除
赤目緩和機能	切
多重露出	しない
HDRモード	HDRオフ
インターバルタイマー	しない
バルブタイマー	しない
フリッカーレス撮影	しない
ミラーアップ撮影	しない
ファインダー内表示	
ファインダー水準器	表示しない
ファインダー ⌗	表示しない
ファインダー内表示設定	フリッカーのみチェック
カスタム機能	そのまま
ストロボ制御	
ストロボの発光	する
E-TTL II調光方式	評価調光
Avモード時のストロボ同調速度	自動

AF

Case1～6	Case1／各ケースの設定内容解除
AIサーボ1コマ目レリーズ	バランス重視
サーボAF連続撮影中のレリーズ	バランス重視
レンズの電子式手動フォーカス	ワンショットAF作動後・可能
AF補助光の投光	する
ワンショットAF時のレリーズ	ピント優先
AF測距不能時のレンズ動作	サーチ駆動する
任意選択可能なAFフレーム	65点
測距エリア選択モードの限定	全項目選択
測距エリア選択モードの切換	M-Fnボタン
縦位置/横位置のAFフレーム設定	同じ
◌ 時のAIサーボAF開始測距点	自動
自動選択：EOS iTR AF	する
AFフレーム任意選択時の循環	しない（端で突き当たり）
測距時のAFフレーム表示	選択AFフレーム（常時表示）
ファインダー情報の照明	自動
AIサーボAF時の照明	しない
ファインダー内のAF動作表示	視野内に表示
AFマイクロアジャストメント	しない／調整値保持

画像記録

記録画質	4L
ピクチャースタイル	スタンダード
オートライティング オプティマイザ	標準
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色収差補正	する／登録レンズ保持
歪曲収差補正	しない／登録レンズ保持
ホワイトバランス	AWB（オート）
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
色空間	sRGB
長秒時露光のノイズ低減	しない
高感度撮影時のノイズ低減	標準
高輝度側・階調優先	しない
記録機能	標準
画像番号	通し番号
ファイル名の設定	カメラ固有設定
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定

オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告表示	しない
AFフレーム表示	しない
再生時のグリッド	表示しない
ヒストグラム	輝度
動画再生カウント	そのまま
拡大倍率設定（約）	2倍（中央から）
HDMI機器制御	切
での画像送り	（10枚）
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	自動
日付/時刻/エリア	そのまま
Eye-Fi設定	しない
言語	そのまま
GPSと電子コンパスの設定	使わない
ビデオ方式	そのまま
INFOボタンで表示する内容	全項目選択
RATEボタンの機能	レーティング
カスタム撮影モード	そのまま
著作権情報	そのまま
設定：MY MENU*	そのまま
メニュー表示	通常表示
Wi-Fi機能（W-E1使用時のみ）	そのまま

ライブビュー撮影

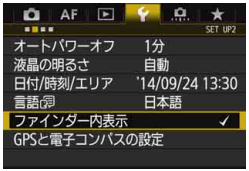
ライブビュー撮影	する
AF方式	+追尾優先AF
コンティニュアスAF	しない
グリッド	表示しない
アスペクト比	3：2
露出Simulation	する
LV静音撮影	モード1
測光タイマー	8秒

動画撮影

動画サーボAF	する
AF方式	+追尾優先AF
グリッド	表示しない
動画記録画質	
MOV/MP4	MOV
動画記録サイズ	NTSC：FHD 29.97P IPB PAL：FHD 25.00P IPB
24.00P	切
録音	オート
ウィンドカット	切
アッテネーター	切
動画サーボAF時のAF速度	
作動条件	常時
AF速度	標準
動画サーボAFの被写体追従特性	0（標準）
LV静音撮影	モード1
測光タイマー	8秒
タイムコード	
カウントアップ	そのまま
スタート時間設定	そのまま
動画記録カウント	そのまま
動画再生カウント	そのまま
HDMI	そのまま
ドロップフレーム	そのまま
動画サイレント設定	無効
ボタンの機能	AF/
HDMI出力+液晶	同時表示しない
HDMIフレームレート	自動

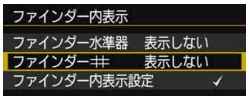
＃ グリッドを表示する

カメラの傾き確認や構図確認に有効なグリッドを、ファインダー内に表示することができます。



1 ［ファインダー内表示］を選ぶ

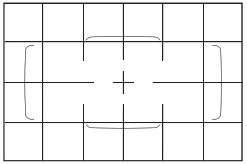
● ［2］タブの［**ファインダー内表示**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［ファインダー＃］を選ぶ

3 ［表示する］を選ぶ

➡ メニューを終了すると、ファインダー内にグリッドが表示されます。

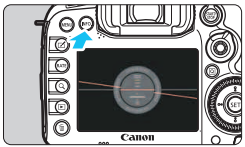


ライブビュー撮影時、および動画撮影開始前に、液晶モニターにグリッドを表示することができます（p.295、344）。

水準器を表示する

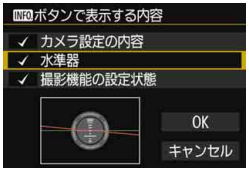
カメラの傾き補正に有効な水準器を、液晶モニターとファインダー内に表示することができます。

液晶モニターに水準器を表示する

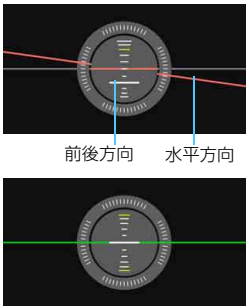


1 〈INFO.〉ボタンを押す

- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。



- 水準器が表示されないときは、[3: **INFO ボタンで表示する内容**]で、水準器が表示されるように設定します(p.468)。



2 カメラの傾きを確認する

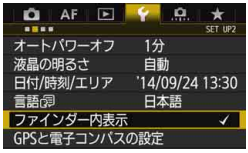
- 水平方向と前後方向の傾きが1°きざみで表示されます。
- 赤い線が緑色に変わると、傾きがほぼ補正された状態です。

- 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは、水準器の誤差が大きくなります。

ライブビュー撮影時、動画撮影開始前に(+追尾優先AF時を除く)、同じ操作で水準器を表示することができます。

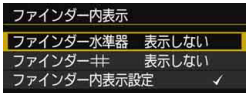
MENU ファインダー内に水準器を表示する

ファインダー内の上部に水準器を表示することができます。この機能は撮影時に表示されるため、傾きを確認しながら撮影することができます。



1 ［ファインダー内表示］を選ぶ

- ［¥2］タブの［**ファインダー内表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。



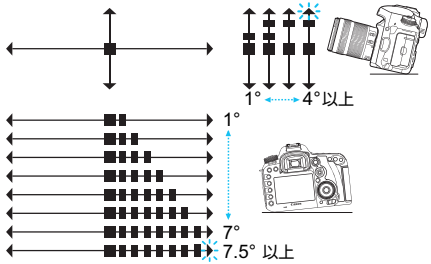
2 ［ファインダー水準器］を選ぶ

3 ［表示する］を選ぶ

4 シャッターボタンを半押しする

➡ ファインダー内に水準器が表示されます。

- 縦位置撮影時も機能します。



傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。

MENU ファインダー内に表示する情報を設定する 応用

撮影に関する機能（撮影モード、ホワイトバランス、ドライブモード、AF動作、測光モード、記録画質：JPEG/RAW、フリッカー検知）の設定情報をファインダー内に表示することができます。

なお、初期状態ではフリッカー検知のみ［✓］が設定されています。

1 ［ファインダー内表示］を選ぶ

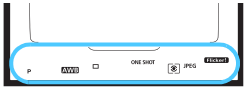
- ［🔧2］タブの［**ファインダー内表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ［ファインダー内表示設定］を選ぶ

3 表示する項目に［✓］を付ける

- 表示する項目を選び〈(SET)〉を押すと、［✓］が表示されます。
- この手順を繰り返して、表示する項目に［✓］を付け、［**OK**］を選びます。

➡ メニューを終了すると、ファインダー内に設定情報が表示されます（p.27）。



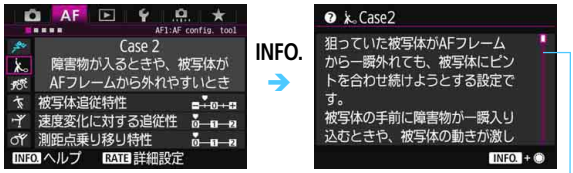
カメラにカードが入っていないときは、ファインダー内に記録画質は表示されません。

〈WB·◉〉〈DRIVE·AF〉ボタンを押したときや、レンズのフォーカスモードスイッチを操作したとき、電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時にレンズのフォーカスリングを回してAF/MFが切り換わったときは（p.119）、［✓］の設定に関わらず、ファインダー内に設定情報が表示されます。

❓ ヘルプについて

メニュー画面の下に［INFO.ヘルプ］が表示されているときは、機能の説明（ヘルプ）を表示することができます。〈**INFO.**〉ボタンを押している間だけヘルプが表示されます。説明が1ページを超えるときは、画面の右側にスクロールバーが表示されます。そのときは、〈**INFO.**〉ボタンを押しながら〈◎〉を回します。

● ［**AF**1：Case2］の例



● ［**AF**4：縦位置/横位置のAFフレーム設定］の例

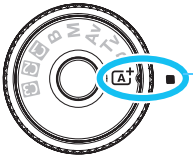
● ［🔧3：マルチ電子ロック］の例

2

かんたん撮影

この章では、モードダイヤルの〈A+〉（シーンインテリジェントオート）モードで簡単に撮影する方法を説明しています。

〈A+〉モードのときは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます（p.480）。また、誤操作による失敗を防ぐため、複雑な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。



オートライティングオプティマイザ機能について

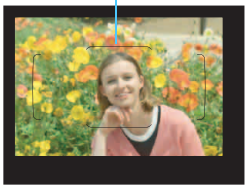
〈A+〉モードのときは、撮影結果に応じて画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正する「オートライティングオプティマイザ」機能（p.175）が働きます。〈**P**/**Tv**/**Av**〉モードでも初期状態で機能します。

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（p.83）。

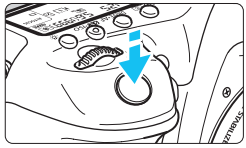
1 モードダイヤルを〈A+〉にする

- モードダイヤルの中央を押しながら回します。



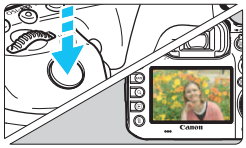
2 被写体（写したいもの）にエリアAFフレームを合わせる

- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントが合います。
- エリアAFフレームの中央を被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
  - ➡ AF作動中は〈AF〉が表示されます。
  - ➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、合焦マーク〈●〉が点灯します。
  - ➡ 暗い場所では、AFフレームが一瞬赤く光ります。
  - ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が2秒間表示されます。
- 撮影を終了するときは、内蔵ストロボを手で押し下げて収納します。

〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**〉モードにして、〈SCN〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（p.160）。

? こんなときは

- **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**

  明暗差（コントラスト）のある部分にエリアAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.55）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

- **ピントが合ったのにAFフレームが赤く照明されない**

  AFフレームは、暗い場所でピントが合ったときに赤く照明されます。

- **複数のAFフレームが同時に表示される**

  表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。

- **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

  動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントが合った写真を撮ることができます。

  なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影（p.83）はできません。

● **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**
　レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**
　逆光状態のときは、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。ストロボを発光させたくないときは、クイック設定で［**ストロボの発光**］を［⚡］に設定してください（p.61）。

● **ストロボが発光して、かなり明るい写真になった**
　被写体から離れて撮影してください。ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**
　AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光（p.89）という機能で、有効距離の目安は4m以内です。なお、内蔵ストロボが連続して発光するときに音がしますが、故障ではありません。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**
　写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。被写体から離れて撮影してください。また、レンズの先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

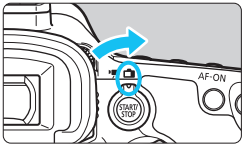
〈A+〉モードのときは止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

動いているものを撮影する

〈A+〉モードのときはピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます（電子音が小さく鳴り続けます）。被写体がエリアAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について

液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、285ページを参照してください。



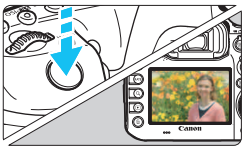
1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする

2 液晶モニターに映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

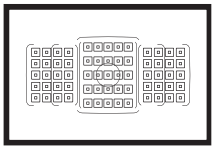


4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

3

AF／ドライブの設定



ファインダー内に配置されたAFフレームを使用して、さまざまな撮影シーンに対応したAF撮影を行うことができます。

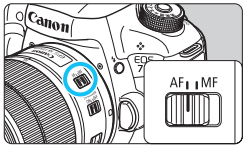
また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の 応用 は、〈**P**／**Tv**／**Av**／**M**／**B**〉モード限定の機能であることを示しています。
- 〈A+〉モードのときはAF動作、測距エリア選択モードが自動設定されます。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

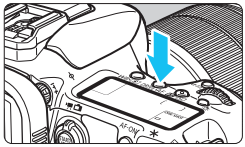
AF: AF動作の選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、〈A+〉モードのときは「AIフォーカスAF」に自動設定されます。

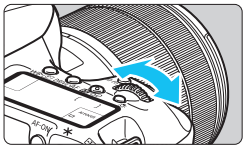


1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 〈P/Tv/Av/M/B〉モードにする



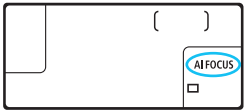
3 〈DRIVE•AF〉ボタンを押す（⏱6）



4 AF動作を選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◌〉を回します。

ONE SHOT：ワンショットAF
AI FOCUS：AIフォーカスAF
AI SERVO：AIサーボAF



〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードのときは〈AF-ON〉ボタンでAFを行うこともできます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示され、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 評価測光（p.224）のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.139）を参照してください。
- ［📷1：**電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- ワンショットAFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。エリアAFフレームに入らない、画面の端に被写体があるときなどに有効です。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 測距エリア選択モード（p.90）が、65点自動選択AFのときは、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFのときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へと作動特性が自動的に切り換わります。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴り続けます。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影はできません。

AF作動表示について

シャッターボタンを半押しして、AFでピント合わせを行っているとき（AF作動中）は、ファインダー視野内の右下に〈AF〉が表示されます。

なお、ワンショットAF時は、ピントが合ったあと、シャッターボタンを半押ししている間も表示されます。

AF作動表示の表示位置を、ファインダーの視野外に変更することができます（p.132）。

AFフレームの赤色照明について

初期状態では、AFフレームは、暗い場所でピントが合ったときに赤く照明されます。なお、〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードのときは、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます（p.131）。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈A+〉モードで［**ストロボの発光**］を〈ⓩ〉に設定したときは、内蔵ストロボによるAF補助光は投光されません。
- AF動作がAIサーボAFのときは、AF補助光は投光されません。
- 内蔵ストロボが連続して発光するときに音がしますが、故障ではありません。

- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲の目安は4m以内です。
- 〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードのときは〈ϟ〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が投光されます。

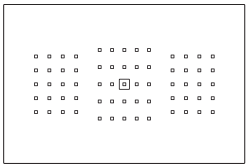
測距エリアとAFフレームを選択する 応用

このカメラは自動ピント合わせを行うためのAFフレーム（測距点）を65点備えています。撮影シーンや被写体に応じて、測距エリア選択モードとAFフレームを選ぶことができます。

使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターンが異なります。詳しくは、100ページ『使用レンズとAF測距について』を参照してください。

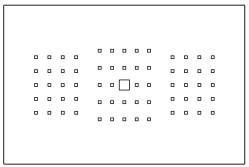
測距エリア選択モード

測距エリア選択モードを7種類の中から選ぶことができます。選択方法は、92ページを参照してください。



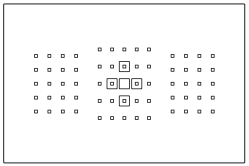
⊡ スポット1点AF（任意選択）

狭い部分にピントを合わせることができます。



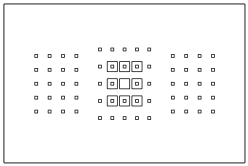
□ 1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。



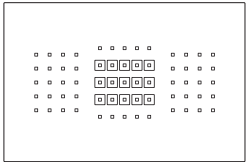
領域拡大AF（任意選択）

任意に選択した1点〈□〉と、隣接する上下左右のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。



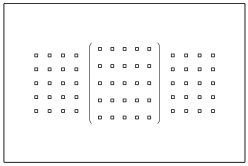
領域拡大AF（任意選択周囲）

任意に選択した1点〈□〉と、隣接する周囲のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。



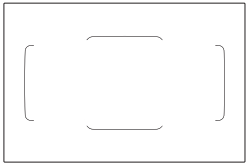
ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



〔 〕ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

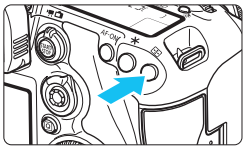
AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



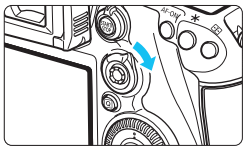
〔 〕65点自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。**〈A⁺〉モードのときはこのモードに自動設定されます。**

測距エリア選択モードを選ぶ

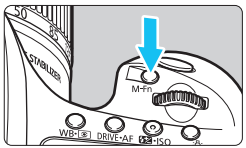


1 **〈⊡〉ボタンを押す**（⏱6）



2 **〈◌〉または〈M-Fn〉ボタンを操作する**

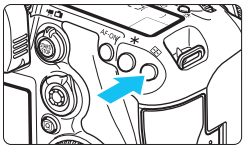
- ファインダーをのぞきながら、〈◌〉または〈M-Fn〉ボタンを操作します。
- 〈◌〉を右に倒すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。
- 〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。



- ［**AF4：測距エリア選択モードの限定**］で、使用する測距エリア選択モードだけに限定することができます（p.124）。
- ［**AF4：測距エリア選択モードの切換**］を［⊡ **→メイン電子ダイヤル**］に設定すると、〈⊡〉ボタンを押したあと〈☁〉で測距エリア選択モードを選ぶことができます（p.125）。

AFフレームを任意選択する

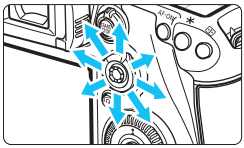
AFフレーム、またはゾーンを任意選択することができます。



1 〈⊡〉ボタンを押す

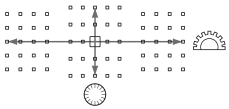
➡ ファインダー内に AF フレームが表示されます。

- 領域拡大AFのときは、隣接するAFフレームも表示されます。
- ゾーンAFのときは、選択されているゾーンが表示されます。



2 AFフレームを選択する

- 〈✥〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。〈✥〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレーム（または中央のゾーン）が選択されます。



- 〈⬭〉で横方向、〈◯〉で縦方向の AF フレームを選択することもできます。
- ゾーンAFのときは、〈⬭〉または〈◯〉を回すと、ゾーンが循環して切り換わります。

- ［**AF4**：〈◯〉**時のAIサーボAF開始測距点**］を［〈◯〉**時に選択した開始測距点**］に設定したときは（p.127）、この方法でAIサーボAFの開始位置を任意選択することができます。
- 〈⊡〉ボタンを押したときに、表示パネルに表示される内容は、次の通りです。
  ・65点自動選択AF、ゾーンAF、ラージゾーンAF：**[⋯] AF**
  ・スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF：**SEL [ ]**（中央）／**SEL AF**（中央以外）
- ［**AF5**：**AFフレーム任意選択時の循環**］で、［**しない（端で突き当たり）**］［**する**］を選ぶことができます（p.129）。

AFフレームの点灯／点滅について

〈⊡〉ボタンを押したときに、「点灯」しているAFフレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」しているAFフレームは、横線または縦線を検出できる測距点です。詳しくは99～103ページを参照してください。

AFフレームの登録について

使用頻度が高いAFフレームをカメラに登録することができます。

［⚙3：**操作ボタンカスタマイズ**］（p.445）の［**測光・AF開始**］［**登録AFフレームに移動**］［**選択⇄中央/登録AFフレーム切り換え**］［**AFフレームダイレクト選択**］［**撮影機能の登録と呼出**］の詳細設定画面で設定したボタンやレバーを操作すると、そのとき使用しているAFフレームから登録したAFフレームに瞬時に切り換えることができます。

なお、AFフレームの登録方法については450ページを参照してください。

測距エリア選択モードの内容 応用

⊡ スポット1点AF（任意選択）

1点AF（任意選択）よりも狭い範囲にピントを合わせることができます。ピント合わせに使うAFフレーム1点〈⊡〉を選択します。

ピンポイントでピントを合わせたいときや、おりの中の動物などを撮影するときなどに効果的です。

なお、スポット1点AF（任意選択）は測距範囲が狭いので、手持ち撮影のときや動きのある被写体に対しては、ピントが合いにくいことがあります。

□ 1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点〈□〉を選択します。

⁘ 領域拡大AF（任意選択⁘）

任意に選択したAFフレーム〈□〉と、隣接する上下左右のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

AIサーボAFのときは、初めに任意選択したAFフレーム〈□〉で被写体を捉える必要がありますが、ゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性をもっています。

ワンショットAFのときは、領域拡大したAFフレームでピントが合うと、任意選択したAFフレーム〈□〉に加えて、そのAFフレームも〈□〉で表示されます。

領域拡大AF（任意選択周囲）

任意に選択したAFフレーム〈□〉と、隣接する周囲のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。領域拡大AF（任意選択▫）より、さらに広い範囲でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

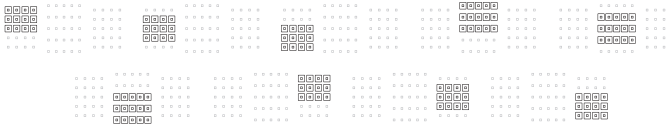
AIサーボAF、ワンショットAF時の動作は、領域拡大AF（任意選択▫）と同じです（p.95）。

ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりもピントが合いやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、1点AFや領域拡大AFよりも狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。



〔 〕ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。ゾーンAFよりも範囲が広いため、被写体を捉えやすくなります。自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりもピントが合いやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

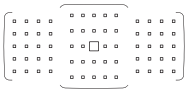
ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

〔◌〕65点自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。〈A+〉モードのときはこのモードに自動設定されます。

ワンショットAFのときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム〈□〉が表示されます。複数のAFフレームが表示されるときは、そのすべてにピントが合っています。基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。



AIサーボAFのときは、[〔◌〕**時のAIサーボAF開始測距点**]（p.127）で、AIサーボAFを開始する位置を設定することができます。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。

- 65点自動選択AF、またはラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）で、AIサーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム〈□〉が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては、追従しないことがあります。また、低温下では、追従応答性が遅くなることがあります。
- スポット1点AF（任意選択）設定時は、ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角レンズを使用しているときは、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央寄りのAFフレームを選択してください。
- AFフレーム照明時に、ファインダー内の一部または全体が赤く見えることがありますが、これはAFフレーム表示装置（液晶）の特性によるものです。
- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、AFフレームの表示が見えにくくなることがあります。

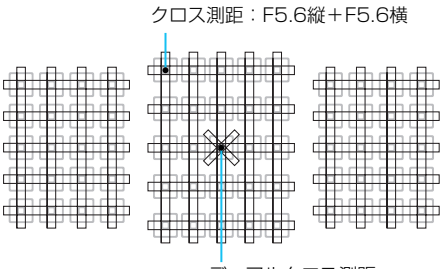
- ［**AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］で、測距エリア選択モード＋AFフレーム、またはAFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（p.125）。
- ［**AF4：任意選択可能なAFフレーム**］で、任意選択できるAFフレームの数を変更することができます（p.123）。

AFセンサーについて

このカメラのAFセンサーは、測距点を65点備えています。各測距点に対する測距センサーのパターンは、図に示す通りです。開放絞り数値がF2.8までの明るいレンズを使用すると、中央の測距点で高精度なAF測距を行うことができます。

なお、**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や測距パターンが異なります。詳しくは100～107ページを参照してください。**

概念図



※	開放絞り数値がF2.8までのレンズに対応した、高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。斜め配列でクロスしているため、ピントが合いにくい被写体が少なくなっています。中央測距点に配置されています。
	開放絞り数値がF5.6までのレンズに対応した測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。65点すべての測距点をカバーしています。なお、中央測距点、およびその上下の測距点は、開放絞り数値F8までのレンズに対応しています。
	開放絞り数値がF5.6までのレンズに対応した測距センサーです。縦配列になっているため、横線を検出することができます。65点すべての測距点をカバーしています。なお、中央測距点、およびその左右の測距点は、開放絞り数値F8までのレンズに対応しています。

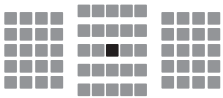
使用レンズとAF測距について

- このカメラは65点のAFフレーム（測距点）を備えていますが、**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や測距パターンが異なり、A～Gの7グループに分類されます。**
- **E～Gグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります。**
- **レンズのグループ属性を104～107ページに記載しています。使用するレンズのグループ属性を確認してください。**

- 〈⊡〉ボタンを押したときに、「□」で示した位置のAFフレームが点滅します（「■/■」は点灯）。AFフレームの点灯／点滅については、94ページを参照してください。
- EOS 7D Mark II（2014年下期）以降に発売された、新しいレンズのグループ属性について は、キヤノンのホームページなどで確認してください。
- 国や地域によって販売されているレンズは異なります。

Aグループ

65点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

Bグループ

65点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

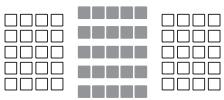
Cグループ

65点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

Dグループ

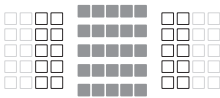
65点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

Eグループ

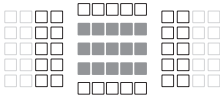
45点でAF測距を行うことができます（65点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、65点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

Fグループ

45点でAF測距を行うことができます（65点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、65点自動選択AF時と異なります。

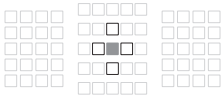


■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：縦線（上/下の横方向の測距点）、または横線（左/右の縦方向の測距点）を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

Gグループ

中央測距点、およびその上下左右の測距点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、1点AF（任意選択）、スポット1点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択[:]）のみ選ぶことができます。

なお、レンズにエクステンダーを装着したときに、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：縦線（中央の上下測距点）、または横線（中央の左右測距点）を検出できる測距点です。
任意選択はできません。領域拡大AF（任意選択[:]）選択時のみ機能します。

□：使用できません（非表示）。

- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- EF180mm F3.5L Macro USMにExtender EF2xを装着したときは、AFを行うことはできません。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

レンズのグループ属性

EF-S24mm F2.8 STM	A
EF-S60mm F2.8 Macro USM	B
EF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STM	E
EF-S10-22mm F3.5-4.5 USM	C
EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM	B
EF-S17-55mm F2.8 IS USM	A
EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM	B
EF-S18-55mm F3.5-5.6	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 USM	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 II	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USM	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 III	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM	C
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS	B
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM	B
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM	B
EF-S18-200mm F3.5-5.6 IS	B
EF-S55-250mm F4-5.6 IS	B
EF-S55-250mm F4-5.6 IS II	B
EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM	B
EF14mm F2.8L USM	A
EF14mm F2.8L II USM	A
EF15mm F2.8 Fisheye	A
EF20mm F2.8 USM	A
EF24mm F1.4L USM	A
EF24mm F1.4L II USM	A
EF24mm F2.8	A
EF24mm F2.8 IS USM	A
EF28mm F1.8 USM	A
EF28mm F2.8	A
EF28mm F2.8 IS USM	A
EF35mm F1.4L USM	A
EF35mm F1.4L II USM	A
EF35mm F2	A
EF35mm F2 IS USM	A
EF40mm F2.8 STM	A
EF50mm F1.0L USM	A
EF50mm F1.2L USM	A
EF50mm F1.4 USM	A
EF50mm F1.8	A
EF50mm F1.8 II	A
EF35mm F1.8 STM	A
EF50mm F2.5 Compact Macro	B

EF50mm F2.5 Compact Macro + LIFE SIZE Converter	B
EF85mm F1.2L USM	A
EF85mm F1.2L II USM	A
EF85mm F1.8 USM	A
EF100mm F2 USM	A
EF100mm F2.8 Macro	B
EF100mm F2.8 Macro USM	E
EF100mm F2.8L Macro IS USM	B
EF135mm F2L USM	A
EF135mm F2L USM + Extender EF1.4x	A
EF135mm F2L USM + Extender EF2x	B
EF135mm F2.8 (Softfocus)	A
EF180mm F3.5L Macro USM	B
EF180mm F3.5L Macro USM + Extender EF1.4x	F
EF200mm F1.8L USM	A
EF200mm F1.8L USM + Extender EF1.4x	A※
EF200mm F1.8L USM + Extender EF2x	B※
EF200mm F2L IS USM	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF1.4x	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF2x	B
EF200mm F2.8L USM	A
EF200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x	B
EF200mm F2.8L USM + Extender EF2x	B
EF200mm F2.8L II USM	A
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x	B
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF2x	B
EF300mm F2.8L USM	A
EF300mm F2.8L USM + Extender EF1.4x	B※
EF300mm F2.8L USM + Extender EF2x	B※
EF300mm F2.8L IS USM	A
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x	B

EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF2x	B
EF300mm F2.8L IS II USM	A
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x	B
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x	B
EF300mm F4L USM	B
EF300mm F4L USM + Extender EF1.4x	B
EF300mm F4L USM + Extender EF2x	G (F8)
EF300mm F4L IS USM	B
EF300mm F4L IS USM + Extender EF1.4x	B
EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x	G (F8)
EF400mm F2.8L USM	A
EF400mm F2.8L USM + Extender EF1.4x	B※
EF400mm F2.8L USM + Extender EF2x	B※
EF400mm F2.8L II USM	A
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x	B※
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF2x	B※
EF400mm F2.8L IS USM	A
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x	B
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF2x	B
EF400mm F2.8L IS II USM	A
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x	B
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x	B
EF400mm F4 DO IS USM	B
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF1.4x	B
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x	G (F8)
EF400mm F4 DO IS II USM	B
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF1.4x	B
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x	G (F8)

EF400mm F5.6L USM	B
EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x	G (F8)
EF500mm F4L IS USM	B
EF500mm F4L IS USM + Extender EF1.4x	B
EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x	G (F8)
EF500mm F4L IS II USM	B
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x	B
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x	G (F8)
EF500mm F4.5L USM	B
EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x	G (F8) ※
EF600mm F4L USM	B
EF600mm F4L USM + Extender EF1.4x	B※
EF600mm F4L USM + Extender EF2x	G (F8) ※
EF600mm F4L IS USM	B
EF600mm F4L IS USM + Extender EF1.4x	B
EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x	G (F8)
EF600mm F4L IS II USM	B
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x	B
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x	G (F8)
EF800mm F5.6L IS USM	E
EF800mm F5.6L IS USM + Extender EF1.4x	G (F8)
EF1200mm F5.6L USM	E
EF1200mm F5.6L USM + Extender EF1.4x	G (F8) ※
EF8-15mm F4L Fisheye USM	B
EF11-24mm F4L USM	C
EF16-35mm F2.8L USM	A
EF16-35mm F2.8L II USM	A
EF16-35mm F4L IS USM	B
EF17-35mm F2.8L USM	A
EF17-40mm F4L USM	B
EF20-35mm F2.8L	A
EF20-35mm F3.5-4.5 USM	C

EF22-55mm F4-5.6 USM	F
EF24-70mm F2.8L USM	A
EF24-70mm F2.8L II USM	A
EF24-70mm F4L IS USM	B
EF24-85mm F3.5-4.5 USM	D
EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM	B
EF24-105mm F4L IS USM	B
EF24-105mm F4L IS II USM	B
EF28-70mm F2.8L USM	A
EF28-70mm F3.5-4.5	E
EF28-70mm F3.5-4.5 II	E
EF28-80mm F2.8-4L USM	B
EF28-80mm F3.5-5.6	E
EF28-80mm F3.5-5.6 USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 II	E
EF28-80mm F3.5-5.6 II USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 III USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 V USM	E
EF28-90mm F4-5.6	B
EF28-90mm F4-5.6 USM	B
EF28-90mm F4-5.6 II	B
EF28-90mm F4-5.6 II USM	B
EF28-90mm F4-5.6 III	B
EF28-105mm F3.5-4.5 USM	B
EF28-105mm F3.5-4.5 II USM	B
EF28-105mm F4-5.6	F
EF28-105mm F4-5.6 USM	F
EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM	B
EF28-200mm F3.5-5.6	B
EF28-200mm F3.5-5.6 USM	B
EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM	B
EF35-70mm F3.5-4.5	E
EF35-70mm F3.5-4.5A	E
EF35-80mm F4-5.6	F
EF35-80mm F4-5.6 PZ	E
EF35-80mm F4-5.6 USM	F
EF35-80mm F4-5.6 II	E
EF35-80mm F4-5.6 III	F
EF35-105mm F3.5-4.5	B
EF35-105mm F4.5-5.6	G
EF35-105mm F4.5-5.6 USM	G
EF35-135mm F3.5-4.5	B
EF35-135mm F4-5.6 USM	C
EF35-350mm F3.5-5.6L USM	D
EF38-76mm F4.5-5.6	E

EF50-200mm F3.5-4.5	B
EF50-200mm F3.5-4.5L	B
EF55-200mm F4.5-5.6 USM	D
EF55-200mm F4.5-5.6 II USM	D
EF70-200mm F2.8L USM	A
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x	B※
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF2x	B※
EF70-200mm F2.8L IS USM	A
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x	B
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF2x	B
EF70-200mm F2.8L IS II USM	A
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x	B
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x	B
EF70-200mm F4L USM	B
EF70-200mm F4L USM + Extender EF1.4x	B
EF70-200mm F4L USM + Extender EF2x	G (F8)
EF70-200mm F4L IS USM	B
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF1.4x	B
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x	G (F8)
EF70-210mm F3.5-4.5 USM	B
EF70-210mm F4	B
EF70-300mm F4-5.6 IS USM	B
EF70-300mm F4-5.6L IS USM	B
EF70-300mm F4.5-5.6 DO IS USM	B
EF75-300mm F4-5.6	B
EF75-300mm F4-5.6 USM	C
EF75-300mm F4-5.6 II	B
EF75-300mm F4-5.6 II USM	B
EF75-300mm F4-5.6 III	B
EF75-300mm F4-5.6 III USM	B
EF75-300mm F4-5.6 IS USM	B
EF80-200mm F2.8L	A
EF80-200mm F4.5-5.6	D
EF80-200mm F4.5-5.6 USM	E
EF80-200mm F4.5-5.6 II	E
EF90-300mm F4.5-5.6	D

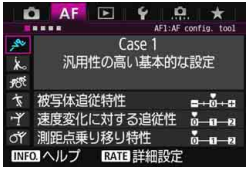
EF90-300mm F4.5-5.6 USM	D
EF100-200mm F4.5A	B
EF100-300mm F4.5-5.6 USM	C
EF100-300mm F5.6	B
EF100-300mm F5.6L	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x	G (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x	G (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x	B
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用	B
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF1.4x	B
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用 + Extender EF1.4x	G (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x	G (F8)
TS-E17mm F4L	B
TS-E24mm F3.5L	B
TS-E24mm F3.5L II	B
TS-E45mm F2.8	A
TS-E90mm F2.8	A

表内に「※」が付いたレンズやエクステンダーとの組み合わせのときは、AFでピントが正確に合わないことがあります。使用するレンズやエクステンダーの使用説明書を参照してください。

- 「Extender EF1.4x」「Extender EF2x」は（グループ分類上）I/II/III型共通です。
- TS-Eレンズ使用時は手動ピント合わせになります。グループ分類はティルト/シフトなしの条件です。

MENU AIサーボAF特性を選ぶ 応用

撮影する被写体や撮影シーンにあわせて「Case1」～「Case6」を選ぶだけで、被写体やシーンに適したAIサーボAF撮影を簡単に行うことができます。この機能を「AFカスタム設定ガイド機能」といいます。



1 **［AF1］タブを選ぶ**

2 **ケースを選ぶ**

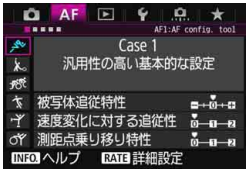
- 〈◎〉を回してケース（マーク）を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 選択したケースに設定されます。選択したケースは青色で表示されます。

各ケースの内容について

「Case1」～「Case6」は、113～115ページで説明する「被写体追従特性」「速度変化に対する追従性」「測距点乗り移り特性」の組み合わせを6種類用意したものです。表の内容から、被写体やシーンに適したケースを選びます。

ケース	マーク	内容	撮影シーン例	ページ
Case1		汎用性の高い基本的な設定	動きのある被写体全般	109
Case2		障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき	テニス、水泳のバタフライ、フリースタイルスキーなど	109
Case3		急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき	自転車ロードレースのスタート、アルペン滑降スキーなど	110
Case4		被写体が急加速/急減速するとき	サッカー、モータースポーツ、バスケットボールなど	110
Case5		被写体の上下左右の動きが大きいとき	フィギュアスケートなど	111
Case6		被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき	新体操など	112

Case1：汎用性の高い基本的な設定



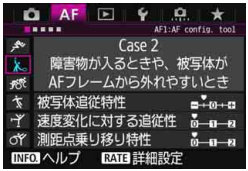
初期設定

- 被写体追従特性：0
- 速度変化に対する追従性：0
- 測距点乗り移り特性：0

動きのある被写体全般に適応する、標準的な設定です。多くの被写体、撮影シーンに対応しています。

障害物がAFフレームを横切るときやAFフレームが被写体から外れやすいとき、急に現れた被写体にピントを合わせたいとき、被写体の速度が急激に変わるとき、被写体が上下左右に大きく移動するときは、［Case2］～［Case6］を選んでください。

Case2：障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき



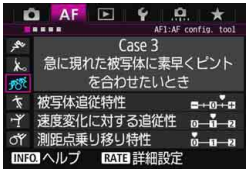
初期設定

- 被写体追従特性：粘る：－1
- 速度変化に対する追従性：0
- 測距点乗り移り特性：0

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとする設定です。障害物や（ピント抜けで）背景にピントを合わせたくないときに有効です。

障害物がAFフレームに入り込んでいる時間、またはAFフレームが被写体から外れている時間が長く、初期設定では狙った被写体からピントが外れてしまうときは、［**被写体追従特性**］を［**−2**］に設定すると、改善することがあります（p.113）。

Case3：急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき



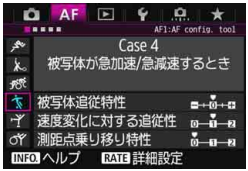
AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができる設定です。狙っていた被写体の手前に、新たな被写体が入り込んだときは、新たな被写体にピントを合わせます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。

初期設定

- 被写体追従特性：俊敏：+1
- 速度変化に対する追従性：+1
- 測距点乗り移り特性：0

急に現れた被写体により素早くピントを合わせたいときは、［**被写体追従特性**］を［+2］に設定すると、改善することがあります（p.113）。

Case4：被写体が急加速/急減速するとき



被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。

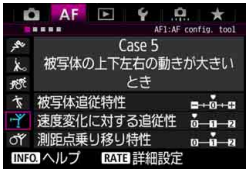
急な動き出しや、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。

初期設定

- 被写体追従特性：0
- 速度変化に対する追従性：+1
- 測距点乗り移り特性：0

瞬時に速さが大きく変化するときは、［**速度変化に対する追従性**］を［+2］に設定すると、改善することがあります（p.114）。

Case5：被写体の上下左右の動きが大きいとき



初期設定

- 被写体追従特性：0
- 速度変化に対する追従性：0
- 測距点乗り移り特性：+1

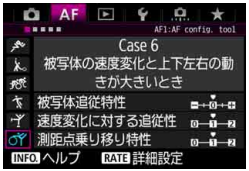
狙っている被写体の上下左右の動きが大きくても、被写体の移動に合わせて、AFフレームを自動的に切り換えて、ピントを追従させる設定です。上下左右の動きが大きい被写体を撮影するときに有効です。

この設定は、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、65点自動選択AFで使用することをおすすめします。

スポット1点AF（任意選択）、1点AF（任意選択）時は、Case1 と同じ動作になります。

被写体の上下左右の動きが激しいときは、［**測距点乗り移り特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.115）。

Case6：被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき



初期設定

- 被写体追従特性：0
- 速度変化に対する追従性：+1
- 測距点乗り移り特性：+1

被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。また、狙っている被写体の上下左右の動きが大きく、ピントが合わせにくいときは、被写体の移動に合わせて、AFフレームを自動的に切り換えながら、ピントを合わせ続けます。

この設定は、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、65点自動選択AFで使用することをおすすめします。

スポット1点AF（任意選択）、1点AF（任意選択）時は、Case4と同じ動作になります。

- 瞬時に速さが大きく変化するときは、［**速度変化に対する追従性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.114）。
- 被写体の上下左右の動きが激しいときは、［**測距点乗り移り特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.115）。

各特性について

● 被写体追従特性

AIサーボAF時の測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

0

標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

粘る：−2／粘る：−1

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。−1よりも−2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。

その反面、意図しない被写体にピントが合ってしまったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

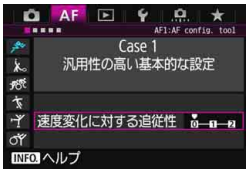
俊敏：+2／俊敏：+1

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。

その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

［**被写体追従特性**］は、EOS-1D Mark III/IV、EOS-1Ds Mark III、EOS 7Dの［**AIサーボ時の被写体追従敏感度**］と同じ機能です。

● 速度変化に対する追従性



被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

0

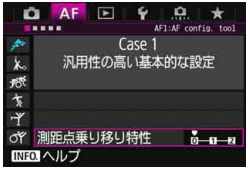
移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。

+2／+1

急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。

その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

● 測距点乗り移り特性



被写体が上下左右に大きく移動したときの、被写体に対する測距点（AFフレーム）の乗り移り（切り換わり）による、追従性の設定です。

測距エリア選択モードが、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、65点自動選択AFのときに機能します。

0

測距点の乗り移りが緩やかな、標準的な設定です。

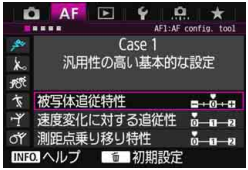
+2／+1

狙っている被写体が上下左右に大きく移動して、被写体が測距点から外れても、周囲の測距点に乗り移って、被写体にピントを合わせ続けます。被写体移動の連続性と、コントラストなどを判断し、信頼性の高い測距点を選んで乗り移りが行われます。+1よりも+2のほうが、測距点が乗り移りやすくなります。

その反面、広角レンズなど被写界深度の深いレンズを使用したときや、遠くにある小さい被写体を撮影すると、意図しない測距点でピント合わせが行われることがあります。

各ケースの設定内容を変更する

「Case1」～「Case6」に設定されている、「①被写体追従特性」、「②速度変化に対する追従性」、「③測距点乗り移り特性」を、任意に調整することができます。

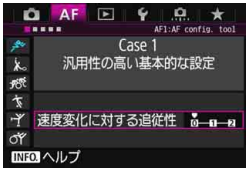


1 ケースを選ぶ

- 〈◯〉を回して調整したいケース（マーク）を選びます。

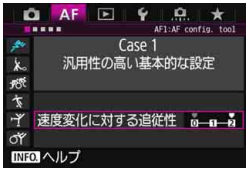
2 〈RATE〉ボタンを押す

- 項目に紫色の枠が付きます。



3 項目を選ぶ

- 調整したい項目を選び〈SET〉を押します。
- 被写体追従特性を選んだときは、設定画面が表示されます。



4 調整する

- 内容を設定し〈SET〉を押します。
- ➡ 調整した内容が保存されます。
- 初期設定は、［■］の薄い灰色で表示されます。
- 〈**RATE**〉ボタンを押すと、手順1の状態に戻ります。

- 手順2で〈**RATE**〉ボタンを押したあと、〈🗑〉ボタンを押すと、ケースごとに①②③の設定を初期状態に戻すことができます。
- マイメニューに①②③を登録することもできます（p.459）。そのときは、選択しているケースの設定変更になります。
- 調整したケースで撮影するときは、調整したケースを選択してから撮影します。

MENU AF機能のカスタマイズ 応用

撮影スタイルや被写体に応じて、［**AF2**］～［**AF5**］タブで、AFに関連する機能を細かく設定することができます。

AF2：AI Servo

AIサーボAF1コマ目レリーズ

AIサーボAFで1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

□/◉：バランス重視

ピントとレリーズタイミングのバランスをとった設定です。

□：レリーズ優先

シャッターボタンを押すと、ピントが合っていなくてもすぐに撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

◉：ピント優先

シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

サーボAF連続撮影中のレリーズ

AIサーボAF＋連続撮影で1コマ目を撮影したあと、連続撮影を続けているときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

: バランス重視

ピントと連続撮影速度のバランスをとった設定です。暗いときやコントラストが低いときは、連続撮影速度が遅くなることがあります。

: 撮影速度優先

ピントよりも連続撮影速度を優先します。

: ピント優先

連続撮影速度よりもピントを優先します。ピントが合うまで撮影されません。

[撮影速度優先] に設定しても、フリッカー低減が行われる撮影条件のときは (p.185)、連続撮影速度がやや遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。

AF3：One Shot

レンズの電子式手動フォーカス

電子式のフォーカスリングを備えた以下のUSMレンズ、STMレンズを使用したときに、電子式手動フォーカスを行うかどうかを設定することができます。

EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM	EF200mm F1.8L USM	EF500mm F4.5L USM
EF50mm F1.0 L USM	EF300mm F2.8L USM	EF600mm F4L USM
EF85mm F1.2L USM	EF400mm F2.8L USM	EF1200mm F5.6L USM
EF85mm F1.2L II USM	EF400mm F2.8L II USM	EF28-80mm F2.8-4L USM

EF-S24mm F2.8 STM	EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM	EF50mm F1.8 STM
EF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM	EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM	EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM	EF40mm F2.8 STM	

ON：ワンショットAF作動後・可能

AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

OFF：ワンショットAF作動後・不可

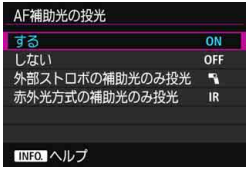
AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。

OFF：AF時すべて不可

レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、手動ピント合わせを禁止します。

AF補助光の投光

内蔵ストロボ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。



ON：する

必要に応じてAF補助光が投光されます。

OFF：しない

AF補助光は投光されません。「AF補助光が他の人の迷惑になるとき」などに設定します。

：外部ストロボの補助光のみ投光

外部ストロボ使用時のみ、必要に応じてAF補助光が投光されます。内蔵ストロボからAF補助光は投光されません。

IR：赤外光方式の補助光のみ投光

外部ストロボのAF補助光の中で、「赤外光方式」のAF補助光だけを投光します。「ストロボ間欠発光方式のAF補助光は投光したくない」というときに設定します。

なお、LEDライト付きEXスピードライト使用時も、AF補助光としてのライトは自動点灯しません。

外部ストロボのカスタム機能の［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、この設定内容に関わらず、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

ワンショットAF時のレリーズ

ワンショットAFで撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

：ピント優先

ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

：レリーズ優先

ピントよりも撮影タイミングを優先します。一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

ピントが合っていなくても撮影されますので、注意してください。

AF4

AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられなかったときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

ON：サーチ駆動する

AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。

OFF：サーチ駆動しない

AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を停止します。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、［**サーチ駆動しない**］に設定することをおすすめします。

任意選択可能なAFフレーム

任意選択できるAFフレームの数を変更することができます。なお、65点自動選択AF設定時は、設定に関わらずエリアAFフレーム（AF領域全体）でAFが行われます。

：65点

すべてのAFフレームが任意選択できます。

：21点

主要な21点の任意選択ができます。

：9点

主要な9点の任意選択ができます。

使用レンズがE～Gグループのときは（p.102～103）、任意選択できるAFフレームの数が少なくなります。

- ［65点］以外に設定しても、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）を行うことができます。
- 〈⊡〉ボタンを押したときに、任意選択できないAFフレームはファインダー内に表示されません。

測距エリア選択モードの限定

測距エリア選択モードを、使用するモードだけに限定することができます。項目を選び〈SET〉を押して[✓]を付けます。[OK]を選ぶと設定されます。

：スポット1点AF（任意選択）

1点AF（任意選択）より狭い部分にピントを合わせることができます。

：1点AF（任意選択）

［**任意選択可能なAFフレーム**］で設定したAFフレームが1点選択できます。

：領域拡大AF（任意選択）

任意選択したAFフレームと、隣接する上下左右のAFフレームでピントを合わせます。

：領域拡大AF（任意選択周囲）

任意選択したAFフレームと、隣接する周囲のAFフレームでピントを合わせます。

：ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピントを合わせます。

：ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を3つの測距ゾーンに分けてピントを合わせます。

：65点自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピントを合わせます。

- ［**1点AF（任意選択）**］の［✓］を外すことはできません。
- 使用レンズがGグループのときは（p.103）、［**スポット1点AF（任意選択）**］［**1点AF（任意選択）**］［**領域拡大AF（任意選択）**］以外は選択できません。

測距エリア選択モードの切換

測距エリア選択モードの切り換え方法を設定することができます。

/ M-Fn : → M-Fnボタン

〈〉ボタンを押したあと、〈〉または〈M-Fn〉ボタンを操作すると、測距エリア選択モードが切り換わります。

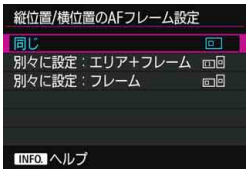
/ : → メイン電子ダイヤル

〈〉ボタンを押したあと、〈〉または〈〉を操作すると、測距エリア選択モードが切り換わります。

［**→メイン電子ダイヤル**］設定時に、AFフレームを横方向へ移動するときは、〈〉を操作してください。

縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、測距エリア選択モード＋AFフレーム、またはAFフレームを別々に設定することができます。



：同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ測距エリア選択モードと任意選択AFフレーム（またはゾーン）になります。

: 別々に設定：エリア+フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を設定することができます。

①②③のそれぞれの姿勢で、測距エリア選択モードとAF フレーム（またはゾーン）を任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、設定した測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（またはゾーン）に切り換わります。

: 別々に設定：フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームを設定することができます。同じ測距エリア選択モードで、姿勢に応じて自動的にAF フレームを切り換えたいときに有効です。

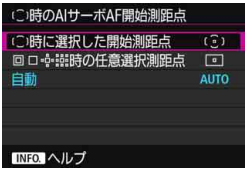
①②③のそれぞれの姿勢で、AFフレームを任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、任意選択したAFフレームに切り換わります。測距エリア選択モードをスポット1点AF（任意選択）、1点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）のいずれかに変更したときは、各姿勢で設定したAFフレームは保持されます。

測距エリア選択モードをゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）に変更したときは、各姿勢で任意選択していたゾーンに切り換わります。

- カメラ設定初期化を行うと（p.70）、設定が［**同じ**］になります。また、①②③の姿勢で設定した内容が解除され、1点AF（任意選択）で中央のAFフレームが選択された状態になります。
- 設定後に異なるAFグループ（p.100～103／特にGグループ）のレンズを装着したときは、設定した内容が解除されることがあります。

〔 〕時のAIサーボAF開始測距点

測距エリア選択モードを65点自動選択AFに設定したときに、AIサーボAFをどのAFフレーム（測距点）から開始するかを設定することができます。



〔 〕：〔 〕時に選択した開始測距点

AF動作がAIサーボAF、測距エリア選択モードが65点自動選択AFに設定されているときに、任意選択したAFフレームからAIサーボAFが始まります。

：時の任意選択測距点

スポット1点AF（任意選択）、1点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）から、65点自動選択AFに切り換えたときに、それまで任意選択していたAFフレームからAIサーボAFが始まります。65点自動選択AFに切り換える前に選択していたAFフレームからAIサーボAFを開始したいときに有効です。

なお、［3：**操作ボタンカスタマイズ**］の［**測光・AF開始**］（p.450）、［**登録AF機能に切り換え**］（p.452）、［**撮影機能の登録と呼出**］（p.457）で、測距エリア選択モードを65点自動選択AFに設定したあと、スポット1点AF（任意選択）、1点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）で撮影しているときに、機能を割り当てたボタンを押すと、直前に使用していたAFフレームから65点自動選択AFによるAIサーボAF撮影を行うことができます。

AUTO：自動

撮影状況に応じてAIサーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。

［**時の任意選択測距点**］設定時に、測距エリア選択モードをゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）に切り換えたときも、それまで任意選択していたAFフレームに対応するゾーンからAIサーボAFが始まります。

自動選択：EOS iTR AF

EOS iTR* AFは、人の顔や被写体の色を認識してAFを行う機能です。測距エリア選択モードが、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、65点自動選択AFのときに機能します。

* intelligent Tracking and Recognition：測光センサーで被写体を認識して測距点を追従させる機能

ON：する

AF情報だけでなく、人の顔などの情報を加味して、測距点の自動選択が行われます。

AIサーボAF時は、初めにピントを合わせた位置の色を記憶し、被写体の移動に合わせてその色にピントを合わせ続けます。

そのため、AF情報だけのときよりも被写体を捉え続けやすくなります。

ワンショットAF時は、人にピントが合いやすくなるため、構図を優先した撮影を行うことができます。

OFF：しない

AF情報だけで測距点の自動選択が行われます（人の顔や被写体の色の情報などを活用したAFは行われません）。

- ［**する**］に設定したときは、［**しない**］に設定したときよりも、ピント合わせにやや時間がかかります。
- EOS iTR AF動作時は、〈□H〉設定時の連続撮影速度が最高約9.5コマ/秒になります。また、暗い場所で撮影を行うと、連続撮影速度が低下することがあります。
- ［**する**］に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。
- ストロボからAF補助光が自動的に投光されるような暗い場所では、AF情報だけで測距点の自動選択が行われます。
- 人の顔が小さいときや暗い場所では、顔を検知できないことがあります。

AF5

AFフレーム任意選択時の循環

AFフレーム任意選択時に、一番端のAFフレームで選択を止めるか、循環して反対側のAFフレームが選択できるようにするかを設定することができます。ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、65点自動選択AF（AIサーボAF時は有効）以外の測距エリア選択モードで機能します。

：しない（端で突き当たり）

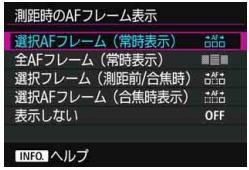
一番端のAFフレームを頻繁に使用するときに有効です。

：する

一番端のAFフレームで止まらずに反対側のAFフレームが選択できます。

測距時のAFフレーム表示

①AFフレーム選択時、②撮影準備状態（AF測距前）、③AF測距中、④合焦時にAFフレームを表示するかどうかを設定することができます。



：選択AFフレーム（常時表示）

選択したAFフレームが、常時表示されます。

：全AFフレーム（常時表示）

すべてのAFフレームが、常時表示されます。

：選択フレーム（測距前/合焦時）

選択したAFフレームが、①②④のときに表示されます。

：選択AFフレーム（合焦時表示）

選択したAFフレームが、①④のとき、およびAF測距開始時に表示されます。

OFF：表示しない

②③④のときは、選択したAFフレームは表示されません。

ファインダー情報の照明

ピントが合ったときに、ファインダー内に表示されるAFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます。

AUTO：自動

暗い場所では自動的に赤く照明されます。

ON：する

周囲の明るさに関わらず、赤く照明されます。

OFF：しない

赤い照明は行われません。

［**自動**］［**する**］設定時に〈Q〉ボタンを押すと、AIサーボAF時にAFフレームを赤く照明（点滅表示）するかどうかを設定することができます。

OFF：しない

AIサーボAF時に赤い照明は行われません。

ON：する

AIサーボAF時にピントを合わせているAFフレームが赤く照明されます。連続撮影中も照明が行われます。

なお、［**ファインダー情報の照明**］を［**しない**］に設定したときは機能しません。

- 〈⊞〉ボタンを押したときは、この設定に関わらず赤く照明されます。
- ファインダー内に表示される水準器やグリッド、［**ファインダー内表示設定**］（p.77）で設定した情報なども赤く照明されます。

ファインダー内のAF作動表示

AFが作動していることを表すマーク（AF作動表示）を、ファインダーの視野内に表示するか、視野外に表示するかを選ぶことができます。

：視野内に表示

ファインダー視野内の右下に〈AF〉が表示されます。

：視野外に表示

ファインダー視野外の合焦マーク〈●〉の下に〈◣◢〉が表示されます。

AF作動表示は、合焦後にシャッターボタンの半押しを続けている間や、〈AF-ON〉ボタンを押し続けている間も表示されます。

AFマイクロアジャストメント

AFでピントが合う位置を微調整することができます。詳しくは、次ページの『AFによる合焦位置を微調整する』を参照してください。

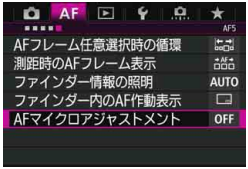
MENU AFによる合焦位置を微調整する 応用

ファインダー撮影でAFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。この機能を「AFマイクロアジャストメント」といいます。調整を行う前に、138ページの『AFマイクロアジャストメント共通注意事項』をあわせてお読みください。

通常はこの機能でピント合焦位置を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

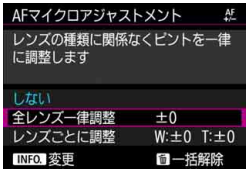
全レンズ一律調整

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。AF撮影のときは、使用するレンズに関わらず、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。



1 [AFマイクロアジャストメント] を選ぶ

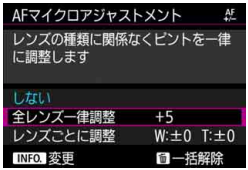
- [**AF5**] タブの [**AFマイクロアジャストメント**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [全レンズ一律調整] を選ぶ

3 〈INFO.〉ボタンを押す

➡ [**全レンズ一律調整**] 画面が表示されます。



4 調整する

- 調整値を設定します。調整範囲は± 20 ステップです。
- 「－：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- 調整が終わったら〈SET〉を押します。
- ［**全レンズ一律調整**］を選び〈SET〉を押します。

5 調整結果を確認する

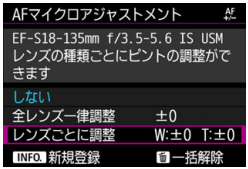
- 撮影を行い、画像を再生して（p.354）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：」側、奥側にピントが合っているときは「－：」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

［**全レンズ一律調整**］のときは、ズームレンズの広角側と望遠側で、別々にAF調整を行うことはできません。

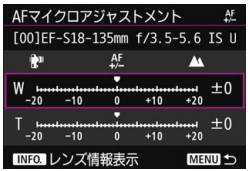
レンズごとに調整

レンズごとに調整を行い、調整結果をカメラに登録することができます。登録できるレンズ本数は最大40本です。登録したレンズを使用してAF撮影を行うと、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。使用レンズがズームレンズのときは、広角側（W）、望遠側（T）の調整値を設定します。

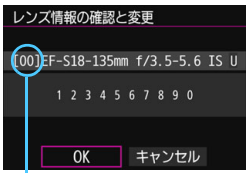


1 ［レンズごとに調整］を選ぶ



2 〈INFO.〉ボタンを押す

➡ ［レンズごとに調整］画面が表示されます。



3 レンズ情報を確認／変更する

レンズ情報の確認

- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 画面にレンズ名と10桁のシリアル番号が表示されます。シリアル番号が表示されているときは、［OK］を選び手順4に進みます。
- レンズのシリアル番号が認識できないときは、「0000000000」と表示されますので、次ページの操作で番号を入力します。
- 番号の先頭に表示される「*」については次ページを参照してください。

シリアル番号の入力

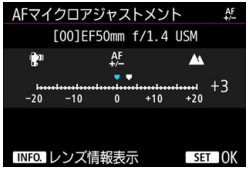
- 入力する桁を選び〈SET〉を押して〈⇕〉の状態にします。
- 数値を入力し〈SET〉を押します。
- すべての桁の入力が終わったら［**OK**］を選びます。

レンズのシリアル番号について

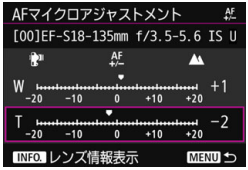
- **手順3で10桁の番号の先頭に「*」が表示されたレンズは、同じ種類のレンズを複数登録することはできません。なお、番号を入力しても「*」の表示は消えません。**
- **レンズに記載されているシリアル番号と、手順3で表示されるシリアル番号が異なることがありますが、故障ではありません。**
- レンズのシリアル番号にアルファベットが含まれているときは、アルファベットを除く数字を入力してください。
- レンズのシリアル番号が11桁以上のときは、「下10桁」の番号を入力してください。
- シリアル番号が記載されている位置は、レンズによって異なります。
- レンズによっては、シリアル番号がレンズに記載されていないことがあります。番号の記載がないレンズを登録するときは、任意の番号を入力してください。

- ［**レンズごとに調整**］を選んだときに、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ＋エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- すでに40本登録されているときは、メッセージが表示されます。上書き消去するレンズを選ぶと、登録することができます。

単焦点レンズ



ズームレンズ



4 調整する

- ズームレンズのときは、広角側（W）または望遠側（T）を選びます。〈SET〉を押すと紫色の枠が消え、調整ができるようになります。
- 調整値を設定し〈SET〉を押します。調整範囲は±20ステップです。
- 「－：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- ズームレンズのときは、この手順を繰り返して、広角側（W）、望遠側（T）の調整値をそれぞれ設定します。
- 調整が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して手順1の画面に戻ります。
- [**レンズごとに調整**]を選び〈SET〉を押します。

5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.354）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：」側、奥側にピントが合っているときは「－：」側に調整します。
- 必要に応じて、調整を繰り返します。

ズームの中間（焦点距離）位置で撮影を行ったときは、広角側と望遠側の調整結果に基づいて自動的に補正されます。なお、片側だけ調整を行ったときも、中間位置に対して自動補正されます。

AFマイクロアジャストメントの一括解除

画面の下に［一括解除］が表示されているときに、〈🗑〉ボタンを押すと、［**全レンズ一律調整**］［**レンズごとに調整**］で調整した内容をすべて解除することができます。

AFマイクロアジャストメント共通注意事項

- AFによる合焦位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件により、わずかに変動します。そのため、この機能で調整を行っても、適切な位置でピントが合わないことがあります。
- 1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放絞り数値によって異なります。「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。
- 調整した内容は、ライブビュー撮影時、動画撮影時のAFには反映されません。
- カメラ設定初期化を行っても（p.70）、調整した内容は保持されますが、設定は［**しない**］になります。

AFマイクロアジャストメント共通事項

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 調整を行うときは、三脚の使用をおすすめします。
- 調整を行うときは、記録画質**L**で撮影することをおすすめします。

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディ）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームの近くにある場合
  （例：おりの中の動物）
- 点状の光源などが、AFフレームの近くにある場合
  （例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

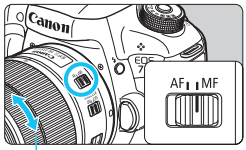
これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.83）。

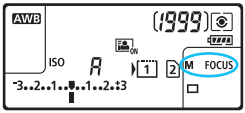
（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う（p.140）。

- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度AFを行うと、ピント合わせができることがあります。
- ライブビュー撮影時、動画撮影時に、AFでピントが合いにくい撮影条件については、306ページを参照してください。

MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）



フォーカスリング



1 **レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする**

➡ 表示パネルに〈**M FOCUS**〉が表示されます。

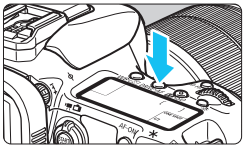
2 **ピントを合わせる**

● ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

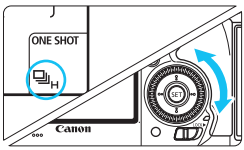
● シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。
● 65点自動選択AF時は、中央のAFフレームでピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。



1 **〈DRIVE•AF〉ボタンを押す**（⏱6）



2 **ドライブモードを選ぶ**

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◯〉を回します。

□ ：**1枚撮影**

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

□H：**高速連続撮影**

シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約10.0コマ／秒**で連続撮影します。

□L ：**低速連続撮影**

シャッターボタンを全押しすると、押している間、**約3.0コマ／秒**で連続撮影します。

□S：**静音1枚撮影**

ファインダー撮影時の作動音が〈□〉よりも静かな1枚撮影です。

□LS：**静音連続撮影**

ファインダー撮影時の作動音が〈□L〉よりも静かな連続撮影です。**約4.0コマ／秒**で連続撮影します。

ライブビュー撮影時、動画撮影時に〈□S〉〈□LS〉に設定しても、静音効果はありません。

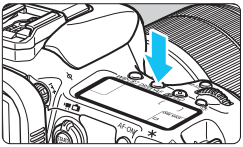
□ : セルフタイマー：10秒／リモコン撮影
□$_2$: セルフタイマー：2秒／リモコン撮影
セルフタイマー撮影については143ページ、リモコン撮影については248ページを参照してください。

- EOS iTR AF動作時は（p.128）、〈□H〉設定時の連続撮影速度が最高約9.5コマ/秒になります。また、暗い場所で撮影を行うと、連続撮影速度が低下することがあります。
- 〈□S/□S〉設定時は、シャッターボタンを全押ししてからシャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりもわずかに長くなります。
- 低温下で電池残量が少ない状態で高速連続撮影を行ったときは、連続撮影速度が遅くなります。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が低下することがあります。
- □H：最高約10.0コマ/秒は、シャッター速度：1/1000秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）、EOS iTR AF：動作しない、フリッカー低減処理：行わない 条件*で連続撮影したときの最高速度です。連続撮影速度は、シャッター速度や絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、温度、電池残量などにより低下することがあります。
  * EF300mm F4L IS USM、EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM、EF75-300mm F4-5.6 IS USM、EF100-400mm F4.5-5.6L IS USMは、ワンショットAF、手ブレ補正機能OFFで使用時
- [**1：記録機能とカード・フォルダ選択**]の[**記録機能**]を[**振り分け**]に設定し（p.146）、CFカード［1］とSDカード［2］の記録画質設定が異なるときは、連続撮影可能枚数（p.151）が少なくなります。連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため（p.153）、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

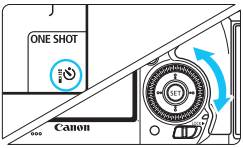
［**2：連続撮影速度**］（p.439）で連続撮影速度を任意に設定することができます。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。



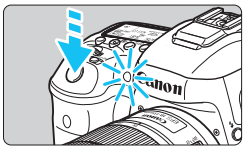
1 〈DRIVE•AF〉ボタンを押す（⏱6）



2 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◎〉を回します。

  ⏱ ：10秒後に撮影
  ⏱2：2秒後に撮影



3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.247）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

- 〈⏱2〉は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）に使用します。
- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し（p.354）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.83）。
- セルフタイマー撮影を開始してから途中で中止するときは、〈DRIVE•AF〉ボタンを押します。

MEMO

4

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、ノイズ低減機能、高輝度側・階調優先、レンズ光学補正、フリッカー低減撮影など、画像に関係する機能について説明しています。

- ページタイトル右の 応用 は、〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モード限定の機能であることを示しています。

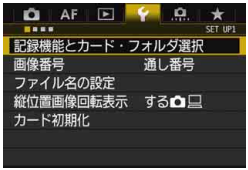
MENU 記録・再生するカードを選択する

カメラにCFカード、またはSDカードのどちらかが入っていれば、撮影した画像を記録することができます。カードを1枚だけ入れたときは、146～148ページの操作を行う必要はありません。

CFカードとSDカードを入れたときは、次の手順で記録方法、記録・再生を行うカードを選択します。

なお、［1］はCFカード、［2］はSDカードを表しています。

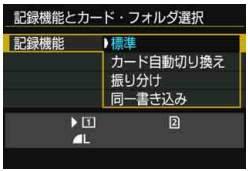
カードを2枚入れたときの記録方法の設定



1 **［記録機能とカード・フォルダ選択］を選ぶ**

● ［1］タブの［**記録機能とカード・フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

2 **［記録機能］を選ぶ**



3 **記録方法を選ぶ**

● 記録方法を選び〈SET〉を押します。

● **標準**

［**記録・再生**］で選択したカードに画像が記録されます。

● **カード自動切り換え**

［**標準**］と同じですが、記録先のカードの空き容量がなくなると、記録先が自動的にもう一方のカードに切り換わります。なお、自動切り換えの際は、新しいフォルダが作成されます。

● **振り分け**

カードごとに記録する記録画質を設定することができます（p.149）。1回の撮影でCFカードとSDカードに、設定した記録画質の画像が記録されます。**L**と RAW、**S3**と **M** RAW など、記録画質を自由に設定して撮影することができます。

● **同一書き込み**

1回の撮影でCFカードとSDカードに同じ画像が記録されます。RAW＋JPEGを選ぶこともできます。

● ［**振り分け**］設定時に、CFカードとSDカードの記録画質設定が異なるときは、連続撮影可能枚数が少なくなります（p.151）。
● ［**記録機能**］を［**同一書き込み**］に設定しても、動画をCFカードとSDカードに同時記録することはできません。なお、［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定されているときは、［**再生**］に設定されているカードに動画が記録されます。

振り分け、同一書き込みについて

● CFカードとSDカードに同じ画像番号で記録されます。
● 表示パネルには、撮影可能枚数が少ない方のカードの枚数が表示されます。
● どちらかのカードの空き容量がなくなると、［**カード＊がいっぱいです**］が表示され、撮影できなくなります。そのときは、カードを交換するか、［**記録機能**］を［**標準**］または［**カード自動切り換え**］にして、空き容量のあるカードを選ぶと、撮影することができます。

カードを2枚入れたときの記録・再生カードの選択

［**記録機能**］を［**標準**］［**カード自動切り換え**］に設定したときは、画像を「記録・再生」するカードを選択します。

［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定したときは、画像を「再生」するカードを選択します。

標準／カード自動切り換え

［記録・再生］を選ぶ

- ［**記録・再生**］を選び〈(SET)〉を押します。
  - 1：CF カードに記録、CF カードの画像を再生
  - 2：SDカードに記録、SDカードの画像を再生
- カードを選び〈(SET)〉を押します。

振り分け／同一書き込み

［再生］を選ぶ

- ［**再生**］を選び〈(SET)〉を押します。
  - 1：CFカードの画像を再生
  - 2：SDカードの画像を再生
- カードを選び〈(SET)〉を押します。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEGの記録画質は、◢L、◢L、◢M、◢M、◢S1、◢S1、S2、S3の8種類です。RAWの記録画質は、RAW、M RAW、S RAWの3種類です（p.152）。

1 ［記録画質］を選ぶ

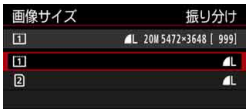
- ［📷1］タブの［**記録画質**］を選び、〈(SET)〉を押します。

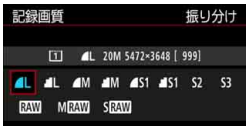
標準／カード自動切り換え／同一書き込み

2 記録画質を設定する

- RAW画質は〈🎛〉、JPEG画質は〈◯〉を回して選びます。
- 画面の数字「**M（百万画素）****×****」は記録画素数、［***］は撮影可能枚数（9999まで表示）を示しています。
- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

振り分け





- ［**🔧1：記録画質とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］が［**振り分け**］に設定されているときは、CFカード［1］またはSDカード［2］を選び〈(SET)〉を押します。
- 表示された画面で記録画質を選び〈(SET)〉を押します。

記録画質の設定例

◢Lのみ

RAWのみ

RAW＋◢L

S RAW＋◢M

- RAWとJPEGの設定を両方［–］にしたときは、◢Lに設定されます。
- 表示パネルの撮影可能枚数表示は1999までです。

記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質		記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEG	◢L	20M	A2	6.6	1090	130（1090）
	◢L			3.5	2060	2060（2060）
	◢M	8.9M	A3	3.6	2000	2000（2000）
	◢M			1.8	3810	3810（3810）
	◢S1	5.0M	A4	2.3	3060	3060（3060）
	◢S1			1.2	5800	5800（5800）
	S2*1	2.5M	L判	1.3	5240	5240（5240）
	S3*2	0.3M	—	0.3	20330	20330（20330）
RAW	RAW	20M	A2	24.0	290	24（31）
	M RAW	11M	A3	19.3	350	28（31）
	S RAW	5.0M	A4	13.3	510	35（35）
RAW + JPEG	RAW ◢L	20M 20M	A2 A2	24.0+6.6	220	18（19）
	M RAW ◢L	11M 20M	A3 A2	19.3+6.6	260	18（19）
	S RAW ◢L	5.0M 20M	A4 A2	13.3+6.6	340	18（19）

*1：**S2**は、市販のデジタルフォトフレームでの再生などに適しています。

*2：**S3**は、電子メールで画像を送るときや、ホームページでの使用などに適しています。

- **S2**、**S3**は、どちらも◢（ファイン）の画質です。
- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GB CFカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、〈□H〉高速連続撮影時の数値です。なお、（ ）内の数値は、当社試験基準 Ultra DMA（UDMA）モード7対応、CFカード使用時の枚数です。

UDMA対応のカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、表の( )内に示した枚数の連続撮影ができます。

- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で記録されます。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、M RAW（ミドルロウ）、S RAW（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、M RAW、S RAWから選ぶことができます。

RAWで撮影した画像は、［▶1：RAW現像］で現像処理を行い（p.398）、JPEG画像として保存することができます（M RAW、S RAWはカメラで現像処理できません）。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.536）で現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

RAW画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理ができないことがあります。パソコンに古いバージョンのDPPがインストールされているときは、EOS DIGITAL Solution DiskからDPPをアップデート（上書きインストール）してください（p.538）。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

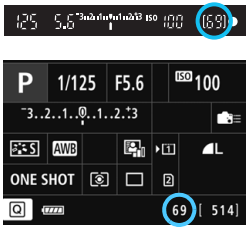
ワンタッチ記録画質切り換え

操作ボタンカスタマイズ機能で、〈M-Fn〉ボタンまたは絞り込みボタンに、記録画質を一時的に切り換える機能を割り当てることができます。〈M-Fn〉ボタンまたは絞り込みボタンに［**ワンタッチ記録画質切換**］［**ワンタッチ記録画質切換（ホールド）**］を割り当てると、記録画質を素早く切り換えて撮影することができます。

詳しくは、『操作ボタンカスタマイズ』（p.445）を参照してください。

［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］が［**振り分け**］のときは、ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



ファインダー内、または撮影機能の設定状態の右下の数値で、連続撮影できる枚数の目安が確認できます。

「99」と表示されているときは、連続して99枚以上撮影できることを示しています。

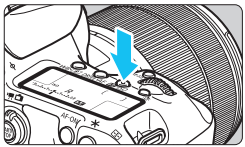
連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。

連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、151ページに示した枚数の連続撮影ができるようになります。

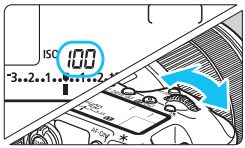
ISO: ISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。〈A+〉モードのときはISO感度が自動設定されます（p.156）。

なお、動画撮影時のISO感度については、317、321ページを参照してください。



1 **〈⚡·ISO〉ボタンを押す**（☆6）



2 **ISO感度を設定する**

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◯〉を回します。
- ISO100～16000の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」は「ISO オート」を表しています。ISO感度が自動設定されます（p.156）。

ISO感度を選ぶときの目安

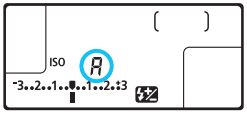
ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～16000、H1、H2	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

- H1（ISO25600相当）、H2（ISO51200相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- [**3：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定すると（p.180）、ISO100/125/160、H1（ISO25600相当）、H2（ISO51200相当）は選択できなくなります。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長秒時露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- H2（ISO51200相当）に設定した状態で動画撮影にすると、H1（ISO25600相当）に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。そのあと静止画撮影にしても、H2には戻りません。

- [**2：ISO感度に関する設定**]の[**ISO感度設定範囲**]で、ISO感度の設定範囲をH2（ISO51200相当）まで拡張することができます（p.157）。
- [**1：ISO感度設定ステップ**]を[**1段**]に設定したときも、ISO16000を選ぶことができます。

ISOオートについて



ISO 感度の設定が「**A**」(AUTO) のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度が表示されます。

ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定
📷+	ISO100～6400自動設定
P/**Tv**/**Av**/**M**	ISO100～16000[*1]自動設定
B	ISO400[*1]
ストロボ撮影時	ISO400[*1*2*3*4]

*1：[**ISOオートの範囲**] の［**下限値**］［**上限値**］による

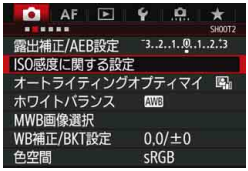
*2：日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100となる（〈**M**/**B**〉モードを除く）

*3：〈📷+〉モードを除く

*4：〈**P**〉モードで外部ストロボをバウンスしたときは、ISO400～1600の範囲で自動設定

MENU ISO感度の手動設定範囲を設定する

手動で設定できるISO 感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はISO100～H1（ISO25600相当）、上限値はISO200～H2（ISO51200相当）の範囲で設定することができます。



1 [ISO感度に関する設定] を選ぶ

- [2] タブの [ISO感度に関する設定] を選び、〈SET〉を押します。

2 [ISO感度設定範囲] を選ぶ

3 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

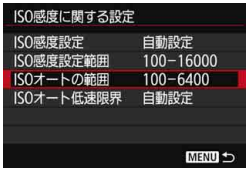
4 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

5 [OK] を選ぶ

MENU ISOオート時の自動設定範囲を設定する

ISOオート時に自動設定される感度を、ISO100～16000の範囲で設定することができます。下限値はISO100 ～ 12800 の範囲、上限値はISO200～16000の範囲で設定することができます。



1 **[ISOオートの範囲] を選ぶ**

2 **下限値を設定する**

- 下限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

3 **上限値を設定する**

- 上限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

4 **[OK] を選ぶ**

[**下限値**] [**上限値**] は、ISO感度でセイフティシフト（p.436）が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

MENU ISOオート時のシャッター速度の低速限界を設定する

ISOオート設定時に、シャッター速度が自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。

この機能は〈**P**/**Av**〉モードで、広角レンズを使用して動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

1 [ISOオート低速限界] を選ぶ

自動設定

手動設定

2 低速限界を設定する

- [**自動設定**] または [**手動設定**] を選びます。
- [**自動設定**] を選んだときは、〈 〉を回して標準設定からの度合い（遅め／速め）を設定し、〈(SET)〉を押します。
- [**手動設定**] を選んだときは、〈 〉を回してシャッター速度を選び、〈(SET)〉を押します。

- [**ISOオートの範囲**] で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、[**ISOオート低速限界**] で設定した速度よりも遅いシャッター速度が設定されます。
- ストロボ撮影時、動画撮影時は機能しません。

[**自動設定：0**] 設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、[**遅め**] から [**速め**] の1ステップは、シャッター速度1段分です。

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

〈A+〉モードのときは［スタイル:A］（オート）に自動設定されます。

1 〈☑〉ボタンを押す

2 ［スタイル］を選ぶ

➡ スタイル選択画面が表示されます。

3 スタイルを選ぶ

➡ スタイルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

［3：ピクチャースタイル］から設定することもできます。

各スタイルの画像特性について

オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

163ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ニュートラル

パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

JPEG画質で撮影した画像を、カラー写真に戻すことはできません。[**モノクロ**] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。

[**モノクロ**] 設定時、ファインダー内と表示パネルに〈⚠〉を表示することができます（p.441）。

ユーザー設定1～3

[**ポートレート**] や [**風景**]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.166）。登録されていないときは、[**スタンダード**] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の記号は、[**シャープネス**] [**コントラスト**] などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている [**シャープネス**] [**コントラスト**] などの設定値を示しています。

記号の意味

	シャープネス
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。［**モノクロ**］の調整については、165ページを参照してください。

1 〈☑〉ボタンを押す

2 ［〜］を選ぶ

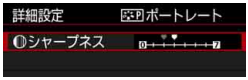
➡ スタイル選択画面が表示されます。

3 スタイルを選ぶ

● スタイルを選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。

4 項目を選ぶ

● ［**シャープネス**］などの項目を選び〈SET〉を押します。



5 内容を設定する

- 効果の度合いを設定し、〈(SET)〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容と効果

シャープネス	0：輪郭強調・控えめ	+7：輪郭強調・強め
コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

- 手順4で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する 応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.536）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

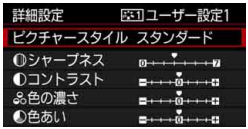
1 〈Q〉ボタンを押す

2 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

➡ スタイル選択画面が表示されます。

3 ［ユーザー設定］を選ぶ

- ［**ユーザー設定**＊］を選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。

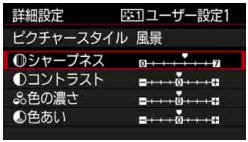


4 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

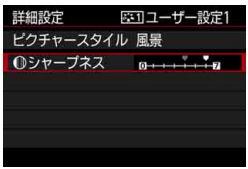
5 基本にするスタイルを選ぶ

- 基本にするスタイルを選び〈SET〉を押します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。



6 項目を選ぶ

- [**シャープネス**] などの項目を選び〈SET〉を押します。



7 内容を設定する

- 効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』（p.163）を参照してください。

- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ [**ユーザー設定＊**] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

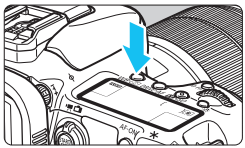
- [**ユーザー設定＊**] にスタイルがすでに登録されているときは、手順5で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- [**カメラ設定初期化**]（p.70）を行うと、[**ユーザー設定＊**] に設定した内容はすべて初期状態に戻ります。なお、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルは、設定した内容のみ初期化されます。

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した [**ユーザー設定＊**] を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書（p.536）を参照してください。

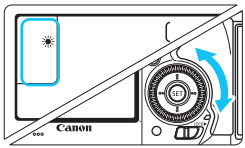
WB: ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常は［AWB］（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。［AWB］で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

〈A+〉モードのときは［AWB］に自動設定されます。



1 〈WB·◉〉ボタンを押す（⏱6）



2 ホワイトバランスを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◌〉を回します。

（約）

表示	モード	色温度（K：ケルビン）
AWB	オート	3000～7000
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
▦	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ使用	自動設定*
✎	マニュアル（p.169）	2000～10000
K	色温度（p.171）	2500～10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

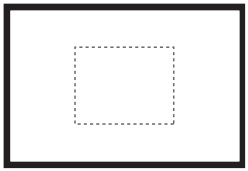
［📷2：ホワイトバランス］から設定することもできます。

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、ソフトウェア的に色温度を調整して、色の基準となる白を決め、その白を基準に色の補正が行われます。これにより、自然な色あいで撮影することができます。

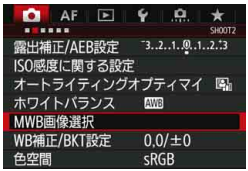
マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。



1 白い被写体を撮影する

- ファインダーをのぞき、図の点線の枠内全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。



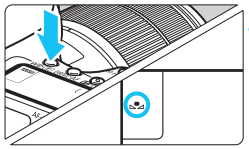
2 [MWB画像選択] を選ぶ

- [📷2] タブの [**MWB画像選択**] を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ MWB画像選択画面が表示されます。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈◯〉を回して手順1で撮影した画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。



4 〈WB・⊛〉ボタンを押す（⏱6）

5 マニュアルWBを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◯〉を回して〈▭〉を選びます。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像、多重露出画像、他のカメラで撮影した画像は、手順3で選択できません。

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- EOS 用ソフトウェアから登録するカスタムホワイトバランスは、〈▭〉に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。

1 [ホワイトバランス] を選ぶ

- [2] タブの [**ホワイトバランス**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 色温度を設定する

- [K] を選びます。
- 〈◌〉を回して色温度を設定し、〈(SET)〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を［K］に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

WB +/- ホワイトバランスを補正する 応用

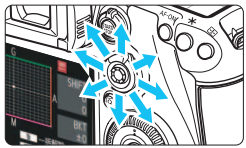
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正

1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

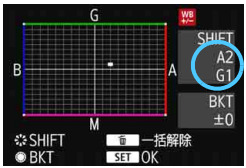
- [📷2] タブの [**WB補正/BKT設定**] を選び、〈SET〉を押します。



2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了します。

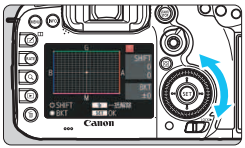
設定例：A2, G1



- WB補正時は表示パネルに〈WB〉が表示されます。
- WB補正時に、ファインダー内と表示パネルに〈⚠〉を表示することができます（p.441）。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能を「ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）」といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。



B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■■■」（3点）に変わります。右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈(SET)〉を押すと設定が終了します。

記録される順序について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

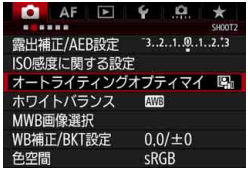
- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケティング設定時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- WBブラケティング時の記録枚数を変更することができます（p.435）。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときやコントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では［**標準**］に設定されています。JPEG画像は撮影時に補正されます。

〈A+〉モードのときは［**標準**］に自動設定されます。



1 ［オートライティングオプティマイザ］を選ぶ

- ［2］タブの［**オートライティングオプティマイザ**］を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

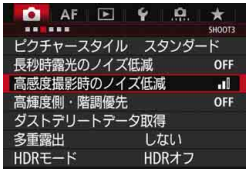
- 撮影条件によりノイズが増えることがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、画像が明るすぎるときは、［**弱め**］または［**しない**］に設定して撮影してください。
- ［**しない**］以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、［**しない**］に設定してください。
- ［3：**高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定したときは、［**オートライティングオプティマイザ**］の設定が自動的に［**しない**］に切り換わります。

手順2で〈**INFO.**〉ボタンを押して［**M, Bulb時はOFF**］の［✓］を外すと、〈**M**/**B**〉モードでも［**オートライティングオプティマイザ**］が設定できるようになります。

MENU ノイズ低減機能の設定 応用

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。



1 ［高感度撮影時のノイズ低減］を選ぶ

● ［📷3］タブの［**高感度撮影時のノイズ低減**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 レベルを設定する

● 低減レベルを選び〈(SET)〉を押します。

● NR：**マルチショットノイズ低減機能**

［**強め**］よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。

なお、記録画質がRAW、RAW+JPEGに設定されているときは、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。

3 撮影する

● ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

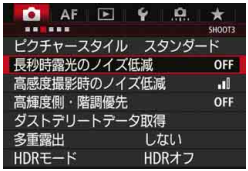
マルチショットノイズ低減機能設定時に、ファインダー内と表示パネルに〈❗〉を表示することができます（p.441）。

マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 通常の撮影よりも、カードに画像が記録されるまでの時間が長くなります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- AEB撮影、WBブラケティング撮影はできません。
- [**歪曲収差補正**]の設定が自動的に[**しない**]に切り換わります。
- [**3：長秒時露光のノイズ低減**][**3：多重露出**][**3：HDRモード**]、およびAEB撮影、WBブラケティング撮影が設定されているときは、[**マルチショットノイズ低減機能**]は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。なお、AF補助光は[**AF3：AF補助光の投光**]の設定に応じて投光されます。
- バルブ撮影時、動画撮影時は[**マルチショットノイズ低減機能**]は設定できません。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、電池交換、カード交換、撮影モード〈**A⁺/B**〉選択、記録画質RAW、RAW+JPEG設定／切り換え、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に[**標準**]に切り換わります。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、ノイズを低減することができます。



1 ［長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ

● ［3］タブの［**長秒時露光のノイズ低減**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 低減内容を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

● **自動**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この設定で十分な効果が得られます。

● **する**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

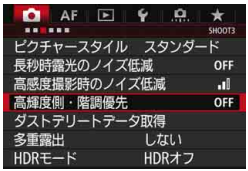
3 撮影する

● ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

- ［**自動**］［**する**］設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。なお、低減処理中でもファインダー内の連続撮影可能枚数が「1」以上のときは、続けて撮影することができます。
- ISO1600以上の感度で撮影すると、［**しない**］［**自動**］設定時よりも［**する**］設定時の方が画像のザラつきが多くなることがあります。
- ［**する**］設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

MENU 高輝度側・階調優先の設定 応用

画像のハイライト部分の白飛びを緩和することができます。



1 [高輝度側・階調優先] を選ぶ

- [3] タブの [**高輝度側・階調優先**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 [する] を選ぶ

- 高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18% グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

3 撮影する

- 高輝度側・階調優先による処理が行われた画像が記録されます。

[**する**] 設定時は、ノイズが若干増えることがあります。

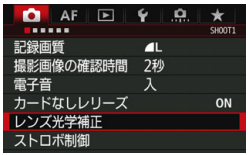
[**する**] 設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～16000になります。また、ファインダー内と表示パネルに、高輝度側・階調優先の設定中を示す〈**D+**〉が表示されます。

MENU レンズの周辺光量と収差を補正する

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」、レンズの特性によって起こる画像のゆがみを「歪曲収差」といいますが、これらの現象を補正することができます。初期状態では、周辺光量補正、色収差補正は［**する**］、歪曲収差補正は［**しない**］に設定されています。

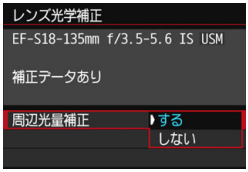
なお、［**補正データがないため補正できません**］と表示されているときは、183ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

周辺光量補正



1 ［レンズ光学補正］を選ぶ

- ［📷1］タブの［**レンズ光学補正**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**周辺光量補正**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

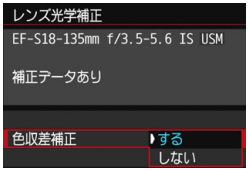
3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.536）で最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

色収差補正



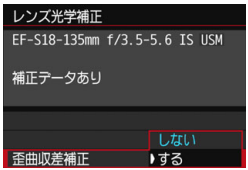
1 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**色収差補正**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 撮影する

- 色収差が補正された画像が記録されます。

歪曲収差補正



1 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**歪曲収差補正**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 撮影する

- 歪曲収差が補正された画像が記録されます。

- ゆがみの補正が行われるため、ファインダー撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- ［**歪曲収差補正**］を［**する**］に設定したときは、連続撮影可能枚数（p.153）が少なくなります。
- 動画撮影、HDR撮影、多重露出撮影時、マルチショットノイズ低減機能設定時は、歪曲収差補正は行われません。
- ライブビュー撮影時は、歪曲収差補正の設定により画角がわずかに変化します。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。そのため、画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデリートデータ（p.407）は付加されません。また、再生時にAFフレーム表示（p.359）は行われません。

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正を行うためのデータがレンズ約30本分登録されています。補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正が行われます。

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズが確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.539）を参照してください。

各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG画像の周辺光量、色収差、歪曲収差を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正の効果は映像に反映されません。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります。

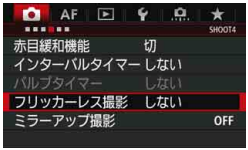
各補正共通事項

- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後、画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。

MENU フリッカーの影響を低減する 応用

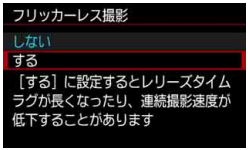
蛍光灯などの光源下で、速いシャッター速度で撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。

この機能を利用するとカメラが光源の点滅の周期を検知し、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。



1 ［フリッカーレス撮影］を選ぶ

- ［4］タブの［**フリッカーレス撮影**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［する］を選ぶ

3 撮影する

- フリッカーによる露出や色あいへの影響が低減された状態で撮影されます。

- ［**する**］設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグがわずかに長くなることがあります。また、連続撮影速度がやや遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- ライブビュー撮影時、動画撮影時は機能しません。
- 〈**P**/**Av**〉モードで連続撮影中にシャッター速度が変化したときや、同一シーンでシャッター速度を変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なる（ばらつく）ことがあります。色あいの変化が気になるときは、〈**Tv**/**M**〉モードでシャッター速度を一定にして撮影してください。
- ［**フリッカーレス撮影**］を［**する**］に設定したときと、［**しない**］に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅の周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。

- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーが検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、ファインダー内の〈Flicker!〉が点灯しても、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 構図変更を行ったときは、〈Flicker!〉の表示が点いたり消えたりすることがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- ファインダー内に〈Flicker!〉が表示されないときは、[**ファインダー内表示設定**]の[**フリッカー検知**]に[✓]を付けます（p.77）。フリッカーの影響が低減された状態で撮影が行われるときは、〈Flicker!〉が点灯します。なお、フリッカーが発生しない光源下や、フリッカーを検知できないときは、〈Flicker!〉は表示されません。
- [**フリッカー検知**]に[✓]が付いている状態で、[**4：フリッカーレス撮影**]を[**しない**]に設定し、フリッカー光源下で測光を行ったときは、ファインダー内の〈Flicker!〉が点滅して警告が行われます。[**する**]に設定して撮影することをおすすめします。
- 〈A+〉モードのときは、フリッカーの影響が低減された状態で撮影されますが、〈Flicker!〉は表示されません。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

MENU 色空間を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。

〈A+〉モードのときは［sRGB］に自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

- ［📷2］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

- ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

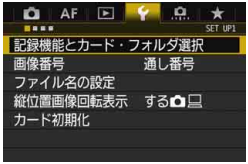
- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、Digital Photo Professional使用説明書（p.539）を参照してください。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

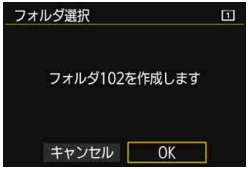


1 **［記録機能とカード・フォルダ選択］を選ぶ**

- ［1］タブの［**記録機能とカード・フォルダ選択**］を選び、〈SET〉を押します。

2 **［フォルダ］を選ぶ**

3 **［フォルダ作成］を選ぶ**



4 **［OK］を選ぶ**

➡ 番号が１つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

- フォルダ選択画面でフォルダを選び〈SET〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

フォルダ名は、「**100EOS7D**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.194）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

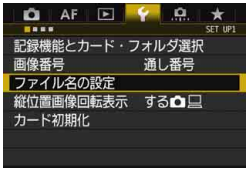
MENU ファイル名を変更する

ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号（p.193）、拡張子で構成されています。先頭4文字の初期設定は、工場出荷時に決められた、カメラ固有の英数字になっていますが、これを任意に変更することができます。

（例）**BE3B0001.JPG**

ユーザー設定1は、任意の4文字を登録することができます。ユーザー設定2は、任意の3文字を登録して撮影すると、先頭から4文字目に画像サイズが自動的に付加されます。

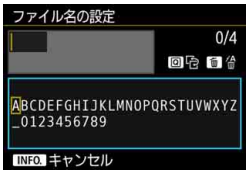
ファイル名の登録・変更



1 ［ファイル名の設定］を選ぶ

- ［1］タブの［**ファイル名の設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［ユーザー設定＊の変更］を選ぶ



3 任意の英数字を入力する

- ユーザー設定1は4文字、ユーザー設定2は3文字入力します。
- 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
- 〈Q〉ボタンを押すと、文字パレットの枠に色が付き、文字入力ができるようになります。

- 〈◯〉または〈✣〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び〈(SET)〉を押すと入力されます。

4 終了する

- 所定の文字数を入力し、〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。
- ➡ 登録したファイル名が保存されます。

設定内容

5 登録したファイル名を選ぶ

- ［ファイル名］を選び〈(SET)〉を押します。
- 登録したファイル名を選び〈(SET)〉を押します。
- ユーザー設定2に登録したときは、「(登録した3文字) ***＋画像サイズ」を選びます。

「_」（アンダーバー）を1文字目に指定することはできません。

ユーザー設定2について

ユーザー設定2で登録した「***＋画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた記録画質（1文字）が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。付加される文字の意味は次のとおりです。

「***L」＝ ◢L/◢L/RAW　　「***M」＝ ◢M/◢M/M RAW
「***S」＝ ◢S1/◢S1/S RAW　　「***T」＝ S2
「***U」＝ S3

パソコンに画像を取り込んだときに、自動付加された4文字目を読み取ることで、画像を開かずに画像サイズを判別することができます。なお、RAW画像、JPEG画像は、拡張子から判別することができます。

- 拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」「.MP4」になります。
- ユーザー設定2で動画を撮影すると、ファイル名の先頭から4文字目が「_」（アンダーバー）になります。

MENU 画像番号の付け方を設定する

4桁の画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001～9999の画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

（例）**BE3B0001.JPG**

1 ［画像番号］を選ぶ

● ［1］タブの［**画像番号**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 画像番号の付け方を選ぶ

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

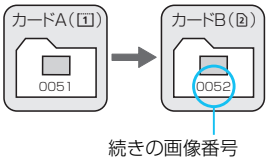
通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

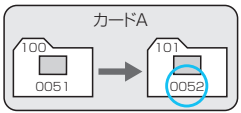
カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：1→2）を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換・変更した場合



フォルダを作成した場合

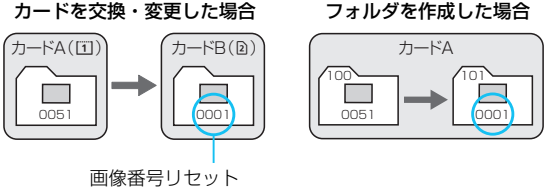


オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：[1]→[2]）を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります（強制リセットの確認表示は行われません）。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

MENU 著作権情報を設定する 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［4］タブの［**著作権情報**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- ［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈(SET)〉を押します。

3 文字を入力する

- 〈Q〉ボタンを押すと、文字パレットの枠に色が付き、文字入力ができるようになります。
- 〈◯〉または〈✲〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び〈(SET)〉を押すと入力されます。
- 最大63文字入力することができます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。
- 入力をキャンセルするときは、〈**INFO.**〉ボタンを押して［OK］を選びます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押して［OK］を選びます。

➡ 設定した内容が保存されます。

著作権情報の確認

手順2で［**著作権情報の表示**］を選ぶと、入力した［**作成者**］［**著作権者**］の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で［**著作権情報の消去**］を選ぶと、［**作成者**］［**著作権者**］の情報が消去されます。

入力した作成者名または著作権者名が長いときは、［**著作権情報の表示**］を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.536）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

5

GPS 機能の設定

この章では、カメラに内蔵されているGPS機能の設定について説明しています。なお、EOS 7D Mark II (G)は、GPS衛星（アメリカ）、およびGLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）からの信号に対応しています。

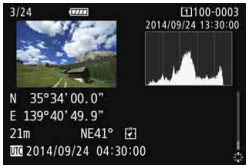
- GPS機能は、初期設定では［**使わない**］に設定されています。
- 本書では測位機能の総称として「GPS機能」と記載しています。

［GPS］が［使う］に設定されているときは（p.201）、カメラの電源を切っても一定の間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。GPS機能を使用しないときは、［GPS］を［使わない］に設定することをおすすめします。

GPS機能を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。国外でGPS機能を使用するときは、特にご注意ください。

GPS機能でできること

位置情報を画像に付加



- 位置情報*1（緯度、経度、標高）と協定世界時*2を画像に付加することができます。
- 電子コンパス機能（磁北基準）で、撮影方向を画像に付加することもできます。
- この情報を利用して、パソコンの地図上に撮影場所や撮影方向を表示することができます。

*1：移動条件やGPS機能の設定によって、画像に付加される位置情報が正確でない場合があります。

*2：協定世界時（UTC：Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。

移動ルートを記録

ロガー機能を使うと、カメラがたどった位置情報を一定間隔で自動的に記録することができます。たどった位置情報は、パソコンの地図上で確認することができます。

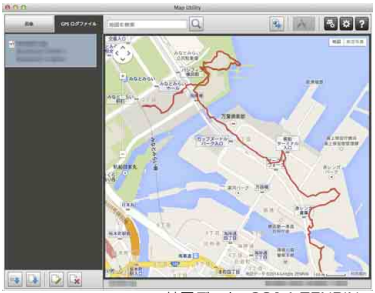
* 移動条件や移動場所、GPS機能の設定によって、画像に付加される位置情報が正確でない場合があります。

時刻の設定

GPSから得られる時刻をカメラに設定できます。

パソコンの地図上に画像や情報を表示

EOS用ソフトウェアのMap Utility（マップユーティリティー／p.536）を使用して、パソコンの地図上に撮影場所や移動ルートを表示することができます。



地図データ©2014 ZENRIN -

GPS機能に関するご注意

■ GPS機能が使える国や地域について

GPS機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、GPS機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域でGPS機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■ モデルナンバー

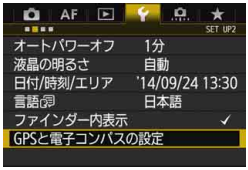
EOS 7D Mark II（G）：DS126461
（GPSモジュールモデル：CH9-1352）

- 国や地域によっては、GPS機能の使用などが規制されていることがありますので、お使いになる国や地域の法令等の規制にしたがってご使用ください。国外でGPS機能を使用するときは特に注意してください。
- 電子機器の使用が制限されている場所での使用には十分注意してください。
- GPS機能を使って撮影した静止画や動画に記録されるカメラの位置情報は、個人を特定する情報が含まれていることがあります。そのためGPS機能を使ってカメラの位置情報が記録されている静止画、動画、GPSログファイルを他人に渡したり、インターネットなどの複数の人が閲覧できる環境へ掲載するときは、十分注意してください。
- GPS衛星からの信号を受信するのに時間がかかることがあります。

GPSの信号を受信する

GPS信号を受信するときは、空が見通せる屋外にカメラを持っていき、カメラに手や物などをのせないようにして、カメラの上面を空へ向けてください。

なお、受信状態が良いときは、[GPS]を[使う]に設定したあと、約30秒～60秒で衛星捕捉状態になります。表示パネルに[GPS]が点灯していることを確認してから撮影してください。

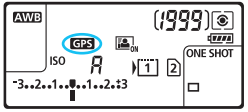


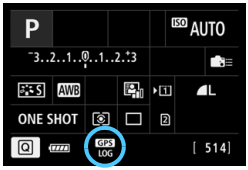
1 [GPSと電子コンパスの設定]を選ぶ

- [2]タブの[GPSと電子コンパスの設定]を選び、〈SET〉を押します。

2 [GPS]を[使う]に設定する

GPSの受信状態について





表示パネルと撮影機能の設定状態の画面に表示される[GPS]で、GPS信号の受信状態を確認することができます。

GPS 点灯：衛星捕捉状態
GPS 点滅：衛星未捕捉

[GPS]が点灯した状態で撮影すると、画像に位置情報が付加されます。

- ［**使う**］選択時は、カメラの電源を〈**OFF**〉にしても表示パネルに〈GPS〉が表示されます。また、一定間隔でGPS信号を受信するため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。長時間カメラを使用しないときは、［**使わない**］に設定してください。
- GPSのアンテナは、アクセサリーシュー付近に内蔵されています。なお、外部ストロボを取り付けてもGPS信号を受信することはできますが、受信感度は少し低下します。
- GPSレシーバー GP-E2（別売）は使用できません。

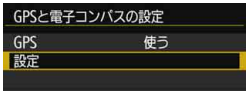
GPS信号を受信しにくい条件

次のような環境ではGPS衛星からの信号が正しく受信できないため、位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。

- 屋内、地下、トンネルや森の中、ビルなどの近くや谷間
- 高圧電線や1.5GHz帯の携帯電話などの近く
- カメラをかばんなどに入れて持ち歩いたとき
- 長い距離を移動したとき
- 周囲の環境が異なる場所へ移動したとき
- GPS衛星は時間の経過とともに移動するため、上記以外の環境でも位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。また、同じ場所でカメラを使っていても移動した位置情報が記録されることがあります。

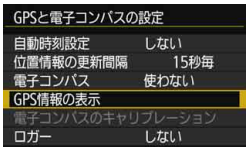
縦位置撮影時もGPS信号を受信することができます。

GPS情報を表示する



1 ［設定］を選ぶ

- ［GPS］が［使う］に設定されていることを確認します。
- ［設定］を選び〈(SET)〉を押します。



2 ［GPS情報の表示］を選ぶ

➡ 詳細なGPS情報が表示されます。

3 撮影する

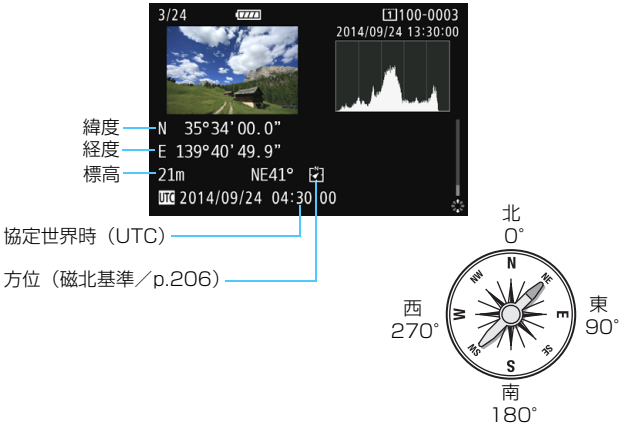
- 衛星を捕捉した状態で撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

一般的にGPSの特性上、標高の精度は、緯度・経度の精度よりも劣ります。

- 衛星捕捉状態の〈📡〉は電波状態を示しています。〈**3D**〉が表示されているときは標高も記録されます。〈**2D**〉が表示されているときは標高は記録されません。
- UTC（協定世界時）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 画面例の「方位 NE45°」は、北東45°の方向を示しています。

画像に付加される位置情報について

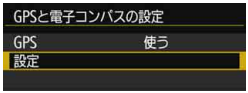
画像を再生し、〈**INFO.**〉ボタン押して撮影情報表示の画面（p.357）を表示した状態で〈✲〉を上下に操作すると、位置情報を確認することができます。



- 動画撮影のときは、撮影を開始したときの位置情報が記録されます。なお、衛星捕捉状態は記録されません。
- EOS用ソフトウェアのMap Utility（p.536）を使用すると、パソコンの地図上に撮影場所を表示することができます。

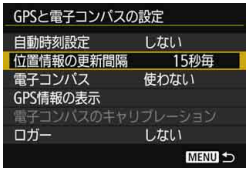
位置情報の更新間隔を設定する

位置情報の更新間隔（時間）を設定することができます。なお、更新間隔が短いほど撮影時の位置情報が正確に記録されますが、撮影可能枚数は少なくなります。

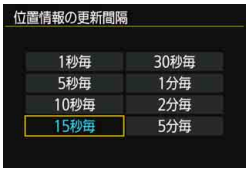


1 ［設定］を選ぶ

- ［GPS］が［**使う**］に設定されていることを確認します。
- ［**設定**］を選び〈(SET)〉を押します。



2 ［位置情報の更新間隔］を選ぶ



3 更新間隔を設定する

- 項目を選び〈(SET)〉を押します。

- 更新間隔が短いほど、撮影可能枚数が少なくなります。
- GPS信号の受信状態が悪い場所で使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- GPSの特性上、更新間隔に誤差が生じます。

電子コンパスを使う

カメラが向いている方位の情報を画像に付加することができます。

1 ［設定］を選ぶ

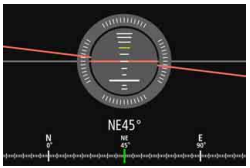
- ［GPS］が［**使う**］に設定されていることを確認します。
- ［**設定**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 ［電子コンパス］を［使う］に設定する

- ［**電子コンパス**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**使う**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**電子コンパスのキャリブレーション**］画面が表示されたときは、208ページの手順2、3の操作を行ってください。

撮影時のコンパス表示

カメラが向いている方位を液晶モニターに表示することができます。



- 〈**INFO.**〉ボタンを押して水準器を表示すると、画面の下に方位が表示されます。

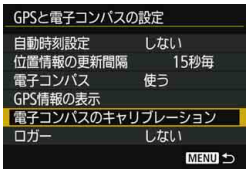
- ライブビュー撮影時、動画撮影時は、図の位置に表示されるマークで方位を確認することができます。

- 連続撮影中に撮影する方位が変化したときや、カメラを上方向や下方向に向けて撮影したときは、正しい方位情報が記録されないことがあります。
- 方位情報はログファイル（p.211）には記録されません。

電子コンパスは地磁気を利用して方位を算出しているため、次のような環境下では適切な方位が得られないことや、キャリブレーションを完了できないことがあります。
- 建物（ビル、鉄筋を使用した家屋、地下街など）、乗り物（自動車、電車、飛行機、船など）、金属製の施設（エレベーターなど）の中やその近く
- 金属（鉄製の机や家具など）、永久磁石（磁気ネックレスなど）、家庭用電化製品（テレビ、パソコン、スピーカー、携帯電話など）の近く
- 高圧線（鉄塔など）、架線（駅のプラットホームなど）、金属製の設備（歩道橋、ガードレールなど）の近く
- 高緯度の地域

電子コンパスのキャリブレーション

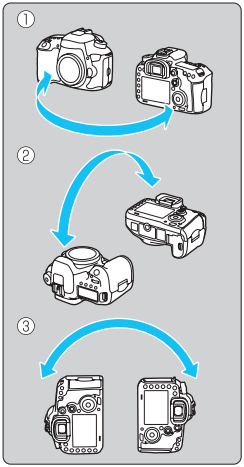
GPS機能設定時に［**電子コンパスのキャリブレーション**］の画面が表示されたときや、撮影時に表示される方位がおかしいと感じたときは、以下の手順で電子コンパスのキャリブレーション（較正）を行ってください。なお、キャリブレーションは、撮影する場所で行ってください。



1 ［電子コンパスのキャリブレーション］を選ぶ

- ［**電子コンパス**］が［**使う**］に設定されていることを確認します。
- ［**電子コンパスのキャリブレーション**］を選び〈(SET)〉を押します。

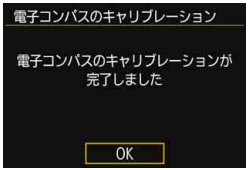
➡ キャリブレーション状態になります。



2 カメラを動かす

①左右180°以上カメラを振ります。
②前後180°以上カメラを振ります。
③180°以上カメラを回転させます。

- カメラを落とさないように十分注意してください。
- ①②③はどの順番で行ってもかまいません。キャリブレーションが完了するまで、何回か繰り返してください。
- キャリブレーションできないときは、体の向きを左右どちらかに変えて繰り返してください。



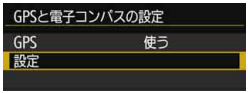
3 キャリブレーションを終了する

- キャリブレーションが完了すると、完了画面が表示されます。
- 手順2の①②③操作の途中で完了することもありますが、キャリブレーションは正常に行われています。

安全のため、レンズなどを取り外した状態でキャリブレーションすることをおすすめします。

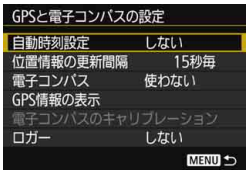
GPSの時刻をカメラに設定する

GPS信号から得られる時刻情報をカメラに設定することができます。なお、誤差は約±1秒です。

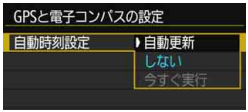


1 [設定] を選ぶ

- [GPS] が [**使う**] に設定されていることを確認します。
- [**設定**] を選び〈(SET)〉を押します。



2 [自動時刻設定] を選ぶ



3 項目を選ぶ

- [**自動更新**] または [**今すぐ実行**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- [**自動更新**] は、カメラの電源を入れて、GPS信号を受信したときに更新されます。

- GPS衛星を5基以上捕捉できないときは、時刻の自動更新は行われません。また、[**今すぐ実行**] が灰色に表示されて選択できません。
- [**今すぐ実行**] が選択できても、GPS衛星の捕捉タイミングによっては、時刻合わせが行われないことがあります。
- [**自動時刻設定**] が [**自動更新**] に設定されているときは、[**▼2**] タブの [**日付/時刻/エリア**] の設定で日付時刻の手動設定はできません。
- ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7（Ver.2／別売）を使用して [**カメラ間時刻同期**] を行ったあと、時刻を変えたくないときは、手順2で [**自動時刻設定**] を [**しない**] に設定してください。

移動ルートを記録する

地図データ©2014 ZENRIN -

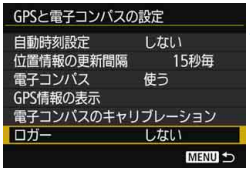
ロガー機能を使うと、カメラがたどった位置情報がカメラの内蔵メモリーに自動的に記録されます。

EOS用ソフトウェアのMap Utilityを使用すると（p.536）、パソコンの地図上に撮影場所や移動ルートを表示することができます。

なお、ロガー機能は、オートパワーオフ中や電源が入っていないときも働きます。

1 ［設定］を選ぶ

- ［GPS］が［使う］に設定されていることを確認します。
- ［設定］を選び〈(SET)〉を押します。



2 ［ロガー］を選ぶ

3 ［ログ記録］を［する］に設定する

- ［ログ記録］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［する］を選び〈(SET)〉を押します。

- ロガー機能を設定したときは、撮影機能の設定状態の画面に［LOG］マークが表示されます（p.201）。
- 電源スイッチを〈OFF〉にしたときやオートパワーオフ機能が働いたときは、表示パネルに〈LOG〉が表示されます。

位置情報のログデータについて

カメラがたどった位置情報は、［**位置情報の更新間隔**］（p.205）ごとに記録され、日付別のログデータとしてカメラの内蔵メモリーに保存されます。保存できるログデータの日数は下表のとおりです。

位置情報の更新間隔と保存できるログデータの日数　（約）

更新間隔	ログデータ	更新間隔	ログデータ
1秒毎	4.1日分	**30秒毎**	100日分
5秒毎	20日分	**1分毎**	100日分
10秒毎	41日分	**2分毎**	100日分
15秒毎	61日分	**5分毎**	100日分

* 1日8時間分のログデータを記録した場合。

- 内蔵メモリーに保存されたログデータを、ログファイルとしてカードに移動することができます（p.212）。
- ログファイルは、日付+番号（14103100など）のファイル名で、1日単位で作成されます。エリア（p.47）を変えたときは、新たなログファイルが作成されます。
- 内蔵メモリーがいっぱいになると、古いログデータから順に消去され、新しいログデータが保存されます。

ログ記録時の電池消耗について

［**GPS**］が［**使う**］に設定されているときは、カメラの電源を切っても一定の間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。また、［**ログ記録**］が［**する**］に設定されているときは、更新間隔が短いほどさらに電池の消耗が早くなります。

移動していないときや、GPSの電波状態が悪いときは、［**GPS**］を［**使わない**］に設定することをおすすめします。

ログデータをパソコンに取り込む

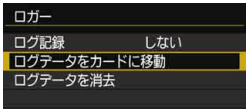
カメラの内蔵メモリーに保存されたログデータをパソコンに取り込む方法は、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityで取り込む方法と、カードに移動してから取り込む方法があります。

パソコンに取り込んだログファイルをEOS 用ソフトウェアのMap Utility（p.536）で開くと、地図上に移動ルートが表示されます。

EOS用ソフトウェアで取り込む

カメラとパソコンを付属のインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、ログデータをパソコンに取り込むことができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.539）を参照してください。

カードに移動して取り込む



- ［**ログデータをカードに移動**］を選ぶと、内蔵メモリーに保存されているログデータを、ログファイルとしてCFカード［1］またはSDカード［2］に移動することができます。
  なお、カードに移動すると、内蔵メモリーに保存されていたログデータは消去されます。

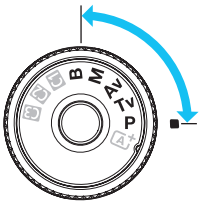
- カードに取り込まれたログファイルは、「MISC」フォルダの中にある「GPS」フォルダに入っています。ログデータの拡張子は「.LOG」です。
- ［**ログデータを消去**］を選ぶと、内蔵メモリーに保存されているログデータを完全に消去することができます。なお、消去には1分程度かかることがあります。

- 付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.478）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.34）。
- GPSアンテナがカメラの上部に配置されているため、バッグなどに入れて持ち歩くときは、カメラの上面を空に向け、カメラの上に物がのらないように収納してください。
- カメラの日付/時刻はできるだけ正確に設定してください。また、エリアとサマータイムは、撮影する地域に対応した設定にしてください。
- 電源が入っているかどうかに関わらず位置情報や日時が記録されるため、電源を切っている状態でも電池が消耗し、カメラを使うときに電池の残量が少なくなっていることがあります。必要に応じて電池を充電するか、充電した予備の電池（別売）を用意しておくことをおすすめします。

MEMO

6

撮影目的にあわせた応用撮影



〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードのときは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の 応用 は、〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モード限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、ファインダー内と表示パネルに露出値が4秒間表示されます（⏱4）。
- 各撮影モードで設定できる機能については、480ページを参照してください。

あらかじめ〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてください。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これを「プログラムAE」といいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

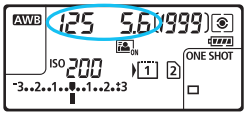
1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいてAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

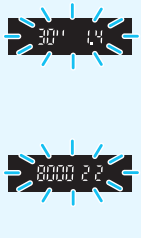
3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。



4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。



- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈P〉と〈A+〉モードの違いについて

〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AF動作や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉モードのときは自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AF動作や測光モードなどの機能を自由に設定することができます（p.480）。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈〉を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマー（⏱4）が終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

Tv：シャッター速度を決めて撮る

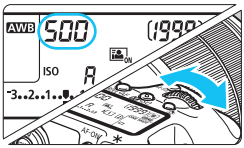
シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これを「シャッター優先AE」といいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする



2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈 〉を回します。

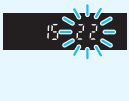
3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

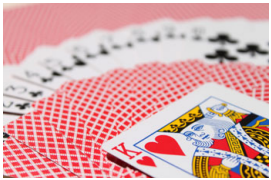
シャッター速度の表示

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

Av：絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを「絞り優先AE」といいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

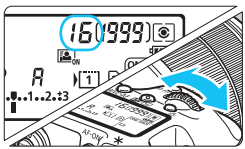
＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）

1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈 〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ標準露出です。

- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。

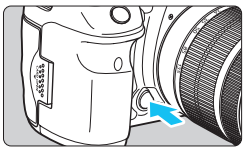
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示

数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影していないときは、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

- 絞り数値が大きいほどピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
- ライブビュー映像を見ながら（p.286）、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果がよくわかります。
- 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

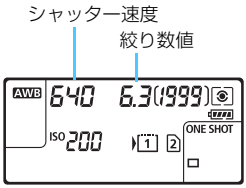
M: 露出を自分で決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これを「マニュアル露出」といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

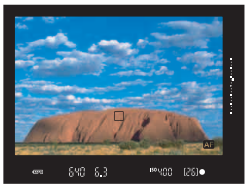
1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ISO感度を設定する （p.154）



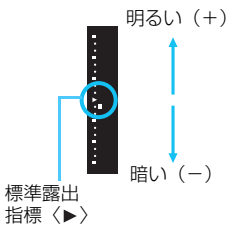
3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈◯〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈〉または〈◯〉を回します。



4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- ファインダー内右側の露出レベル表示で、露出レベル〈■〉が標準露出〈▶〉からどのくらいズレているか、確認することができます。



5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈▲〉または〈▼〉の表示になります。

ISOオート設定時の露出補正について

マニュアル露出撮影時にISO感度を「**A**」（AUTO）に設定したときは、以下の方法で露出補正（p.226）を行うことができます。

- ［**2：露出補正／AEB設定**］
- ［**3：操作ボタンカスタマイズ**］の［**SET：露出補正（押しながら）**］（p.455）、または［**：露出補正（倒しながら）**］（p.455）
- クイック設定（p.61）

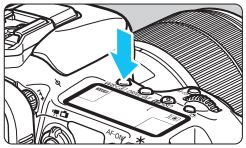
ファインダー内下側、または表示パネルの「露出レベル表示（設定値）」を見ながら露出補正量を設定します。

- ISOオート設定時は、設定したシャッター速度と絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

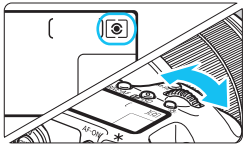
- ［**2：オートライティングオプティマイザ**］で［**M, Bulb時はOFF**］の［**✓**］を外すと、〈**M**〉モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります（p.175）。
- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈**P**／**Tv**／**Av**〉モードで露出補正（p.226）を行っていたときは、〈**M**〉モード+ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。
- ISOオート設定時に［**1：露出設定ステップ**］を［**1/2段**］に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度（1/3段分）とシャッター速度で露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッター速度は変化しません。

測光モードの選択 応用

被写体の明るさを測る機能の特性を４種類の中から選ぶことができます。〈A+〉モードのときは評価測光に自動設定されます。

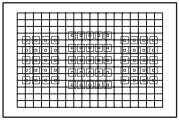


1 〈WB・◉〉ボタンを押す（⏱6）



2 測光モードを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈ダイヤル〉を回します。
  - ◉：**評価測光**
  - ⊡：**部分測光**
  - •：**スポット測光**
  - ⬚：**中央部重点平均測光**

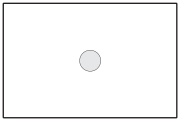


◉ 評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

⊡ 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約6%の範囲を測光します。



[•] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約1.8%の範囲を測光します。ファインダー内にスポット測光範囲が表示されます。

[□] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

- [評価測光]は、シャッターボタン半押しでピントが合うと露出値が固定されます。[⊡]（部分測光）／[•]（スポット測光）／[□]（中央部重点平均測光）は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- 〈[•]〉（スポット測光）設定時に、ファインダー内と表示パネルに〈❶〉を表示することができます（p.441）。

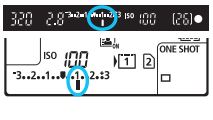
± 自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。

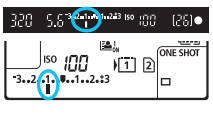
〈**P**/**Tv**/**Av**〉モードのときに露出補正を行うことができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±5段ですが、ファインダー内と表示パネルの露出補正表示は±3段までです。±3段を超える設定は、クイック設定（p.61）または次ページの［**📷2：露出補正／AEB設定**］で行ってください。

なお、〈**M**〉モード+ISOオート設定時の露出補正については、223ページを参照してください。

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正



1 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして（⏱4）、露出レベル表示を確認します。

2 補正量を設定する

- ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈◯〉を回します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈◯〉を回します。

3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル〈▮/▮〉を標準露出指標（〈▼/▼〉）の位置に戻します。

［**📷2：オートライティングオプティマイザ**］（p.175）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈**OFF**〉にしても記憶されています。
- 補正量を設定してから〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、補正量が不用意に変わることを防止できます。
- 露出補正量が± 3 段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈▶/▲〉または〈◀/▼〉の表示になります。

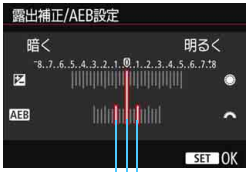
露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これを「AEB撮影」といいます。

＊ AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

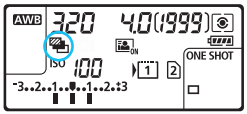
- ［2］タブの［**露出補正／AEB設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。



AEBレベル

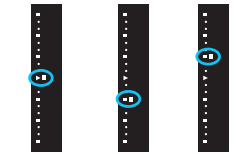
2 AEBレベルを設定する

- 〈〉を回してAEBレベルを設定します。〈〉を回すと露出補正量を設定することができます。
- 〈(SET)〉を押すと設定されます。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈〉とAEBレベルが表示されます。



3 撮影する

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

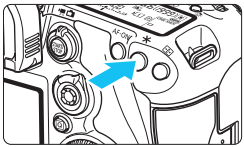


標準露出　マイナス補正　プラス補正

- AEB撮影中は、ファインダー内の〈✳〉と表示パネルの〈▣〉が点滅します。
- ドライブモードが〈□/□S〉のときは、3回撮影してください。〈□H/□/□S〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈⏲/⏲2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- AEBレベルが±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈▶/▲〉または〈◀/▼〉の表示になります。
- ストロボ使用時、バルブ撮影時、および［**マルチショットノイズ低減機能**］［**HDRモード**］設定時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

✳ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。



1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✳〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✳〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- AE ロックした露出値と新しい露出値がファインダー内の右側にリアルタイムで表示されます。
- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード（p.224）	AFフレーム選択（p.93）	
	自動選択	任意選択
[◉]*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[⊙][•][□]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

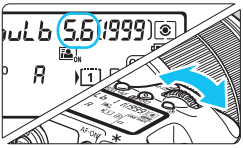
* レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

バルブ撮影時はAEロックできません。

B: 長時間露光（バルブ）撮影

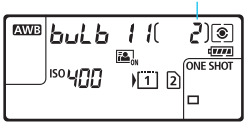
シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これを「バルブ撮影」といいます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈B〉にする



2 絞り数値を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら、〈〉または〈◯〉を回します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

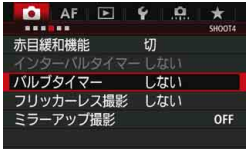
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時は、ISO400になります（p.156）。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影を併用して、バルブタイマーを使用せずにバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。セルフタイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。なお、同じ条件でバルブタイマーを使用したときは、シャッターボタンを全押しし続ける必要はありません。
- カメラを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

- ［**3：長秒時露光のノイズ低減**］で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（p.178）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚、およびバルブタイマーの使用をおすすめします。ミラーアップ撮影（p.246）を併用することもできます。
- リモートスイッチ RS-80N3（別売）、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます（p.248）。
- リモートコントローラー RC-6（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます（p.248）。リモートコントローラーの送信ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

バルブタイマー機能 応用

バルブ撮影時の露光時間をあらかじめ設定することができます。この機能を使うと、バルブ撮影中にシャッターボタンを指で押している必要がなくなるため、カメラブレを低減することができます。

なお、バルブタイマーは、〈**B**〉（バルブ撮影）以外の撮影モードでは設定できません（機能しません）。



1 ［バルブタイマー］を選ぶ

- ［**4**］タブの［**バルブタイマー**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ［する］を選ぶ

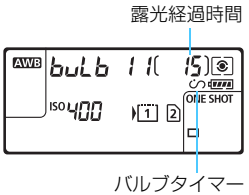
- ［**する**］を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

3 露光時間を設定する

- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈⌖〉の状態にします。
- 数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈⌖〉の状態に戻ります）。

4 [OK] を選ぶ

- ➡ メニュー画面に設定した時間が表示されます。
- ➡ 表示パネルに〈ぴっ〉が表示されます。



5 撮影する

- ➡ シャッターボタンを全押しすると、設定した時間のバルブ撮影が行われます。
- 設定を解除するときは、手順２で［**しない**］を選びます。

- バルブタイマー作動中にシャッターボタンを全押しすると、バルブタイマー撮影が終了します。
- 電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときや、動画撮影画面を表示したとき、撮影モードを〈**B**〉以外に変更したときは、バルブタイマーが解除されます（設定が［**しない**］になります）。

HDR: HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 応用

明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。

HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を撮影して、自動的に画像合成を行います。撮影したHDR画像はJPEG画質で記録されます。

＊ HDRは、High Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

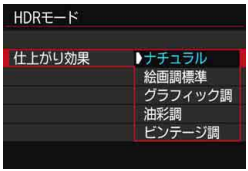
1 〈☑〉ボタンを押す

2 HDRモードを選ぶ

- ［**HDR**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ HDRモードの画面が表示されます。

3 ［Dレンジ調整］を設定する

- ダイナミックレンジの調整幅を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**自動**］を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。
- HDR撮影をやめるときは、［**HDRオフ**］を選びます。



4 ［仕上がり効果］を設定する

- 仕上がり効果を選び〈(SET)〉を押します。

● ［**3：HDRモード**］から設定することもできます。

仕上がり効果について

● **ナチュラル**

明暗差の大きいシーンで、通常は白飛びしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白飛びや黒つぶれが緩和された写真になります。

● **絵画調標準**

［**ナチュラル**］よりも白とびや黒つぶれが緩和された写真になりますが、コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

● **グラフィック調**

［**絵画調標準**］よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

● **油彩調**

最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

● **ビンテージ調**

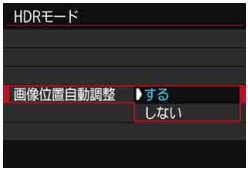
鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

	絵画調標準	グラフィック調	油彩調	ビンテージ調
彩度	標準	高い	より高い	低い
輪郭強調	標準	弱い	強い	より強い
明るさ	標準	標準	標準	暗い
階調	フラット	フラット	フラット	よりフラット

各仕上がり効果とも、設定されているピクチャースタイル（p.160）を基本にした画像特性で撮影されます。

5 ［HDR撮影の継続］を設定する

- ［**1回で終了**］または［**繰り返し**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順3で［**HDRオフ**］を選ぶまでHDR撮影が続きます。



6 ［画像位置自動調整］を設定する

- 手持ち撮影を行うときは［**する**］、三脚などを使用するときは［**しない**］を選び、〈(SET)〉を押します。

7 保存する画像を指定する

- 撮影した3枚の画像と、合成したHDR画像を保存するときは、［**全画像**］を選び〈(SET)〉を押します。
- HDR画像だけを保存するときは、［**HDR画像のみ**］を選び〈(SET)〉を押します。

8 撮影する

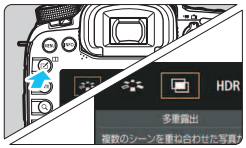
- ファインダー撮影、ライブビュー撮影で、HDR撮影を行うことができます。
- ➡ 表示パネルに〈**HDR**〉が表示されます。
- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

- RAW画質で撮影したときは、HDR画像は**L**の画質で記録されます。RAW+JPEG画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質で記録されます。
- 拡張ISO感度（H1、H2）でHDR撮影を行うことはできません。ISO100～16000の範囲でHDR撮影を行うことができます。
- HDR撮影時は、ストロボは発光しません。
- HDR撮影時は、［**歪曲収差補正**］［**2：オートライティングオプティマイザ**］［**3：高輝度側・階調優先**］［**5：露出Simulation**］の設定が自動的に［**しない**］になります。
- AEB撮影は設定できません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- HDR撮影はシャッター速度を自動的に変えて3枚の画像を撮影します。そのため、〈**Tv**/**M**〉モードでも、設定したシャッター速度を基準にシャッター速度が変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。

- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（p.359）、およびダストデリートデータ（p.407）は画像に付加されません。
- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい、または暗い露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- ［**画像位置自動調整**］を［**しない**］に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレて、HDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成するため、通常の撮影よりも画像がカードに記録されるまでの時間が長くなります。画像処理中はファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- HDR撮影設定後に撮影モードを変更したり、動画撮影への切り換えを行うと、他の機能の設定状態により、HDR撮影の設定が解除される（［**Dレンジ調整**］の設定が［**HDRオフ**］になる）ことがあります。

多重露出撮影 応用

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を撮影することができます。なお、ライブビュー撮影（p.285）のときは、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。



1 〈✍〉ボタンを押す

2 多重露出を選ぶ

- ［▣］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 多重露出の設定画面が表示されます。

3 ［多重露出撮影］を設定する

- ［**機能・操作優先**］または［**連続撮影優先**］を選び、〈SET〉を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、［**しない**］を選びます。

- **機能・操作優先**

  画像の確認を行いながら、じっくり多重露出撮影を行いたいときに適しています。連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。

- **連続撮影優先**

  動いている被写体を連続して重ね合わせるときに設定します。連続撮影を行うことができますが、撮影途中に「メニュー画面の表示」「ライブビュー表示」「撮影直後の画像確認」「画像再生」「撮影のやり直し（p.244）」はできません。

  また、撮影画像は多重露出画像のみ保存されます（多重露出画像を生成するために撮影した画像の保存はできません）。

［📷3：**多重露出**］から設定することもできます。

4 ［多重露出制御］を設定する

- 露出の重ね合わせ方を選び〈(SET)〉を押します。

- **加算**

撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。［**重ねる枚数**］に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

重ねる枚数と露出補正量の目安

「2枚：－1段」「3枚：－1.5段」「4枚：－2段」

- **加算平均**

［**重ねる枚数**］に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。

- **比較（明）／比較（暗）**

ベースになる画像と重ね合わせる画像を同じ位置で明るさ（暗さ）比較して、明るい（暗い）部分を残します。重なる色によっては、明るさ（暗さ）の割合に応じて、色が混ざり合うことがあります。

5 ［重ねる枚数］を設定する

- 枚数を選び〈(SET)〉を押します。
- 2～9枚の範囲で設定することができます。

6 保存する画像を指定する

- 重ね合わせる画像と、多重露出画像の両方を保存するときは、［**全画像**］を選び〈SET〉を押します。
- 多重露出画像だけを保存するときは、［**多重画像のみ**］を選び〈SET〉を押します。

7 ［多重露出撮影の継続］を設定する

- ［**1回で終了**］または［**繰り返し**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順3で［**しない**］を選ぶまで多重露出撮影が続きます。

残り撮影枚数

8 1枚目を撮影する

➡ ［**機能・操作優先**］設定時は、撮影した画像が表示されます。

➡ 〈▣〉が点滅します。

- 多重露出撮影の残り枚数は、ファインダー内または画面に表示される［ ］内の数値で確認することができます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（p.244）。

9 2枚目以降を撮影する

➡ [**機能・操作優先**] 設定時は、撮影した画像が重なって表示されます。

- ライブビュー撮影のときは、そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ライブビュー映像だけを表示することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。連続撮影時は、シャッターボタンを押し続けると、設定した枚数を連続撮影して停止します。

- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- [**5：アスペクト比**] は [**3：2**] に固定されます。
- 多重露出撮影時は、[**1：レンズ光学補正**] [**2：オートライティングオプティマイザ**] [**3：高輝度側・階調優先**] の設定が自動的に [**しない**] になります。
- [**3：ピクチャースタイル**] が [**オート**] に設定されているときは、[**スタンダード**] で撮影されます。
- [**機能・操作優先**] + [**加算**] の設定で撮影途中に表示される画像は、ノイズが多い状態で表示されることがありますが、設定した枚数の撮影が終わると、ノイズ低減処理が行われ、撮影途中に表示されたときよりもノイズが少ない状態で多重露出画像が記録されます。
- [**連続撮影優先**] の設定でライブビュー撮影を行ったときは、1枚目を撮影するとライブビュー機能が自動的に終了します。2枚目以降はファインダーを見ながら撮影してください。

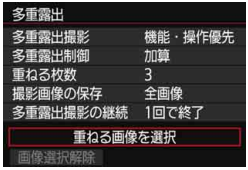
[**機能・操作優先**] のときは、撮影途中で〈▶〉ボタンを押すと、そのときまでに撮影した画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます (p.244)。

- 多重露出撮影では、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。また、ISO感度が高くなるほどノイズが増えるため、低ISO感度で撮影することをおすすめします。
- [**加算**] 設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが通常よりも長く点灯します）。
- [**機能・操作優先**] ＋ [**加算**] の設定でライブビュー撮影を行ったときは、多重露出撮影終了時にライブビュー機能が自動的に終了します。
- 手順9でライブビュー撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- [**連続撮影優先**] 設定時は、設定した枚数の撮影が終わったらシャッターボタンから指を離してください。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、電池交換、カード交換、動画撮影への切り換えを行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 撮影中に撮影モードを〈A+〉または〈C1/C2/C3〉にすると、多重露出撮影が終了します。
- カメラにパソコンやプリンターを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。

カードに記録されている画像に重ね合わせる

カードに記録されている画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択した画像の元画像はそのまま残ります。

指定できるのはRAW画像のみです。M RAW / S RAW画像、およびJPEG画像は選択できません。



1 ［重ねる画像を選択］を選ぶ

➡ カード内の画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して1枚目に設定する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［OK］を選びます。

➡ 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は［**重ねる枚数**］で設定した枚数よりも1枚少なくなります。例えば、［**重ねる枚数**］が3枚のときは、2枚撮影します。

- ［**📷3：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定して撮影した画像、アスペクト比が3：2以外の画像（p.295）、トリミング情報が付加された画像（p.443）は、1枚目に指定できません。
- ［**📷1：レンズ光学補正**］［**📷2：オートライティングオプティマイザ**］は、1枚目に指定したRAW画像の設定に関わらず、［**しない**］で撮影されます。
- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定したRAW画像と同じ設定で撮影されます。
- 1 枚目に指定した RAW 画像のピクチャースタイルがオートのときは、スタンダードで撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。

- 多重露出撮影を行ったRAW画像を選ぶこともできます。
- ［**画像選択解除**］を選ぶと指定が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去について

［**機能・操作優先**］設定時に、設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます（［**連続撮影優先**］時不可）。

この状態で〈🗑〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
保存して終了	［**撮影画像の保存：全画像**］設定時は、途中まで撮影した全画像と、多重露出画像を保存して終了します。 ［**撮影画像の保存：多重画像のみ**］設定時は、途中まで撮影した多重露出画像だけを保存して終了します。
保存しないで終了	途中まで撮影した全画像を保存しないで終了します。
前の画面に戻る	〈🗑〉ボタンを押す前の画面に戻ります。

- 多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

? こんなときは

● 記録画質に制限はありますか？

JPEGは全記録画質を選択できます。**M RAW/S RAW**のときは、多重露出画像は**RAW**で記録されます。

記録画質設定	各撮影画像	多重露出画像
JPEG	JPEG	JPEG
RAW	RAW	RAW
M RAW/S RAW	M RAW/S RAW	RAW
RAW＋JPEG	RAW＋JPEG	RAW＋JPEG
M RAW/S RAW＋JPEG	M RAW/S RAW＋JPEG	RAW＋JPEG

● カードに記録されている画像に重ね合わせたい

［**重ねる画像を選択**］で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（p.243）。なお、カードに記録されている画像同士を重ね合わせることはできません。

● ライブビュー撮影でも多重露出ができますか？

［**機能・操作優先**］設定時は、ライブビュー撮影（p.285）でも多重露出を行うことができます。ただし、［**5：アスペクト比**］は［**3：2**］に固定されます。

● 多重露出画像の画像番号はどうなりますか？

全画像を保存する設定のときは、多重露出画像を生成するために撮影した最終画像の続き番号で保存されます。

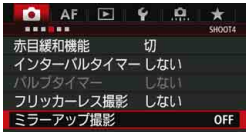
● 多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？

［**2：オートパワーオフ**］が［**しない**］以外に設定されているときは、オートパワーオフで電源が自動的に切れるまでの時間が30分になります。オートパワーオフが働くと多重露出撮影が終了し、多重露出の設定も解除されます。

なお、多重露出撮影を始める前は、カメラで設定した時間通りにオートパワーオフが働き、多重露出の設定が解除されます。

ミラーアップ撮影 応用

セルフタイマー撮影や、リモートスイッチを使用した撮影でも、カメラブレ防止に十分な効果がありますが、超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。



1 ［ミラーアップ撮影］を［する］に設定する

- ［4］タブの［**ミラーアップ撮影**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

3 もう一度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

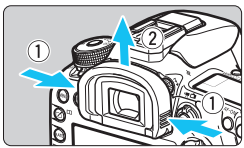
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定、メニュー操作などはできません。

- ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1枚撮影になります。
- セルフタイマー、バルブタイマーを併用することもできます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします（p.248）。
- リモートコントローラー（別売）を併用することもできます（p.248）。リモコンのスイッチを「2秒後」に設定することをおすすめします。

アイピースカバーの使い方

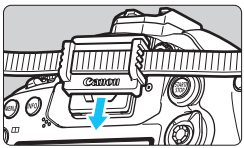
セルフタイマー撮影やバルブ撮影、リモートスイッチを使った撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.33）を使います。

なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。



1 アイカップを取り外す

- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。



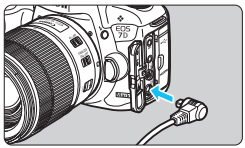
2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。
- 撮影が終わったら、アイピースカバーを取り外し、アイカップを取り付けます。

リモートスイッチ撮影

リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を備えたEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます（p.478）。

アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。



1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

リモコン撮影

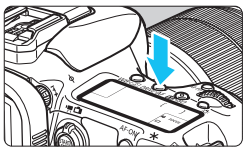
リモートコントローラー RC-6（別売）を使用すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影することができます。「すぐに撮影」と「2秒後撮影」ができます。

リモートコントローラー RC-1とRC-5を使用することもできます。

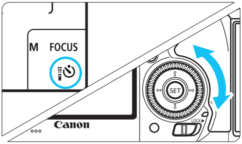
1 ピントを合わせる

2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- 〈AF〉で撮影することもできます。

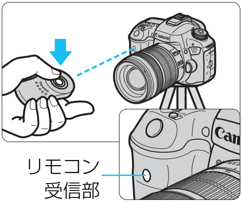


3 〈DRIVE•AF〉ボタンを押す（⏲6）



4 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◎〉を回して、〈リモコン・セルフタイマー〉または〈リモコン・セルフタイマー2〉を選びます。



5 リモコンの送信ボタンを押す

- リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押します。
- ➡ セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

- 蛍光灯やLED照明などが近くにあると、光源の影響でカメラが誤作動して、意図せずにシャッターが切れることがあります。できるだけカメラを光源から離してください。
- テレビ用のリモコンなどをカメラに向けて操作すると、カメラが誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。

リモートレリーズ機能を備えたEXスピードライトでも、リモコン撮影を行うことができます。

インターバルタイマー撮影

インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数を任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。

1 ［インターバルタイマー］を選ぶ

- ［4］タブの［**インターバルタイマー**］を選び、〈SET〉を押します（〈A⇧〉は［2］タブ）。

2 ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

3 撮影間隔、撮影回数を設定する

- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈SET〉を押して〈⇕〉の状態にします。
- 数値を設定し〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

- **撮影間隔**

［00：00：01］～［99：59：59］の範囲で設定することができます。

- **撮影回数**

［01］～［99］の範囲で設定することができます。［00］に設定したときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマーを終了するまで撮影が継続します。

4 [OK] を選ぶ

- ➡ メニュー画面に設定した内容が表示されます。
- ➡ 表示パネルに〈■■■〉が表示されます。

5 撮影する

- ➡ 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。
- ● インターバルタイマー撮影中は、〈■■■〉が点滅します。
- ● 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。

- ● 三脚の使用をおすすめします。
- ● 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- ● インターバルタイマー撮影を開始したあとでも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- ● 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。
- ● AEBやWBブラケティング、多重露出、HDRモードと組み合わせて撮影することもできます。
- ● インターバルタイマー撮影を途中で終了するときは、[**しない**] に設定するか、電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉に設定されているときは、AFでピントが合わないと撮影が行われません。〈**MF**〉に設定し、手動でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー機能を使用したライブビュー撮影、動画撮影、バルブ撮影、ミラーアップ撮影はできません。
- インターバルタイマー撮影中は、オートパワーオフ機能は作動しません。撮影時間が長くなるときは、電源にDCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッター速度が撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッター速度が撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短い時は、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。
- 電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときや、ライブビュー撮影／動画撮影画面を表示したとき、撮影モードを〈**B**〉やカスタム撮影モードにしたとき、EOS用ソフトウェアEOS Utility（p.536）を使用したときは、インターバルタイマーが解除され、設定が［**しない**］になります。
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影（p.248）やEOS用外部ストロボによるリモートレリーズ撮影はできません。
- ファインダーから目を離してインターバルタイマー撮影を行うときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.247）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

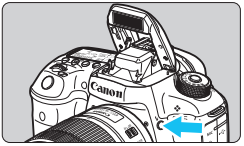
7

ストロボ撮影

この章では、内蔵ストロボ、または外部ストロボ（EX シリーズスピードライト／別売）を使った撮影、メニュー画面からストロボの設定を行う方法、内蔵ストロボを使ったワイヤレスストロボ撮影について説明しています。

- 動画撮影時はストロボは使用できません（発光しません）。
- ストロボ撮影時はAEB撮影はできません。

ϟ 内蔵ストロボを使った撮影



〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードのときは、〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけでストロボ撮影ができます。

ファインダー内に［ϟ］が表示されていることを確認してから撮影してください。撮影が終わったら、内蔵ストロボを「カチッ」と音がするまで手で押し下げて収納します。

〈A+〉モードのときは、暗いときや日中逆光時に内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。ストロボの発光有無を選択することもできます。

なお、ストロボ撮影時のシャッター速度と絞り数値は、表のようになります。

撮影モード	シャッター速度	絞り数値
A+	自動設定	自動設定
P	自動設定（1/250秒～1/60秒）	自動設定
Tv	手動設定（1/250秒～30秒）	自動設定
Av	自動設定（1/250秒～30秒）	手動設定
M	手動設定（1/250秒～30秒）	手動設定
B	シャッターボタンを押している間、またはバルブタイマー作動中、露光が行われます	手動設定

〈Av〉モードでのストロボ撮影について

手動設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。シャッター速度は、その場の明るさに応じて、1/250秒～30秒の範囲で自動設定されます。

暗い場所では、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります（自動スローシンクロ撮影）。手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。

なお、シャッター速度が遅くならないようにしたいときは、［**カメラ1：ストロボ制御**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］を［**1/250-1/60秒自動**］または［**1/250秒固定**］に設定します（p.263）。

内蔵ストロボ撮影できる距離の目安

（約・m）

ISO感度	EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM	
	広角側：F3.5	望遠側：F5.6
100	1～3.1	1～2.0
200	1～4.4	1～2.8
400	1～6.3	1～3.9
800	1.1～8.9	1～5.6
1600	1.6～12.6	1～7.9
3200	2.2～17.8	1.4～11.1
6400	3.1～25.1	2.0～15.7
12800	4.4～35.6	2.8～22.2
16000	5.0～39.9	3.1～24.9
H1（25600相当）	6.3～50.3	3.9～31.4
H2（51200相当）	8.9～71.1	5.6～44.4

- 内蔵ストロボ撮影を行うときは、レンズのフードを外して、被写体から1m以上離れてください。
- レンズにフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、内蔵ストロボの光がフードでさえぎられて、撮影した画像の下側が暗くなることがあります。
- 内蔵ストロボを手で押さえるなど、内蔵ストロボが上がりきっていない状態でストロボ撮影を行わないでください。

超望遠レンズや大口径レンズ使用時に画面の下側が暗くなるときは、外部ストロボ（別売／p.259）の使用をおすすめします。

MENU 赤目緩和機能について

ストロボ撮影をするときに赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。

1 [赤目緩和機能] を選ぶ

- [📷4] タブの [**赤目緩和機能**] を選び、〈(SET)〉を押します（〈A+〉は [📷2] タブ）。

2 [入] を選ぶ

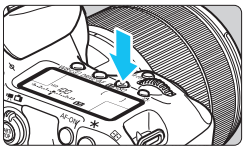
- ストロボが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが点灯します。

- 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」と効果的です。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内下の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。

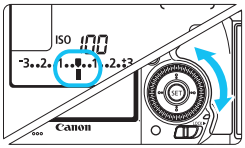
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。

ストロボ調光補正 応用

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさに写らない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。



1 **〈⚡·ISO〉ボタンを押す**（⏱6）



2 **補正量を設定する**

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◯〉を回します。
- 撮影結果が暗いときは、〈◯〉を右に回します（プラス補正）。
  撮影結果が明るいときは、〈◯〉を左に回します（マイナス補正）。
- 撮影が終わったら補正量をゼロに戻します。

明るく（プラス）補正

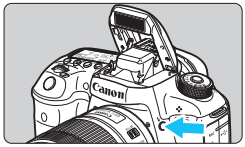
暗く（マイナス）補正

- ［**2：オートライティングオプティマイザ**］（p.175）が、［**しない**］以外に設定されているときは、露出を暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
- 外部ストロボ側（別売／ p.259）で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、外部ストロボ側の設定が優先されます。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈**OFF**〉にしても記憶されています。
- ［**1：ストロボ制御**］の［**内蔵ストロボ機能設定**］で調光補正を行うこともできます（p.262）。
- EOS 用外部ストロボ使用時も、同じ操作でカメラから外部ストロボの調光補正ができます。

✳ FEロック撮影 応用

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

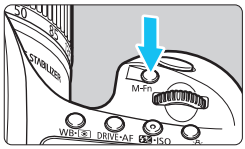


1 〈ϟ〉ボタンを押す

➡ 内蔵ストロボが上がります。

● シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる



3 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱16）

● ファインダーの中央に被写体を置いて、〈M-Fn〉ボタンを押します。

➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ*〉が点灯します。また、調光レベルが図のように反転します。

● 〈M-Fn〉ボタンを押すたびにプリ発光し、発光量が記憶されます。

4 撮影する

● 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

➡ ストロボが発光し、撮影されます。

● 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作をしてください。

● ライブビュー撮影時は、FEロックできません。

ϟ 外部ストロボを使った撮影

EOS用EXシリーズスピードライト

EXスピードライト（別売）を使用すると、内蔵ストロボと同じ感覚で、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能や、ストロボのカスタム機能を設定する方法については、262～271ページを参照してください。

クリップオンタイプストロボ

マクロストロボ

● **ストロボ調光補正**

設定方法は内蔵ストロボ使用時と同じです。257ページを参照してください。

● **FEロック**

基本的な操作方法は内蔵ストロボ使用時と同じです。258ページを参照してください。

AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS 用外部ストロボからAF補助光が自動投光されます。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

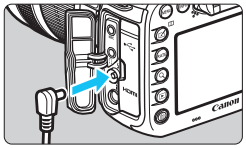
- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトをA-TTL またはTTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボ

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

シンクロ端子について



- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。端子には、コードの抜け落ちを防止するロックねじが付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関わらず、そのまま使用することができます。

ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、[**📷6：LV静音撮影**] を [**しない**] 設定にしてください（p.297）。[**モード1**] [**モード2**] に設定されていると、ストロボが発光しません。

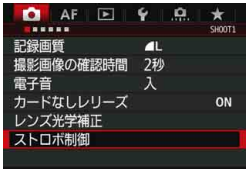
- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- シンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

MENU ストロボの機能を設定する 応用

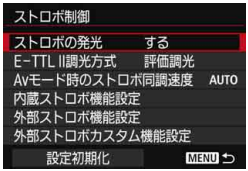
内蔵ストロボ、またはストロボ機能設定に対応したEXスピードライト（外部ストロボ）使用時は、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、外部ストロボのカスタム機能を設定することができます。

外部ストロボ使用時は、設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。なお、外部ストロボの機能については、各スピードライトの使用説明書を参照してください。



1 ［ストロボ制御］を選ぶ

- ［1］タブの［**ストロボ制御**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ ストロボ制御画面が表示されます。



2 項目を選ぶ

- 設定する項目を選び〈(SET)〉を押します。

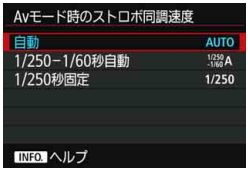
ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは、［**する**］に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、［**しない**］に設定します。

E-TTL II 調光方式

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。［**平均調光**］に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

Avモード時のストロボ同調速度



絞り優先AE（**Av**）モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

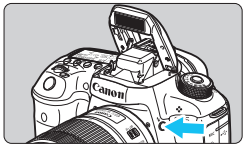
- **AUTO：自動**
  明るさに応じてシャッター速度が1/250～30秒の範囲で自動設定されます。外部ストロボ使用時は、ハイスピードシンクロを行うこともできます。

- **1/250-1/60A：1/250-1/60秒自動**
  暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

- **1/250：1/250秒固定**
  シャッター速度が1/250秒に固定されるため、［**1/250-1/60秒自動**］よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では［**1/250-1/60秒自動**］よりも被写体の背景が暗くなります。

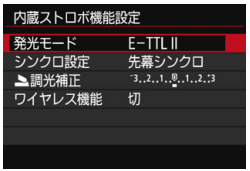
［**1/250-1/60秒自動**］［**1/250秒固定**］設定時は、外部ストロボ使用時に〈**Av**〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定画面を直接表示する



内蔵ストロボ、またはストロボ機能設定に対応したEXスピードライト（外部ストロボ）使用時に、メニュー画面が表示されていない状態で〈ϟ〉ボタンを押すと、［**内蔵ストロボ機能設定**］［**外部ストロボ機能設定**］の画面を直接表示することができます。

● 内蔵ストロボ使用時



〈ϟ〉ボタンを（2回）押す

- 一度押すと内蔵ストロボが上がります。
- もう一度押すと［**内蔵ストロボ機能設定**］の画面が表示されます。

● 外部ストロボ使用時

〈ϟ〉ボタンを押す

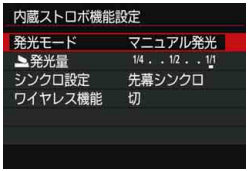
- 外部ストロボの電源が入った状態で〈ϟ〉ボタンを押すと、［**外部ストロボ機能設定**］の画面が表示されます。

- 〈ϟ〉ボタンを押してストロボ機能設定画面を表示したときは、［**ストロボの発光**］［**E-TTL II調光方式**］［**Avモード時のストロボ同調速度**］は設定できません。［**📷1：ストロボ制御**］から設定してください。
- ［**ストロボの発光**］が［**しない**］に設定された状態で〈ϟ〉ボタンを押すと、［**ストロボ制御**］の画面が表示されます（p.262）。

内蔵ストロボ機能設定

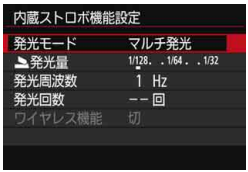
● 発光モード

通常は［**E-TTL II**］を選びます。内蔵ストロボによる自動露出撮影を行うことができます。



ストロボの発光量を自分で決めて撮影するときは、［**マニュアル発光**］を選びます。

［**発光量**］を選び1/1～1/128 の範囲（1/3段ステップ）で発光量を設定してから撮影します。上級者向けのモードです。

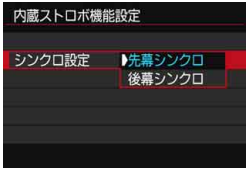


［**マルチ発光**］を選ぶと、低速シャッターで一枚の写真の中に連続した動きを分解写真のように、重ねて撮影することができます。

［**発光量**］［**発光周波数**］［**発光回数**］を設定してから撮影します。上級者向けのモードです。

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、マルチ発光による繰り返し撮影は、連続10回までにしてください。10回撮影したら、10分以上休止してください。
- マルチ発光のときは1/128～1/4発光になります。

シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回発光します。

調光補正

ストロボの発光量を1/3段ステップ±3段の範囲で調整することができます。

ワイヤレス機能

カメラの内蔵ストロボで外部ストロボを制御する、（光通信）ワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは、272ページの『ワイヤレスストロボ撮影』を参照してください。

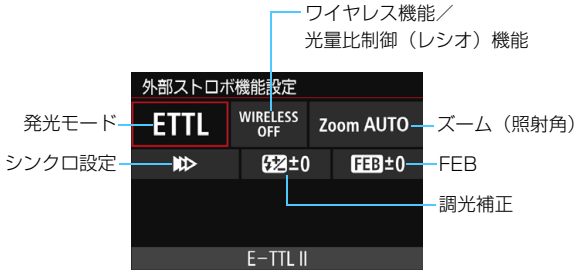
後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/25秒以下の遅い速度に設定してください。1/30秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

外部ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目は、外部ストロボの機種や設定されている発光モード、外部ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。

使用するストロボが対応している機能については、ストロボ（別売）の使用説明書を参照してください。

表示例



● **発光モード**

撮影目的に応じて発光モードを選択します。

［**E-TTL II**］は、ストロボの自動露出撮影ができる、EXスピードライトの標準的なモードです。

［**マニュアル発光**］は、ストロボの［**発光量**］を自分で決めて撮影するモードです。

その他の発光モードについては、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

ワイヤレス機能／光量比制御（RATIO）機能

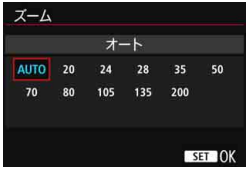
電波通信、または光通信によるワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

外部ストロボ機能設定に対応したマクロストロボ（例：MR-14EX II）使用時に、発光部A、Bの発光量の比率を設定したり、スレーブストロボを増灯したワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

ズーム（照射角）



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。通常は、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角をカメラが自動設定する［AUTO］に設定します。

● シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回発光します。

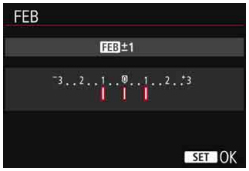
［**ハイスピード**］に設定すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロによるポートレート撮影を、絞りを優先して行いたいときに有効です。

● 調光補正

ストロボの発光量を1/3段ステップ±3段の範囲で調整することができます。

詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

● FEB



ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

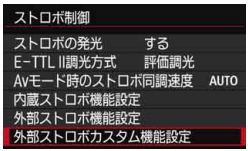
詳しくは、FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載したストロボの使用説明書を参照してください。

後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/25秒以下の遅い速度に設定してください。1/30秒以上の速い速度のときは、[**後幕シンクロ**]に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

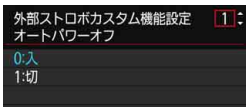
- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、[**ストロボの発光**]［**E-TTL II 調光方式**］、および［**外部ストロボ機能設定**］の［**調光補正**］のみ設定できます（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）。
- 外部ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、外部ストロボ側の設定が優先されます。

外部ストロボカスタム機能設定

外部ストロボのカスタム機能については、ストロボ（別売）の使用説明書を参照してください。



1 ［外部ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

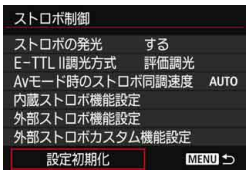


2 機能を設定する

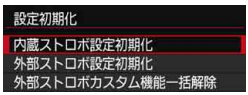
- 番号を選び〈(SET)〉を押します。
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。

EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の［**調光方式**］を［TTL］（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。

設定初期化／一括解除



1 ［設定初期化］を選ぶ



2 初期化する内容を選ぶ

- ［**内蔵ストロボ設定初期化**］［**外部ストロボ設定初期化**］［**外部ストロボカスタム機能一括解除**］のいずれかを選び、〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選ぶとストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

［**ストロボ制御**］の画面から、ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。ストロボを直接操作して設定してください。

ワイヤレスストロボ撮影 応用

このカメラの内蔵ストロボは、光通信によるワイヤレススレーブ機能を備えたEXスピードライト（外部ストロボ）を、ワイヤレス制御で発光させることができる「マスター」機能を備えています。

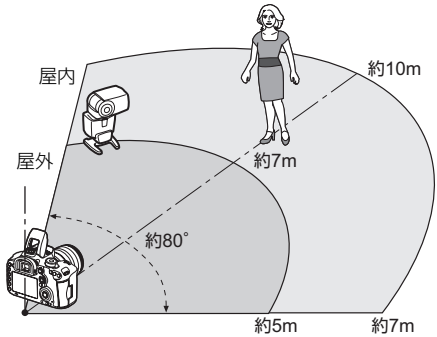
スピードライト使用説明書の、（光通信）ワイヤレスストロボ撮影に関する説明と注意も必ずお読みください。

スレーブの設定と配置

お手持ちのスピードライト（以下スレーブ）の使用説明書を参照し、スレーブに対して下記の設定を行います。なお、下記設定以外のスレーブ制御は、すべてカメラ側で行います。異なる種類のスレーブが混在していても制御することができます。

①外部ストロボをスレーブに設定する
②カメラと同じ通信チャンネルに設定する[*1]
③光量比制御を行うときは、スレーブの発光グループを設定する
④下図の範囲内にカメラとスレーブを配置する
⑤スレーブのワイヤレス受信部をカメラに向ける[*2]

ワイヤレスストロボ撮影の例



*1：通信チャンネルの設定機能がないスレーブは、カメラがどのチャンネル設定でも作動します。
*2：狭い室内では、ワイヤレス受信部がカメラに向いていなくても、カメラのワイヤレス信号が壁面などに反射して、ワイヤレス撮影ができる場合があります。発光部とワイヤレス受信部が固定されているEXスピードライトのときは、発光することを確認しながら撮影してください。

● **スレーブのオートパワーオフ解除について**

スレーブのオートパワーオフ状態を解除するときは、カメラの〈M-Fn〉ボタンを押してください。

このカメラのマスター機能で、電波通信ワイヤレスストロボ撮影を行うことはできません。

ワイヤレスストロボ撮影方法について

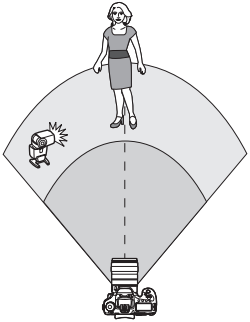
下表のワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。被写体や撮影条件、外部ストロボの台数などから撮影方法を選択してください。

	外部ストロボ			内蔵ストロボ	参照頁	設定	
	灯数	A:B 光量比	C 調光補正			ワイヤレス機能	発光グループ
全自動撮影 (E-TTL II 自動調光)	1灯	—	—	—	p.275	▶	◥全部
	1灯	—	—	使用	p.277	▶ : ◢	—
	複数	—	—	—	p.278	▶	◥全部
	複数	設定	—	—	p.279	▶	◥(A : B)
	複数	設定	設定	—	p.280	▶	◥(A : B C)
	複数	—	—	使用	p.281	▶+◢	◥全部と◢
	複数	設定	—	使用		▶+◢	◥(A : B)◢
	複数	設定	設定	使用		▶+◢	◥(A : B C)◢
	・ストロボ調光補正				p.282		
	・FEロック						

	外部ストロボ		内蔵ストロボ	参照頁	設定	
	灯数	A,B,C 発光量			ワイヤレス機能	発光グループ
マニュアル発光	1灯/複数	—	—	p.283	▶	◥全部
	複数	設定	—		▶	◥(A : B : C)
	1灯/複数	—	使用		▶+◢	◥全部と◢
	複数	設定	使用		▶+◢	◥(A : B : C)◢

内蔵ストロボを使用しない設定でも、スレーブを光通信で制御するための発光が行われます。そのため、撮影条件によっては、スレーブを制御するための発光が写真に写り込むことがあります。

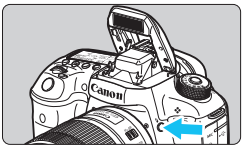
外部ストロボ1灯を使用した全自動撮影



外部ストロボを1灯使った、最も基本的な全自動ワイヤレスストロボ撮影です。

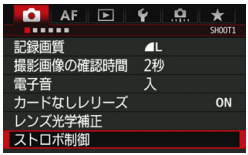
手順1～4と6の操作は、すべてのワイヤレスストロボ撮影に共通していますので、以降の説明では省略しています。

メニュー画面の〈⚡/⚡〉は外部ストロボを、〈⚡/⚡〉は内蔵ストロボを表しています。



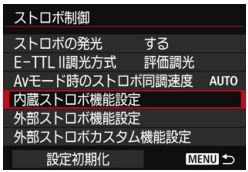
1 〈ϟ〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げる

- ワイヤレスストロボ撮影のときは、必ず内蔵ストロボを上げてください。



2 [ストロボ制御] を選ぶ

- [📷1] タブの [**ストロボ制御**] を選びます。



3 [内蔵ストロボ機能設定] を選ぶ

4 [発光モード] を [E-TTL II] に設定する

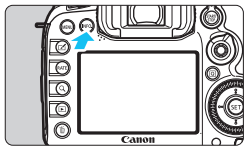
5 [ワイヤレス機能] を [ ] に設定する

6 [チャンネル] を設定する

- スレーブと同じ通信チャンネル（1～4chのいずれか）を設定します。

7 [発光グループ] を [全部] に設定する

- スレーブの発光グループ（A, B, C）設定は、どの設定でも構いません。



8 テスト発光する

- スレーブの充電を確認してから、[**内蔵ストロボ機能設定**] の画面が表示されている状態で〈**INFO.**〉ボタンを押します。

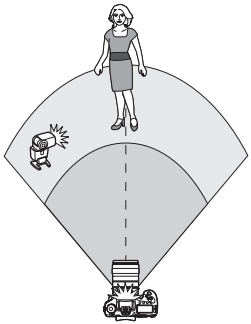
➡ スレーブが発光します。

9 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。
- ワイヤレスストロボ撮影を終了するときは、[**ワイヤレス機能**] を [**切**] に設定します。

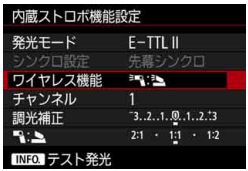
- [**E-TTL II 調光方式**] の設定は [**評価調光**] をおすすめします。
- ワイヤレスでマルチ発光撮影を行うことはできません。

外部ストロボ1灯と内蔵ストロボを使用した全自動撮影



外部ストロボ1灯と内蔵ストロボを使った全自動ワイヤレスストロボ撮影です。

外部ストロボと内蔵ストロボの光量比（発光量の割合）を変えて、被写体にできる影のでかたを調整することができます。



1 ［ワイヤレス機能］を［：］に設定する

2 光量比を設定して撮影する

- ［：］を選び、8：1～1：1の範囲で光量比を設定します。1：1より右側は、設定できません。

- 内蔵ストロボの発光量が足りないときは、ISO感度を上げてください（p.154）。
- 光量比の8：1～1：1は、露出段数換算で3：1～1：1（1/2段ステップ）に相当します。

複数の外部ストロボを使用した全自動撮影

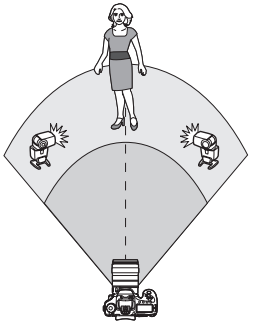
複数のスレーブを「1つのストロボとみなして発光させたり」、「グループ分けして光量比を変えて撮影」することができます。

基本設定は下記のとおりで、［**発光グループ**］の設定を変えることにより、さまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。

下記の基本設定を行う

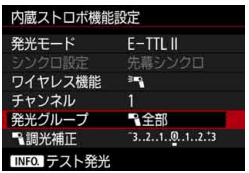
発光モード ：E-TTL II
ワイヤレス機能 ：
チャンネル ：（スレーブと同じ）

●［全部］複数のスレーブを1つのストロボとして発光させる



大きな発光量が必要なときに設定します。すべてのストロボが同じ光量で発光し、標準露出になるよう制御が行われます。

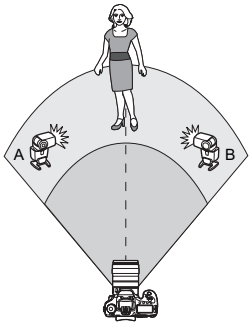
発光グループがA, B, Cのどれに設定されていても、同グループのストロボとして発光します。



1 ［発光グループ］を［全部］に設定する

2 撮影する

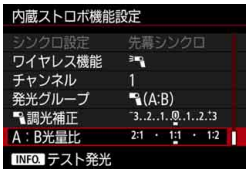
●［（A：B）］複数のスレーブをグループ分けして発光させる



スレーブをAとBの 2グループに分け、光量比を変えてライティングを調整することができます。

ストロボの使用説明書を参照し、片方のスレーブを発光グループA、もう片方のスレーブを発光グループBに設定して図のように配置します。

1 ［発光グループ］を［（A：B）］に設定する

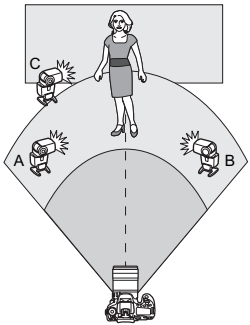


2 A：Bの光量比を設定して撮影する

- ［A：B光量比］を選び、光量比を設定します。

光量比の8：1～1：1～1：8は、露出段数換算で3：1～1：1～1：3（1/2段ステップ）に相当します。

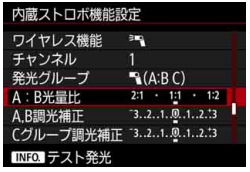
● [(A : B C)] 複数のスレーブをグループ分けして発光させる



[(A : B)] の応用です。グループA, Bの発光で被写体の後ろにできた影を、グループCの発光によって消すといったライティングを想定しています。

ストロボの使用説明書を参照し、3つのスレーブを発光グループA、発光グループB、発光グループCに設定して図のように配置します。

1 [発光グループ] を [(A : B C)] に設定する



2 A : Bの光量比とCの調光補正量を設定して撮影する

- [A : B光量比] を選び、光量比を設定します。
- [Cグループ調光補正] を選び、調光補正量を設定します。

- [発光グループ] を [(A : B)] に設定したときは、発光グループCに設定したストロボは発光しません。
- 発光グループCのストロボを主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

複数の外部ストロボと内蔵ストロボを使用した全自動撮影

278～280ページのワイヤレスストロボ撮影に、内蔵ストロボを加えることができます。

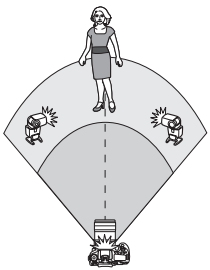
基本設定は下記のとおりで、［**発光グループ**］の設定を変えることにより、内蔵ストロボを加えたさまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。

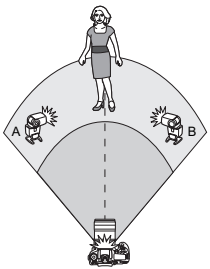
1 下記の基本設定を行う

発光モード ：E-TTL II
ワイヤレス機能 ：
チャンネル ：（スレーブと同じ）

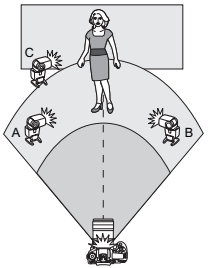
2 ［発光グループ］を設定する

- ［全部と］［(A：B)］［(A：B C)］のいずれかを選びます。
- ［(A：B)］のときは、A：Bの光量比を設定してから撮影します。
- ［(A：B C)］のときは、A：Bの光量比とCの調光補正量を設定してから撮影します。


［全部と］



［(A：B)］



［(A：B C)］

応用ワイヤレスストロボ撮影

● ストロボ調光補正

［**発光モード**］が［**E-TTL II**］のときに設定することができます。なお、設定できる調光補正の項目（下記参照）は、［**ワイヤレス機能**］と［**発光グループ**］の設定内容によって変わります。

調光補正
内蔵ストロボ、およびすべての外部ストロボに対して、調光補正量が一律に設定されます。

調光補正
内蔵ストロボに対して、調光補正を行うことができます。

調光補正
すべての外部ストロボに対して、調光補正量が一律に設定されます。

A,B調光補正
A, B両グループに対して、設定した調光補正量が一律に設定されます。

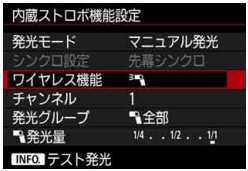
Cグループ調光補正
Cグループに対して、調光補正を行うことができます。

● FEロック

［**発光モード**］が［**E-TTL II**］のときに、〈**M-Fn**〉ボタンを押すとFEロック（p.258）を行うことができます。

発光量を手動設定したワイヤレスストロボ撮影

［**発光モード**］が［**マニュアル発光**］のときに設定することができます。なお、設定できる発光量の項目（［**発光量**］［**Aグループ発光量**］など）は、［**ワイヤレス機能**］の設定内容（下記参照）によって変わります。



ワイヤレス機能：

- **発光グループ：全部**
  すべての外部ストロボに対して、マニュアル発光量が一律に設定されます。
- **発光グループ：（A：B：C）**
  スレーブをA, B, Cの3グループに分けて、グループごとに発光量を設定することができます。

ワイヤレス機能：＋

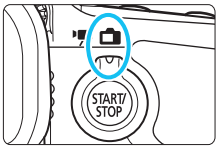
- **発光グループ：全部と**
  外部ストロボと内蔵ストロボに対して、個別に発光量を設定することができます。
- **発光グループ：（A：B：C）**
  スレーブをA, B, Cの3グループに分けて、グループごとに発光量を設定することができます。また、内蔵ストロボの発光量も設定することができます。

＋設定時の内蔵ストロボは1/4～1/128発光になります。

MEMO

8

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）



カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

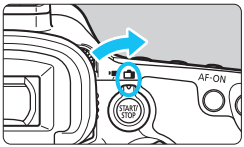
ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にすると、ライブビュー撮影ができるようになります。

- カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。

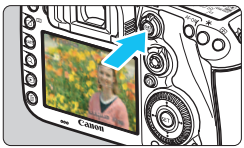
リモートライブビュー撮影について

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.536）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.539）を参照してください。

液晶モニターを見ながら撮影する



1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする

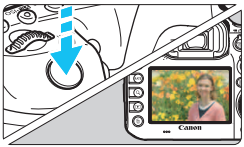


2 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式（p.299）でピント合わせが行われます。



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

- 映像の視野率は、約100%（記録画質JPEG ◢L時）です。
- 〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードのときは、絞り込みボタンを押すと被写界深度を確認することができます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。
- リモートコントローラー（別売／ p.248）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます。

ライブビュー撮影ができないときは

［5：ライブビュー撮影］を［する］に設定します（〈A+〉は［3］タブ）。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安　（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	270	260
50%ストロボ撮影	250	240

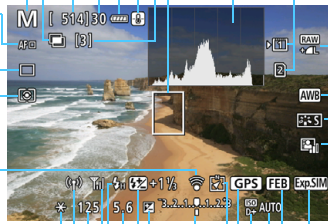
- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nでライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約2時間20分、低温（0℃）：合計約2時間10分です。

- カメラを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般の注意事項は、310〜311ページにまとめて記載しています。**

- ピント合わせは、〈AF-ON〉ボタンで行うこともできます。
- ストロボ撮影時は、シャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。また、シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間が、ファインダー撮影時より少し長くなります。
- カメラを操作しない状態が続くと、［2：オートパワーオフ］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.69）。［しない］に設定されているときは、30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- HDMIケーブル HTC-100（別売）を使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.385）。ただし、音声は出力されません。なお、テレビに映像が表示されないときは、［3：ビデオ方式］の［NTSC］［PAL］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。

情報表示について

● 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



連続撮影可能枚数
撮影可能枚数
電池チェック
温度上昇警告
HDR撮影／
多重露出撮影／
マルチショット
ノイズ低減
多重露出残り枚数
AFフレーム（ライブ1点AF）
ヒストグラム
撮影モード
記録・再生カード
AF方式
記録画質
ドライブモード
ホワイトバランス／
ホワイトバランス補正
測光モード／
ストロボの発光
（A+モード時）
ピクチャースタイル
オートライティング
オプティマイザ
Eye-Fiカード
通信状態
AEロック
露出シミュレーション
Wi-Fi機能*
AEB撮影／FEB撮影
シャッター速度
ISO感度
電波強度*
高輝度側・階調優先
ストロボ充電完了／
ストロボ発光禁止
GPS受信状態
絞り数値
電子コンパス
ストロボ調光補正
露出レベル表示
露出補正

* Wi-Fiアダプター W-E1使用説明書を参照してください。

- ヒストグラムは、［**5：露出 Simulation：する**］（p.296）のときに表示することができます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.75）。ただし、AF方式が［**+追尾優先AF**］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
- 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- マルチショットノイズ低減機能設定時、バルブ撮影時、ストロボ使用時は、〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

⚠ **警告**

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

シーン判別のアイコン一覧

撮影モードが〈A+〉のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影を行うことができます。判別したシーンは画面の左上に表示されます。なお、シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

被写体 / 背景	人物*1	人物*1 動いているとき	人物以外の被写体 自然や屋外シーン	人物以外の被写体 動いているとき	人物以外の被写体 近いとき*2	背景色
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3				*3	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時	*4*5	*3	*4*5	*3		

*1：AF方式を［+追尾優先AF］に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

*4：下記の条件がそろったときに表示されます。
「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」

*5：下記のレンズ使用時に表示されます。
・EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II　・EF-S55-250mm F4-5.6 IS II
・EF300mm F2.8L IS II USM　・EF400mm F2.8L IS II USM
・EF500mm F4L IS II USM　・EF600mm F4L IS II USM
・2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ
*4+*5：*4と*5の条件がすべてそろったときは、シャッター速度が遅くなります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。

ライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

ライブビュー撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 測光モード
- 露出（[**5：露出Simulation：する**] 設定時）
- 被写界深度（絞り込みボタンON時）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 歪曲収差補正
- 高輝度側・階調優先
- アスペクト比（撮影範囲確認）

ライブビュー撮影時の歪曲収差補正に関する注意事項は、183ページを参照してください。

撮影機能の設定

WB／◉／DRIVE／AF／⚡±／ISO／設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈WB•◉〉／〈DRIVE•AF〉／〈⚡±•ISO〉／〈✎〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈⚙〉または〈◎〉を回して撮影機能の設定を行うことができます。

- 〈WB•◉〉ボタンを押したあと〈**INFO.**〉ボタンを押すと、WB補正、WBブラケティングの設定を行うことができます。

◉（部分測光）、•（スポット測光）設定時は、画面の中央に測光範囲を示す円が表示されます。

Q クイック設定

〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードのときは、**AF方式**／**ドライブモード**／測光モード／**記録/再生カード・記録画質**／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザの設定を行うことができます。

〈A+〉モードのときは、太字の項目の他にストロボの発光の設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈✥〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の設定内容が、画面に表示されます。
- 〈⚙〉または〈◎〉を回して設定します。
- 記録画質のRAW画質設定を行うときは、〈SET〉を押します。
- 記録/再生カードの選択、WB補正/WBブラケティングの設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 〈SET〉を押すとライブビュー撮影に戻ります。

MENU メニュー機能の設定

5

ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈〉のときは、［5］［6］タブにライブビュー撮影特有の項目が表示されます（〈〉は［3］タブ）。

このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影時のみ有効です。ファインダー撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

- **ライブビュー撮影**
  ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。
- **AF方式**
  ［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］［**ライブ1点AF**］が選択できます。AF方式については、299～307ページを参照してください。
- **コンティニュアスAF**
  初期設定では［**しない**］に設定されています。
  常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。そのため、シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。なお、［**する**］設定時は、常にレンズが動作して電池を消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。
  コンティニュアスAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にするときは、ライブビュー撮影を一旦終了してから操作してください。

● **グリッド**

［**9分割** ＋］または［**24分割** ＃］で格子線を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、［**9分割+対角** ✕］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

● **アスペクト比** 応用

画像のアスペクト比（横縦比率）を［**3:2**］［**4:3**］［**16:9**］［**1:1**］から選択することができます。［**4:3**］［**16:9**］［**1:1**］のときは、撮影範囲外が黒くマスキングされた状態でライブビュー映像が表示されます。

JPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。RAW画像は、常に［**3:2**］のアスペクト比で保存されます。RAW画像には、設定したアスペクト比情報が付加され、カメラやDigital Photo Professional（p.536）で現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。なお、RAW画像をカメラで再生したときは、撮影範囲を表すアスペクト比の線が表示されます。

記録画質	アスペクト比と画素数（約）			
	3:2	4:3	16:9	1:1
L/RAW	5472×3648 （2000万）	4864×3648 （1770万）	5472×3072* （1680万）	3648×3648 （1330万）
M	3648×2432 （890万）	3248×2432* （790万）	3648×2048* （750万）	2432×2432 （590万）
M RAW	4104×2736 （1120万）	3648×2736 （1000万）	4104×2310* （950万）	2736×2736 （750万）
S1/S RAW	2736×1824 （500万）	2432×1824 （440万）	2736×1536* （420万）	1824×1824 （330万）
S2	1920×1280 （250万）	1696×1280* （220万）	1920×1080 （210万）	1280×1280 （160万）
S3	720×480 （35万）	640×480 （31万）	720×408* （29万）	480×480 （23万）

- 「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲とわずかに異なることがあります。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- アスペクト比1：1で撮影した画像を、他のカメラでダイレクトプリントすると、正常に印刷されないことがあります。

● **露出Simulation** 応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。

・**する**（Exp.SIM）

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

・**絞り込み中**（DISP／Exp.SIM）

通常は、ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。絞り込みボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。

・**しない**（DISP）

ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

6 応用

● LV静音撮影 応用

・モード1

作動音を抑えた撮影を行うことができます。連続撮影を行うこともできます。なお、〈H〉設定時は、最高約10.0コマ/秒の連続撮影を行うことができます。

・モード2

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻したときにカメラが作動するため、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影に設定していても1枚撮影になります。

・しない

TS-Eレンズ（に記載したレンズを除く）を使用して**シフトやティルト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

- ［**モード1**］で連続撮影を行ったときは、2枚目以降は［**しない**］と同じ動作で撮影が行われます。
- ストロボ撮影時は、［**LV静音撮影**］の設定に関わらず［**しない**］と同じ動作で撮影が行われます（静音撮影はできません）。
- 汎用ストロボを使用するときは、［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。
- リモートコントローラー（p.248）を使用して［**モード2**］の設定で撮影したときは、［**モード1**］と同じ動作になります。

TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II は、［**モード1**］［**モード2**］で使用することができます。

測光タイマー 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

次の操作を行うとライブビュー撮影が終了します。再開するときは、再度〈START/STOP〉ボタンを押してください。
・［3：ダストデリートデータ取得］［3：センサークリーニング］［4：カメラ設定初期化］［4：ファームウェア］を選んだとき

AFでピントを合わせる（AF方式）

AF制御方式の違いによるAF速度の変化について

ライブビュー撮影時、動画撮影時のAFは、使用するレンズの種類や、拡大表示などの機能により、AF制御方式（撮像素子による位相差検出方式／コントラスト検出方式）が自動的に切り換わります。そのため、AF速度が大きく異なったり、ピント合わせに時間がかかることがあります（一般的には位相差検出方式のほうが素早いAFピント合わせになります）。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AF方式には、［**(顔)+追尾優先AF**］（p.300）、［**ライブ多点AF**］（p.302）、［**ライブ1点AF**］（p.304）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.308）。

AF方式を選ぶ

- ［5］タブの［**AF方式**］を選びます（〈A+〉は［3］タブ）。
- AF方式を選び〈SET〉を押します。
- ライブビュー映像が表示されているときに、〈DRIVE•AF〉ボタンを押してAF方式を選ぶこともできます。

（顔）＋追尾優先AF：AF

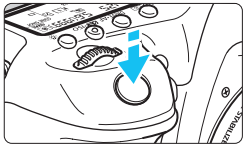
人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム〈 〉も動いて顔を追尾します。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

2 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈 〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈 〉が表示されます。〈 〉でピントを合わせたい顔に〈 〉を合わせます。
- 顔が検知できないときは、ライブ多点AFの自動選択（p.302）に切り換わります。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.286）。

● 人の顔以外にピントを合わせるとき

〈✥〉または〈(SET)〉を押すと、画面中央にAFフレーム〈[ ]〉が表示され、〈✥〉でAFフレームを移動することができます。被写体にAFフレーム〈[ ]〉を合わせたあと、構図を変更したり、被写体が動いたりすると、AFフレーム〈[ ]〉も動いて被写体を追尾します。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。［**📷5：コンティニュアスAF**］を［**する**］に設定すると、ピントが大きく外れないようにすることができます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 画面の端のほうにある顔に対してはAFができないため、〈[ ]〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、ライブ多点AFの自動選択でピント合わせが行われます。
- AFフレーム〈[ ]〉の形は、被写体の大きさや形状によって変化します。

ライブ多点AF： AF[ ]

最大31点のAFフレームを使用した広いエリアでピントを合わせることができます（自動選択）。また、そのエリアを9つのゾーンに分けてピントを合わせることもできます（ゾーン選択）。

エリア枠

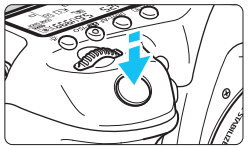
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

ゾーン枠

2 AFフレームを選ぶ 応用

- 〈✣〉または〈(SET)〉を押すたびに、自動選択とゾーン選択が切り換わります。なお、〈A+〉モードのときは自動選択に自動設定されます。
- 〈✣〉でゾーンを選択します。もう一度〈✣〉または〈(SET)〉を押すと、中央のゾーンに戻ります。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、エリア枠がオレンジ色に変わります。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.286）。

- 自動選択で意図したところにピントが合わないときは、ゾーンを選択するか、［**ライブ1点AF**］に変更してピントを合わせなおしてください。
- ［**5：アスペクト比**］の設定によってAFフレームの数が異なります。［**3：2**］のときは31点、［**4：3**］［**1：1**］のときは25点、［**16：9**］のときは21点になります。また、［**16：9**］のときはゾーンが3つになります。
- 動画撮影時は、AFフレームが21点（［**640×480**］設定時は25点）、ゾーンが3つ（［**640×480**］設定時は9つ）になります。

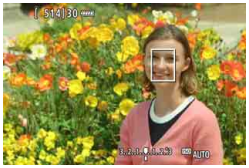
ライブ1点AF：AF □

1点のAFフレームでピント合わせを行います。狙った被写体にピントを合わせたいときに効果的です。

AFフレーム

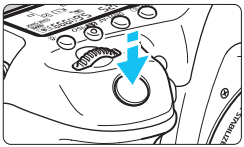
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。
- 動画撮影時に［**動画サーボ AF**］が［**する**］に設定されているときは、AFフレームが大きく表示されます。



2 AFフレームを移動する

- 〈✣〉を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈✣〉または〈(SET)〉を押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.286）。

AFに関するおことわり

AFの動作について

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- ［**+追尾優先AF**］設定時は、拡大表示できません。
- ［**ライブ多点AF**］設定時は、〈🔍〉ボタンを押すと、ゾーンの中央部分（自動選択時は画面の中央部分）が拡大表示されます。
- ［**ライブ1点AF**］設定時は、〈🔍〉ボタンを押すと、AFフレームの部分が拡大表示されます。シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままピント合わせが行われます。拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。なお、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なります。
- ［**ライブ多点AF**］［**ライブ1点AF**］設定時に、通常表示でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。

- 拡大表示中は、使用するレンズに関わらず「コントラスト検出方式」でAF制御が行われるため、AF速度が遅くなります。
- 拡大表示中、コンティニュアスAF（p.294）は行われません。
- 拡大表示中の映像は、歪曲収差補正が行われていない状態で表示されます。

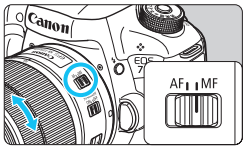
ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

- AF でピントが合わないときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行ってください。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AF フレームまたはゾーン）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- AF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、必要に応じてAF補助用のライトが点灯します。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

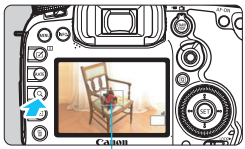
MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

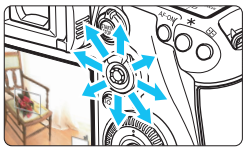
- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



拡大表示枠

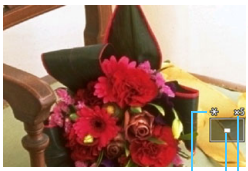
2 拡大表示枠を表示する

- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示枠が表示されます。



3 拡大表示枠を移動する

- ピントを合わせたい位置に、〈✲〉で拡大表示枠を移動します。
- 〈✲〉を押すと、拡大表示枠が画面中央に戻ります。



4 映像を拡大する

- 〈Q〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

通常表示 → 1倍 → 5倍 → 10倍

- 拡大した状態で〈✲〉を操作すると、拡大位置を変えることができます。

5 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈Q〉ボタンを押して通常表示にします。

6 撮影する

- 露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.286）。

ライブビュー撮影全般の注意事項

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、白い〈🌡〉と赤い〈🌡〉表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉または赤い〈🌡〉が表示されます。
- 白い〈🌡〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い〈🌡〉は、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、ライブビュー撮影を一時休止する、または一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈🌡〉または〈🌡〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈🌡〉が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

ライブビュー撮影全般の注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**2：液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影時は、一部のカスタム機能は機能しません（設定が無効になります）。詳しくは432～433ページを参照してください。

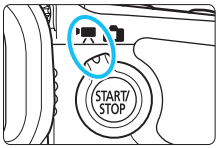
レンズとストロボについて

- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、ライブビュー撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 内蔵ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光はできません。

MEMO

9

動画を撮影する



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、動画を撮影することができます。

- 動画が記録できるカードについては、5ページを参照してください。
- カメラを手に持って動画撮影を行うと、手ブレにより、鮮明な映像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。

Full HD 1080について

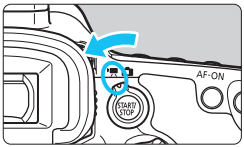
Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

FULL HD 1080

動画を撮影する

自動露出撮影

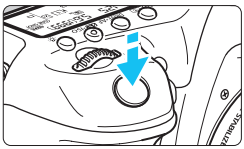
撮影モードが〈A+/P/B〉のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。なお、露出制御の内容はどの撮影モードでも同じです。



1 **モードダイヤルを〈A+/P/B〉のいずれかにする**

2 **ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする**

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。



3 **ピントを合わせる**

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.299～309）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

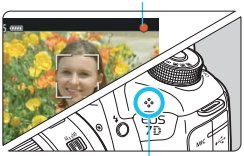
4 **動画を撮影する**

- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が始まります。

➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。

➡ 音声は内蔵マイクで記録されます。

- もう一度〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

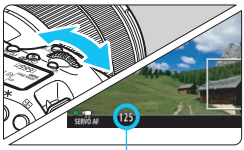


シャッター優先AE撮影

撮影モードを〈**Tv**〉に設定すると、任意にシャッター速度を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする



シャッター速度

3 シャッター速度を設定する

- 液晶モニターを見ながら〈⚙〉を回します。設定できるシャッター速度は、フレームレートにより異なります。
  - 29.97P 25.00P 24.00P 23.98P：1/4000～1/30秒
  - 59.94P 50.00P：1/4000～1/60秒

4 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです（p.314）。

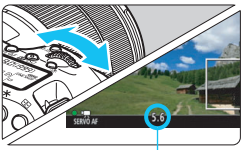
- 動画撮影中にシャッター速度の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30～1/125秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

絞り優先AE撮影

撮影モードを〈**Av**〉に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッター速度は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1 **モードダイヤルを〈Av〉にする**

2 **ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする**



絞り数値

3 **絞り数値を設定する**

- 液晶モニターを見ながら〈⚙〉を回します。

4 **ピントを合わせて撮影する**

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです(p.314)。

動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

〈A+〉モード時のISO感度について

- 〈A+〉モード時は、ISO100～16000の範囲で自動設定されます。

〈P/Tv/Av/B〉モード時のISO感度について

- ISO100～16000の範囲で自動設定されます。
- 〈**P**/**Av**/**B**〉モードで［**2：ISO感度に関する設定**］の［**ISO感度設定範囲**］の［**上限値**］を［**H1 (25600)**］に設定すると（p.157）、自動設定範囲の上限がH1（ISO25600相当）まで拡張されます。なお、［**上限値**］［**下限値**］による範囲を初期状態（ISO100～16000）から狭めても機能しません。
- ［**3：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定したときは（p.180）、ISO感度の自動設定範囲がISO200～16000になります。
- 動画撮影時は、［**2：ISO感度に関する設定**］の［**ISOオートの範囲**］［**ISOオート低速限界**］は設定できません（p.158～159）。また、〈**Tv**〉モードのときは［**ISO感度設定範囲**］は設定できません。

［**ISO感度設定範囲**］の［**上限値**］が［**H2 (51200)**］に設定されている状態で、静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影における自動設定範囲の上限がH1（ISO25600相当／〈**A+**/**Tv**〉モードを除く）になります。ISO51200相当のISO感度拡張はできません。

〈A+/P/Tv/Av/B〉モード共通事項

- 〈A+〉モードのときは、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（p.319）。
- 〈✱〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます（〈A+〉モードを除く／p.229）。［**6：測光タイマー**］の設定時間に応じて露出値が表示されます。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊡〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊡〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈LOCK▶〉スイッチを左側にして〈◎〉を回すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます（〈A+〉モードを除く）。
- シャッターボタン半押しで画面下に表示される、ISO感度、シャッター速度は、静止画撮影の露出値です（p.323）。動画撮影の露出値は表示されません。なお、動画の撮影露出と、静止画の撮影露出は異なることがあります。
- 〈A+/P/B〉モードのときは、動画の画像情報（Exif 情報）にシャッター速度と絞り数値は記録されません。

LEDライト付きEXスピードライト（別売）について

このカメラは、〈A+/P/Tv/Av/B〉モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。**詳しくは、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。**

シーン判別のアイコン一覧

〈A+〉モードで動画を撮影するときは、カメラが判別したシーンアイコンが表示され、そのシーンに応じた撮影が行われます。なお、シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

被写体 / 背景	人物*1	人物以外の被写体		背景色
		自然や屋外シーン	近いとき*2	
明るい				灰色
逆光				
青空を含む				水色
逆光				
夕景	*3		*3	オレンジ色
スポットライト				紺色
暗い				

*1：AF方式を［追尾優先AF］に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

マニュアル露出撮影

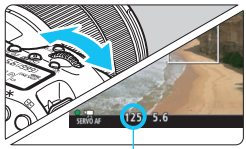
任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

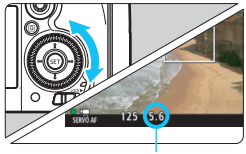
2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

3 ISO感度を設定する

- 〈ISO〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに ISO 感度の設定画面が表示されます。
- 〈◌〉を回して設定します。
- ISO感度については、次ページを参照してください。



シャッター速度



絞り数値

4 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッター速度は、〈◌〉を回して設定します。設定できる速度は、フレームレートにより異なります。
  - ・29.97P 25.00P 24.00P 23.98P：1/4000～1/30秒
  - ・59.94P 50.00P：1/4000～1/60秒
- 絞り数値は〈◌〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈LOCK▶〉スイッチを左側にしてから〈◌〉または〈◌〉を回します。

5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです（p.314）。

〈M〉モード時のISO感度について

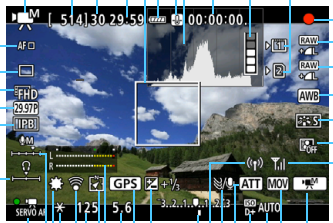
- ［Auto］（A）のときは、ISO100～16000の範囲で自動設定されます。なお、［**2：ISO感度に関する設定**］の［**ISO感度設定範囲**］の［**上限値**］を［**H1 (25600)**］に設定しても（p.157）、自動設定範囲の上限は拡張されません。また、［**上限値**］［**下限値**］による範囲を初期状態（ISO100～16000）から狭めても機能しません。
- 手動設定のときは、ISO100～16000の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。なお、［**2：ISO感度に関する設定**］の［**ISO感度設定範囲**］の［**上限値**］を［**H1 (25600)**］に設定すると、手動設定範囲の上限がH1（ISO25600相当）まで拡張されます。また、［**上限値**］［**下限値**］による範囲を初期状態（ISO100～16000）から狭めることもできます。
- ［**3：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定したときは（p.180）、ISO感度の自動／手動設定範囲がISO200～16000になります。
- 動画撮影時は、［**2：ISO感度に関する設定**］の［**ISOオートの範囲**］［**ISOオート低速限界**］は設定できません（p.158～159）。

- [**ISO感度設定範囲**]の[**上限値**]が[**H2 (51200)**]に設定されている状態で、静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影における手動設定範囲の上限がH1（ISO25600相当）になります。ISO51200相当のISO感度拡張はできません。
- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- [**3：操作ボタンカスタマイズ**]で[**SET：露出補正（押しながら）**]に設定すると(p.455)、ISOオート設定時に露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.323）で確認することができます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

情報表示について

● 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



連続撮影可能枚数
撮影可能枚数
動画撮影モード
: 自動露出（A+）
: 自動露出（P/B）
: シャッター優先
: 絞り優先
: マニュアル露出
AF方式
ドライブモード
動画記録サイズ
フレームレート
圧縮方式
ヘッドフォン音量
動画サーボAF
録音レベル・手動設定
LEDライト
AEロック
Eye-Fiカード通信状態
シャッター速度
電子コンパス
録音レベルメーター
絞り数値
GPS受信状態
露出補正
動画撮影可能時間*1／撮影経過時間
AFフレーム（ライブ1点AF）
電池チェック
温度上昇警告
ヒストグラム（Mモード時）
タイムコード
書き込みインジケーター
記録・再生カード
動画撮影中
記録画質
ホワイトバランス
ピクチャースタイル
オートライティング
オプティマイザ
電波強度*2
露出モード
: 自動露出
: シャッター優先AE
: 絞り優先AE
: マニュアル露出
MOV/MP4
ISO感度
高輝度側・階調優先
アッテネーター
ウィンドカット
Wi-Fi機能*2
露出レベル表示

*1：1回の撮影可能時間です。
*2：Wi-Fiアダプター W-E1使用説明書を参照してください。

- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.75）。
- AF方式が［**+追尾優先AF**］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（p.385）したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器を表示することはできません（水準器を表示した状態で動画撮影を開始すると、水準器が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- ［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］を［**同一書き込み**］に設定しても（p.147）、動画をCFカード［1］とSDカード［2］に同時記録することはできません。なお、［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定されているときは、［**再生**］に設定されているカードに動画が記録されます。
- 〈AWB〉で動画撮影中に、ISO 感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED 照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。
- 動画撮影中に〈Q〉ボタンを押しても、拡大表示はできません。
- 内蔵マイク（p.314）を指などでふさがないようにしてください。
- ［**マルチショットノイズ低減機能**］（p.176）、［**歪曲収差補正**］（p.182）は設定できません（機能しません）。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- **動画撮影全般の注意事項は、351～352ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて310～311ページの『ライブビュー撮影全般の注意事項』もお読みください。**

動画撮影時共通事項

- [4] [5] タブで動画撮影に関する設定を行うことができます（p.342）。〈A+〉モードのときは［2］［3］タブです。
- 1回撮影するたびに、1ファイルが記録されます。ファイルサイズが4GBを超えるときは、約4GBごとに新たなファイルが作成されます。
- 映像の視野率は約100%（動画記録サイズ FHD 時）です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- ［5：ボタンの機能］で［AF/］［/］を選ぶと、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます（p.348）。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイク（p.314）でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.23）に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。
- HDMIケーブル HTC-100（別売）を使用すると、動画撮影時の映像をテレビに表示することができます（p.385）。なお、テレビに映像が表示されないときは、［3：ビデオ方式］の［NTSC］［PAL］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- ヘッドフォン端子（p.23）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。
- リモートコントローラー RC-6（別売／p.248）を使用すると、ドライブモードが〈〉と〈〉のときに、動画撮影の開始／停止を行うことができます。撮影タイミングスイッチを〈2〉（2秒後撮影）の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、静止画撮影になります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nで動画撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間40分、低温（0℃）：合計約1時間30分です。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

⚠ 警告

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

ファイナルイメージシミュレーションについて

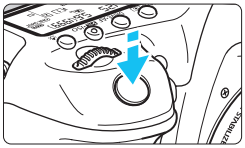
ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

動画撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出
- 被写界深度
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先

静止画を撮影する



シャッターボタンを全押しすると、動画撮影中でも静止画を撮影することができます。

動画撮影時の静止画撮影について

- 動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画の中に静止状態の映像が約 1 秒間記録されます。
- 静止画がカードに記録され、ライブビュー映像が表示されると自動的に動画撮影が再開します。
- カードには、動画ファイルと静止画ファイルが別々に記録されます。
- [**1：記録機能とカード・フォルダ選択**] の [**記録機能**]（p.146）が [**標準**] [**カード自動切り換え**] のときは、動画と静止画は同じカードに記録されます。[**振り分け**] [**同一書き込み**] のときは、動画は [**再生**]（p.148）に設定されているカード、静止画はそれぞれのカードに対する記録画質の設定通りに記録されます。
- 静止画撮影特有の機能は下記のようになります。その他の機能は動画撮影と同じです。

機能	設定内容
記録画質	[**1：記録画質**] の設定通り 動画記録サイズ [**1920×1080**] [**1280×720**] 設定時は16：9、[**640×480**] 設定時は4：3のアスペクト比で撮影
ISO感度*	・〈**A+**〉：100～6400 ・〈**P**/**Tv**/**Av**/**B**〉：100～16000 ・〈**M**〉：321ページ『〈**M**〉モード時のISO感度について』参照
露出値	・〈**A+**/**P**/**B**〉：自動設定されたシャッター速度、絞り数値 ・〈**Tv**〉：手動設定したシャッター速度、自動設定された絞り数値 ・〈**Av**〉：手動設定した絞り数値、自動設定されたシャッター速度 ・〈**M**〉：手動設定したシャッター速度、絞り数値

* 高輝度側・階調優先設定時は、ISO200～となる

- FHD 59.94P（59.94fps）、50.00P（50.00fps）設定時、および［5：ボタンの機能］が［AF/］［/］に設定されているときは、静止画撮影できません。
- 動画撮影時の静止画撮影の視野率は、FHD HD設定時：約99%、VGA設定時：約98%です（記録画質JPEG L時）。
- AEB撮影はできません。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 動画撮影中に静止画を連続撮影することができますが、連続撮影中は映像が表示されません。なお、静止画の記録画質や連続撮影する枚数、カードの性能などにより、動画撮影が自動的に停止することがあります。
- 動画撮影中にAFを行うことができますが、以下の現象が起こることがあります。
  - ・一時的にピントが大きくぼける
  - ・動画の明るさが変化して記録される
  - ・動画が一瞬停止して記録される
  - ・レンズの作動音が記録される
  - ・ピント合わせができないときは静止画撮影できない

- 動画撮影時の静止画撮影は、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- 動画撮影中に静止画を連続撮影するときは、高速タイプのカードの使用をおすすめします。また、静止画の記録画質を低くしたり、連続撮影する枚数を少なくすることをおすすめします。
- すべてのドライブモードで撮影できます。
- セルフタイマーは動画撮影開始前に有効です。動画撮影中は1枚撮影に切り換わります。

撮影機能の設定

WB／DRIVE／AF／ISO／設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈WB･〉／〈DRIVE･AF〉／〈ISO〉／〈〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈〉または〈〉で撮影機能の設定を行うことができます。

- マニュアル露出撮影時（p.320）に〈ISO〉ボタンを押すと、ISO感度を設定することができます。
- 〈WB･〉ボタンを押したあと〈**INFO.**〉ボタンを押すと、WB補正、WBブラケティングの設定を行うことができます。
- 〈〉測光モード、〈〉調光補正、〈**HDR**〉HDRモード、〈〉多重露出は設定できません。

Q クイック設定

〈**P**／**Tv**／**Av**／**M**／**B**〉モードのときは、**AF方式**／**ドライブモード**／**動画記録サイズ**／録音レベル（マニュアル設定時のみ）／**音量**（ヘッドフォン）／**記録/再生カード・記録画質**（静止画）／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザの設定を行うことができます。

〈〉モードのときは太字の項目のみ設定できます。

1 〈Q〉ボタンを押す（10）

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の設定内容が、画面に表示されます。
- 〈〉または〈〉を回して設定します。
- 動画記録サイズの設定、記録画質のRAW画像設定を行うときは、〈SET〉を押します。

- 記録/再生カードの選択、WB補正/WBブラケティングの設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 〈(SET)〉を押すと動画撮影に戻ります。

MENU 動画記録画質の設定

［**4：動画記録画質**］で、動画記録形式、動画記録サイズ（画像サイズ、フレームレート、圧縮方式）などを設定することができます（〈A+〉は［**2**］タブ）。

なお、［**動画記録サイズ**］の画面に表示されるフレームレートは、［**3：ビデオ方式**］の設定（p.491）により自動的に切り換わります。

MOV/MP4

動画の記録形式を選ぶことができます。

MOV MOV

MOV形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MOV」）。パソコンなどでの編集などに適しています。

MP4 MP4

MP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。MOV形式よりも再生互換性が高いファイル形式です。

動画記録サイズ

動画の画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を選ぶことができます。

● **画像サイズ**

FHD 1920×1080

フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

HD 1280×720

ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

VGA 640×480

標準画質で記録します。画面の横縦比は4：3です。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

29.97P 29.97fps／59.94P 59.94fps

テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

25.00P 25.00fps／50.00P 50.00fps

テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

23.98P 23.98fps／24.00P 24.00fps

主に映画関連で使用します。24.00Pについては、333ページを参照してください。

FHD 59.94P（59.94fps）、50.00P（50.00fps）で撮影した動画は、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。

動画記録サイズの画面に表示されるフレームレートは、[3:ビデオ方式]の[NTSC][PAL]の設定に応じて変わります。

● 圧縮方式

ALL-I ALL-I（編集用／I-only）

1フレーム単位で圧縮して記録します。IPB（標準）／IPB（軽量）よりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

IPB IPB（標準）

複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。ALL-I（編集用）よりもファイルサイズが小さくなるため、（同じ容量のカードであれば）撮影できる時間が長くなります。

IPB IPB（軽量）

動画記録形式が［**MP4**］に設定されているときに選択できます。IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）3つの方式の中で撮影できる時間が最も長くなります。

- FHD 59.94P（59.94fps）、50.00P（50.00fps）設定時は、一部の機能が制限されます。
  - ・動画サーボAFは機能しない
  - ・コントラスト検出方式でAF制御が行われる（ピント合わせに時間がかかることがある）
  - ・静止画撮影はできない
- ［**3：ビデオ方式**］の設定を変更したときは、再度動画記録サイズの設定を行ってください。

24.00p

フレームレートが24.00fpsの動画を撮影するときに設定します。フルHD画質での撮影になります。

［入］に設定したときは、FHD 24.00P ALL-I または FHD 24.00P IPB での撮影になります。

［**動画記録サイズ**］の設定を行ったあとで、［**24.00p**］を［**入**］にしたときは、もう一度［**動画記録サイズ**］の設定を行ってください。

［24.00p：入］設定時の注意事項

- ［**3：ビデオ方式**］は設定できません。
- ［**3：HDMI出力フレームレート**］（p.350）は設定できません。1080/24.00pで映像がHDMI出力されます。なお、1080/24.00pの信号に対応していないテレビなどにHDMI接続したときは、映像が表示されないことがあります。
- 設定を［**切**］に戻すと、［**3:HDMI出力フレームレート**］の設定が［**自動**］になります。
- 設定を［**切**］に戻しても元の動画記録サイズの設定には戻りません。再度、動画記録サイズの設定を行ってください。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

MOV形式設定時

（約）

動画記録画質			カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ
			4GB	8GB	16GB	
FHD	59.94P 50.00P	IPB	8分	17分	34分	440MB/分
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	5分	11分	23分	654MB/分
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	IPB	16分	33分	1時間7分	225MB/分
HD	59.94P 50.00P	ALL-I	6分	13分	26分	583MB/分
	59.94P 50.00P	IPB	19分	38分	1時間17分	196MB/分
VGA	29.97P 25.00P	IPB	50分	1時間41分	3時間22分	75MB/分

MP4形式設定時

（約）

動画記録画質			カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ
			4GB	8GB	16GB	
FHD	59.94P 50.00P	IPB	8分	17分	35分	431MB/分
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	5分	11分	23分	645MB/分
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	IPB	17分	35分	1時間10分	216MB/分
	29.97P 25.00P	IPB	43分	1時間26分	2時間53分	87MB/分
HD	59.94P 50.00P	ALL-I	6分	13分	26分	574MB/分
	59.94P 50.00P	IPB	20分	40分	1時間21分	187MB/分
	29.97P 25.00P	IPB	2時間5分	4時間10分	8時間20分	30MB/分
VGA	29.97P 25.00P	IPB	57分	1時間55分	3時間50分	66MB/分
	29.97P 25.00P	IPB	2時間43分	5時間26分	10時間53分	23MB/分

カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.351）。

● **ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について**

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

動画撮影を開始してから、ファイルサイズが4GBに達する約30秒前になると、動画撮影画面に表示されている撮影経過時間、またはタイムコードが点滅します。そのまま撮影を継続し、4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成され、点灯表示に戻ります。

なお、再生時は、動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● **撮影時間の制限について**

1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

動画撮影中にファイルサイズが4GBを超えるときは、少しの間、表示パネルに「**buSY**」が表示されます。「**buSY**」表示中は静止画撮影はできません。

MENU 録音の設定

内蔵のモノラルマイク、または指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

［**4：録音**］で録音に関する設定を行います（〈A+〉は［**2**］タブ）。

録音／録音レベル

オート　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

マニュアル：上級者向けの機能です。録音レベルを64段階で任意に調整することができます。

［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◯〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

しない　：録音は行われません。また、HDMI出力時（p.348）に音声は出力されません。

ウィンドカット／アッテネーター

ウィンドカット：［**入**］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。内蔵マイク使用時のみ機能します。ただし、［**入**］に設定すると、低い音の一部も低減されるため、風の影響を受けない場所では［**切**］に設定することをおすすめします。［**入**］のときよりも自然な音で録音されます。

アッテネーター：音割れを抑制する機能です。［**録音**］を［**オート**］または［**マニュアル**］に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは［**入**］に設定することをおすすめします。

● **マイクについて**

通常は内蔵マイクでモノラル録音されます。

外部マイク入力端子（p.23）に、指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。

● **ヘッドフォンについて**

ヘッドフォン端子（p.23）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）使用時は、ステレオで聴くことができます。ヘッドフォンの音量を調整するときは、〈Q〉ボタンを押して〈🎧〉を選び、〈◌〉を回して調整します（p.329）。

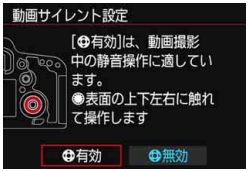
なお、動画再生時もヘッドフォンを使用することができます。

ヘッドフォン使用時の音声は、ノイズ低減処理が行われていません。そのため、実際に動画に記録される音声とは異なります。

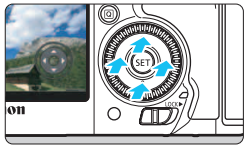
- 〈A+〉モードのときは［**録音**］：［**する**］［**しない**］になります。なお、［**する**］に設定したときは、録音レベルが自動調整されますが（［**オート**］と同じ）、ウィンドカットは行われません。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（［**録音：しない**］設定時を除く）。なお、テレビから音を出したときにハウリングが起きたときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- ヘッドフォンの音量は、〈Q〉ボタンを押したあと、〈**RATE**〉ボタンを押しながら〈✲〉を上下に操作して調整することもできます。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。
- ［**📷5：動画サイレント設定**］を［**有効**］にすると（p.338）、動画撮影中に〈✚〉（十字タッチパッド）を使って操作音を抑えながら録音レベルを調整することができます。

MENU 動画サイレント設定

動画撮影中に操作音を抑えながら、ISO感度や録音レベルなどの設定を変更することができます。



［5：動画サイレント設定］を［有効］に設定すると、サブ電子ダイヤルの内側にある、〈〉（十字タッチパッド）が機能するようになります（〈〉は［3］タブ）。



〈〉の上下左右に触れるだけで静かに操作することができます。

動画撮影中に〈〉ボタンを押して、クイック設定状態にすると、〈〉で以下の機能の設定を変更することができます。

変更可能項目	撮影モード				
		P/B	Tv	Av	M
シャッター速度	−	−	○	−	○
絞り数値	−	−	−	○	○
露出補正	−	○	○	○	○*1
ISO感度	−	−	−	−	○
録音レベル*2	−	○	○	○	○
∩音量	○	○	○	○	○

*1: ISOオート設定時／*2: [**録音：マニュアル**] 設定時

- ［5：動画サイレント設定］を［有効］に設定したときは、動画撮影中に〈〉（サブ電子ダイヤル）でクイック設定を行うことはできません。
- 〈〉で絞り数値を静かに変更しても、絞りの駆動音は動画に記録されます。
- 〈〉に水や汚れなどが付くと、動作しないことがあります。そのときは、布などできれいにふき取ってください。ふき取っても動作しないときは、しばらく経ってから操作してください。

動画撮影開始前は、［**録音レベル**］の設定で〈〉を使って録音レベルの調整を行うことができます。

MENU タイムコードの設定

タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

［**5：タイムコード**］でタイムコードの設定を行います（〈A+〉は［**3**］タブ）。

カウントアップ

レックラン：動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

フリーラン：動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

手動入力設定：「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

リセット：［**手動入力設定**］［**カメラ時間に設定**］で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります（p.341）。

カメラ時間に設定：カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

- 動画撮影中に静止画を撮影すると、実時間とタイムコードに差が生じます。
- ［**フリーラン**］設定時に時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると（p.47）、タイムコードに影響が生じます。
- MP4形式で撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

記録時間　：動画撮影時に撮影開始からの経過時間が表示されます。
タイムコード：動画撮影時にタイムコードが表示されます。

動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

記録時間　：動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。
タイムコード：動画再生時にタイムコードが表示されます。

［タイムコード］設定時

動画撮影時

動画再生時

- タイムコードは、［**動画記録カウント**］の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます。
- ［**5：タイムコード**］の［**動画再生カウント**］と［**3：動画再生カウント**］は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

HDMI

● **タイムコード**

HDMI出力(p.350)した映像にタイムコードを付加することができます。

入：HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。
切：HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

● **記録コマンド**

HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始／停止と外部記録機器の記録を同期させることができます。

入：動画撮影開始／停止と外部記録機器の記録が同期します。
切：外部記録機器側で記録開始／停止を行います。

使用する外部記録機器が［**タイムコード**］［**記録コマンド**］に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーにご確認ください。

ドロップフレーム

フレームレートが、29.97P（29.97fps）、59.94P（59.94fps）のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。この差を自動的に補正することができます。この機能を「ドロップフレーム」といいます。

する　：タイムコードを間引く補正が自動的に行われます（DF：ドロップフレーム）。
しない：補正は行われません（NDF：ノンドロップフレーム）。

なお、タイムコードは次のように表示されます。

する（DF）　：00:00:00.（再生時：00:00:00.00）
しない（NDF）：00:00:00:（再生時：00:00:00:00）

フレームレートが23.98P（23.98fps）、24.00P（24.00fps）、25.00P（25.00fps）、50.00P（50.00fps）のときは、ドロップフレームは行われません（23.98P/24.00P設定時、および［**3：ビデオ方式**］が［**PAL**］に設定されているときは、［**ドロップフレーム**］の項目は表示されません）。

MENU メニュー機能の設定

4

ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、［4］［5］タブが、動画撮影特有の項目として表示されます（〈A+〉は［2］［3］タブ）。

● **動画サーボAF**

動画撮影のときに被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。初期設定では［**する**］に設定されています。

［する］設定時

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 常にレンズが作動して電池を消耗するため、動画撮影できる時間（p.325）が短くなります。
- レンズの種類により、ピント合わせのための作動音が記録されることがあります。そのときは、指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を使用することで、低減できる場合があります。なお、EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USMレンズなどの使用時は、レンズの作動音が録音されにくくなっています。
- 動画サーボAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にするときは、ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉の位置にしてから操作してください。

! FHD 59.94P（59.94fps）、50.00P（50.00fps）設定時は、動画サーボAFは機能しません。また、コントラスト検出方式でAF制御が行われるため、ピント合わせに時間がかかることがあります。

- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、以下の方法で動画サーボAFを一時的に停止することができます。動画サーボAFを停止すると、AFフレームが灰色に変わります。もう一度同じ操作を行うと、動画サーボAFが再開します。
  - 〈⚡〉ボタンを押す
  - [📷3：操作ボタンカスタマイズ]で[AF停止]を割り当てたときは、そのボタンを押している間、動画サーボAFを停止することができます。ボタンを離すと動画サーボAFが再開します。
- 動画サーボ AF が停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

[しない]設定時

- シャッターボタンを半押しするか、〈AF-ON〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われます。

AF方式

299～307ページで説明しているAF方式と同じです。[👤+追尾優先AF][ライブ多点AF][ライブ1点AF]が選択できます。

[動画サーボAF：する]設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
  - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
  - 近距離で動いている被写体
  - 306ページの『ピントが合いにくい撮影条件』も参照してください。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

● **グリッド**

［**9分割**＃］または［**24分割**＃＃］でグリッド（格子線）を表示して、水平、垂直の傾きを撮影開始前に確認することができます。また、［**9分割+対角**＃］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図にすることができます。

なお、動画撮影中は液晶モニターにグリッドは表示されません。

● **動画記録画質**

動画記録形式（MOV／MP4）、動画記録サイズ、24.00pの設定を行うことができます。詳しくは、330ページを参照してください。

● **録音**

録音に関する設定を行うことができます。詳しくは、336ページを参照してください。

● 動画サーボAF時のAF速度 応用

動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。

この機能は［**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF方式**］が［**ライブ1点AF**］のときに設定することができます。また、この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。

作動条件： 設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（［**常時**］）、動画撮影中のみ有効にするか（［**撮影中**］）を設定することができます。

AF速度 ： 作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さから遅い方向に5段階で設定することができます。

***「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて**

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズ（例：EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM）が対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

FHD 59.94P（59.94fps）、50.00P（50.00fps）設定時は、動画サーボAFは機能しないため、この機能は設定できません。

［**AF方式**］が［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］のときは、［**標準**］に設定したときと同じ動作になります。

● 動画サーボAFの被写体追従特性 応用

動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、AFフレームが被写体から外れたときの動画サーボAFの応答特性を、5段階で調整することができます。

この機能は［**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF方式**］が［**ライブ1点AF**］のときに設定することができます。

粘る：−2／粘る：−1

AFフレームが被写体から外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。−1よりも−2のほうがより敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体にすぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

敏感：+2／敏感：+1

AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。+1よりも+2のほうがより敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

FHD 59.94P（59.94fps）、50.00P（50.00fps）設定時は、動画サーボAFは機能しないため、この機能は設定できません。

［**AF方式**］が［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］のときは、［**0**］に設定したときと同じ動作になります。

5

- **LV静音撮影** 応用
  静止画撮影用の機能です。詳しくは、297ページを参照してください。
- **測光タイマー** 応用
  露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。
- **タイムコード**
  タイムコードを設定することができます。詳しくは、339～341ページを参照してください。
- **動画サイレント設定**
  ［**有効**］にすると、動画撮影中のクイック設定時に、十字タッチパッド〈〉を使って、操作音を抑えながら設定を変更することができます。詳しくは、338ページを参照してください。

● ボタンの機能

動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。

項目	半押し	全押し
AF/📷	測光・AF	静止画撮影
⊛/📷	測光のみ	静止画撮影
AF/🎥	測光・AF	動画撮影開始・終了
⊛/🎥	測光のみ	動画撮影開始・終了

なお、[AF/🎥] [⊛/🎥] に設定すると、〈START/STOP〉ボタンだけでなく、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）で、動画撮影を開始／終了することができます（p.248）。ただし、[AF/🎥] [⊛/🎥] に設定したときは、静止画撮影（p.327）はできません。

[⚙3:操作ボタンカスタマイズ] でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は［**ボタンの機能**］の設定が優先されます。

● HDMI出力+液晶

外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。初期状態では［**同時表示しない**］に設定されています。

［同時表示しない］設定時

- HDMI出力を行ったときは、カメラの液晶モニターが消灯します。
- HDMI出力による映像に撮影情報やAFフレームなどが表示されますが、外部記録機器に接続した外部モニターなどを見ながら〈**INFO.**〉ボタンを押すと、情報なし出力を行うことができます。
- HDMI接続を行わずに、カメラの液晶モニターを見ながら〈**INFO.**〉ボタンを押しても、情報なし出力の設定はできません。
- 情報なしの映像を記録するときは、外部モニターなどで撮影情報やAFフレームなどが表示されていない（情報なし出力が行われている）ことを確認してから記録してください。

[同時表示する] 設定時

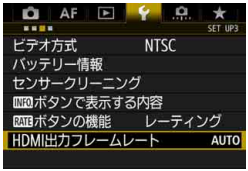
- 液晶モニターに映像を表示しながら、HDMI出力による映像表示を行うことができます。
- HDMI出力による映像には、撮影情報やAFフレームなどは表示されません（情報なし出力）。

なお、カメラを操作せずに30分以上のHDMI出力を行うときは、[**同時表示しない**]を選び、[**2：オートパワーオフ**]を[**しない**]に設定してください（p.69）。

- HDMI映像の情報なし出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇（p.351）などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。特に[**同時表示しない**]に設定されているときはご注意ください。[**同時表示する**]のときは、カメラの液晶モニターで警告を確認することができます。
- 動画撮影を行わないときは、[**2：オートパワーオフ**]の設定時間で自動的に電源が切れます。なお、[**同時表示する**]を選び、[**2：オートパワーオフ**]を[**しない**]に設定したときは、カメラを操作せずに30分経過すると、HDMI出力が停止します（動画撮影の状態が終了します）。
- [**同時表示する**]の設定で画像再生やメニュー表示を行っても、HDMI出力による映像表示は行われません。
- 外部記録機器でHDMI出力を記録しているときは、静止画撮影（p.327）を行わないようにしてください。外部記録機器によっては、タイムコードや音声が映像とズレたり、映像が乱れて記録されることがあります。
- カメラで撮影した動画とHDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさは、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、画面に表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます（p.341）。
- HDMI出力時に音声も出力されます（[**録音：しない**]設定時を除く）。

▼3



● HDMI出力フレームレート

HDMI出力時のフレームレートを［**自動**］［**59.94i/50.00i**］［**59.94p/50.00p**］［**23.98p**］から選ぶことができます。HDMI出力による映像を市販の外部記録機器に記録する際に、外部記録機器が対応するフレームレートに合わせて設定します。

［**4：動画記録画質**］の［**24.00p**］が［**入**］のときは、設定できません。

- 表示されるフレームレートの項目は、［**3：ビデオ方式**］の設定に応じて変わります。HDMI出力先の機器に映像が出力（表示）されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（出力先の機器が対応している方式に合わせてください）。
- 手動設定したフレームレートに外部記録機器が対応していないときは、フレームレートが自動設定されます。
- ［**3：HDMI出力フレームレート**］の［**59.94i**］［**59.94p**］と動画記録サイズ 23.98P（23.98fps）の組み合わせのときは、「2-3プルダウン」処理が行われます。

動画撮影全般の注意事項

カメラ内部の温度上昇に伴う、白い〈🌡〉と赤い〈🌡〉表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉または赤い〈🌡〉が表示されます。
- 白い〈🌡〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、静止画撮影を一時休止することをおすすめします。なお、動画の画質はほとんど低下しませんので、動画撮影は続けられます。
- 赤い〈🌡〉は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈🌡〉または〈🌡〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を使用すると、これらの音を録音しないように（低減）できる場合があります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- 自動露出撮影、シャッター優先 AE 撮影で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、絞り優先AE、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、（MOV/MP4形式に対応していても）再生できないことがあります。

動画撮影全般の注意事項

記録と画質について

インジケーター

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声が正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、CFカードは初期化（p.67）、SDカードは物理フォーマット（p.67~68）を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

動画撮影時の静止画撮影について

- 静止画撮影の画質については、310ページの『画質について』を参照してください。

MP4形式の動画の制約について

MP4形式の動画には、一般的に以下の制約事項がありますので、ご了承ください。

- 最後の約2フレームには、音声が記録されません。
- Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

10

画像の再生

この章では、撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 画像を再生する

1枚表示

1 画像を再生する

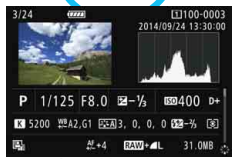
- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし

簡易情報表示



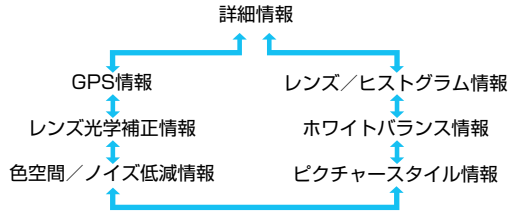
撮影情報表示

3 再生を終了する

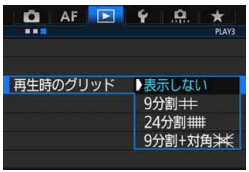
● 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

撮影情報表示について

撮影情報表示の画面（p.354）が表示されている状態で〈☼〉を上下に操作すると、画面下側の撮影情報が以下のように切り換わります。詳しくは357～358ページを参照してください。



MENU グリッド表示について



1枚表示、2枚表示（p.366）のときに、再生画像に重ねて格子線を表示することができます。

［▶3:**再生時のグリッド**］で［**9分割**］［**24分割**］［**9分割+対角**］から選ぶことができます。

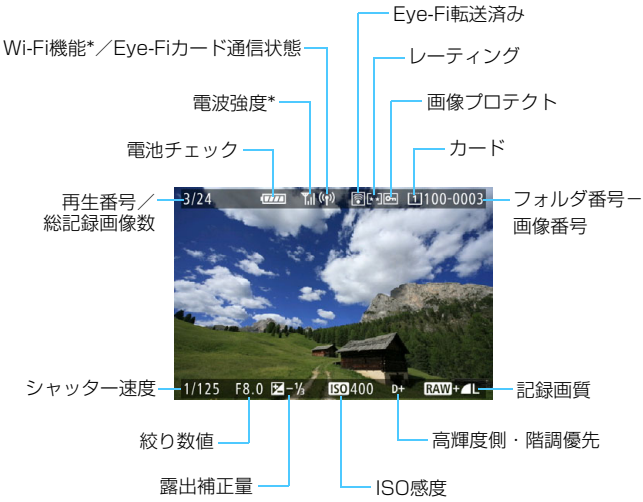
撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

動画再生時にグリッドは表示されません。

INFO.: 撮影情報の内容

静止画の例

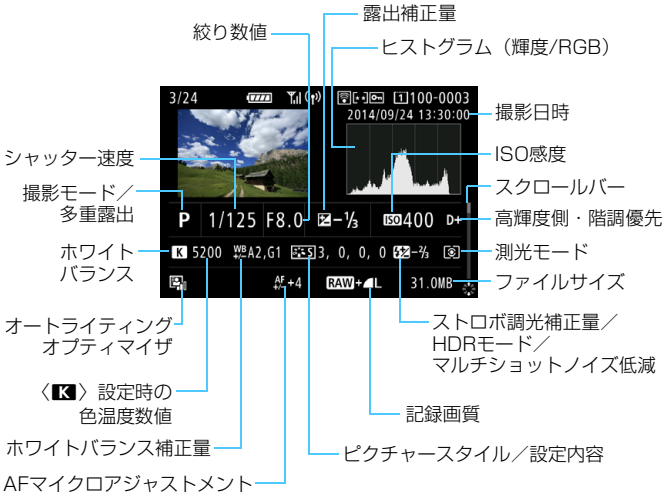
● 簡易情報表示



* Wi-Fiアダプター W-E1使用説明書を参照してください。

撮影情報表示

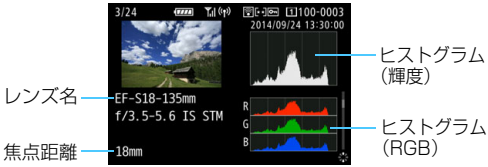
• 詳細情報



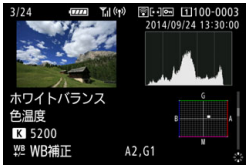
* RAW+JPEGの設定で撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、〈ϟ〉が表示されます。
* HDRモードで撮影した画像は、〈**HDR**〉とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。
* 多重露出で撮影した画像は、〈▣〉が表示されます。
* マルチショットノイズ低減機能を設定して撮影した画像は、〈NR〉が表示されます。
* 動画撮影時に撮影した静止画のときは、〈▣〉が表示されます。
* RAW現像、リサイズ処理を行って保存した画像のときは、〈◪〉が表示されます。

他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。

- **レンズ／ヒストグラム情報**



- **ホワイトバランス情報**

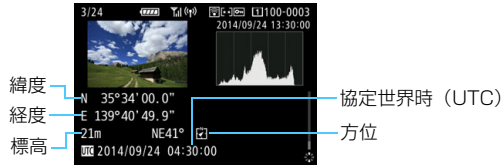


- **ピクチャースタイル情報**

- **色空間／ノイズ低減情報**

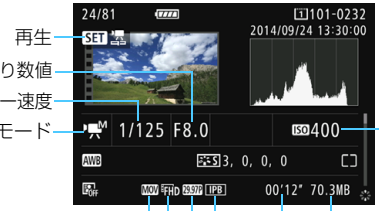
- **レンズ光学補正情報**

- **GPS情報**



画像にGPS情報が記録されていないときは、GPS情報の画面は表示されません。

動画の例



・〈A+/〉モード：シャッター速度、絞り数値、ISO感度は表示されません。
・〈〉モード：絞り数値、ISO感度は表示されません。
・〈〉モード：シャッター速度、ISO感度は表示されません。
・〈〉モード+ISOオート：ISO感度は表示されません。

● **ハイライト警告表示について**

［▶3：**ハイライト警告表示**］を［**する**］に設定すると、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● **AFフレーム表示について**

［▶3：**AFフレーム表示**］を［**する**］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。

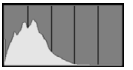
ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、[▶3：ヒストグラム]で行います。

[輝度] 表示

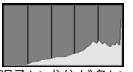
このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い

普通の明るさ



明るい成分が多い

[RGB] 表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

⊞ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚／9枚／36枚／100枚の画像を表示することができます。

1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態、または撮影準備状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 画面右下に［⊞Q］が表示されます。

2 インデックス表示にする

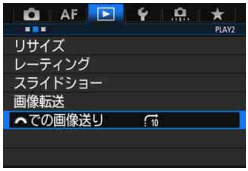
- 〈⊞〉を左に回していきます。
- ➡ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- 〈⊞〉をさらに左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。右に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。

3 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して［⊞Q］が表示されていない状態で〈⊞〉を回すと、1画面分先、または前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに〈 〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。



1 **［ での画像送り］を選ぶ**

- ［▶2］タブの［ **での画像送り**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 **ジャンプ方法を選ぶ**

- ジャンプ方法を選び〈(SET)〉を押します。
  - 1：**1枚ずつ画像表示**
  - 10：**10枚飛びに画像表示**
  - 100：**100枚飛びに画像表示**
  - ：**撮影日を切り換えて画像を表示**
  - ：**フォルダを切り換えて画像を表示**
  - ：**動画だけを表示**
  - ：**静止画だけを表示**
  - ：**プロテクト画像だけを表示**
  - ：**指定したレーティング**（p.371）**の画像を表示**

    〈 〉を回して選びます。

ジャンプ方法

再生位置

3 画像送りをする

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態で〈☆〉を回します。

➡ 設定した方法で画像が送られます。

- [**撮影日**]は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- [**フォルダ**]は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- [**動画**][**静止画**]は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- [**プロテクト**][**レーティング**]設定時に対象となる画像がないときは、〈☆〉を回しても画像送りは行われません。

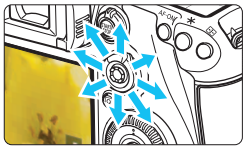
拡大する

撮影した画像を約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

拡大表示位置

1 画像を拡大する

- ①画像再生中（1枚表示）、②撮影直後の画像表示中、③撮影準備状態から拡大することができます。
- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示になります。画面右下に拡大位置と［Q］が表示されます。
- 〈メイン〉を右に回すたびに拡大します。約10倍まで拡大することができます。
- 〈メイン〉を左に回すたびに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示（p.361）になります（①③のみ）。

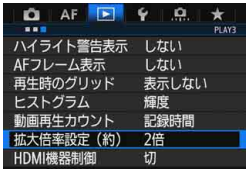


2 表示位置を移動する

- 〈✥〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈Q〉ボタンまたは〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し1枚表示になります。

- 〈◌〉を回すと拡大表示のまま画像が切り換わります（①③のみ）。
- 動画は拡大表示できません。

MENU 拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する



［▶3］タブの［**拡大倍率設定（約）**］を選ぶと、拡大表示を開始したときの、表示倍率、拡大位置を設定することができます。

- **1倍（拡大なし）**
  拡大表示は行われません。1枚表示の状態で拡大表示が始まります。
- **2倍／4倍／8倍／10倍（中央から）**
  選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。
- **等倍（任意選択合焦点から）**
  記録画像の画素を約100%で表示します。合焦したAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。
- **前回と同じ倍率（中央から）**
  前回、〈▶〉〈🔍〉ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

［**+追尾優先AF**］［**ライブ1点AF**］（p.299）で撮影した画像や、［**歪曲収差補正**］を［**する**］に設定して（p.182）撮影した画像は、［**等倍（任意選択合焦点から）**］に設定しても画面中央から拡大表示が始まります。

⊡ 画像を比較する（2枚表示）

撮影した画像を左右に並べて表示することができます。2枚表示の状態で拡大表示、ジャンプ表示、画像プロテクト、レーティング、画像消去を行うことができます。

1 2枚表示にする

- 画像を再生した状態で、〈⊡〉ボタンを押します。
- ➡ 2枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。

2 比較する画像を選ぶ

- 〈㊗〉を押すと、オレンジ色の枠が切り換わります。
- 〈◌〉を回して画像を選びます。
- この手順を繰り返して、左右の画像を選びます。
- 左右が同じ画像のときは、両方の画面の左上に［⊂⊃］が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押すと、左右の画像の拡大倍率、拡大位置を同じにすることができます（オレンジ色の枠が付いていない画像と同じ拡大設定になります）。
- 〈▶〉ボタンを押している間、オレンジ色の枠が付いている画像を1枚表示にすることができます。
- 〈⊡〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、情報表示を切り換えることができます。
- 2枚表示の状態から動画を再生することはできません。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で回転させることができます。

1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像回転**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して回転する画像を選びます。
- インデックス表示（p.361）にして選ぶこともできます。

3 画像を回転する

- 〈(SET)〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

- ［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］（p.395）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 回転した画像が再生時に回転した向きで表示されないときは、［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］に設定します。
- 動画は回転できません。

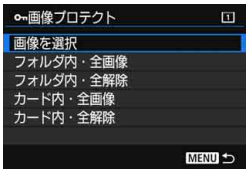
保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクト（保護）することができます。

MENU 画像を選択して1枚ずつプロテクト

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［画像を選択］を選ぶ

➡ 画像が表示されます。

3 画像を選ぶ

- 〈◯〉を回してプロテクトする画像を選びます。
- インデックス表示にして設定することもできます（p.361）。

4 プロテクトする

- 〈SET〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に〈🔑〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈🔑〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。

［▶1：**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。

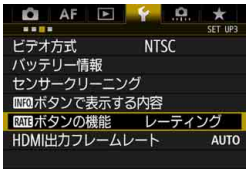
解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

カードを初期化すると（p.67）、**プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（p.393）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。
- ［**カード内・全画像**］［**カード内・全解除**］を選んだときに画像がプロテクト／解除されるカードは、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。

〈RATE〉ボタンでプロテクト

再生時に〈**RATE**〉ボタンでプロテクトすることができます。



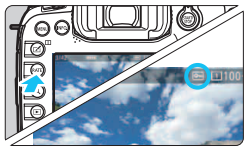
1 ［RATEボタンの機能］を選ぶ

- ［3］タブの［**RATE ボタンの機能**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［プロテクト］を選ぶ

3 画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈◯〉を回してプロテクトする画像を選びます。
- インデックス表示にして設定することもできます（p.361）。



4 プロテクトをかける

- 〈**RATE**〉ボタンを押すと画像がプロテクトされ、〈🔑〉が表示されます。
- もう一度〈**RATE**〉ボタンを押すと、プロテクトが解除され〈🔑〉が消えます。

お気に入りのレベルを設定する

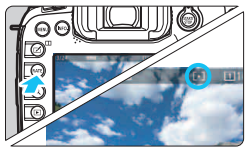
撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[*]/[**]/[***]/[****]/[*****]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

* レーティングは、「評価」や「等級」などの意味です。

〈RATE〉ボタンでレーティング

1 画像を選ぶ

- 画像を再生した状態で、〈◎〉を回してお気に入りマークを付ける画像を選びます。
- インデックス表示にして設定することもできます（p.361）。



2 お気に入り情報を付ける

- 〈RATE〉ボタンを押すたびに、レーティングが切り換わります（[*]/[**]/[***]/[****]/[*****]/なし）。
- 他にお気に入りマークを付けたい画像があるときは、手順1、2を繰り返します。

- ［🔧3：RATEボタンの機能］が［プロテクト］に設定されているときは、［レーティング］に設定してください。
- ［🔧3：RATEボタンの機能］で［レーティング］を選んで〈Q〉ボタンを押すと、〈RATE〉ボタンを押したときに選択できる（使用する）お気に入りマークを設定することができます。

MENU メニューから設定する

1 [レーティング] を選ぶ

- [▶2] タブの [**レーティング**] を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してお気に入りマークを付ける画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈◎〉を左に回していくと、3 画像表示になります。〈◎〉を右に回すと 1 枚表示に戻ります。

3 お気に入り情報を付ける

- 〈SET〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈◎〉を回してお気に入りマークを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にお気に入りを設定するマークを付けたい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

お気に入りマークの横にある数値は、3桁（999枚）までしか表示されません。1000枚を超えると、[###]と表示されます。

お気に入り情報の利用方法

- [▶2：での画像送り]で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- [▶2：スライドショー]で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生することができます。
- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.536）で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを選択することができます（静止画のみ）。
- Windows 8.1、Windows 8、Windows 7などでは、ファイルの詳細表示や、標準装備された画像表示機能で再生したときに、お気に入りマークを確認することができます（JPEG画像のみ）。

Q 再生時のクイック設定

再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら［**画像プロテクト**］［画像回転］［**★：レーティング**］［RAW/JPEG↓：RAW現像（RAW画像のみ）］［リサイズ（JPEG画像のみ）］［**ハイライト警告表示**］［**AFフレーム表示**］［**：での画像送り**］の設定を行うことができます。

なお、**動画のときは太字の項目のみ**設定できます。

1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。

➡ クイック設定の項目が表示されます。

2 項目を選んで設定する

- 〈✣〉を上下に押して、項目を選びます。

➡ 選んだ項目と設定内容が、画面下側に表示されます。

- 〈◎〉を回して設定します。
- RAW現像とリサイズは、さらに〈(SET)〉を押して設定を行います。詳しくは、『RAW現像』（p.398）と『リサイズ』（p.403）を参照してください。キャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈Q〉ボタンを押すとクイック設定が終了します。

画像回転を行うときは、[**1：縦位置画像回転表示**]を[**する** 凵]に設定してください。[**1：縦位置画像回転表示**]が[**する** 凵]**[しない]**に設定されているときは、[**画像回転**]で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1枚表示に切り換わり、クイック設定状態になります。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する (p.385)

HDMIケーブル HTC-100（別売）でカメラとテレビを接続すると、撮影した静止画や動画をテレビで再生することができます。

- ハードディスクレコーダーは、HDMI入力端子を備えていないため、HDMIケーブルでカメラとレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルでカメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する (p.378～379)

カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画を、スライドショーで自動再生することもできます。

- パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する (p.536)

カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、(カメラで撮影した動画の記録形式に対応した) OS標準のソフトウェアや汎用ソフトウェアで、動画の再生・編集を行うことができます。

市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式、MP4形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する

1 画像を再生する

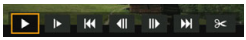
- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 動画を選ぶ

- 〈◯〉を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈SET〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈(SET)〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈(SET)〉を押す

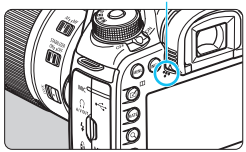
➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。



4 動画を再生する

- [▶]（再生）を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 動画再生が始まります。
- 再生中に〈(SET)〉を押すと、再生が一時停止します。
- 〈◯〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

スピーカー（音声用）



- ヘッドフォンで動画の音声を聴くときは、耳を痛めないように、音量を下げてから取り付けてください。
- 他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◌〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
✂ 編集	編集画面を表示します（p.380）。
▬▬▬	再生位置
mm'ss"	再生時間（mm'：分、ss"：秒／［**動画再生カウント：記録時間**］設定時）
hh:mm:ss.ff（DF） **hh:mm:ss:ff**（NDF）	タイムコード（hh：時、mm：分、ss：秒、ff：フレーム／［**動画再生カウント：タイムコード**］設定時）
音量	〈◌〉を回すと、内蔵スピーカー（p.378）、またはヘッドフォンの音量を調整することができます。
MENU ↩	〈MENU〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nで連続再生できる時間は、常温（+23℃）：約3時間20分です。
- ヘッドフォン端子（p.23）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画の音声を聴くことができます（p.337）。
- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（p.385）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈◌〉を回しても音量は変わりません）。なお、ハウリングが起きたときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止した映像が表示されます。

✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 画面の下に動画編集パネルが表示されます。

2 削除する範囲を指定する

- ［前部を削除］（前部を削除）か、［後部を削除］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
- 〈◈〉を左右に押すとフレームが送られます。押したままにすると早送りになります。〈◯〉を回すと1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面上部に白く表示された範囲が残ります。

3 編集内容を確認する

- ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押して確認画面で［OK］を選びます。

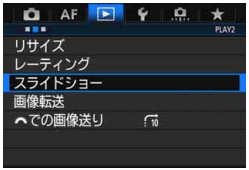
4 保存する

- [🖫] を選んで〈(SET)〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選んで、〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと、編集した動画が保存され、動画再生画面に戻ります。

- 約 1 秒単位（画面上部に［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 電池の残量が少ないときは、動画編集はできません。フル充電した電池を使用してください。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。



1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**スライドショー**］を選び、〈(SET)〉を押します。

再生する枚数

2 再生する画像を選ぶ

- 画面に示す項目を選び〈(SET)〉を押します。

全画像/動画/静止画/プロテクト

- ［**全画像**］［**動画**］［**静止画**］［**プロテクト**］のいずれかを選び〈(SET)〉を押します。

日付/フォルダ/レーティング

- ［**日付**］［**フォルダ**］［**★ レーティング**］のいずれかを選びます。
- 〈**INFO.**〉が明るく表示された状態で、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

日付

フォルダ

レーティング

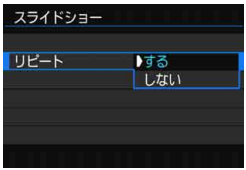
項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。
プロテクト	カード内のプロテクトされた静止画、動画だけを再生します。
★レーティング	選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。

3 ［設定］の内容を設定する

- ［**設定**］を選び〈(SET)〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と［**リピート**］（繰り返し再生）を設定します。
- 設定が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押します。

再生間隔

リピート



［**全画像**］を選んだときに画像が再生されるカードは、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。

4 スライドショーを開始する

- ［**スタート**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ ［**画像読み込み中...**］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

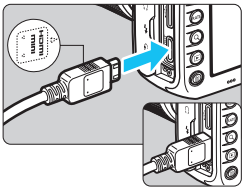
- 〈MENU〉ボタンを押すとスライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［II］が表示されます。再度〈SET〉を押すと再開します。
- 自動再生中に〈**INFO.**〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えることができます（p.354）。
- 動画再生中に〈⚙〉を回すと、音量を調節することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◎〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフ機能は働きません。
- 画像により表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、385ページを参照してください。

テレビで見る

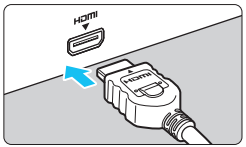
カメラとテレビをHDMIケーブル（別売）で接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

なお、テレビに映像が表示されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

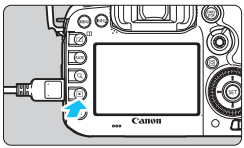


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

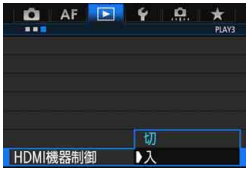
- ➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、378ページを参照してください。

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。

HDMI CEC対応のテレビについて

HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラをHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで再生操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。



1 [HDMI機器制御] を [入] にする

- [▶3] タブの [**HDMI 機器制御**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- [**入**] を選び〈(SET)〉を押します。

2 テレビとカメラを接続する

- HDMIケーブルでテレビとカメラを接続します。

➡ テレビの入力がカメラを接続したHDMI端子に自動的に切り換わります。切り換わらないときは、テレビのリモコンなどを操作して接続したHDMIの入力端子を選びます。

3 カメラの〈▶〉ボタンを押す

➡ テレビに画像が表示され、テレビのリモコンで画像が再生できるようになります。

4 画像を選ぶ

● リモコンをテレビに向けて ←/→ ボタンを押すと、画像を選ぶことができます。

5 リモコンの決定ボタンを押す

➡ メニューが表示され、左図に示す再生を行うことができます。

● ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。スライドショー選択時は、↑/↓ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押します。

● [**戻る**] を選択し決定ボタンを押すと、メニューが消え、←/→ボタンで画像が選べるようになります。

静止画再生メニュー

動画再生メニュー

- ⮌ ：戻る
- ▦ ：9枚インデックス表示
- ▶ ：動画再生
- ⛹ ：スライドショー
- **INFO.**：撮影情報の切り換え
- ⟲ ：画像回転

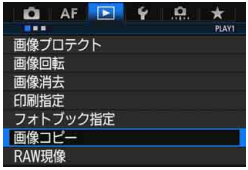
2枚表示のときは（p.366）、テレビのリモコンで再生操作はできません。〈⊞〉ボタンを押して、1枚表示にしてから操作してください。

- テレビによっては、HDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくはテレビの使用説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。そのときは、[▶3：**HDMI機器制御**] を [**切**] にして、カメラ側で操作してください。

コピーする

カード内に記録されている画像を、もう一方のカードにコピー（複製保存）することができます。

MENU 画像を1枚ずつ選んでコピーする



1 ［画像コピー］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像コピー**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［画像選択］を選ぶ

- コピー元／コピー先のカード番号と空き容量を確認します。
- ［**画像選択**］を選び〈SET〉を押します。

3 フォルダを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているフォルダを選び〈SET〉を押します。
- 画面右側に表示される画像を参考にして、フォルダを選びます。
- ➡ 選択したフォルダ内の画像が表示されます。

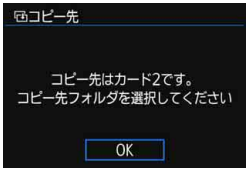
コピー元は、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。

4 コピーする画像を選ぶ

- 〈◯〉を回してコピーする画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画面左上に［✓］が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈▭〉を左に回していくと、3画面表示になります。〈▭〉を右に回すと1枚表示に戻ります。
- 他にコピーしたい画像があるときは、手順4を繰り返します。

5 〈RATE〉ボタンを押す

- 画像を選び終わったら、〈**RATE**〉ボタンを押します。

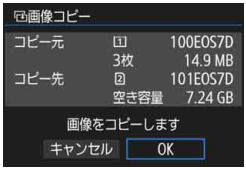


6 ［OK］を選ぶ

- コピー先のカードを確認して［OK］を選びます。

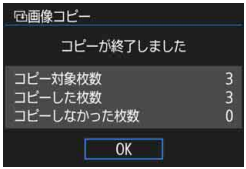
7 コピー先のフォルダを選ぶ

- 画像をコピー保存するフォルダを選び〈(SET)〉を押します。
- ［**フォルダ作成**］を選ぶと、新しいフォルダを作成することができます。



8 [OK] を選ぶ

- コピー元とコピー先の情報を確認して［OK］を選びます。



➡ コピーが始まり、コピー状況が表示されます。

- コピーが終了すると、結果が表示されます。［OK］を選ぶと手順2の画面に戻ります。

MENU フォルダ内／カード内全画像コピー

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてコピーすることができます。

［▶1：**画像コピー**］で［**選択**］または［**全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がコピーされます。

- オリジナルの画像と同じファイル名でコピーされます。
- [**画像選択**] のときに、複数フォルダ内の画像を同時にコピーすることはできません。フォルダごとに画像を選んでコピーしてください。
- コピー先のフォルダ／カードに、同じ画像番号の画像が記録されているときは、[**スキップしてコピー**] [**上書きコピー**] [**コピー中止**] が表示されます。コピー方法を選んで〈(SET)〉を押します。
  ・[**スキップしてコピー**]：画像番号が重複する画像だけコピーされません
  ・[**上書きコピー**]：画像番号が重複する画像は、コピー画像に書き換えられます（プロテクト画像を含む）
  なお、印刷指定（p.421）されている画像に対して上書きコピーを行ったときは、再度印刷指定を行ってください。
- 印刷指定情報、画像転送情報、フォトブック指定情報はコピーされません。
- コピー実行中は撮影できません。[**キャンセル**] を選んでから撮影してください。

消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.368）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 消去メニューが表示されます。

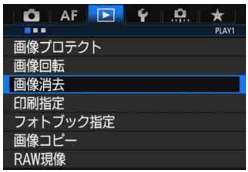
3 消去する

● ［**消去**］を選び〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

［**4：画像消去の初期設定**］を［**［消去］を選択**］に設定すると、画像を素早く消去することができます（p.444）。

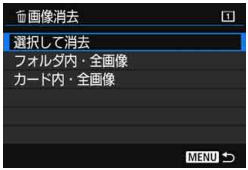
MENU チェック［✓］を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。



1 ［画像消去］を選ぶ

● ［▶1］タブの［**画像消去**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［選択して消去］を選ぶ

➡ 画像が表示されます。

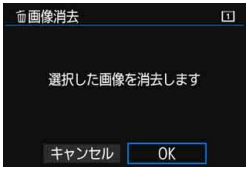
● 〈Q〉ボタンを押して〈⚙〉を左に回していくと、3 画像表示になります。〈⚙〉を右に回すと 1 枚表示に戻ります。

3 消去したい画像を選ぶ

● 〈◎〉を回して消去したい画像を選び、〈SET〉を押します。

➡ 画面の左上に［✓］が表示されます。

● 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。



4 消去する

● 〈🗑〉ボタンを押して［OK］を選びます。

➡ 選択した画像がまとめて消去されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。［▶1：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

● プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.67）。

● ［**カード内・全画像**］を選んだときに画像が消去されるカードは、［🔧1：**記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターは、周囲の明るさに応じて見やすい明るさに自動調整されます。なお、自動調整時の明るさ（明るめ／暗め）を設定したり、手動で明るさを調整することもできます。

1 ［液晶の明るさ］を選ぶ

- ［2］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ［自動］または［手動］を選ぶ

- 〈〉を回して選びます。

3 明るさを調整する

- グレーチャートを参考にして、〈〉を回して調整し〈(SET)〉を押します。
- ［**自動**］は3段階、［**手動**］は7段階に調整することができます。

自動調整

手動調整

［**自動**］のときは、サブ電子ダイヤルの左下にある丸い部分（外光センサー／p.24）を指などでふさがないようにしてください。

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.360）で確認することをおすすめします。
- 画像再生時に〈〉ボタンを押すと、手順2の画面が表示されます。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ

● ［1］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 回転表示を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

- **する**
  カメラで再生するときとパソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき
- **する**
  パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき
- **しない**
  自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示されません。

- 撮影直後に表示される画像は、自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

MEMO

11

撮影した画像を加工する

RAW画像をカメラで現像したり、JPEG画像をリサイズ（画素数を少なく）することができます。

- ページタイトル右の 応用 は、〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モード限定の機能であることを示しています。

- 他のカメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

RAW JPEG↓ RAW画像をカメラで現像する 応用

RAWで撮影した画像をカメラで現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます。RAW画像そのものは撮影時のまま、何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

なお、**M** RAW、**S** RAWで撮影した画像はカメラで現像処理できません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.536）で現像処理を行ってください。

1 ［RAW現像］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**RAW現像**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ RAWで撮影された画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

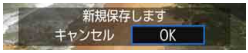
- 〈◯〉を回して現像処理を行う画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈☞〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。

3 現像処理を行う

- 〈(SET)〉を押してしばらくすると、現像処理の項目（p.400）が表示されます。
- 〈✣〉で項目を選び、〈◯〉を回すと内容が切り換わります。
- ➡「明るさ補正」や「ホワイトバランス」などは、その内容が反映された画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

設定画面表示について

- 〈SET〉を押すと、設定画面が表示されます。〈◯〉または〈☁〉を回して設定を変更します。〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。



4 保存する

- [↱]（保存）を選び〈SET〉を押します。
- [OK] を選ぶと保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他に現像処理を行いたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

拡大表示について

手順3で〈Q〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、［**RAW現像**］で設定している［**記録画質**］の画素数によって異なります。〈✥〉で拡大表示位置を変えることができます。

もう一度〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像について

アスペクト比（p.404）を［**4:3**］［**16:9**］［**1:1**］に設定して撮影した画像は、撮影範囲を表すアスペクト比の線が表示されます。RAW現像を行って生成したJPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。

現像処理の項目について

- **明るさ補正**
  1/3段ステップで±1段の明るさ補正を行うことができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **ホワイトバランス**（p.168）
  ホワイトバランスを選ぶことができます。［K］を選んだときは、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、色温度を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **ピクチャースタイル**（p.160）
  ピクチャースタイルの種類を選ぶことができます。〈**INFO.**〉ボタンを押すと、シャープネスなどの調整を行うことができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **オートライティングオプティマイザ**（p.175）
  オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **高感度撮影時のノイズ低減**（p.176）
  ノイズ低減の内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.399）で確認します。

- **記録画質**（p.149）
  JPEG画像を生成する際の記録画質を設定します。

● sRGB **色空間**（p.187）
　sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラの液晶モニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

● OFF **周辺光量補正**（p.181）
　［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.399）で画面の四隅を確認します。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

● OFF **歪曲収差補正**（p.182）
　レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
　解像感が少し低下することがありますので、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

● OFF **色収差補正**（p.182）
　レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.399）で確認します。

周辺光量補正、歪曲収差補正、色収差補正について

周辺光量補正、歪曲収差補正、色収差補正を行うには、撮影時に使用したレンズの補正データがカメラに登録されている必要があります。登録されていないときは、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.536）を使用して、レンズの補正データの登録を行ってください。

- カメラで行うRAW現像の結果と、Digital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- ［**歪曲収差補正**］を［**する**］に設定して現像を行ったときは、AFフレーム表示用の情報（p.359）、ダストデリートデータ（p.407）は画像に付加されません。

JPEG画像をリサイズする

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L**／**M**／**S1**／**S2**で撮影した画像で行うことができます。**JPEGのS3とRAWで撮影した画像は、リサイズできません。**

1 ［リサイズ］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**リサイズ**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してリサイズする画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈⚙〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。

リサイズするサイズ

3 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズを選び〈SET〉を押します。

4 保存する

- ［OK］を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ			
	M	S1	S2	S3
L	○	○	○	○
M		○	○	○
S1			○	○
S2				○

画像サイズについて

アスペクト比ごとの画像サイズは表のとおりです。なお、「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。また、画像がわずかにトリミングされます。

記録画質	アスペクト比と画素数（約）			
	3：2	4：3	16：9	1：1
M	3648×2432 （890万）	3248×2432* （790万）	3648×2048* （750万）	2432×2432 （590万）
S1	2736×1824 （500万）	2432×1824 （440万）	2736×1536* （420万）	1824×1824 （330万）
S2	1920×1280 （250万）	1696×1280* （220万）	1920×1080 （210万）	1280×1280 （160万）
S3	720×480 （35万）	640×480 （31万）	720×408* （29万）	480×480 （23万）

12

撮像素子の清掃

このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニングセンサーユニットを搭載しています。

また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.536）で、自動的に消去することができます。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミの他に、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

セルフクリーニングセンサーユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニングセンサーユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する

1 **［センサークリーニング］を選ぶ**

- ［3］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。

2 **［今すぐクリーニング］を選ぶ**

- ［**今すぐクリーニング**］を選び〈SET〉を押します。
- ［OK］を選びます。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［**今すぐクリーニング**］が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

- 手順2で［**自動クリーニング**］を選び、［**しない**］を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと〈**OFF**〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

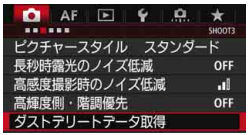
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

通常はセルフクリーニングセンサーユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができますが、除去できなかったゴミがある場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.536）で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

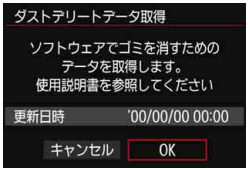
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

ダストデリートデータを取得する



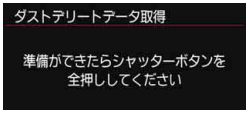
1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［📷3］タブの［**ダストデリートデータ取得**］を選び、〈(SET)〉を押します。



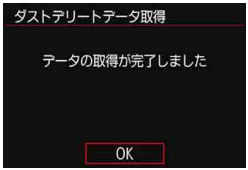
2 ［OK］を選ぶ

➡ 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。



3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。
- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK]を選んだあと、もう一度撮影します。



ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.536）による自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書（p.539）を参照してください。

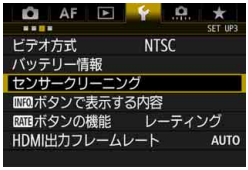
画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

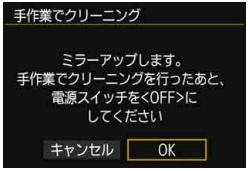
撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。



1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [3] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。

2 [手作業でクリーニング] を選ぶ



3 [OK] を選ぶ

- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

4 撮像素子を清掃する

5 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

- 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。
- バッテリーグリップ BG-E16（別売）で単3形電池を使用したときは、手作業で撮像素子の清掃はできません。

電源には、DCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）の使用をおすすめします。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池を取り出す／入れる
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

13

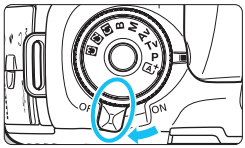
画像の印刷とパソコンへの転送

- **印刷**（p.414）
  カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。
- **画像を印刷指定する／DPOF**（p.421）
  カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。
- **パソコンに画像を送る**（p.425）
  カメラとパソコンをつないで、カメラを操作するだけで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。
- **フォトブックにする画像を指定する**（p.429）
  カードに記録されている画像の中から、フォトブックにする画像を指定することができます。

印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

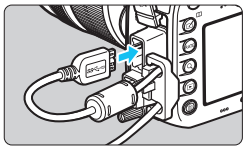
カメラとプリンターを接続する

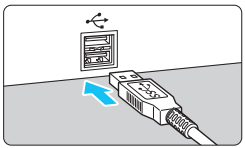


1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

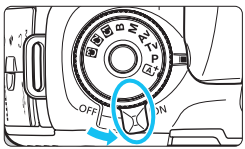




3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（p.34）、プラグの〈SS⇆⊟〉が、カメラの背面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる



5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈🖨〉が表示されます。

- プリンターにPictBridge用の接続端子があることを、あらかじめ確認してください。
- 付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.478）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.34）。
- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。表示されるエラーメッセージに対応した処置を行ってください（p.420）。
- マルチショットノイズ低減機能、HDRモードが設定されているときは、印刷できません。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約3時間印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にDCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈🖨〉が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈(SET)〉を押す

➡ 印刷設定画面が表示されます。

印刷設定画面

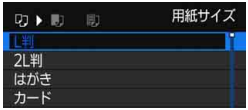
- 印刷効果を設定します（p.416）
- 日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します（p.417）
- 何枚印刷するかを設定します（p.417）
- 印刷範囲を設定します（p.419）
- 用紙のサイズ、タイプ、レイアウトを設定します（p.415）
- 手順1の画面に戻ります
- 印刷を開始します
- 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

*** プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

3 ［用紙設定］を選ぶ

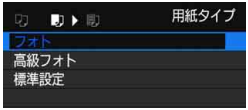
➡ 用紙設定画面が表示されます。

用紙サイズの設定



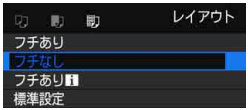
- プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 用紙タイプの設定画面が表示されます。

用紙タイプの設定



- プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ レイアウトの設定画面が表示されます。

レイアウトの設定



- 印刷レイアウトを選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面に戻ります。

フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*1を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 **35面配置**	20画像または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します*2。 ・[**20面配置**]では、撮影情報*1を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

*1：Exif情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

*2：『画像を印刷指定する／DPOF』（p.421）で印刷指定を行ったあと、『印刷指定画像のダイレクトプリント』（p.424）で印刷することをおすすめします。

4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 印刷効果を選び〈SET〉を押します。
- 〈INFO.〉が明るく表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.418）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なることがあるため、目安としてとらえてください。418ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

RAW画像、RAW+JPEG画像を大きな用紙に印刷するときは、RAW現像（p.398）を行って作成した**L**のJPEG画像を印刷するか、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.536）で印刷することをおすすめします。

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈 〉を選び〈(SET)〉を押します。
- 印刷内容を選び〈(SET)〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

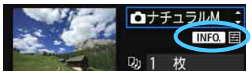
- 必要に応じて設定します。
- 〈 〉を選び〈(SET)〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈(SET)〉を押します。

7 印刷する

- [**印刷**] を選び〈(SET)〉を押します。

- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定した印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.419）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈(SET)〉を押して［OK］を選びます。
- ［**4：カメラ設定初期化**］（p.70）を行うと、設定した内容がすべて初期状態に戻ります。

印刷効果の調整について

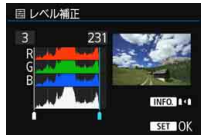


416ページの手順4で項目を選び、〈INFO.〉が明るく表示されているときに、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**



［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、〈▮〉の位置が切り換わります。〈◎〉を回すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

● ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
● ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は〈✣〉で行います。Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
● ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。

トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈 〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈 〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠の縦/横を切り換える

〈**INFO.**〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈 〉を回すと、0.5度単位、最大−10度～+10度の範囲で画像を回転することができます。回転を行うと、画面上の〈 〉が青色に変わります。

3 〈(SET)〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- 用紙の縦横比と画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、トリミングされる分、印刷に使用する画素数が少なくなるため、解像度が低い写真になることがあります。
- 拡張ISO感度（H1、H2）で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。
- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示してトリミングを行うと、枠が適切に表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈(SET)〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー
用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー
インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

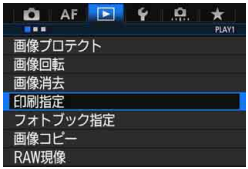
ハードウェアエラー
用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー
選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

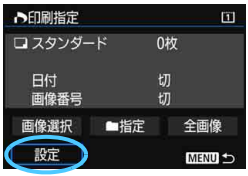
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する



1 ［印刷指定］を選ぶ

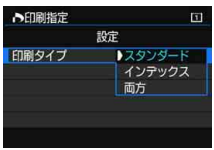
- ［▶1］タブの［**印刷指定**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［設定］を選ぶ

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。



印刷タイプ

日付

画像番号

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4 設定を終了する

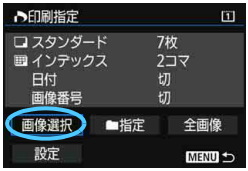
- 〈MENU〉 ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。

- 次に印刷指定画面の [**画像選択**] [**■指定**] [**全画像**] で、印刷する画像を指定します。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。RAW画像は、PictBridge (p.411) で印刷することができます。
- [**日付**] [**画像番号**] を [**入**] にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- [**インデックス**] に設定したときは、[**日付**] と [**画像番号**] を同時に [**入**] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

印刷する画像を指定する

● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈Q〉ボタンを押して〈◯〉を左に回していくと、3画像表示になります。〈◯〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。

〈**MENU**〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

スタンダード／両方

〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◯〉を回すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

インデックス

〈(SET)〉を押して［✓］を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

● ■指定

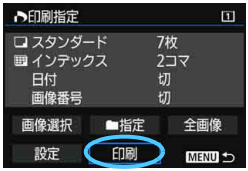
［**フォルダ内の全画像を指定**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**フォルダ内の全画像指定を解除**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**カード内の全画像指定を解除**］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- ■指定、全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント



印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

- 412ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶1] タブの［印刷指定］を選ぶ

3 ［印刷］を選ぶ

- ［**印刷**］は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 ［用紙設定］の内容を設定する（p.414）

- 印刷効果（p.416）は必要に応じて設定します。

5 ［OK］を選ぶ

- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- ［**フチあり**］にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。
- ［**レベル補正**］の［**手動**］は選択できません。

- 印刷を中止したあと、残りの画像を印刷するときは、［**再開**］を選びます。ただし、次のときは印刷の再開はできません。
  ・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  ・インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
  ・印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、420ページを参照してください。

パソコンに画像を送る

カメラとパソコンをつないで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。この機能を「ダイレクト画像転送」といいます。

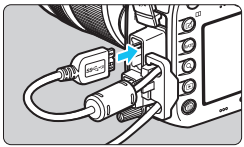
画像転送の操作は、カメラの液晶モニターに表示される画面を見ながら、カメラ側で行います。

パソコンに送られた画像は、［**ピクチャ**］または［**マイピクチャ**］フォルダに、撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

カメラとパソコンを接続する前に、EOS Utilityをパソコンにインストールしてください（p.538）。

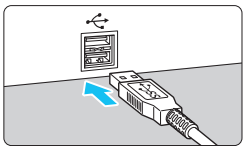
画像転送の準備

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

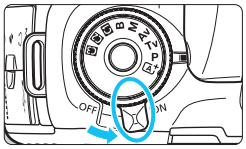


2 カメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（p.34）、プラグの〈SS⇆▭〉がカメラの背面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。



付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.478）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.34）。



3 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

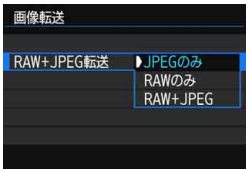
- パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、[**EOS Utility**]を選びます。

➡ パソコンにEOS Utilityの画面が表示されます。

EOS Utilityの画面が表示されたあと、EOS Utilityを操作しないでください。
EOS Utilityのメイン画面以外が表示された状態では、428ページの手順5で［**ダイレクト転送**］が表示されません（パソコンへの画像転送ができません）。

- EOS Utilityの画面が表示されないときは、EOS Utility使用説明書（p.539）を参照してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってからプラグの側面を持って引いてください。

MENU RAW+JPEGで撮影した画像を転送するとき



RAW+JPEGで撮影した画像は、どの画像を転送するかを設定することができます。

次ページの手順2で［**RAW+JPEG転送**］を選び、［**JPEGのみ**］［**RAWのみ**］［**RAW+JPEG**］から選びます。

MENU 転送する画像を選択する

● 画像選択

1 [画像転送] を選ぶ

● [▶2] タブの [**画像転送**] を選び、〈(SET)〉を押します。

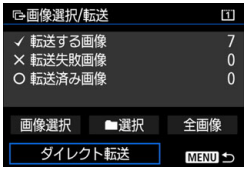
2 [画像選択/転送] を選ぶ

3 [画像選択] を選ぶ

4 転送する画像を選ぶ

● 〈◯〉を回して転送する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
● 〈◯〉を回して画面の左上に［✓］を表示させ、〈(SET)〉を押します。
● 〈Q〉ボタンを押して〈◯〉を左に回していくと、3画像表示になります。〈◯〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。
● 他に転送したい画像があるときは、手順4を繰り返します。

● [**画像選択**] を選んだときに、画面の左上に表示されるマークで転送履歴を確認することができます（マークなし：未選択画像、✓：転送する画像、×：転送失敗画像、○：転送済み画像）。
● 426ページの [**RAW+JPEG転送**]、および上記の手順1～4の操作は、カメラとパソコンが接続されていない状態でも行うことができます。



5 画像を転送する

- パソコンの画面にEOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認します。
- [**ダイレクト転送**]を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で[OK]を選ぶと、画像がパソコンに転送されます。
- [**選択**][**全画像**]で選択した画像も、この操作で転送します。

- **選択**

[**選択**]を選び、[**フォルダ内の未転送画像を選択**]を選びます。フォルダを選択すると、そのフォルダに入っている、パソコンに転送していないすべての画像が選択されます。

[**フォルダ内の転送失敗画像を選択**]を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗した画像が選択されます。

[**フォルダ内の転送履歴をクリア**]を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから、[**フォルダ内の未転送画像を選択**]を選ぶと、フォルダに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。

- **全画像**

[**全画像**]を選び、[**カード内の未転送画像を選択**]を選ぶと、カードに記録されている、パソコンに転送していないすべての画像が選択されます。

[**カード内の転送失敗画像を選択**][**カード内の転送履歴をクリア**]の内容は、「**選択**」を参考にしてください。

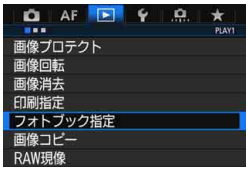
- パソコンの画面にEOS Utilityのメイン画面以外が表示されているときは、[**ダイレクト転送**]は表示されません。
- 画像転送中は操作できないメニュー項目があります。

- 動画を転送することもできます。
- 画像転送中も撮影を行うことができます。

フォトブックにする画像を指定する

フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定



1 **［フォトブック指定］を選ぶ**

- ［▶1］タブの［**フォトブック指定**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 **［画像を選択］を選ぶ**

3 **指定する画像を選ぶ**

- 〈◯〉を回して指定する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈◯〉を左に回していくと、3画像表示になります。〈◯〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。
- 他に転送したい画像があるときは、手順3を繰り返します。指定した枚数が画面に表示されます。

フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて指定することができます。

［▶1：**フォトブック指定**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が指定されます。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

- RAW画像と動画は指定できません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

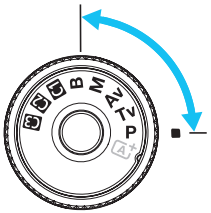
14

カメラをカスタマイズする

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これを「カスタム機能」といいます。

また、現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈C1/C2/C3〉に登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードで設定・機能します。



MENU カスタム機能一覧 応用

1：Exposure（露出）

		LV撮影	動画撮影
露出設定ステップ	p.434	○	○
ISO感度設定ステップ		○	**M**時
ブラケティング自動解除		○	（静止画：WB-BKT時）
ブラケティング順序	p.435	○	
ブラケティング時の撮影枚数		○	
セイフティシフト	p.436	○	
絞り数値変化時の露出維持	p.437	○	

2：Exposure/Drive（露出・ドライブ）

シャッター速度の制御範囲の設定	p.438	○	○
絞り数値の制御範囲の設定		○	○
連続撮影速度	p.439	○	（静止画）

▭ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

3：Disp./Operation（表示・操作）

		LV撮影	動画撮影
フォーカシングスクリーン	p.440		
ファインダー内警告の項目	p.441		
ライブビュー撮影範囲表示		○	
Tv/Av値設定時のダイヤル回転	p.442	○	○
マルチ電子ロック		○	○
操作ボタンカスタマイズ		設定により異なる	

4：Others（その他）

トリミング情報の付加	p.443	○	
画像消去の初期設定	p.444	（再生時）	
電源オフ時のレンズ収納		○	○

5：Clear（解除）

［5：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

［5：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を行っても、［3：**フォーカシングスクリーン**］［3：**操作ボタンカスタマイズ**］の設定内容は解除されません。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

撮影スタイルに応じて、[📷] タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

C.Fn1：Exposure（露出）

露出設定ステップ

1/3：1/3段

1/2：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

［1/2段］設定時の露出レベル表示は図のようになります。

ISO感度設定ステップ

1/3：1/3段

1/1：1段

［1段］設定時もISO16000に設定することができます。

ブラケティング自動解除

ON：する

電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、AEB、WBブラケティングの設定が解除されます。また、ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBの設定が解除されます。

OFF：しない

電源スイッチを〈**OFF**〉にしても、AEB、WBブラケティングの設定が解除されないようになります（ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています）。

ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0−+：0→−→+

−0+：−→0→+

+0−：+→0→−

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0：標準露出	0：基準ホワイトバランス	0：基準ホワイトバランス
−：マイナス補正	−：ブルー寄りに補正	−：マゼンタ寄りに補正
+：プラス補正	+：アンバー寄りに補正	+：グリーン寄りに補正

ブラケティング時の撮影枚数

AEB、およびWBブラケティング時の撮影枚数を初期設定の3枚から、2枚/5枚/7枚に変更することができます。

［**ブラケティング順序**：0→−→+］設定時は、下表のように撮影されます。

3：3枚

2：2枚

5：5枚

7：7枚

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3：3枚	標準（0）	−1	+1				
2：2枚	標準（0）	±1					
5：5枚	標準（0）	−2	−1	+1	+2		
7：7枚	標準（0）	−3	−2	−1	+1	+2	+3

［**2枚**］設定時は、AEB レベルを設定するときに補正方向（＋または−）を選ぶことができます。WB ブラケティング設定時は、B/A 方向、または M/G 方向のマイナス補正になります。

セイフティシフト

OFF：しない

Tv/Av：Tv値/Av値

シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）モードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

ISO：ISO感度

プログラムAE（**P**）、シャッター優先AE（**Tv**）、絞り優先AE（**Av**）モードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定したISO感度をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

- ［**2：ISO感度に関する設定**］で、［**ISO感度設定範囲**］［**ISOオート低速限界**］が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、［**ISOオートの範囲**］の設定によります（p.158）。ただし、手動設定されているISO感度が［**ISOオートの範囲**］を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

絞り数値変化時の露出維持

〈**M**〉モード（マニュアル露出撮影）＋ISO感度任意設定時に（ISOオート以外）、①レンズを交換したとき、②エクステンダーを装着または取り外したとき、③開放絞り数値が変化するズームレンズを使用したときは、開放絞り数値が大きい数値（小絞り側）に変化することがあります。そのままの露出設定で撮影を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、露出アンダー（露出不足）になりますが、ISO感度、またはシャッター速度（Tv値）を自動的に変更して、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。

OFF：しない

露出を維持するための自動変更は行われません。設定したISO感度、シャッター速度、絞り数値で撮影されます。①②③を行って開放絞り数値が暗くなったときは、ISO感度、シャッター速度を調整してから撮影してください。

ISO：ISO感度

①②③を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、ISO感度が自動的に高くなり、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。

Tv：Tv値

①②③を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、シャッター速度が自動的に遅くなり、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。

- マクロレンズ使用時の（撮影倍率の変更による）実効絞り数値の変化には対応していません。
- 動画撮影時は機能しません。
- ［**ISO感度**］設定時に、［**ISO感度設定範囲**］で設定した範囲内で露出が維持できないときは、設定した範囲内でISO感度の自動変更が行われます。
- ［**Tv値**］設定時に、［**2：シャッター速度の制御範囲の設定**］で設定した範囲内で露出が維持できないときは、設定した範囲内でシャッター速度の自動変更が行われます。
- ①②③を行い、露出維持が行われている状態で（電源スイッチを〈**OFF**〉にするなど）カメラの電源が切れたときは、基準となる露出が電源が切れた時の値に更新されます。

- この機能は最大絞り数値（最小絞り）の変化にも対応しています。
- [ISO感度] [Tv値] の設定で①②③を行ったあと、ISO感度、シャッター速度、絞り数値を任意に変更せずに①②③を行う前の状態に戻すと、露出設定が元の状態に戻ります。
- [ISO感度] 設定時に、拡張ISO感度に達したときは、露出維持のためシャッター速度が変化することがあります。

C.Fn2：Exposure/Drive（露出・ドライブ）

シャッター速度の制御範囲の設定

シャッター速度の制御範囲を設定することができます。〈**Tv**/**M**〉モードのときは設定した範囲でシャッター速度を手動設定することができます。〈**P**/**Av**〉モードのときは設定した範囲でシャッター速度が自動設定されます。

高速側

1/8000～15秒の範囲で設定することができます。

低速側

30秒～1/4000秒の範囲で設定することができます。

絞り数値の制御範囲の設定

絞り数値の制御範囲を設定することができます。〈**Av**/**M**/**B**〉モードのときは、設定した範囲で絞り数値を手動設定することができます。〈**P**/**Tv**〉モードのときは設定した範囲で絞り数値が自動設定されます。

小絞り側

F91～F1.4の範囲で設定することができます。

開放側

F1.0～F64の範囲で設定することができます。

絞り数値の制御範囲は、使用するレンズの最小絞り数値と開放絞り数値により異なります。

連続撮影速度

〈H〉高速連続撮影、〈L〉低速連続撮影、〈S〉静音連続撮影時の連続撮影速度を設定することができます。

高速連続撮影

10～2コマ/秒の範囲で設定することができます。

低速連続撮影

9～1コマ/秒の範囲で設定することができます。

静音連続撮影

4～1コマ/秒の範囲で設定することができます。

［**4：フリッカーレス撮影**］が［**する**］に設定されているとき（p.185）や、［**自動選択：EOS iTR AF**］が［**する**］に設定されているとき（p.128）などは、設定した連続撮影速度で撮影できないことがあります。

C.Fn3：Disp./Operation（表示・操作）

フォーカシングスクリーン

撮影用途にあわせて別売のフォーカシングスクリーンに交換することができます。

適切な露出で撮影するため、フォーカシングスクリーンを交換したときは、スクリーンのタイプに応じて必ず設定を変更してください。

Std. :L Eh-A

標準装備されています。プレシジョンマットタイプの標準フォーカシングスクリーンです。

Eh-S :P Eh-S

標準フォーカシングスクリーンEh-Aよりもピントの山がつかみやすい、スーパープレシジョンマットタイプのフォーカシングスクリーンです。レンズの開放絞り数値がF2.8までの明るいレンズに最適化されています。手動ピント合わせに適しています。

なお、F2.8より暗いレンズを使用すると、Eh-A装着時よりもファインダーが暗くなります。

- ［**5：カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選んでも、設定内容は解除されません。
- フォーカシングスクリーンの交換方法については、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。なお、フォーカシングスクリーンがホルダーと一緒に降りてこないときは、カメラを手前に起こしてください。

ファインダー内❗警告の項目

以下の機能が設定されているときに、ファインダー視野内と表示パネルに〈❗〉を表示することができます（p.26～27）。
警告表示を行う対象を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

モノクロ設定時
ピクチャースタイルが［**モノクロ**］（p.162）に設定されているときに、警告表示を行います。

ホワイトバランス補正時
ホワイトバランス補正（p.172）が設定されているときに、警告表示を行います。

ワンタッチ記録画質切り換え時
ワンタッチ記録画質切り換え機能（p.456）で、記録画質が変更されているときに、警告表示を行います。

設定時
［**3：高感度撮影時のノイズ低減**］が［**マルチショットノイズ低減機能**］に設定されているときに（p.176）、警告表示を行います。

スポット測光設定時
測光モードが［**スポット測光**］（p.225）に設定されているときに、警告表示を行います。

［✓］を付けた機能を設定したときは、撮影機能の設定状態（p.60、469）に表示される各設定項目にも〈❗〉が表示されます（マルチショットノイズ低減機能設定時を除く）。

ライブビュー撮影範囲表示

ライブビュー撮影でアスペクト比（p.295）を、［**4：3**］［**16：9**］［**1：1**］に設定したときの、撮影範囲の表示方法を設定することができます。

：マスクで表示
：線で表示

Tv/Av値設定時のダイヤル回転

：通常

：設定方向を反転

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転することができます。

撮影モードが〈**M**〉のときは〈メイン〉〈サブ〉、それ以外の撮影モードでは〈メイン〉の設定方向が反転します。〈**M**〉モード時に〈サブ〉を操作したときの設定方向と、〈**P**/**Tv**/**Av**〉モード時に〈サブ〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

マルチ電子ロック

〈LOCK▶〉スイッチを右側にすると、〈メイン〉〈サブ〉〈マルチコントローラー〉〈測距エリア選択レバー〉による不用意な設定の変更を防止することができます。

ロックしたときに操作を禁止する部材を選び、〈SET〉を押して［✓］を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

メイン電子ダイヤル

サブ電子ダイヤル

マルチコントローラー

測距エリア選択レバー

- ロックした状態で禁止した部材を操作すると、ファインダー内と表示パネルに〈**L**〉、撮影機能の設定状態（p.60）の画面に［**LOCK**］が表示されます。
- 初期状態でロックしたときは、〈サブ〉がロックされます。
- 〈サブ〉に［✓］を付けてロックしても、〈十字タッチパッド〉（十字タッチパッド）による操作はロックされません。

操作ボタンカスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。詳しくは445ページを参照してください。

C.Fn4：Others（その他）

トリミング情報の付加

トリミング情報の設定を行うと、ライブビュー撮影時に設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、4×5inchなど、中判／大判カメラと同じ構図で撮影することができます。

撮影を行うと、EOS用ソフトウェアでトリミングを行うための縦横比の情報が、画像に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。

パソコンに画像を取り込み、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.536）を使用すると、撮影時に設定した縦横比で簡単にトリミングすることができます。

OFF：しない
6:6 ：比率6：6
3:4 ：比率3：4
4:5 ：比率4：5（六切）
6:7：比率6：7
5:6：比率5：6（四切）
5:7：比率5：7

- ［**5：アスペクト比**］が［**3：2**］以外に設定されているときは、トリミング情報は画像に付加されません。
- ファインダー撮影時もトリミング情報が付加されますが、トリミング範囲は確認できません。
- トリミング情報が付加されたRAW画像を、カメラのRAW現像機能でトリミングすることはできません。

画像消去の初期設定

画像再生時や撮影直後の画像表示中に〈🗑〉ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが（p.392）、そのときに［**キャンセル**］と［**消去**］のどちらが選択されているかを設定することができます。

［**消去**］に設定したときは、〈(SET)〉を押すだけで画像を素早く消去することができます。

：［キャンセル］を選択

：［消去］を選択

［**消去**］に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

電源オフ時のレンズ収納

ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）をカメラに取り付けているときの、レンズ収納に関する設定です。カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときに、前方に繰り出しているレンズを自動的に収納するかどうかを設定することができます。

ON：する

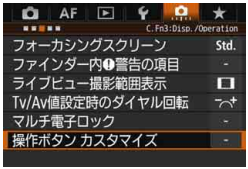
OFF：しない

- オートパワーオフのときは設定に関わらず、レンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

［**する**］設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF／MF）に関わらず機能します。

3: 操作ボタンカスタマイズ 応用

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。



1 [3：操作ボタンカスタマイズ] を選ぶ

- [3] タブの [**操作ボタンカスタマイズ**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 操作部材の選択画面が表示されます。

2 操作部材を選ぶ

- 操作部材を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 操作部材の名称と、割り当てできる機能が表示されます。

3 機能を割り当てる

- 機能を選び〈SET〉を押します。
- 画面左下に INFO. マークが表示される機能は、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

4 設定を終了する

- 〈SET〉を押して設定が終了すると、手順2の画面に戻ります。
- 〈**MENU**〉ボタンを押して設定を終了します。

手順2の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、設定内容を初期化することができます。なお、[3：**操作ボタンカスタマイズ**] の設定は、[5：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**] を選んでも解除されません。

操作部材に対して割り当てできる機能の一覧

		機能	参照頁		AF-ON	✳
AF	AF	測光・AF開始	450	○	○*1	○*1
	AF-OFF	AF停止	452		○	○
	AF↔	登録AF機能に切り換え				
	ONE SHOT AI SERVO↔	ワンショット⇄AIサーボ			○	○
	HP	登録AFフレームに移動				
	SEL↔HP	選択⇄中央/登録AFフレーム切り換え	453			
		AFフレームダイレクト選択				
		AFフレームダイレクト選択：縦方向				
		測距エリアダイレクト選択				
露出		測光開始	454	○		
	✳	AEロック			○	○
	✳	AEロック（押している間）		○		
	✳H	AEロック（ホールド）			○	○
	✳AF-OFF	AEロック・AF停止			○	○
	FEL	FEロック			○	○
	ISO	ISO感度設定（押しながら）	455			
	ISO	ISO感度設定（倒しながら）				
	ISO	ISO感度設定（測光中）				
	±	露出補正（押しながら）				
	±	露出補正（倒しながら）				
	Tv	Mモード時、シャッター速度変更				
	Av	Mモード時、絞り数値変更	456			

	LENS*	M-Fn	SET				
	○						
○	○						
○*2	○*2						
○	○						
○*3	○*3						
							○*4
					○	○*5	
					○		
							○
○	○	○					○
○	○	○					○
○		○					
			○				
							○
					○		
			○				
							○
				○	○		
				○	○		

* AF ストップボタン（LENS）は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されています。

		機能	参照頁		AF-ON	
画像	RAW JPEG	ワンタッチ記録画質切換	456			
	RAW JPEG H	ワンタッチ記録画質切換（ホールド）				
		記録画質選択				
		ピクチャースタイル選択	457			
操作		絞り込み	457			
		手ブレ補正機能作動				
	MENU	メニュー表示				
		撮影機能の登録と呼出			○*7	○*7
		画像の再生	458			
		拡大/縮小（SETボタン+）				
		・ISO／Drive・AF／WB・切換				
	UNLOCK	押している間、ロック解除				
		ストロボ機能設定				
	OFF	無効			○	○

	LENS *	M-Fn	SET				
○*6		○*6					
○*6		○*6					
			○				
			○				
○							
○	○						
			○				
			○				
			○				
		○					
○							
			○				
○			○	○	○	○	○

* AF ストップボタン（LENS）は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されています。

AF：測光・AF開始

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光とAFを行います。

*1：〈AF-ON〉ボタン、〈✱〉ボタンのときは、設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、AF機能の詳細設定を行うことができます。撮影時に〈AF-ON〉ボタン、または〈✱〉ボタンを押すと、設定した内容でAFが行われます。

● **AF開始位置**

［**登録AFフレーム**］に設定したときは、〈**AF-ON**〉ボタン、または〈✱〉ボタンを押すと、登録したAFフレームに切り換わります。

【AFフレームの登録方法】

① 測距エリア選択モードを、スポット1点AF（任意選択）／1点AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択周囲）／65点自動選択AFの中から選びます。ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）は登録できません。

② AFフレームを任意選択します。

③〈⊞〉ボタンを押しながら〈⊛〉ボタンを押すと、"ピッ"という音がしてAFフレームが登録されます。測距エリア選択モードが、65点自動選択AF以外のときは、登録したAFフレームが点滅します。

● AFフレーム登録時に表示される内容は次の通りです。
・65点自動選択AF：**[ ] HP**（HP: Home Position）
・スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF：**SEL [ ]**（中央）／**SEL HP**（中央以外）
● **SEL [ ]**、**SEL HP**で登録したときは、登録したAFフレームが点滅します。
● 登録したAFフレームを解除するときは、〈⊞〉ボタンを押しながら〈⚡ISO〉ボタンを押します。［**4：カメラ設定初期化**］を選んだときも、登録したAFフレームが解除されます。

- **AIサーボAF特性**（p.108）
  〈AF-ON〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押すと、設定した［**Case1**］～［**Case6**］の特性でAFが行われます。
- **AF動作**（p.86）
  〈AF-ON〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押すと、設定したAF動作でAFが行われます。
- **測距エリア選択モード**（p.90）
  〈AF-ON〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押すと、設定した測距エリア選択モードでAFが行われます。

なお、〈AF-ON〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押したときに、そのとき選択しているAFフレームを使用したいときは［**AF開始位置**］を［**選択AFフレーム**］、そのとき設定されているAIサーボAF特性、AF動作、測距エリア選択モードを維持したいときは［**現在の設定を変更しない**］を選びます。

- ［**AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］を［**別々に設定：エリア+フレーム**］［**別々に設定：フレーム**］に設定しているときは、縦位置撮影（グリップ上/下）、横位置撮影に使用するAFフレームを別々に登録することができます。
- ［**AF開始位置：登録AFフレーム**］と［**測距エリア選択モード**］を同時に設定したときは、［**登録AFフレーム**］の設定が優先されます。

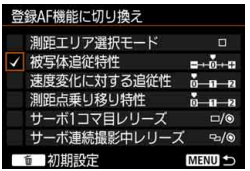
AF-OFF: AF停止

この機能を割り当てたボタンを押している間、AFを停止します。AIサーボAF中にAFを停止したいときなどに有効です。

AF↔: 登録AF機能に切り換え

「測距エリア選択モード（p.90）」、「被写体追従特性（p.113）」、「速度変化に対する追従性（p.114）」、「測距点乗り移り特性（p.115）」「サーボ1コマ目レリーズ（p.117）」、「サーボAF連続撮影中レリーズ（p.118）」を設定し、この機能を割り当てたボタンを押している間だけ、その設定内容でAFを行うことができます。AIサーボAF中にAF特性を変えたいときに有効です。

*2：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。〈◯〉または〈⁂〉を回して登録する項目を選び、〈(SET)〉で［✓］を付けます。項目名を選び〈(SET)〉を押すと、機能の内容を設定することができます。
〈🗑〉ボタンを押すと、設定を初期状態にすることができます。



ONE SHOT↔AI SERVO: ワンショット⇄AIサーボ

AF方式を切り換えることができます。ワンショットAF時に、この機能を割り当てたボタンを押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動／停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

□: 登録AFフレームに移動

測光タイマー作動中に、この機能を割り当てたボタンを押すと、登録したAFフレームに移動することができます。

*3：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、［**押している間だけ切り換え**］［**もう一度押すまで切り換え保持**］を選択することができます。AFフレームの登録方法については、450ページを参照してください。

SEL HP：選択⇄中央/登録AFフレーム切り換え

測光タイマー作動中に〈⌂〉を右に倒すと、現在選択されているAFフレームと中央のAFフレーム、または登録したAFフレームを切り換えることができます。

*4：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、［**中央AFフレームに移動**］［**登録AFフレームに移動**］を選択することができます。AFフレームの登録方法については、450ページを参照してください。

：AFフレームダイレクト選択

測光タイマーが作動中であれば、〈⊞〉ボタンを押さずに、〈✥〉または〈◎〉で直接AFフレームを選択することができます。なお〈◎〉では、横方向のAFフレームを選択することができます（ゾーンAF、ラージゾーンAF時は循環）。

*5：マルチコントローラーの設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、〈✥〉の中央を押したときに［**中央AFフレームに移動**］するか、［**登録AFフレームに移動**］するかを選択することができます。AFフレームの登録方法については、450ページを参照してください。

：AFフレームダイレクト選択：縦方向

測光タイマーが作動中であれば、〈⊞〉ボタンを押さずに〈◎〉で直接縦方向のAFフレームを選択することができます（ゾーンAF、ラージゾーンAF時は循環）。

：測距エリアダイレクト選択

測光タイマーが作動中であれば、〈⊞〉ボタンを押さずに〈⌂〉で直接測距エリア選択モードを選ぶことができます。

〈◎〉に［**AFフレームダイレクト選択**］［**AFフレームダイレクト選択：縦方向**］［**ISO感度設定（測光中◉）**］（p.455）を割り当てたときに、〈**M**〉モードで絞り数値を変更するときは、〈✱〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回します。

: 測光開始

シャッターボタンを半押しすると、測光のみ行います。

: AEロック

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます（AEロック）。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

: AEロック（押している間）

シャッターボタンを押している間、露出が固定されます（AEロック）。

$_{H}$: AEロック（ホールド）

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定されます（AEロック）。もう一度、この機能を割り当てたボタンを押すまで、AEロックが継続します。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

$_{AF\text{-}OFF}$: AEロック・AF停止

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定（AEロック）され、AFが停止します。AIサーボAF中にAFの停止と同時にAEロックを行いたいときなどに有効です。

FEL: FEロック

ストロボ撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがプリ発光して撮影に必要な発光量を記憶（FEロック）します。

［**AEロック（押している間）**］をシャッターボタンに割り当てたときは、［**AEロック**］［**AEロック（ホールド）**］を割り当てたボタンも［**AEロック（押している間）**］で動作します。

ISO: ISO感度設定（押しながら）

〈SET〉を押しながら〈〉を回すと、ISO感度を設定することができます。

ISOオートのときに操作すると、ISO感度手動設定になります。ISOオートに戻すことはできません。なお、〈**M**〉モードのときにこの機能を使用すると、設定したシャッター速度、絞り数値を保持したまま、ISO感度による露出調整を行うことができます。

ISO: ISO感度設定（倒しながら）

〈〉を右に倒しながら〈〉を回すと、ISO感度を設定することができます。設定できる内容はISOと同じです。

ISO: ISO感度設定（測光中）

測光タイマー作動中に〈〉を回すと、ISO感度を設定することができます。設定できる内容はISOと同じです。

±: 露出補正（押しながら）

〈SET〉を押しながら〈〉を回すと、露出補正を行うことができます。〈**M**〉マニュアル露出＋ISOオート設定時に露出補正を行いたいときに効果的です。

±: 露出補正（倒しながら）

〈〉を右に倒しながら〈〉を回すと、露出補正を行うことができます。〈**M**〉マニュアル露出＋ISOオート設定時に露出補正を行いたいときに効果的です。

Tv：Mモード時、シャッター速度変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈〉または〈〉でシャッター速度を設定することができます。

Av：Mモード時、絞り数値変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈◯〉または〈⌓〉で絞り数値を設定することができます。

RAW JPEG：ワンタッチ記録画質切換

この機能を割り当てたボタンを押すと、ここで設定した記録画質に切り換えて撮影することができます。切り換え中は、ファインダー内の記録画質（JPEG/RAW）が点滅します（[**ファインダー内表示設定**]で[**記録画質**]に[✓]が付いている場合）。撮影が終了すると、切り換えが自動解除され、元の記録画質に戻ります。

*6：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、切り換える記録画質を選択することができます。

RAW JPEG H：ワンタッチ記録画質切換（ホールド）

この機能を割り当てたボタンを押すと、ここで設定した記録画質に切り換えて撮影することができます。切り換え中は、ファインダー内の記録画質（JPEG/RAW）が点滅します（[**ファインダー内表示設定**]で[**記録画質**]に[✓]が付いている場合）。撮影を行っても、切り換えは自動解除されません。もう一度この機能を割り当てたボタンを押すと、元の記録画質に戻ります。

*6：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、切り換える記録画質を選択することができます。

：記録画質選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録画質設定画面（p.149）が表示されます。

[**ワンタッチ記録画質切換**]［**ワンタッチ記録画質切換（ホールド）**]で、切り換える記録画質をRAW、RAW+JPEGに設定したときは、切り換えを行ったときに[**マルチショットノイズ低減機能**]（p.176）は機能しません。[**3：高感度撮影時のノイズ低減**]は[**標準**]の設定で撮影されます。

ワンタッチ記録画質切り換え中に、ファインダー内と表示パネルに〈⚠〉を表示することができます（p.441）。

: ピクチャースタイル選択

〈(SET)〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイル選択画面（p.160）が表示されます。

: 絞り込み

絞り込みボタンを押すと絞り込みが行われ、被写界深度を確認することができます（p.221）。

: 手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチが〈**ON**〉のときに、この機能を割り当てたボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します（p.53）。

MENU : メニュー表示

〈(SET)〉を押すと、液晶モニターにメニューが表示されます。

: 撮影機能の登録と呼出

シャッター速度、絞り数値、ISO感度、測光モード、測距エリア選択モードなどの主要な撮影機能を任意に設定して、カメラに登録することができます。この機能を割り当てたボタンを押すと、押している間だけ、登録した撮影機能を呼び出して撮影することができます。

*7：設定画面で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。〈◎〉または〈☁〉を回して項目を選び、〈(SET)〉で［✓］を付けます。項目名を選び〈(SET)〉を押すと、機能の内容を設定することができます。〈🗑〉ボタンを押すと、設定を初期状態にすることができます。
なお、［**現在の設定内容を登録**］を選ぶと、現在カメラに設定されている内容を登録することができます。AFフレームの登録方法については、450ページを参照してください。

▶：画像の再生

〈SET〉を押すと、画像を再生することができます。

🔍：拡大/縮小（SETボタン+）

〈SET〉を押すと、カードに記録されている画像を拡大/縮小表示することができます。操作方法は364ページを参照してください。また、ライブビュー撮影時、動画撮影時も（＋追尾優先AFを除く）、映像を拡大表示することができます（p.305、308）。

：・ISO／Drive・AF／WB・切換

〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、・ISO→DRIVE・AF→WB・の順で設定できる項目が切り換わります。

UNLOCK：押している間、ロック解除

〈LOCK▶〉スイッチが右側の状態でも、絞り込みボタンを押している間だけ、［3：マルチ電子ロック］で制限した部材を操作することができます。

：ストロボ機能設定

〈SET〉を押すと、内蔵ストロボ機能設定、または外部ストロボ機能設定の画面が表示されます。

OFF：無効

ボタンに機能を割り当てないときに設定します。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。また、登録したタブに名前を付けたり、〈MENU〉ボタンを押したときにマイメニュータブから表示することもできます。

マイメニュータブを追加（作成）する

1 **［マイメニュータブの追加］を選ぶ**

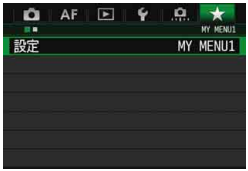
- ［★］タブの［**マイメニュータブの追加**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 **［OK］を選ぶ**

➡ ［MY MENU1］タブが作成されます。

- 手順1、2を繰り返すと、［MY MENU5］まで作成することができます。

マイメニュータブに項目を登録する



1 **［設定：MY MENU*］を選ぶ**

- 〈 〉を回して［**設定**：MY MENU*］（項目を登録するタブ）を選び、〈(SET)〉を押します。

2 [登録項目の選択] を選ぶ

3 登録する

- 項目を選び〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で[OK]を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定

タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。[**登録項目の並べ替え**]を選び、並び順を変える項目を選んで〈(SET)〉を押します。[◆]が表示された状態で〈◯〉を回して並び順を変え、〈(SET)〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。[**選択して削除**]を選ぶと1項目ずつ削除、[**タブ内の全項目削除**]を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

● **タブの削除**
　現在設定しているタブを削除することができます。［**タブの削除**］を選ぶと、［MY MENU*］のタブが削除されます。

● **タブ名の変更**
　タブの名称を［MY MENU*］から任意の名称に変更することができます。

1 ［タブ名の変更］を選ぶ

2 文字を入力する

● 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
● 〈Q〉ボタンを押すと、文字パレットの枠に色が付き、文字入力ができるようになります。
● 〈◎〉または〈✣〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び〈(SET)〉を押すと入力されます。
● 最大16文字入力することができます。

3 設定を終了する

● 文字の入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。
➡ 設定した内容が保存されます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除

作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

- **マイメニュータブの全削除**

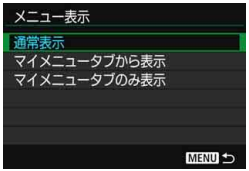
  作成したタブをすべて削除することができます。[**マイメニュータブの全削除**]を選ぶと、[MY MENU1]～[MY MENU5]のタブがすべて削除され、[★]タブが初期状態に戻ります。

- **全項目削除**

  [MY MENU1]～[MY MENU5]タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。[**全項目削除**]を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

[**タブの削除**][**マイメニュータブの全削除**]を行うと、[**タブ名の変更**]で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定

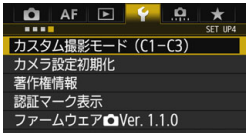


［**メニュー表示**］を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**
  前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。
- **マイメニュータブから表示**
  ［★］タブの画面から表示されます。
- **マイメニュータブのみ表示**
  ［★］タブの画面だけが表示されます（［📷］［**AF**］［▶］［🔧］［📷］タブは表示されません）。

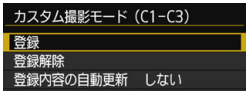
C1: カスタム撮影モードの登録 応用

撮影モードやメニュー、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、モードダイヤルの〈C1/C2/C3〉にカスタム撮影モードとして登録することができます。

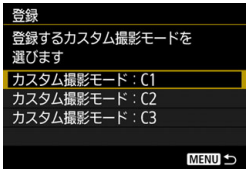


1 ［カスタム撮影モード（C1-C3）］を選ぶ

- ［4］タブの［**カスタム撮影モード**(C1-C3)］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［登録］を選ぶ



3 登録する

- 登録するカスタム撮影モードを選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選びます。

➡ カメラの設定内容（p.465～466）がモードダイヤルのC＊に登録されます。

登録内容の自動更新

〈C1/C2/C3〉モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で［**登録内容の自動更新**］を［**する**］に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で［**登録解除**］を選ぶと、登録前の初期設定に戻すことができます。

登録される設定内容

● **撮影機能**

撮影モード、シャッター速度、絞り数値、ISO感度、AF動作、測距エリア選択モード、AFフレーム、ドライブモード、測光モード、露出補正量、ストロボ調光補正量

● **メニュー機能**

[**1**] 記録画質、撮影画像の確認時間、電子音、カードなしレリーズ、レンズ光学補正、ストロボの発光、E-TTL II調光方式、Avモード時のストロボ同調速度

[**2**] 露出補正/AEB 設定、ISO感度に関する設定、オートライティングオプティマイザ、ホワイトバランス、MWB画像選択、WB補正/BKT設定、色空間

[**3**] ピクチャースタイル、長秒時露光のノイズ低減、高感度撮影時のノイズ低減、高輝度側・階調優先、多重露出（設定値）、HDRモード（設定値）

[**4**] 赤目緩和機能、インターバルタイマー、バルブタイマー、フリッカーレス撮影、ミラーアップ撮影

[**5 (ライブビュー撮影)**]
ライブビュー撮影、AF方式、コンティニュアスAF、グリッド、アスペクト比、露出Simulation

[**6**] LV静音撮影、測光タイマー

[**4 (動画)**]
動画サーボAF、AF方式、グリッド、動画記録画質、録音、動画サーボAF時のAF速度、動画サーボAFの被写体追従特性

[**5 (動画)**]
LV静音撮影、測光タイマー、動画記録カウント、動画再生カウント、動画サイレント設定、ボタンの機能、HDMI出力+液晶

[**AF1**]Case 1、Case 2、Case 3、Case 4、Case 5、Case 6

[**AF2**]AIサーボAF1コマ目レリーズ、サーボAF連続撮影中のレリーズ

[**AF3**]レンズの電子式手動フォーカス、AF補助光の投光、ワンショットAF時のレリーズ

[**AF4**] AF測距不能時のレンズ動作、任意選択可能なAFフレーム、測距エリア選択モードの限定、測距エリア選択モードの切換、縦位置/横位置のAFフレーム設定、〔〕時のサーボAF開始測距点、自動選択：EOS iTR AF

[**AF5**] AFフレーム任意選択時の循環、測距時のAFフレーム表示、ファインダー情報の照明、ファインダー内のAF作動表示、AFマイクロアジャストメント

[▶2] スライドショー（設定値）、📶での画像送り

[▶3] ハイライト警告表示、AFフレーム表示、再生時のグリッド、ヒストグラム、動画再生カウント、拡大倍率設定（約）

[🔧1] 画像番号、縦位置画像回転表示、Eye-Fi設定

[🔧2] オートパワーオフ、液晶の明るさ、ファインダー内表示

[🔧3] 自動クリーニング、INFO. ボタンで表示する内容、RATE ボタンの機能、HDMI出力フレームレート

[📷1] 露出設定ステップ、ISO感度設定ステップ、ブラケティング自動解除、ブラケティング順序、ブラケティング時の撮影枚数、セイフティシフト、絞り数値変化時の露出維持

[📷2] シャッター速度の制御範囲の設定、絞り数値の制御範囲の設定、連続撮影速度

[📷3] ライブビュー撮影範囲表示、Tv/Av値設定時のダイヤル回転、マルチ電子ロック、操作ボタンカスタマイズ

[📷4] トリミング情報の付加、画像消去の初期設定、電源オフ時のレンズ収納

マイメニューの設定内容は、カスタム撮影モードには登録されません。

- モードダイヤルが〈C1/C2/C3〉のときも、撮影機能やメニューなどの設定を変更することができます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、〈C1/C2/C3〉に登録されている撮影モードを確認することができます（p.468～469）。

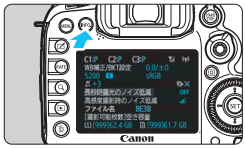
15

資料

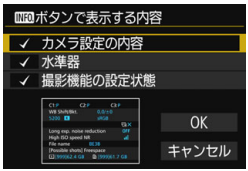
この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。

認証マークについて
［**4：認証マーク表示**］を選び〈SET〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

INFO.ボタンの機能



撮影準備状態で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」、「水準器」(p.75)、「撮影機能の設定状態」(p.469)を切り換えて表示することができます。

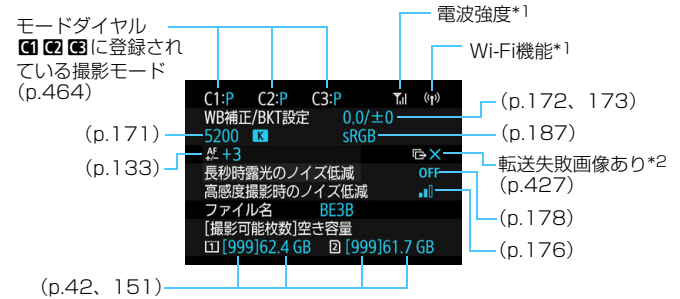


［**3**］タブの［**INFO. ボタンで表示する内容**］で、〈**INFO.**〉ボタンを押したときに表示する項目を選ぶことができます。

- 使用する項目を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けます。
- 選択が終わったら［**OK**］を選びます。

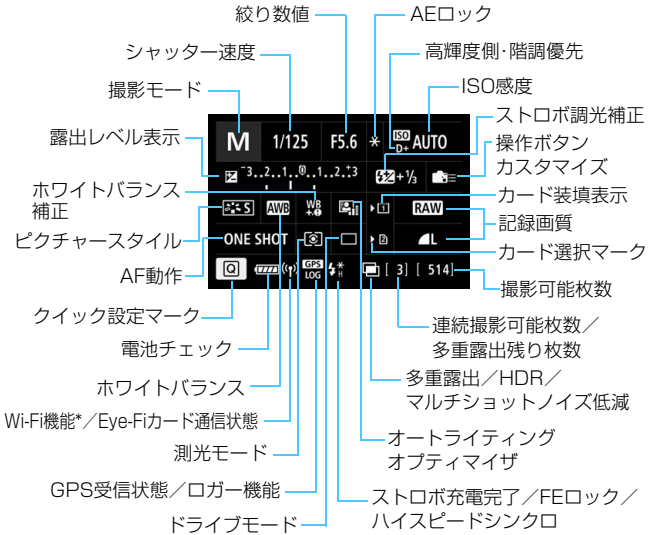
- 3項目すべての［✓］を外すことはできません。
- ［**カメラ設定の内容**］のサンプル画面は、どの言語でも英語で表示されます。
- ［**水準器**］を表示しない設定にしても、ライブビュー撮影時、動画撮影時は、〈**INFO.**〉ボタンを押すと水準器が表示されます。

カメラ設定の内容



*1：Wi-Fiアダプター W-E1使用説明書を参照してください。
*2：転送失敗画像があるときに表示されます。

撮影機能の設定状態



* Wi-Fiアダプター W-E1使用説明書を参照してください。

- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定を行うことができます（p.61）。
- 〈WB・◉〉〈DRIVE・AF〉〈⚡・ISO〉〈▦〉ボタンを押すと、設定画面が表示され、〈☁〉〈◯〉〈M-Fn〉〈✲〉で設定することができます。

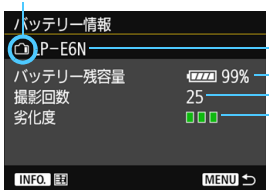
「撮影機能の設定状態」「水準器」の画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈INFO.〉ボタンを押して画面が表示されていない状態で電源を切ります。

MENU 電池情報を確認する

使用している電池の状態を画面で確認することができます。また、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6には固有の番号（シリアル番号）が記録されているため、複数の電池をカメラに登録することができます。この機能を利用すると、手元にある登録済みの電池の残容量や、使用履歴を確認することができます。

［バッテリー情報］を選ぶ

- ［3］タブの［**バッテリー情報**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報の画面が表示されます。



- 使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。
- 電池チェック表示（p.46）とともに、残量が1%単位で表示されます。
- 使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。
- 電池の劣化状態が3段階で表示されます。
  - ■■■（緑）：劣化していません
  - ■■□（緑）：少し劣化しています
  - ■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6のご使用をおすすめします。純正品以外の電池を使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。
- バッテリーグリップ BG-E16（別売）とワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7（Ver.2／別売）をカメラに同時に装着したときは、BG-E16に入っている電池の情報が表示されます。WFT-E7（Ver.2）に入っている電池の情報は表示されません。

- 撮影回数は静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- バッテリーグリップ BG-E16（別売）に、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用したときも電池情報が表示されます。単3形電池を使用したときは、電池チェック表示の情報のみ表示されます。

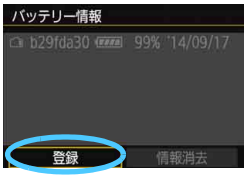
何らかの原因で電池と通信できない、または通常の通信と異なるときは、[**このバッテリーを使用しますか?**] と表示されますが、[OK] を選ぶとそのまま撮影できます。ただし、電池によってはバッテリー情報の画面が表示されなかったり、画面が表示されても情報が正しく表示されないことがあります。

電池をカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数の電池を登録するときは、電池ごとに以下の操作を行ってください。

1 〈INFO.〉ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- ➡ 使用履歴画面が表示されます。
- ➡ 登録されていない電池は灰色で表示されます。



2 [登録] を選ぶ

- ➡ 確認画面が表示されます。

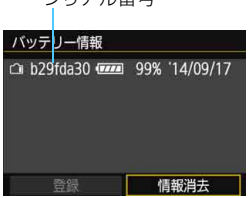
3 [OK] を選ぶ

- ➡ 電池が登録され、使用履歴画面に戻ります。
- ➡ 表示が灰色から白色に変わります。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、バッテリー情報の画面に戻ります。

- バッテリーグリップ BG-E16（別売）で単3形電池を使用したときや、電源にDCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）を使用しているときは、登録できません。
- すでに電池が6個登録されているときは［**登録**］は選べません。473ページを参照して不要な電池情報を削除してください。

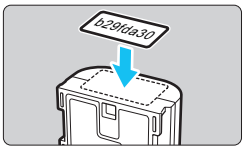
電池のシリアル番号が一目でわかるようにする

登録したバッテリーパック LP-E6N/LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに書き留めて、すべての電池に貼り付けておくと便利です。



1 シリアル番号をシールに書き留める

- 使用履歴画面に表示された番号を、横25mm×縦15mm程度のシールに書き留めます。



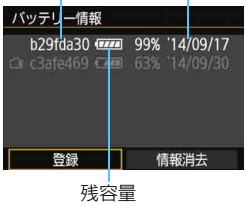
2 電池を取り出しシールを貼り付ける

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。
- 電池室ふたを開けて、電池を取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼り付けます。
- この手順を繰り返して、すべての電池のシリアル番号が一目でわかるようにします。

- 手順2の図以外の位置にシールを貼り付けないでください。電池が入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- バッテリーグリップ BG-E16（別売）使用時は、バッテリーマガジンへの電池の取り付け／取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは新しいシールを貼りなおしてください。

登録済みで使用していない電池の残容量の確認方法

手元にある（現在使用していない）電池の残容量や前回使用した日を、画面で確認することができます。



シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、電池に貼り付けたシールのシリアル番号を照合します。

➡ 手元にある電池のおおよその残容量や、前回使用した日を確認することができます。

登録した電池情報を消去する

1 [情報消去] を選ぶ

- 471ページの手順2で［**情報消去**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 消去する電池を選ぶ

- 消去する電池を選び〈(SET)〉を押します。

➡［✓］が表示されます。

- 他に消去したい電池があるときは、繰り返します。

3 〈🗑〉ボタンを押す

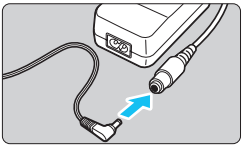
➡ 確認画面が表示されます。

4 [OK] を選ぶ

➡ 電池情報が消去され、手順1の画面に戻ります。

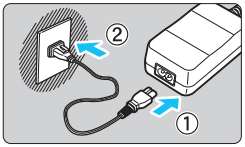
家庭用電源を使用する

DCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）を使うと、家庭用電源を使用してカメラを使うことができます。



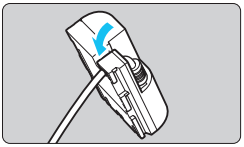
1 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。



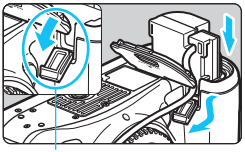
2 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。



3 コードを溝にはめ込む

- DC カプラーのコードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。



DCカプラーコード通し部

4 DCカプラーを入れる

- 電池室ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DC カプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

電源スイッチを〈**ON**〉にしたまま、電源コードやDCカプラーのプラグの抜き差しを行わないでください。

Eye-Fiカードを使う

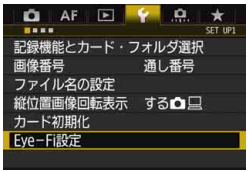
セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードすることができます。

画像の転送は、Eye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問い合わせください。

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

---

1 Eye-Fiカードを入れる （p.41）



2 [Eye-Fi設定] を選ぶ

- [1] タブの [**Eye-Fi設定**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

3 通信機能を有効にする

- [**Eye-Fi通信**] を選び〈(SET)〉を押します。
- [**する**] を選び〈(SET)〉を押します。
- [**しない**] のときは、Eye-Fiカードが入っていても、自動転送されません（通信状態マーク）。

4 通信情報一覧を表示する

- ［**通信情報一覧**］を選び〈(SET)〉を押します。

5 ［接続先のSSID:］を確認する

- ［**接続先のSSID:**］に転送先が表示されているか確認します。
- Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了します。

6 撮影する

通信状態マーク

➡ 画像が転送され、〈(( ))〉が灰色（未接続）状態から、下記のように切り換わっていきます。

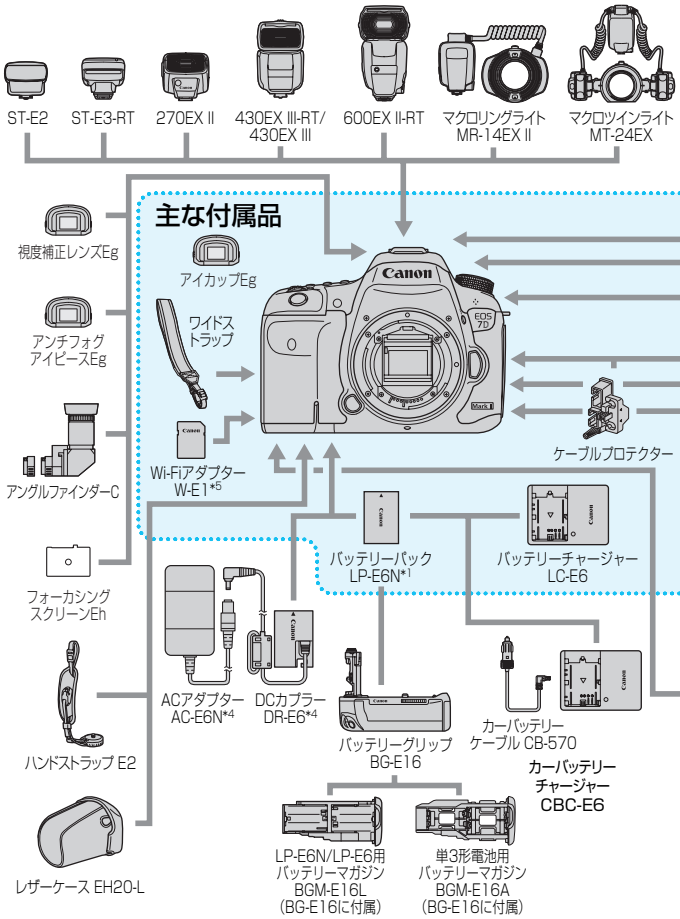
- 転送した画像は、撮影情報表示（p.357）の画面に▣が表示されます。

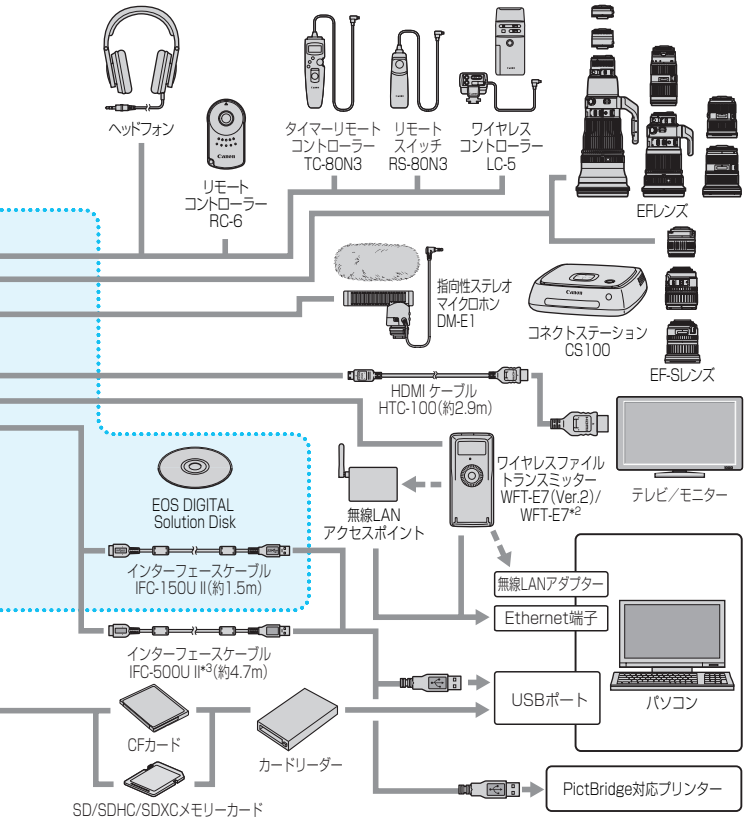
(( ))（灰色）**未接続**　：転送先に接続していません。
(( ))（点滅）**接続中**　：転送先に接続しています。
(( ))（点灯）**転送待機**：転送先に接続しました。
(( ))（↑）**転送中**　　：画像を転送しています。

Eye-Fiカード使用時の注意事項

- 「」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れなおしてください。
- [**Eye-Fi通信**] を [**しない**] に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳細はカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態により、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信を行うため熱くなることがあります。
- 電池の消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。
- Eye-Fiカード以外の無線LANカードを入れたときは、[**Eye-Fi設定**] は表示されません。また、通信状態マーク〈〉も表示されません。

システム図


ST-E2
ST-E3-RT
270EX II
430EX III-RT/
430EX III
600EX II-RT
マクロリングライト
MR-14EX II
マクロツインライト
MT-24EX
主な付属品
視度補正レンズEg
アイカップEg
アンチフォグ
アイピースEg
ワイドストラップ
Wi-Fiアダプター
W-E1*5
アングルファインダーC
フォーカシング
スクリーンEh
ハンドストラップ E2
レザーケース EH20-L
ACアダプター
AC-E6N*4
DCカプラー
DR-E6*4
バッテリーパック
LP-E6N*1
バッテリーチャージャー
LC-E6
ケーブルプロテクター
バッテリーグリップ
BG-E16
カーバッテリー
ケーブル CB-570
カーバッテリー
チャージャー
CBC-E6
LP-E6N/LP-E6用
バッテリーマガジン
BGM-E16L
(BG-E16に付属)
単3形電池用
バッテリーマガジン
BGM-E16A
(BG-E16に付属)



*1: バッテリーパック LP-E6も使用できます。
*2: (Ver.2ではない)WFT-E7を使用する場合は、WFT-E7のファームウェアのアップデート、およびインターフェースケーブル IFC-40AB II、またはIFC-150AB IIが必要です。
*3: IFC-500U II使用時は、通信速度がHi-Speed USB(USB2.0)相当になります。
*4: ACアダプターキット ACK-E6を使用することもできます。
*5: レンズキットのみに付属しています。

各撮影モードで設定できる機能一覧

静止画撮影時

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

機能		📷+	P	Tv	Av	M	B
全記録画質の選択		○	○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定/オート	●	○	○	○	○	○
	手動設定		○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	自動設定/オート	●	○	○	○	○	○
	任意設定		○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オート	●	○	○	○	○	○
	プリセット		○	○	○	○	○
	マニュアル		○	○	○	○	○
	色温度指定		○	○	○	○	○
	補正/ブラケティング		○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		●	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減			○	○	○	○	○
高感度撮影時のノイズ低減		●	○	○	○	○	○
高輝度側・階調優先			○	○	○	○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○	○	○
	歪曲収差補正	○	○	○	○	○	○
フリッカーレス撮影		●	○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	○	○	○	○	○
	Adobe RGB		○	○	○	○	○
AF	ワンショットAF		○	○	○	○	○
	AIサーボAF		○	○	○	○	○
	AIフォーカスAF	●	○	○	○	○	○
	測距エリア選択モード		○	○	○	○	○
	AFフレーム	●	○	○	○	○	○
	手動ピント合わせ（MF）	○	○	○	○	○	○
	AF補助光	●*1	○	○	○	○	○
	AFマイクロアジャストメント		○	○	○	○	○
	👤+追尾優先AF*2	○	○	○	○	○	○
	ライブ多点AF*2	○	○	○	○	○	○
	ライブ1点AF*2	○	○	○	○	○	○
	コンティニュアスAF*2	○	○	○	○	○	○

機能		📷+	P	Tv	Av	M	B
測光	評価測光	●	○	○	○	○	○
	部分測光		○	○	○	○	○
	スポット測光		○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光		○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト		○				
	AEロック		○	○	○	*3	
	露出補正		○	○	○	○*4	
	AEB		○	○	○	○	
	被写界深度確認		○	○	○	○	○
	HDR撮影		○	○	○	○	
	多重露出撮影		○	○	○	○	○
	インターバルタイマー *5	○	○	○	○	○	
	バルブタイマー						○
ドライブ	1枚撮影	○	○	○	○	○	○
	高速連続撮影	○	○	○	○	○	○
	低速連続撮影	○	○	○	○	○	○
	静音1枚撮影	○	○	○	○	○	○
	静音連続撮影	○	○	○	○	○	○
	セルフ10秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
	セルフ2秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光	○					
	常時発光	○	○	○	○	○	○
	発光禁止	○	○	○	○	○	○
	赤目緩和	○	○	○	○	○	○
	FEロック		○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正		○	○	○	○	○
	ワイヤレス制御		○	○	○	○	○
外部ストロボ	機能設定		○	○	○	○	○
	カスタム機能設定		○	○	○	○	○
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○	○
クイック設定		○	○	○	○	○	○

*1：内蔵ストロボを〈⚡〉に設定したときは、内蔵ストロボによるAF補助光は投光されません。
*2：ライブビュー撮影時のみ設定できます。
*3：ISOオート設定時にISO感度を固定することができます。
*4：ISOオート設定時のみ設定できます。
*5：ファインダー撮影時のみ設定できます。

動画撮影時

●：自動設定　○：選択可能　▭：選択不可／無効

機能		動画					静止画 📷*1		
		📷+	P/B	Tv	Av	M	📷+	P/B/Tv/Av	M
		📹A+	📹	📹Tv	📹Av	📹M	📷A+	📷 📹Tv 📷Av	📷M
全記録画質の選択（動画）		○	○	○	○	○			
全記録画質の選択（静止画）							○	○	○
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	●	○	●	●	○
	手動設定					○			○
ピクチャースタイル	自動設定/オート	●	○	○	○	○	●	○	○
	任意設定		○	○	○	○		○	○
ホワイトバランス	オート	●	○	○	○	○	●	○	○
	プリセット		○	○	○	○		○	○
	マニュアル		○	○	○	○		○	○
	色温度指定		○	○	○	○		○	○
	補正		○	○	○	○		○	○
	ブラケティング							○	○
オートライティングオプティマイザ		●	○	○	○	○	●	○	○
長秒時露光のノイズ低減									
高感度撮影時のノイズ低減*2		●	○	○	○	○	●	○	○
高輝度側・階調優先			○	○	○	○		○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○	○	○	○	○
	歪曲収差補正								
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	○	○
	Adobe RGB							○	○
AF	👤+追尾優先AF	○	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ多点AF	○	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ1点AF	○	○	○	○	○	○	○	○
	手動ピント合わせ（MF）	○	○	○	○	○	○	○	○
	動画サーボAF	○	○	○	○	○	○	○	○

*1 ：📷は動画撮影時の静止画撮影を示しています。

*2 ：マルチショットノイズ低減機能は設定できません。

機能		動画					静止画 [*1]		
		📷+	P/B	Tv	Av	M	📷+	P/B/Tv/Av	M
		🎥A+	🎥	🎥Tv	🎥Av	🎥M	🎥A+	🎥 🎥Tv 🎥Av	🎥M
測光		●	●	●	●	●	●	●	●
露出	プログラムシフト								
	AEロック		○	○	○	*3		○	*3
	露出補正		○	○	○	○*4		○	○*4
	AEB								
	被写界深度確認								
ドライブ	1枚撮影						○	○	○
	高速連続撮影						○	○	○
	低速連続撮影						○	○	○
	静音1枚撮影						○	○	○
	静音連続撮影						○	○	○
	セルフ10秒/リモコン*5						○	○	○
	セルフ2秒/リモコン*5						○	○	○
内蔵/外部ストロボ									
録音		○	○	○	○	○			
タイムコード		○	○	○	○	○			
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○

*3 ：ISOオート設定時は、ISO感度を固定することができます。
*4 ：ISOオート設定時に露出補正を行うことができます。
*5 ：動画撮影開始前のみ機能します。

メニュー機能一覧

ファインダー撮影／ライブビュー撮影時

📷：**撮影1**（赤）

		参照頁
記録画質	RAW／M RAW／S RAW	149
	L／L／M／M／S1／S1／S2／S3	
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	70
電子音	入／切	69
カードなしレリーズ	する／しない	42
レンズ光学補正	周辺光量補正：する／しない	181
	色収差補正：する／しない	
	歪曲収差補正：しない／する	
ストロボ制御	ストロボの発光／E-TTL II 調光方式／Avモード時のストロボ同調速度／内蔵ストロボ機能設定／外部ストロボ機能設定／外部ストロボカスタム機能設定／設定初期化	262

- □ の項目は、〈A+〉モードでは表示されません。
- ［📷**1：記録画質**］で表示される内容は、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］（p.146）の設定により変わります。［**振り分け**］に設定されているときは、カードごとに記録画質を設定します。
- 動画撮影時は一部表示されない項目があります。また［📷**6**］タブは表示されません。

📷：撮影2（赤）

		参照頁
露出補正／AEB設定*	1/3段、1/2段ステップ、±5段（AEB±3段）	226 227
ISO感度に関する設定	ISO感度設定／ISO感度設定範囲／ISOオートの範囲／ISOオート低速限界	154
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め M, Bulb時はOFF	175
ホワイトバランス	AWB／☀／🏠／☁／☀／▦／⚡／📷／K（約2500～10000）	168
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	169
WB補正/BKT設定	WB補正：B/A/M/G寄り、各色9段 WB-BKT：B/A、M/G方向、1段ステップ±3段	172
色空間	sRGB／Adobe RGB	187

* 動画撮影時、［**露出補正／AEB設定**］は［**露出補正**］になります。

📷：撮影3（赤）

ピクチャースタイル	A オート／S スタンダード／P ポートレート／L 風景／N ニュートラル／F 忠実設定／M モノクロ／1 ユーザー設定1～3	160
長秒時露光のノイズ低減	しない／自動／する	178
高感度撮影時のノイズ低減	しない／弱め／標準／強め／マルチショットノイズ低減機能	176
高輝度側・階調優先	しない／する	180
ダストデリートデータ取得	EOS用ソフトウェアでゴミ消し処理を行うためのデータを取得	407
多重露出	多重露出撮影／多重露出制御／重ねる枚数／撮影画像の保存／多重露出撮影の継続	238
HDRモード	Dレンジ調整／仕上がり効果／HDR撮影の継続／画像位置自動調整／撮影画像の保存	233

📷：撮影4*（赤）

		参照頁
赤目緩和機能	切／入	256
インターバルタイマー	しない／する（撮影間隔／撮影回数）	250
バルブタイマー	しない／する（露光時間）	231
フリッカーレス撮影	しない／する	185
ミラーアップ撮影	しない／する	246

*〈A+〉モードのときは［📷2］タブに表示されます。

📷：撮影5*（赤）

ライブビュー撮影	する／しない	287
AF方式	+追尾優先AF／ライブ多点AF／ライブ1点AF	299
コンティニュアスAF	しない／する	294
グリッド	表示しない／9分割＃／24分割▦／9分割+対角✳	295
アスペクト比	3：2／4：3／16：9／1：1	295
露出Simulation	する／絞り込み中／しない	296

*〈A+〉モードのときは［📷3］タブに表示されます。

📷：撮影6（赤）

LV静音撮影	モード1／モード2／しない	297
測光タイマー	4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	298

AF：AF1（紫）

		参照頁
Case 1	汎用性の高い基本的な設定	109
Case 2	障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき	109
Case 3	急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき	110
Case 4	被写体が急加速/急減速するとき	110
Case 5	被写体の上下左右の動きが大きいとき	111
Case 6	被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき	112

AF：AF2（紫）

AIサーボAF1コマ目レリーズ	レリーズ優先／バランス重視／ピント優先	117
サーボAF連続撮影中のレリーズ	撮影速度優先／バランス重視／ピント優先	118

AF：AF3（紫）

レンズの電子式手動フォーカス	ワンショットAF作動後・可能／ワンショットAF作動後・不可／AF時すべて不可	119
AF補助光の投光	する／しない／外部ストロボの補助光のみ投光／赤外光方式の補助光のみ投光	120
ワンショットAF時のレリーズ	レリーズ優先／ピント優先	121

AF：AF4（紫）

		参照頁
AF測距不能時のレンズ動作	サーチ駆動する／サーチ駆動しない	122
任意選択可能なAFフレーム	65点／21点／9点	123
測距エリア選択モードの限定	スポット1点AF（任意選択）／1点AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択・⁘）／領域拡大AF（任意選択周囲）／ゾーンAF（ゾーン任意選択）／ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）／65点自動選択AF	124
測距エリア選択モードの切換	⊞→M-Fnボタン／⊞→メイン電子ダイヤル	125
縦位置/横位置のAFフレーム設定	同じ／別々に設定：エリア+フレーム／別々に設定：フレーム	125
〔◌〕時のAIサーボAF開始測距点	〔◌〕時に選択した開始測距点／回 口 ⁘ ⁙時の任意選択測距点／自動	127
自動選択：EOS iTR AF	する／しない	128

AF：AF5（紫）

AFフレーム任意選択時の循環	しない（端で突き当たり）／する	129
測距時のAFフレーム表示	選択AFフレーム（常時表示）／全AFフレーム（常時表示）／選択フレーム（測距前/合焦時）／選択AFフレーム（合焦時表示）／表示しない	130
ファインダー情報の照明	自動／する／しない AIサーボAF時の照明：しない／する	131
ファインダー内のAF作動表示	視野内に表示／視野外に表示	132
AFマイクロアジャストメント	しない／全レンズ一律調整／レンズごとに調整	133

▶：再生1（青）

		参照頁
画像プロテクト	画像の保護	368
画像回転	画像の縦横回転	367
画像消去	画像の消去	392
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	424
フォトブック指定	フォトブックにする画像を指定	429
画像コピー	カード間の画像コピー	388
RAW現像	RAWで撮影した画像を現像	398

▶：再生2（青）

リサイズ	JPEG画像の画素数を少なく処理	403
レーティング	[OFF]／[★1]／[★2]／[★3]／[★4]／[★5]	371
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピートを設定して自動再生	382
画像転送	画像選択/転送／RAW+JPEG転送	427
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／プロテクト／レーティング	362

▶：再生3（青）

ハイライト警告表示	しない／する	359
AFフレーム表示	しない／する	359
再生時のグリッド	表示しない／9分割＋／24分割#／9分割+対角米	355
ヒストグラム	輝度／RGB	360
動画再生カウント*	記録時間／タイムコード	340
拡大倍率設定（約）	1倍（拡大なし）／2倍（中央から）／4倍（中央から）／8倍（中央から）／10倍（中央から）／等倍（任意選択合焦点から）／前回と同じ倍率（中央から）	365
HDMI機器制御	切／入	386

*［5（動画）］タブの［タイムコード］の［動画再生カウント］と設定が連動します。

🔧：機能設定1（黄）

		参照頁
記録機能とカード・フォルダ選択	記録機能：標準／カード自動切り換え／振り分け／同一書き込み	146
	記録・再生／再生：[1]／[2]	148
	フォルダ：フォルダの作成と選択	188
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	193
ファイル名の設定	カメラ固有設定／ユーザー設定1／ユーザー設定2	190
縦位置画像回転表示	する📷🖵／する🖵／しない	395
カード初期化	記録内容を初期化して消去	67
Eye-Fi設定	Eye-Fiカード（市販品）装填時に表示	475

🔧：機能設定2（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／しない	69
液晶の明るさ	自動：3段階の明るさ調整	394
	手動：7段階の明るさ調整	
日付/時刻/エリア	日付（年/月/日）／時刻（時/分/秒）／サマータイム／エリア	47
言語	表示言語を選択	49
ファインダー内表示	ファインダー水準器：表示しない／表示する	75
	ファインダー ⌗：表示しない／表示する	74
	ファインダー内表示設定：撮影モード／ホワイトバランス／ドライブモード／AF動作／測光モード／記録画質／フリッカー検知	77
GPSと電子コンパスの設定	GPS機能と電子コンパス機能の設定	197

🔧：機能設定3（黄）

		参照頁
ビデオ方式	NTSC／PAL	330 385
バッテリー情報	電源／残容量／撮影回数／劣化度／電池の登録／シリアル番号／使用履歴確認	470
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	406
	今すぐクリーニング	
	手作業でクリーニング	409
INFO. ボタンで表示する内容	カメラ設定の内容／水準器／撮影機能の設定状態	468
RATE ボタンの機能	レーティング／プロテクト	371 370
HDMI出力フレームレート*	自動／59.94i/50.00i／59.94p/50.00p／23.98p	350
通信機能の設定	WFT-E7（Ver.2／別売）接続時に表示	－
Wi-Fi機能	W-E1使用時に表示	－

* 表示される内容は、［**ビデオ方式**］の設定により変わります。

🔧：機能設定4（黄）

カスタム撮影モード（C1-C3）	モードダイヤルの C1、C2、C3 に現在のカメラ設定を登録	464
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	70
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／著作権者名入力／著作権情報の消去	195
認証マーク表示	このカメラが認証を受けているマークの一部を表示	467
ファームウェア	カメラ、レンズ、ストロボ、ワイヤレスファイルトランスミッターのファームウェア変更時に選択	－

GPS機能やワイヤレスファイルトランスミッターを使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。

：カスタム機能（橙）

		参照頁
C.Fn1：露出	カメラの機能を細かく設定	434
C.Fn2：露出・ドライブ		438
C.Fn3：表示・操作		440
C.Fn4：その他		443
C.Fn5：解除	カスタム機能をすべて解除	433

★：マイメニュー（緑）

マイメニュータブの追加	マイメニュー 1～5タブを追加	459
マイメニュータブの全削除	マイメニュータブをすべて削除	462
全項目削除	マイメニュー 1～5タブに登録されている項目をすべて削除	462
メニュー表示	通常表示／マイメニュータブから表示／マイメニュータブのみ表示	463

動画撮影時

📷：撮影4[*1]**（動画）**（赤）

		参照頁
動画サーボAF	する／しない	342
AF方式	顔+追尾優先AF／ライブ多点AF／ライブ1点AF	343
グリッド	表示しない／9分割＃／24分割▦／9分割+対角✳	344
動画記録画質	MOV／MP4	330
	動画記録サイズ： · 1920×1080／1280×720／640×480 · NTSC：59.94p／29.97p／23.98p PAL：50.00p／25.00p · ALL-I（編集用）／IPB（標準）／IPB（軽量）	331
	24.00p：切／入	333
録音[*2]	録音：オート／マニュアル／しない	336
	録音レベル	
	ウィンドカット：切／入	
	アッテネーター：切／入	
動画サーボAF時のAF速度	作動条件：常時／撮影中	345
	AF速度：遅い（4、3、2、1）／標準	
動画サーボAFの被写体追従特性	粘る（−2、−1）／0／敏感（+1、+2）	346

*1：〈A+〉モードのときは［📷2］タブに表示されます。
*2：〈A+〉モードのときは［**録音**］：［**する**］［**しない**］になります。

📷：撮影5[*1]（動画）（赤）

		参照頁
LV静音撮影	モード1／モード2／しない	347
測光タイマー	4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	347
タイムコード	カウントアップ／スタート時間設定／動画記録カウント／動画再生カウント[*2]／HDMI／ドロップフレーム[*3]	339
動画サイレント設定	有効／無効	338
ボタンの機能	AF／📷／／📷／AF／／／	348
HDMI出力+液晶	同時表示しない／同時表示する	348

*1：〈A+〉モードのときは［📷3］タブに表示されます。
*2：［▶3］タブの［**動画再生カウント**］と設定が連動します。
*3：59.94P（59.94fps）、29.97P（29.97fps）設定時に表示されます。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- バッテリー残容量が94%以上のときは、充電は行われません（p.470）。
- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けた電池の内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、電池が高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、電池の温度が下がると自動的に充電が始まります。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.40）。
- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.40）。
- 電池を充電してください（p.38）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.41）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

[バッテリーと通信できません] と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。
- 電池の出し入れを行ってください（p.40）。
- 電池の接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.38）。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。[**3：バッテリー情報**] で電池の劣化状態を確認してください（p.470）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - ・AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使う
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
  - ・ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
  - ・GPS機能を使用する
  - ・カメラの電源を切っていても［**GPS**］を［**使う**］に設定している
  - ・Eye-Fiカードの通信機能を有効にしている

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[**2：オートパワーオフ**] を［**しない**］にしてください（p.69）。
- [**2：オートパワーオフ**] を［**しない**］に設定していても、カメラを30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

オートパワーオフが働かない

- インターバルタイマー撮影中は、オートパワーオフ機能は働きません（p.250）。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-Mレンズは使用できません（p.50）。

ファインダーが暗い

- 充電した電池をカメラに入れてください（p.38）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.41）。
- SDカード使用時は、カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（p.41）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.41、392）。
- ワンショット AF でピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.55、140）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、44ページ、510ページを参照してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください（p.87）。AIサーボAF、およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません（p.83）。

シャッターボタンを2回全押ししないと撮影できない

- ［📷4：ミラーアップ撮影］が［**する**］に設定されているときは、［**しない**］に設定してください。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.50）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.54～55）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.218）、ISO感度を上げる（p.154）、ストロボを使用する（p.254、259）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

AFフレーム（測距点）が少ない

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や測距パターンが異なり、A～Gの7グループに分類されます。使用するレンズがどのグループに属しているか確認してください。なお、E～Gグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります（p.102～103）。

AFフレームが点滅している／2つ表示される

- 登録した位置のAFフレームが点滅しています（p.94、450）。
- 任意選択しているAFフレーム（またはゾーン）と、登録AFフレームが表示されています（p.93、450）。

AFフレームが赤く照明されない

- AFフレームは、暗い場所でピントが合ったときに赤く照明されます。
- 〈**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**〉モードのときは、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます（p.131）。

使用するレンズによりAF速度が変化する

- ライブビュー撮影時、動画撮影時のAFは、使用するレンズの種類や、拡大表示などの機能により、AF制御方式（撮像素子による位相差検出方式／コントラスト検出方式）が自動的に切り換わります。そのため、AF速度が大きく異なったり、ピント合わせに時間がかかることがあります。

ピント合わせに時間がかかる

- ライブ多点AF設定時は、撮影条件により被写体にピントが合うまで時間がかかることがあります。ライブ1点AFまたは手動でピントを合わせてください。
- 動画記録サイズが FHD 59.94P（59.94fps）、50.00P（50.00fps）に設定されているときは、コントラスト検出方式でAF制御が行われます。

連続撮影速度が遅い

- シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさなどにより、連続撮影速度が低下することがあります（p.142）。
- EOS iTR AF動作時は（p.128）、〈H〉設定時の連続撮影速度が最高約9.5コマ/秒になります。また、暗い場所で撮影を行うと、連続撮影速度が低下することがあります。
- ［**フリッカーレス撮影**］が［**する**］の設定でフリッカー光源下で撮影を行うと、連続撮影速度がやや遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。また、シャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりもわずかに長くなることがあります（p.185）。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、151ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ［**3：高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO 感度の設定範囲がISO200～16000になります。［**ISO感度設定範囲**］で設定範囲を拡張しても、H1（ISO25600相当）、H2（ISO51200相当）は選択できません。［**3：高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると、ISO100/125/160、およびH1、H2が設定できるようになります（p.180）。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- ［**2：オートライティングオプティマイザ**］を［**しない**］に設定してください。［**弱め**］［**標準**］［**強め**］に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります（p.175）。

マニュアル露出＋ISOオート時に露出補正ができない

- 223ページを参照して露出補正を行ってください。
- 露出補正を行っても、ストロボ撮影時に補正は行われません。

マルチショットノイズ低減機能が設定できない

- 記録画質がRAW、RAW＋JPEG画質に設定されているときは、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。

多重露出撮影時にライブビュー映像や撮影画像が表示されない

- ［**連続撮影優先**］設定時は、撮影途中に「ライブビュー表示」「撮影直後の画像確認」「画像再生」はできません（p.238）。

多重露出画像がRAWで撮影される

- 記録画質の設定がM RAW、S RAWのときは、多重露出画像はRAWで記録されます（p.245）。

〈Av〉モードでストロボ撮影するとシャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出になるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［**1：ストロボ制御**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］を、［**1/250-1/60秒自動**］または［**1/250秒固定**］に設定してください（p.263）。

内蔵ストロボが勝手に上がる

- 〈A+〉モードのときは必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

内蔵ストロボが連続して光る／連続発光時に音がする

- 暗い場所でピントを合わせやすくするためのAF補助光（p.89）という機能で、内蔵ストロボが連続して発光します。また、このとき音がしますが、どちらも故障ではありません。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

外部ストロボが発光しない

- 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、［**6：LV静音撮影**］を［**しない**］に設定してください（p.297）。

外部ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.260）。
- 外部ストロボカスタム機能の［**調光方式**］が［**TTL**］（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します（p.271）。

外部ストロボの調光補正ができない

- 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。外部ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- ［**1：ストロボ制御**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］を［**自動**］に設定してください（p.263）。

カメラを振ると小さな音がする

- カメラの内部機構がわずかに動くときに小さな音がすることがあります。

ライブビュー撮影時にシャッター音が2回する

- ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.287）。

ライブビュー撮影と動画撮影時に白い と赤い が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈 〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈 〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影、または動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.310、351）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、5ページを参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画サーボAFができない

- 動画記録サイズが FHD 59.94P（59.94fps）、50.00P（50.00fps）に設定されています。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが〈A+/**P**/**Tv**/**Av**/**B**〉のときはISO 感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときはISO感度を任意に設定することができます（p.321）。

動画撮影にすると手動設定したISO感度が変わる

- H2（ISO51200相当）設定時に動画撮影にすると、ISO感度がH1（ISO25600相当）に切り換わります（動画マニュアル露出撮影時）。静止画撮影にしてもH2には戻りません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。なお、〈**M**〉モードのときはシャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画記録サイズが FHD 59.94P（59.94fps）、50.00P（50.00fps）に設定されています。

動画撮影中に静止画を撮影すると動画撮影が終了する

- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、UDMA転送に対応したCFカード、UHS-I対応のSDカードの使用をおすすめします。
- 静止画の記録画質を低くしたり、連続撮影する枚数を少なくすると、改善することがあります。

タイムコードがズレる

- 動画撮影中に静止画を撮影すると、実時間とタイムコードに差が生じます。タイムコードを利用して動画編集を行うときは、動画撮影中に静止画撮影を行わないことをおすすめします。

撮影画像が保存できない

- Wi-Fiアダプター W-E1使用時は、CFカードをCFカードスロットに入れないと、撮影画像を保存することができません。

操作関連

〈〉〈〉〈〉〈〉で設定を変更できない

- 〈LOCK▶〉スイッチを左側（ロック解除）にしてください（p.59）。
- ［3：マルチ電子ロック］の設定内容を確認してください（p.442）。

ボタンやスイッチなどが思った通りに動かない

- ［3：操作ボタンカスタマイズ］の設定内容を確認してください（p.445）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 〈〉モードのときは一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを〈P/Tv/Av/M/B〉にしてください（p.64）。
- ［★］タブの［メニュー表示］が［マイメニュータブのみ表示］に設定されています（p.463）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.187）。

ファイル名の4文字目が変化する

- ［1：ファイル名の設定］で、カメラ固有のファイル名、またはユーザー設定1に登録したファイル名を選択してください（p.190）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.193）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.47）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.47～48）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付 / 時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.417、421）。

[###]が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます（p.373）。

ファインダー内のAFフレームの表示速度が遅い

- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、表示速度が遅くなることがあります。常温に戻れば表示速度が速くなります。

液晶モニターの表示が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

[Eye-Fi設定] が表示されない

- ［**Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「**LOCK**」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません（p.475）。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- ［▶3：ハイライト警告表示］が［する］に設定されています（p.359）。

画像に赤い枠が表示される

- ［▶3：AFフレーム表示］が［する］に設定されています（p.359）。

画像を消去できない

- プロテクトがかかっている画像は消去できません（p.368）。

動画が再生できない

- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）の使用をおすすめします（p.337）。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈**M**〉モードで撮影してください（p.320）。

テレビに映像が表示されない

- ［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.385）。
- ［**5：HDMI出力+液晶**］が［**同時表示する**］に設定されているときに画像を再生しても、HDMI出力先のテレビに映像は表示されません。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（p.335）。

カードリーダーでカードを認識できない

- 大容量のCFカードや、SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSの種類により、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、画像を取り込んでください（p.536）。

RAW画像が現像できない

- **M** RAW、**S** RAW画像はカメラで現像処理を行うことはできません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行ってください（p.536）。

画像をリサイズできない

- JPEGの**S3**とRAW/**M** RAW/**S** RAW画像は、カメラでリサイズ処理を行うことはできません（p.403）。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- ［今すぐクリーニング ］を選んだときは、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません（p.406）。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがあります（p.45）。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

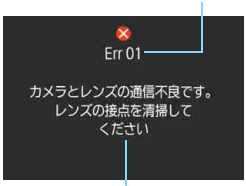
- 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.416）。

パソコン接続関連

パソコンに画像が転送できない

- EOS Utilityをパソコンにインストールしてください（p.538）。
- EOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認してください。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	→ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用、電池の出し入れ（p.21、22、40）
02	カード＊にアクセスできません。カード＊を入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	→ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.41、67）
04	カード＊がいっぱいになったため、記録できませんでした。カード＊を交換してください
	→ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.41、67、392）
05	内蔵ストロボをポップアップできませんでした。電源を入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作（p.45）
06	センサークリーニングができませんでした。電源を入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作（p.45）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80 99	エラーが発生したため撮影できません。電源を入れなおすか、電池を入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作、電池の出し入れ、純正レンズを使用（p.40、45）

＊上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式……ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体……CFカード（タイプI準拠、UDMAモード7対応）
SD/SDHC*/SDXC*メモリーカード
* UHS-Iカード対応
撮像画面サイズ……約22.4×15.0mm
使用レンズ……キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
* EF-Mレンズを除く
（有効撮影画角は表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント……キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式……CMOSセンサー
カメラ部有効画素……約2020万画素
* 1万の位を四捨五入
アスペクト比……3：2
ダスト除去……自動/手動、ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット……DCF2.0
画像タイプ……JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数……L（ラージ）　：約2000万（5472×3648）画素
M（ミドル）　：約890万（3648×2432）画素
S1（スモール1）：約500万（2736×1824）画素
S2（スモール2）：約250万（1920×1280）画素
S3（スモール3）：約35万（720×480）画素
RAW（ロウ）　：約2000万（5472×3648）画素
M-RAW　：約1120万（4104×2736）画素
S-RAW　：約500 万（2736×1824）画素
記録機能……標準、カード自動切り換え、振り分け、同一書き込み
フォルダ作成／選択……可能
ファイル名……カメラ固有設定、ユーザー設定1、ユーザー設定2
画像番号……通し番号、オートリセット、強制リセット

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル……オート、スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3

ホワイトバランス ..... オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（約2500～10000K）、ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応
ノイズ低減 ..... 長秒時露光、高感度撮影に対応
画像の明るさ自動補正..... オートライティングオプティマイザ機能搭載
高輝度側・階調優先..... 可能
レンズ光学補正 ..... 周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正
フリッカー低減 ..... 可能

■ファインダー

方式..... ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率..... 上下/左右とも約100%（アイポイント約22mm時）
倍率..... 約1.00倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント ..... 約22mm（－1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲 ..... 約－3.0～+1.0m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン... Eh-A標準装備、交換可能
グリッド表示 ..... 可能
水準器表示..... 可能
機能設定表示 ..... 撮影モード、ホワイトバランス、ドライブモード、AF動作、測光モード、記録画質：JPEG/RAW、フリッカー検知、警告！表示、AF作動
ミラー..... クイックリターン式
被写界深度確認 ..... 可能

■オートフォーカス

方式..... 専用AFセンサーによるTTL二次結像位相差検出方式
測距点..... 65点（クロス測距点：最大65点）
* 使用レンズにより、測距点数、クロス測距点数、デュアルクロス測距点数が変動する
* 中央測距点はF2.8対応デュアルクロス測距
（一部の開放絞り数値F2.8までのレンズを除く）
測距輝度範囲 ..... EV－3～18（中央F2.8対応測距点・ワンショットAF・常温・ISO100）
フォーカス動作 ..... ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）

測距エリア選択モード……スポット1 点AF（任意選択）、1 点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択上下左右）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、65点自動選択AF
測距点自動選択条件……EOS iTR AFの設定による
（顔/色情報を使用したAFが可能）
* iTR：Intelligent Tracking and Recognition
AFカスタム設定
ガイド機能……Case1～6
AIサーボAF特性……被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性
AF機能カスタマイズ……17種
AF微調整……AFマイクロアジャストメントにより対応（全レンズ一律調整、レンズごとに調整）
AF補助光……内蔵ストロボ間欠発光方式

■露出制御

測光方式……約15万画素RGB＋IR測光センサー使用、252分割TTL開放測光
EOS iSA（Intelligent Subject Analysis）システム
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約6%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約1.8%）
・中央部重点平均測光
測光輝度範囲……EV 0～20（常温・ISO100）
露出制御方式……プログラムAE（シーンインテリジェントオート、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ
ISO感度（推奨露光指数）……シーンインテリジェントオート：ISO 100～6400自動設定
P, Tv, Av, M, B：ISOオート、ISO 100～16000任意設定（1/3、1段ステップ）、およびH1（ISO25600相当）、H2（ISO51200相当）の感度拡張が可能
ISO感度関連設定……ISO感度設定範囲、ISOオート範囲、ISOオート低速限界設定可能
露出補正……手動：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB：1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）

AEロック……自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタンによる
インターバルタイマー……撮影間隔、撮影回数を設定可能
バルブタイマー……露光時間を設定可能

■HDR撮影
ダイナミックレンジ調整……自動、±1、±2、±3
仕上がり効果……ナチュラル、絵画調標準、グラフィック調、油彩調、ビンテージ調
画像位置自動調整……可能

■多重露出撮影
撮影方法……機能・操作優先、連続撮影優先
多重枚数……2～9枚
多重露出制御……加算、加算平均、比較（明）、比較（暗）

■シャッター
形式……電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度……1/8000～30秒（すべての撮影モードを合わせて）、バルブ、ストロボ同調最高シャッター速度＝1/250秒

■ドライブ関係
ドライブモード……1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、静音1枚撮影、静音連続撮影、セルフタイマー：10秒/リモコン、セルフタイマー：2秒/リモコン
連続撮影速度……高速連続撮影：最高約10.0コマ/秒（10～2コマ/秒に設定可能）
* EOS iTR AF動作時は最高約9.5コマ/秒
低速連続撮影：約3.0コマ/秒（9～1コマ/秒に設定可能）
静音連続撮影：約4.0コマ/秒（4～1コマ/秒に設定可能）
連続撮影可能枚数……JPEGラージ/ファイン：約130枚（約1090枚）
RAW：約24枚（約31枚）
RAW+JPEGラージ/ファイン：約18枚（約19枚）
* 当社試験基準8GB CFカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定
*（ ）内の数値は、当社試験基準UDMAモード7対応、CFカード使用時の枚数

■ストロボ

内蔵ストロボ ..... リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
ガイドナンバー約11（ISO100・m）
焦点距離約15mm相当の画角に対応
充電時間約3秒
外部ストロボ ..... EXシリーズスピードライトに対応
調光方式 ..... E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正 ..... 1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック ..... 可能
シンクロ端子 ..... あり
ストロボ制御 ..... 内蔵ストロボ機能設定、外部ストロボ機能設定、外部ストロボカスタム機能設定
光通信によるワイヤレスストロボ制御可能

■ライブビュー撮影機能

フォーカス方式 ..... デュアルピクセル CMOS AF方式／コントラスト検出方式（顔+追尾優先AF、ライブ多点AF、ライブ1点AF）、手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）
コンティニュアスAF ..... 可能
測距輝度範囲 ..... EV 0～18（常温・ISO100）
測光方式 ..... 評価測光（315分割）、部分測光（ライブビュー画面の約10%）、スポット測光（ライブビュー画面の約2.6%）、中央部重点平均測光
測光輝度範囲 ..... EV 0～20（常温・ISO100）
アスペクト比 ..... 3：2、4：3、16：9、1：1
静音撮影 ..... 可能（モード1、2）
グリッド表示 3種類

■動画撮影機能

記録形式 ..... MOV、MP4
映像 MPEG-4 AVC/H.264
可変（平均）ビットレート方式
音声 ..... MOV：リニアPCM、MP4：AAC
記録サイズと
フレームレート ..... Full HD（1920×1080）：59.94p/50.00p/29.97p/25.00p/24.00p /23.98p
HD（1280×720）：59.94p/50.00p/29.97p/25.00p
SD（640×480）：29.97p/25.00p

圧縮方式 ..... ALL-I（編集用／I-only）、IPB（標準）、IPB（軽量）
* IPB（軽量）はMP4設定時のみ

ファイルサイズ ..... [MOV]
・Full HD（59.94p/50.00p）/IPB（標準）：約440MB/分
・Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/ALL-I：約654MB/分
・Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/IPB（標準）：約225MB/分
・HD（59.94p/50.00p）/ALL-I：約583MB/分
・HD（59.94p/50.00p）/IPB（標準）：約196MB/分
・SD（29.97p/25.00p）/IPB（標準）：約75MB/分
[MP4]
・Full HD（59.94p/50.00p）/IPB（標準）：約431MB/分
・Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/ALL-I：約645MB/分
・Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/IPB（標準）：約216MB/分
・Full HD（29.97p/25.00p）/IPB（軽量）：約87MB/分
・HD（59.94p/50.00p）/ALL-I：約574MB/分
・HD（59.94p/50.00p）/IPB（標準）：約187MB/分
・HD（29.97p/25.00p）/IPB（軽量）：約30MB/分
・SD（29.97p/25.00p）/IPB（標準）：約66MB/分
・SD（29.97p/25.00p）/IPB（軽量）：約23MB/分

要求カード性能 ..... [CFカード]
（書き込み/読み取り速度）
ALL-I：30MB/秒以上
IPB（標準）・Full HD 59.94p/50.00p：30MB/秒以上
IPB（標準）・上記以外：10MB/秒以上
IPB（軽量）：10MB/秒以上（MP4のみ）
[SDカード]
ALL-I：20MB/秒以上
IPB（標準）・Full HD 59.94p/50.00p：20MB/秒以上
IPB（標準）・上記以外：6MB/秒以上
IPB（軽量）：4MB/秒以上（MP4のみ）

フォーカス方式.....ライブビュー撮影機能のフォーカスに準ずる
動画サーボAFのカスタマイズ可能
測光方式.....撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光
* フォーカス方式により自動設定
測光輝度範囲.....EV 0～20（常温・ISO100）
露出制御.....自動露出撮影（動画撮影用プログラムAE）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出
露出補正.....1/3、1/2段ステップ±3段
ISO感度（推奨露光指数）.....シーンインテリジェントオート、Tv：ISO100～16000自動設定
P、Av、B：ISO100～16000自動設定、H1（ISO25600相当）の感度拡張が可能
M：ISOオート（ISO100～16000自動設定）、ISO100～16000手動設定（1/3、1段ステップ）、H1（ISO25600相当）の感度拡張が可能
タイムコード.....対応
ドロップフレーム.....59.94p/29.97p対応
録音.....モノラルマイク内蔵、外部ステレオマイク端子装備
録音レベル調整可能、ウィンドカット機能／アッテネーター機能搭載
ヘッドフォン.....ヘッドフォン端子装備、音量調整可能
グリッド表示.....3種類
静止画撮影.....可能
* Full HD 59.94p/50.00p設定時を除く
2画面表示.....液晶モニターとHDMI出力映像の同時表示可能
HDMI出力.....情報表示なし映像を出力可能
* 自動／59.94i/50.00i／59.94p/50.00p／23.98pから選択可能

■液晶モニター

形式.....TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数.....ワイド3.0型（3：2）／約104万ドット
明るさ調整.....自動（暗め/標準/明るめ）、手動（7段階）
水準器表示.....可能
メニュー表示言語.....日本語、英語
ヘルプ表示.....可能

■再生機能

画像表示形式 ..... 1枚表示（情報表示なし）、1枚表示（簡易情報）、1枚表示（撮影情報表示：詳細情報、レンズ/ヒストグラム情報、ホワイトバランス情報、ピクチャースタイル情報、色空間/ノイズ低減情報、レンズ光学補正情報、GPS情報）、インデックス表示（4枚/9枚/36枚/100枚）、2枚表示
ハイライト警告 ..... ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示 ..... 可能
グリッド表示 3種類
拡大表示 ..... 約1.5～10倍、拡大開始倍率/開始位置設定可能
画像送り 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/プロテクト/レーティング
画像回転 ..... 可能
レーティング ..... 可能
動画再生 ..... 可能（液晶モニター、HDMI）
スピーカー内蔵
スライドショー ..... 全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/プロテクト/レーティング
画像プロテクト ..... 可能
画像コピー ..... 可能

■撮影後の画像処理

カメラ内RAW現像 ..... 明るさ補正、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高感度撮影時のノイズ低減、JPEG記録画質、色空間、周辺光量補正、歪曲収差補正、色収差補正
リサイズ ..... 可能

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター ..... PictBridge対応プリンター
印刷対応画像 ..... JPEG画像、RAW画像
印刷指定 ..... DPOF バージョン1.1準拠

■画像転送機能

転送対応画像 ..... 静止画（JPEG画像、RAW画像、RAW＋JPEG画像）、動画

■GPS機能

対応衛星 ..... GPS衛星（アメリカ）、GLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）
画像への位置情報付加 ..... 緯度、経度、標高、方位、協定世界時（UTC）、衛星補捉状態
位置情報の更新間隔 ..... 1／5／10／15／30秒間隔、1／2／5分間隔
時刻合わせ ..... GPS の時刻データをカメラに設定
電子コンパス ..... 3軸・地磁気センサー、3軸・加速度センサーを用いて方位を算出
ログデータ ..... NMEA フォーマット、1日1ファイル生成
* エリアを変えると別ファイル生成
* 内蔵メモリーに保存されたログデータを、ログファイルとしてカードに移動／パソコンに取り込み可能
ログデータの消去 ..... 可能

■カスタマイズ機能

カスタム機能 19種
マイメニュー 5画面登録可能
カスタム撮影モード モードダイヤルのC1/C2/C3に登録
著作権情報 ..... 設定/付加可能

■インターフェース

デジタル端子 ..... SuperSpeed USB（USB3.0）
パソコン通信、ダイレクトプリント、ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7（Ver.2）接続
HDMIミニ出力端子 ..... タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力端子 Φ3.5mmステレオミニジャック
ヘッドフォン端子 Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子 N3タイプのリモコンに対応
ワイヤレスリモコン ..... リモートコントローラー RC-6に対応
Eye-Fiカード ..... 対応

■電源

使用電池……バッテリーパック LP-E6N/LP-E6、1個
* 家庭用電源アクセサリー使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップ BG-E16装着時、単3形電池使用可能
電池情報……残容量、撮影回数、劣化度確認、電池登録可能
撮影可能枚数の目安……ファインダー撮影：
（CIPA試験基準による）　常温（＋23℃）約670枚/低温（0℃）約640枚
ライブビュー撮影：
常温（＋23℃）約250枚/低温（0℃）約240枚
動画撮影可能時間……常温（＋23℃）約1時間40分
低温（0℃）約1時間30分
* フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用時

■大きさ・質量

大きさ……約148.6（幅）×112.4（高さ）×78.2（奥行）mm
質量……約910g（バッテリー、CFカード、SDメモリーカードを含む）/約820g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度……0℃～＋40℃
使用可能湿度……85%以下

■バッテリーパック LP-E6N

形式……充電式リチウムイオン電池
公称電圧……DC7.2V
容量……1865mAh
使用可能温度……0℃～＋40℃
使用可能湿度……85%以下
大きさ……約38.4（幅）×21.0（高さ）×56.8（奥行）mm
質量……約80g（保護カバーを除く）

■バッテリーチャージャー LC-E6

充電可能電池……バッテリーパック LP-E6N/LP-E6
充電時間……約2時間30分
定格入力……AC100～240V（50/60Hz）
定格出力……DC8.4V/1.2A
使用可能温度……+5℃～＋40℃
使用可能湿度……85%以下
大きさ……約69.0（幅）×33.0（高さ）×93.0（奥行）mm
質量……約115g

■EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM

焦点距離・明るさ.....18-135mm F3.5-5.6
レンズ構成 12群16枚
最小絞り F22-36
　　* 1/2段ステップ設定時：F22-38
画角.....対角：74° 20′ ～11° 30′
　　垂直：45° 30′ ～6° 20′
　　水平：64° 30′ ～9° 30′
最短撮影距離 0.39m
最大撮影倍率 .....0.28倍（135mm時）
画界.....約248×372～53×80mm（0.39m時）
フィルター径 67mm
最大径×長さ .....約77.4×96.0mm
質量.....約515g
フード.....EW-73D（別売）
レンズキャップ.....E-67 II
ケース.....LP1116（別売）

■EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM

焦点距離・明るさ.....15-85mm F3.5-5.6
レンズ構成 12群17枚
最小絞り F22-36
　　* 1/2段ステップ設定時：F22-38
画角.....対角：84° 30′ ～18° 25′
　　垂直：53° 30′ ～10° 25′
　　水平：74° 10′ ～15° 25′
最短撮影距離 0.35m
最大撮影倍率 .....0.21倍（85mm時）
画界.....約255×395～75×108mm（0.35m時）
フィルター径 72mm
最大径×長さ .....約81.6×87.5mm
質量.....約575g
フード.....EW-78E（別売）
レンズキャップ.....E-72 II
ケース.....LP1116（別売）

- Wi-Fiアダプター W-E1の主な仕様については「Wi-Fiアダプター W-E1 お使いになる前にお読みください」（p.4）を参照してください。
- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、最大径、長さ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- Google™ 、Google マップ™ および Google Earth™ は Google Inc. の商標です。
- Map Utilityは、Google マップ™ 地図サービスを使用して地図上に画像や軌跡を表示しています。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。
故障、不具合、破損の際は、弊社修理受付窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。

⚠ 警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
  - 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
  - 電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
  - 電池の＋－を逆に入れること。
  - 充電可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
  - カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。

- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
  - 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
  - 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
  - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  - 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
  - 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
  - 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 同梱のCD-ROMをCD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しないでください。音楽用CDプレーヤーで使用した場合は、スピーカーなどを破損する恐れがあります。またヘッドフォンなどをご使用になる場合は、大音量により耳に傷害を負う恐れがあります。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

16

パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて

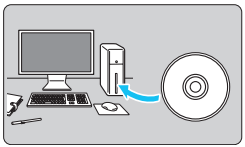
この章では、パソコンに画像を取り込む方法、EOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている各ソフトウェアの概要、パソコンへのインストール方法について説明しています。

EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）

パソコンに画像を取り込む

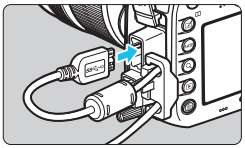
EOS用ソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は2通りあります。

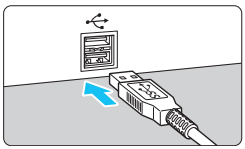
カメラとパソコンを接続して画像を取り込む



1 ソフトウェアをインストールする

（p.538）





2 付属のインターフェースケーブルでカメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（p.34）、プラグの〈SS⇐∞〉がカメラの背面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

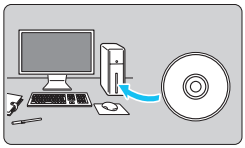
3 EOS Utility を使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書（p.539）を参照してください。

付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.478）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.34）。

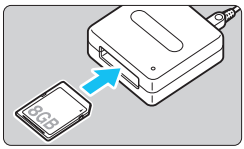
カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。



1 ソフトウェアをインストールする

（p.538）



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書（p.539）を参照してください。

EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

ソフトウェアの概要

EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアは、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されています。
（EOS DIGITAL Solution Diskに「ソフトウェア使用説明書」は収録されていません。539ページを参照してください。）

EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。

Digital Photo Professional

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像、JPEG画像の閲覧・編集・印刷などができます。

* OSが64bit版のパソコンにインストールされるバージョンと、32bit版のパソコンにインストールされるバージョンでは、一部機能が異なります。

Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

Map Utility

GPS機能で記録した位置情報を使用して、パソコンの地図に、画像の撮影場所を表示できます。なお、Map Utilityのインストール、および使用には、インターネット接続環境が必要です。

● キヤノンホームページからダウンロード

以下のソフトウェアとソフトウェア使用説明書は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます。

EOS（イオス） MOVIE（ムービー） Utility（ユーティリティー）

撮影した動画の再生や、分割された動画ファイルの連続再生・結合保存を行うことができます。また、動画のフレームを選んで、静止画として保存することもできます（フレーム切り出し）。

ソフトウェアのインストール

- **ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。**
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 パソコンにEOS DIGITAL Solution Diskを入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［setup］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

3 インストールが終了したらCD-ROMを取り出す

ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のダウンロードと見かた

ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のダウンロードは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、ダウンロードはできません。

1 ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）をダウンロードする

- インターネットに接続し、キヤノンの下記のWeb サイトにアクセスしてください。

http://cweb.canon.jp/manual/eosd/soft.html

2 ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）を見る

- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- 使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF 閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

索　引

英数字

10秒後/2秒後撮影 143
1280×720（動画） 331
1920×1080（動画） 331
1点AF 90, 95
1枚撮影 141
1枚表示 354
24.00p 333
2枚表示 366
640×480（動画） 331
65点自動選択AF 91, 97
A+(シーンインテリジェント
オート) 80
ACアダプター 474
Adobe RGB 187
AEB 227, 434
AEロック 229
AF 85
　AFカスタム設定ガイド機能 108
　AF機能カスタマイズ 117
　AFグループ 100
　AF作動表示 89
　AFセンサー 99
　AF動作 86
　AFの苦手な被写体 139, 306
　AFフレーム赤色照明 89, 131
　AFフレーム選択 93, 453
　AFフレーム登録 450
　AF方式 299, 343
　AF補助光 89, 120
　AFマイクロアジャストメント 133
　F8 AF 99, 103
　色情報 128
　顔情報 128
　構図変更 83
　手動ピント合わせ 140, 308
　測距エリア選択モード 90, 92, 95
　電子音 69
　ピンボケ 54, 55, 498
AF-ON（スタート）
ボタン 55, 446, 448
AI FOCUS（AIフォーカスAF） 88
AI SERVO（AIサーボAF） 88
　AFフレーム照明 89, 131
　開始位置 127
　速度変化に対する追従性 114
　測距点乗り移り特性 115
　被写体追従特性 113
ALL-I (編集用／I-only) 332
Av（絞り優先AE） 220, 316
Avモード時ストロボ同調速度 263
buSY（BUSY） 153
B（バルブ） 230, 314
C1（カスタム撮影） 464
Case 108
CFカード　→カード
CLn 409
D+ 180
DCカプラー 474
DIGITAL
端子 23, 34, 412, 425, 534
DPOF 421
Err 25, 510
exFAT 68
Eye-Fiカード 475
FEB 269
FEロック 258, 259
Full HD 313, 331
GPS 197
HD 331
HDMI 34, 341, 348, 350, 385

HDMI CEC.....386
HDR.....233
ICCプロファイル.....187
INFO.
ボタン.....60, 288, 323, 354, 468
IPB（標準／軽量）.....332
ISO感度.....154, 317, 321
感度拡張.....157
自動設定（オート）.....156
自動設定範囲.....158
手動設定範囲.....157
設定ステップ.....434
低速限界.....159
iTR AF.....128
JPEG（ジェイペグ）.....149, 151
LOCK.....59
LOG.....210
M（マニュアル露出）.....222, 320
MENU マーク.....8
MF（手動ピント合わせ）.....140, 308
M-Fn.....92, 125, 258
MOV.....330
MP4.....330
M-RAW
（ミドルロウ）.....149, 151, 152
MWB.....169
NTSC.....331, 385, 491
ONE SHOT（ワンショットAF）.....87
P（プログラムAE）.....216, 314
PAL.....331, 385, 491
PictBridge.....411
Q（クイック
設定）.....61, 293, 329, 374
RAW（ロウ）.....149, 151, 152
RAW+JPEG.....149, 151
RAW現像.....398
SD、SDHC、SDXCカード →カード
S-RAW
（スモールロウ）.....149, 151, 152
sRGB.....187
Tv（シャッター優先AE）.....218, 315
Ultra DMA（UDMA）.....42
USB（デジタル）
端子.....412, 425, 534
UTC.....198
WB（ホワイトバランス）.....168
Wi-Fiアダプター W-E1.....3, 4, 19, 36

あ

アイカップ.....247
アイコン（絵文字）.....8
アイピースカバー.....33, 247
赤目緩和.....256
アクセサリーシュー.....22, 259
アクセスランプ.....43, 44
アスペクト比.....295
アッテネーター.....336
後幕シンクロ.....269
アンダーバー「_」.....187, 192
位置情報.....198
色あい.....164
色温度.....168, 171
色空間.....187
色収差補正.....182
色の濃さ.....164
印刷.....411
印刷効果.....416
印刷指定（DPOF）.....421
傾き（角度）補正.....419
トリミング.....419
フォトブック指定.....429
用紙設定.....415

レイアウト 415
インターバルタイマー 250
インデックス表示 361
ウィンドカット 336
液晶モニター 21
明るさ調整 394
画像の再生 353
撮影機能の設定状態 60, 469
水準器 75
メニュー機能 64, 484
エラー表示 510
エリアAFフレーム 91, 97
エリア（地域） 47
応用 マーク 8
オートパワーオフ 45, 69
オートフォーカス →AF
オートライティング
オプティマイザ 79, 175
オートリセット 194
お気に入りマーク 371
温度警告 310, 351
音量（動画再生） 379

か

カード 5, 21, 41, 67
入れ忘れ防止 42
書き込み禁止 41
初期化（フォーマット） 67
トラブル 44, 68
物理フォーマット 68
カード自動切り換え 147
カードなしレリーズ 42
外光センサー 24, 394
開始測距点 127
階調優先 180
回転（画像） 367, 395, 419
外部ストロボ →ストロボ
拡大開始倍率／開始位置 365
拡大表示 305, 308, 364
拡張子 192
各部名称 22
カスタム機能 432, 434
カスタム撮影モード 464
カスタムホワイトバランス 170
画像
2枚表示 366
AFフレーム表示 359
インデックス表示 361
拡大表示 364
コピー 388
サイズ 151, 331, 404
再生 353
撮影情報 356
自動回転 395
自動再生 382
ジャンプ表示（画像送り） 362
手動回転 367
消去 392
スライドショー 382
テレビで見る 376, 385
転送 425
取り込み（パソコン） 534
ハイライト警告 359
番号 193
ヒストグラム 360
保護（プロテクト） 368
レーティング 371
画素数 149, 151
家庭用電源 474
カメラ
構え方 54
カメラブレ 246
設定初期化 70

設定内容表示 468
簡易情報表示 356
感度 →ISO感度
機能ガイド 78
強制リセット 194
協定世界時 198
記録画質 149, 330
記録機能 146
クイック設定 61, 293, 329, 374
クリーニング 405
クリエイティブ
フォト 160, 233, 238
グリッド 74, 295, 344, 355
クロス測距 99
警告表示 441
軽量（IPB） 332
ケーブル 3, 385, 412, 425, 478, 534
プロテクター 34
言語 49
高感度撮影時のノイズ低減 176
高輝度側・階調優先 180
合焦マーク 80
高速連続撮影 141
故障 495
ゴミの写り込み防止 405
コンティニュアスAF 294
コントラスト 164, 175

さ

サーボAF 83, 88, 342
再生 353
先幕シンクロ 269
撮影画角 50
撮影画像の確認時間 70
撮影可能時間（動画） 325
撮影可能枚数 46, 151, 287
撮影機能の設定状態 60, 469
撮影情報表示 357
撮影モード 29, 60
Av（絞り優先AE） 220
B（バルブ） 230
C1（カスタム撮影） 464
M（マニュアル露出） 222
P（プログラムAE） 216
Tv（シャッター優先AE） 218
A+（シーンインテリジェントオート） 80
撮影モードで設定できる機能 480
撮像素子の清掃 405
サブ電子ダイヤル 57
サマータイム 48
三脚ねじ穴 24
シーンインテリジェントオート 80
シーン判別アイコン 290, 319
システム図 478
自動再生 382
自動時刻設定 209
自動選択（AF） 91, 97
視度調整 54
絞り込み 221
絞り優先AE 220, 316
シャープネス 164
シャッターボタン 55
シャッター優先AE 218, 315
ジャンプ表示 362
十字タッチパッド 59, 338
充電 38
周辺光量補正 181
縮小表示 361
手動ピント合わせ 140, 308

消去（画像）.....392
照明（AFフレーム）.....131
照明（表示パネル）.....60
初期化（フォーマット）.....67
白黒写真.....162, 165
白とび.....359
シンクロ設定.....269
シンクロ接点.....21
シンクロ端子.....260
水準器.....75
ストラップ.....33
ストロボ（スピードライト）.....253
FEロック.....258, 259
赤目緩和.....256
外部ストロボ.....259
カスタム機能.....271
撮影できる距離.....255
シンクロ（先幕／後幕）.....269
ストロボ制御（機能設定）.....262
調光補正.....257, 259, 269
同調速度.....260, 263
内蔵ストロボ.....254
マニュアル発光.....267, 283
ワイヤレス.....268, 272
スピーカー.....24, 378
スポット1点AF.....90, 95
スポットAFフレーム.....27, 95
スポット測光.....225
スモール（記録画質）.....151, 403
スライドショー.....382
静音撮影
1枚撮影.....141
LV静音撮影.....297, 347
連続撮影.....141
清掃.....405
セイフティシフト.....436
設定初期化.....70
セピア調（モノクロ）.....165
セルフタイマー.....143, 249
全押し.....55
センサークリーニング.....405
全自動モード.....80
操作ボタンカスタマイズ.....62, 445
ゾーンAF.....91, 96
速度変化に対する追従性.....114
測距エリア選択モード.....90, 92, 95
測距エリア選択レバー.....58
測距点自動選択.....91, 97
測距点乗り移り特性.....115
測距点
（AFフレーム）.....90, 93, 95, 99
測光タイマー.....55, 298, 347
測光モード.....224
ソフトウェア.....536

た

タイムコード.....339
ダイレクト選択（AFフレーム）.....453
ダイレクトプリント.....412
多重露出.....238
ダストデリートデータ.....407
縦位置画像回転表示.....395
縦位置/横位置AFフレーム.....125
チャージャー.....32, 38
中央部重点平均測光.....225
調光補正.....257, 259, 269
長時間露光.....230
調色（モノクロ）.....165
長秒時露光のノイズ低減.....178
著作権情報.....195
低速連続撮影.....141

デジタル端子 412, 425, 534
手ブレ 53, 54
　補正機能（レンズ） 53
デュアルクロス測距 99
テレビで見る 376, 385
電源 45
　オートパワーオフ 45, 69
　家庭用電源 474
　撮影可能枚数 46, 151, 287
　充電 38
　電池情報 470
　電池チェック 46, 470
　劣化度 470
電子音 69
電子コンパス 206
　キャリブレーション 207
電子ダイヤル
　サブ電子ダイヤル 57
　メイン電子ダイヤル 56
電池 38, 40, 46, 470
同一書き込み 147
動画 313
　AEロック 318
　AF方式 329, 343
　HDMI出力 348
　圧縮方式 332
　アッテネーター 336
　ウィンドカット 336
　外部マイク 337
　記録カウント 340
　記録コマンド 341
　記録時間 334
　クイック設定 329
　グリッド 344
　サーボAF 342
　サーボAF時のAF速度 345
　再生 376, 378
　自動露出撮影 314
　絞り優先AE撮影 316
　シャッター優先AE撮影 315
　情報表示 323
　静音撮影 347
　静止画撮影 327
　前後カット 380
　測光タイマー 347
　タイムコード 339
　楽しみ方 376
　テレビで見る 376, 385
　動画記録画質 330
　動画記録サイズ 331
　動画サイレント設定 338
　動画撮影ボタン 314, 348
　ドロップフレーム 341
　被写体追従特性 346
　ファイルサイズ 334, 335
　フリーラン 339
　フレームレート 331, 350
　ヘッドフォン 337
　編集 380
　マイク 314, 337
　マニュアル露出撮影 320
　レックラン 339
　録音／録音レベル 336
通し番号 193
ドライブモード 141
トラブル 495
トリミング（印刷） 419
トリミング情報 443

な

任意選択（AF） 90, 93, 95
ノイズ低減
　高感度撮影時 176
　長秒時露光 178
ノーマル（記録画質） 149, 151

は

バースト枚数 151, 153
ハイビジョン（HD） 331
ハイライト警告 359
発光モード 267
バッテリー 38, 40, 46, 470
バッテリーグリップ 46, 478
バルブ撮影 230
　バルブタイマー 231
半押し 55
汎用ストロボ 260
ピクチャースタイル 160, 163, 166
ピクトブリッジ 411
被写界深度確認 221
被写体追従特性 113
ヒストグラム 360
日付／時刻 47
ビデオ方式 330, 385, 491
評価測光 224
表示パネル 25
標準（IPB） 332
ピント合わせ　→AF
ファームウェア 491
ファイナルイメージシミュレーション 291, 326
ファイルサイズ 151, 334, 357
ファイル名 190
ファインダー 27
　グリッド 74
　視度調整 54
　情報表示 77
　水準器 76
ファイン（記録画質） 149, 151
フィルター効果（モノクロ） 165
フード（レンズ） 52
フォーカシングスクリーン 440, 478
フォーカスモードスイッチ 50, 140, 308
フォーカスロック 83
フォーマット（カード初期化） 67
フォトブック指定 429
フォルダ作成／選択 188
付属品 3
部分測光 224
ブラケティング 173, 227, 434
フリーラン 339
フリッカーレス撮影 185
振り分け 147
プリント 411
フルハイビジョン（Full HD） 313, 331
フレームレート 331, 350
プログラムAE 216, 314
　プログラムシフト 217
プロテクト（画像の保護） 368
ヘッドフォン 337
ヘルプ 78
編集用（ALL-I） 332
方位 204, 206
ホワイトバランス 168
　色温度指定 171
　カスタム 170
　ブラケティング 173
　補正 172
　マニュアル 169

ま

マイク 314, 337
マイクロアジャストメント 133
マイメニュー 459

マニュアルフォーカス.....140, 308
マニュアル露出.....222, 320
マルチコントローラー.....58
マルチショットノイズ低減.....176
マルチ電子ロック.....59, 442
マルチ
ファンクション.....92, 125, 258
ミドル（記録画質）.....151, 403
ミラーアップ撮影.....246
メイン電子ダイヤル.....56
メニュー.....64
　機能一覧.....484
　設定操作.....65
　灰色（グレー）表示.....66
　マイメニュー.....459
メモリーカード　→カード
モードダイヤル.....29, 56
モノクロ.....162, 165

ら

ラージ（記録画質）.....151
ラージゾーンAF.....91, 97
ライブビュー撮影.....84, 285
　アスペクト比.....295
　顔+追尾優先AF.....300
　クイック設定.....293
　グリッド.....295
　撮影可能枚数.....287
　手動ピント合わせ.....308
　情報表示.....288
　静音撮影.....297
　測光タイマー.....298
　ライブ1点AF.....304
　ライブ多点AF.....302
　露出シミュレーション.....296
リサイズ.....403
リモートスイッチ.....248
リモコン.....248
領域拡大AF.....90, 95
レーティング.....371
レックラン.....339
レンズ.....30, 50
　色収差補正.....182
　グループ属性.....100
　光学補正.....181
　周辺光量補正.....181
　手ブレ補正.....53
　ロック解除.....51
　歪曲収差補正.....182
連続撮影可能枚数.....151, 153
連続撮影（連写）.....141
ロウ.....149, 151, 152
ロウ現像.....398
ロガー.....210
　ログデータ.....211
録音／録音レベル.....336
露出維持.....437
露出シミュレーション.....296
露出設定ステップ.....434
露出補正.....226
露出補正（M+ISOオート）.....223
露出レベル表示.....26, 27, 288, 323

わ

歪曲収差補正.....182
ワイヤレスストロボ撮影.....272
ワンショットAF.....87
ワンタッチ記録画質
切り換え.....153, 456

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒 108-8011 東京都港区港南 2-16-6

製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくあるお問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。
インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

EOSホームページ：canon.jp/eos
EOS・サポートナビ：canon.jp/eos-navi

電話でのお問い合わせは、以下へお願いします。

お客様相談センター（全国共通番号）
050-555-90002

受付時間：9：00 ～ 18：00
（1 月1 日～ 1 月3 日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の弊社修理お問合せ専用窓口にお問い合わせください。

本書の記載内容は2016年6月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPH-J309-000
© CANON INC. 2016